

健康寿命延伸に向けた取組の実施案 パブリックコメント意見集

- ・ お寄せいただいた意見を、原則、原文のまま掲載しております。
- ・ 不適切な表現、個人情報には修正を加えております。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬いたい、ねぎらいたい、そう思える老人にだけパスを立派な生き方をした、尊敬できる、そういった方々にパスをとるのであれば理解できます。

実際はそうではなく、ただ年を取ってわがままになっただけが目立つのではないかと思われます。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

主人と母が敬老パス持っていますが、JR 沿線なのでほとんど使用出来ません。地下鉄で限度額 7 万多すぎです。

JR やタクシーも利用できたら良いのですが、今のままでは不公平です。

高齢者を敬う気持ちもわかるのですが、今の若者の生活も考えて欲しいです。

少子化も問題になっていますが、そもそも収入が少なくて結婚に踏み切れない若者の事も考えて欲しいです。

結婚や子育て支援も併せて考えて欲しいです。

私ももうすぐ高齢者の仲間入りしますが、買い物難民になる人がこれから出てくると思っています。スーパー行くと買い物が大変という声が聞こえてきます。

年金生活で大変ですが、行政の支援もよろしくおねがいします。

JR のキタカを利用して JR や地下鉄やバスを利用しています。

エスコン行くとサピカ利用出来ませんとアナウンス入って、戸惑っている人見かけます。

システム上難しいと思いますが、なんとかありませんか？

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

高齢者の若い時代と今の時代では税率が違うので今若い人達が高い税金を払ってるのに何故高齢者の為に税金を投入するのか理解に苦しむ。

交通費ぐらい自己負担にしてほしい。

そこに税金使うなら高校授業料無償化とか若者の為に使って欲しい。

年金も満額もらって交通費補助とかおかしくないですか？健康寿命？は？

健康は自己責任でしょ。病気になる人はそういう生活してきた結果では？

なんなら後期高齢者の保険料もあげて欲しいくらいです。

これ以上若い世代のお荷物にしないで！

これからの札幌市を担うのは若い世代ですよ。

こんなに叩かれてんのに年寄りの味方やめてください。

公園で遊ぶ子どもがうるさいとか苦情出す人らに無駄な税金使わないで。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

現役世代が老人のバス代を負担するのはおかしい。

統計的には高齢になればなるほど貯金額が多くなっているはず。

お金がある人にお金がない現役世代からお金を渡すのは意味がわからない。

また健康寿命と敬老パスは分けて考えるべき。

健康寿命を伸ばしたいならバスじゃなく歩くインセンティブを与える方が良いと思う。

敬老パスをやるくらいなら、妊婦の通院費の補助や出産祝金の拡充など現役世代への投資をして欲しい。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

利用額の減額及び負担割合の変更について

今後益々高齢化が進むことを考えると利用額の減額及び負担割合の変更は致し方ないと思われます。

ですがアプリなどの利用については公平性の観点から賛成しかねます。だれでもアプリなどを不自由なく使用できるとは思いません。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

現役世代の負担と、現在敬老パスで恩恵を受けている負担の度合いが異なることはとても不合理だと思います。

対策後も、現役世代の負担はなお大きいため、当時の負担額である 2000 円まで負担を軽減すべきです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

存続は疑問です。

現役世代と高齢者福祉に於いて車を持たない高齢者が病院や買い物での交通機関利用するからは重要でその為の敬老パスで75歳に引き上げて利用者を減らす事には公共サービス放棄に繋がります。

また財政難で有れば特別職や市議会議員の給料の減額して財政危機を回収すべきで、高齢者切り捨ては如何な事でしょうか??

市民目線での市政を中心に来年の予算もコンパクトをお願いします。

町内会や連合町内会への補助金の増額も含めてしっかりと正しい事に血税をお使い下さい。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

後期高齢者の母がおります。

生活費を切り詰めていることと、年齢的に新しいモノを受け入れ難く、携帯電話もスマートフォンも所持していません。そのため、健康アプリの導入には賛成できかねます。アプリの制作費に予算を使うくらいなら、若い世代に向けた予算に利用していただきたいです。

敬老パスについては上限値設定に賛成します。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

両親が敬老パスを購入しています。

現在の敬老パスは、JR には使えず JR を利用する人には不便

それが、アプリを使う？

今の敬老パスを利用している人の、どれくらいの人がスマホを使いアプリを利用できるのか分かっているのでしょうか？

それだけでなく、公共料金の明細を紙で発行するなら有料

どれだけ年寄りが住みにくい街にするのでしょうか？

子育て支援などで現金を支給

それって本当に子供に、全て使われてますか？

母子家庭、収入が少ないから無税

それって働く時間調整してないですか？

免許返納を推進してますが、返納したら地下鉄の近くに住んでいる人はいいですが、それ以外の方はバスも減便になったり、廃止になったりすごく不便です。

老人が少しでも住みやすくするようにしてください。

アプリを使って…って考えた人、ご自身の親や祖父母がどれくらい使えるのか知ってますか？

札幌市全体をよく見て考えて下さい。

税金を支払っている人に公平に

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

私の両親(母 70 代後半、父 80 代前半)と自分に関する狭い範囲での意見です。両親はスマホを持っていますが、ほとんどの機能を使えません。しかし、色々と意欲はあるので、何かを覚えたい時には私を頼ってきます。LINE をしたい、YouTube を見たい等、今まで色々と教えました。

私自身はスマホを持っていません。外で仕事をしていないので、ガラケー、タブレット、パソコンで間に合っており、両親のスマホについても今の所、何とか対応できています。両親はスマホに不具合が起こるたび、まず私に連絡をしてくれます。私も時間があるので対応できていますが、健康アプリの導入には不安しかありません。とにかく不具合を起こさない事、老人でもわかりやすい事を祈るしかありません。

また詐欺のきっかけになるのではという心配もあります。例えばですが「札幌市の健康アプリがうまく機能していないですが、初期登録料は払ってますか？」などと言われたら、「払ってないので払います。」とあっさり引っかかりそうです。他にも健康アプリのポイントは投資にも使えますよ、と言われて投資詐欺に合うとか、老人にスマホという組み合わせは心配が付きません。

また私はスマホを持っているのが当たり前とは思わないで欲しいです。スマホはとても高額であり、私が自分のためにスマホを持ちたいという気持ちは全くありません。札幌市民のスマホ所持率が何%なのかわかりませんが、持っていない人もいる事を忘れないで欲しいです。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

札幌市が行っている健康長寿に向けた取り組みに関して私は一定の評価をしています。ウォーカブルプロジェクトにも参加させてもらい歩きたくなる街づくりでも少しばかり意見を述べさせて頂きました。

今回 1 番問題になっています敬老パスの仕組み変更に関してですが私なりに考えを述べさせて頂きます。

敬老パスが健康長寿を支える施策なら家にこもらないで外に出ましようと思った思います。

非常に良いことですがそもそも福祉で一番重要なのはみんなで支え合う互助の精神が重要で特定の人や限られた方が得をする構図は問題だと思います。5～7 万円以上使われている方が 12.3%もいてしかも負担率が 7 万円だとの 24.3%と言う数字にびっくりしました。

お金が少しあって元気な方へは手厚く、お金が厳しいけど通院に必要な方は 10～20%の負担率では不公平が生じていると思います。改正案の一律 50%にして平等にすべきです！そして上限を 5 万円に抑えるのも仕方が無いと思います。

改正案に私は賛成です。

バス料金が値上げされバスの本数も減便になりバス利用の市民はますます暮らしにくい札幌市になっています。若い人への負担を少しでも減らして若者と年配者のわだかまりがなくなる様にしてください。

元気な年配者が若者の困っている事を少しでもお手伝い出来る仕組みを考え実行すれば健康長寿にも役立てれると思います。

人は社会の一員として役立っていると思える事が日々の暮らしに大切ですしやりがい生まれ健康に暮らせる第一歩だと思います。

その仕組みで少しでも有償ボランティア的に賃金を手に出来れば年配者も喜びが増すでしょう！

難しいとは思いますが是非仕組み作りを頑張ってください。

追伸:敬老パスを巡っての市長を交えた討論会の映像を観ました。減らされる年配者の意見も分かりますが少し自分の事しか考えていない印象を強く持ちました。

支えられているだけでは無く社会のために少しでも支える事もしてくださいと言いたいです。

、、、とは言っても私もすでに高齢者ですが！！笑

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

昨年の 11 月に、現行制度を廃止し、新たに高齢者の健康寿命の延伸のプランを提案しましたが、それが余りに短絡で安易で研究不足で検討不十分であったことが今日の混乱の最大の原因です。

そもそも、少子高齢化つまり高齢者の増加及び納税人口の減少は、かなり以前から予想されたことであり、もっと早く取り組めばもっとスムーズに改正は進んだはずです。まさしく行政の怠慢と言えます。

まずは、現行の乗車パスを一度整理する必要があります。

利用している方も理由は様々で、外出のきっかけ、生活費の補助、単純に安く乗車出来るから利用しているだけの方もいます。

また利用していない方の理由も、生活に困っていないから不要、利用できる交通機関が無い、利用したくても施設に居住していたり自分で交通機関を足腰の不自由で利用できないなどです。

単純に、閉じこもりがちな高齢者の健康増進を目的とした外出促進策と言っていること自体がナンセンスです。

昭和時代の説明を今でも通用すると考えていることを反省するべきです。

現行の敬老乗車パス制度の存続に多数の市民が署名活動をしましたが、全員が同じ意見ではありません。

生活に困っている方は当然ながら、現行通りです。さほど困っていない方は出来たら現行通りで、段階的縮小はやむを得ないという意見が実情です。

その実態も調査しないで、新案など提案できないはずなのに、多額の費用をかけた説明会の開催や、ホームページの説明しか出来ないコールセンターの開設など税金の無駄使いと言われても仕方ありません。

そもそも、敬老乗車パスも新提案も福祉政策だと言っていることが、誤りです。

福祉政策は諸外国や地方で大きな意味で違いますが、札幌市の場合は福祉政策ではなく、福利政策と位置付けなければ解決しません。

福祉政策の根本は憲法の第 25 条です。

家庭に例えると高齢の祖父や祖母の最低限の生活を支えるために、子どもたちや孫たちがお金を出すことが福祉です。

孝行で祖父や祖母を旅行に行くお金を出したり、日帰りでも良いので温泉施設や野球観戦に連れ出すのが福利です。

最低限の生活保障は借金をしても、その責任に於いて維持しなければなりません。

しかしながら、会社が不景気になってボーナスが減ったり、毎月の収入が減れば、毎年の九州旅行のプレゼントが定山溪一泊になる事も仕方ない事です。

今までは、九州旅行の集合場所である札幌駅へのタクシー代を出していましたが、それぐらいは自分で出してもらえないかが、現行の市民負担です。

高齢者は、自分の余生だけで無く、札幌市の未来を担う若者世代の意見に耳を傾けるべきです。

若者世代も日本の社会構造や近代史をもっと学んで、いつか自分も目の前にいる高齢の皆さんと同じに、目も耳も遠くなり足腰が痛くなり、もの覚えも悪くなり、人の名前をどんどん忘れていくことを想像するべきです。

子ども笑うな、自分が歩いた道だから。年寄り笑うな、自分が歩く道だから。

親子三代で暮らすご家庭が少なくなり、核家族化の時代です。

しかしながら現在の自分が有るのは、親で有り、祖父母で有り、多くの皆さんの助けがある事を若い世代の方は学ぶべきです。

特に若い世代の一部の皆さんが、高齢者が多い事を高齢者のせいにしてはいますが、歴史的な背景ですので言ってもダメです。

若い世代が高齢者を支えていて、社会保険料が負担になっているなら、その意見をいう相手が違います。

説明会で秋元市長や札幌市の高齢者の言うべきでは有りません。言う相手は国で有り、国会議員です。

少子は高齢者のせいでは有りません。高齢者は自分の命を削っても一生懸命働いて沢山の子どもを育ててきました。

高齢者は優遇されていると思っているようですが、昔に比べて今の若い世代がどれだけ、優遇されているのか知らないだけです。

敬老乗車パスの見直しの方向性は正しいと思います。上限額は当然見直すべきです。

ただし健康保険と同様に市民の3割負担の方がスムーズでした。

また、市民税が非課税の方のみへの配布も一案です。

貯蓄額も本当は条件ですが、マイナンバーカードが普及しない限り困難です。

先述の通り、今、必要なのは実態調査です。

病院や買い物、ボランティア活動、ジム通い、趣味など、利用目的は様々なのですから、そのエビデンスがない事が現在の混乱の最大の原因です。

個別の事情をいくら羅列しても解決しません。

分析と可能な限りの対策案を示せば良いのにいまだ何も示されていません。

民間であればマーケットリサーチをしてから、五十億円もの新事業の提案をするのは当然ですが、札幌市はそれを怠っています。

市役所の職員は新規事業が失敗しても、誰も責任を取らないので気楽なものです。そんな姿勢に市民は怒っています。

そもそも、バス路線の廃止や運行本数の減少、デマンド交通の積極的な推進、冬季間の安全な道路状態の確保など、課題は山ほどあります。

高齢者の外出促進や健康活動の推進と言っても、それらを無視した絵に描いたような現実性のない説明で市民が納得するはずがありません。

新提案の敬老健康パスですが、多分広島市の高齢者生き生き事業のイメージだと思います。

広島市の場合はアプリなどデジタルを活用することは困難だと結論が出ていて、手帳方式にしています。

広島市は手帳方式でも、参加率は34%で、札幌市のようにアプリの場合はもっと下がります。

手帳とアプリの併用方式は経費が二重になります。

また個人活動ではなく、団体活動で、その他は健康促進にかかる検診など、と市民に見える化しています。

しかも、他の乗車の優待制度を利用していた場合は、ポイントの上限は減額されます。

札幌市はポイント獲得の上限はないと言っていますが、予算上あり得ません。

国の法律に定められたもの以外は報奨金には上限があります。

広島市では65歳から手帳が配布されますが、札幌市は敬老乗車パスは70歳から75歳に引き上げられますが、理由が不明です。

定年が60歳から65歳に引き上げられたからと言うのが言い分のようなのですが、全く話にならない理屈です。

札幌市や北海道の職員でさえ、2年後の定年は65歳ではありません。多分62歳です。

自衛官の現在の定年は現在54歳から58歳で、2年ごとに見直されますので、58歳の自衛官でさえ、65歳の定年になるのは14年後です。

民間企業の場合は定年は様々です。70歳定年の企業もありますし、定年制度のない企業もあります。

そして自営業や専業主婦の皆さんです。定年など有りません。

専業主婦の方などは、配偶者が定年になるとかえって負担になるケースも有ります。

敬老健康パスは高齢者にルームランナーをプレゼントするような話です。

親父、年間二百万歩、歩いたら2万円の買い物券をプレゼントするよ。

親父の健康のためのプレゼントだよ、と言われてもね、。。。。

去年と同じで、定山溪一泊の方が嬉しいのに、。。。。。

その方が元気で長生きできるのに、。。。。。

町内会の役員を引き受けたら、ポイントゲット？

ポイント貯まるより、ストレス溜まって早死にするよ、。。。。。

もしかして、それが目的、。。。。。。。

ガラケーで十分なのに、十万円も出してスマホを買うの？

タダでもらっても、変えないよ。

市民全員が納得できるプランなど有りません。

できるだけ、現在の高齢者、そして未来の札幌市の高齢者になる若者世代が理解出来るプランを丁寧に作るべきです。

若い世代の方達は自分たちにの未来にはこんな制度は無いと文句を言っていますが、自分達の未来は自分達で作るべきです。

私達高齢者は毎年、桜の花を来年も見れるかな、と考えて生きています。

50年後に桜の木に花を咲かせるのは、若者たちが考えることです。

老木は枯れて、朽ち果てる事を、老人になればわかります。

高齢になると家族のお祝いは別ですが、他人の言葉は嬉しく有りません。

それは、死へのカウントダウンのようなものだからです。

25歳になれば、市長にも市議員にも立候補できます。

自分が立候補できないなら、立候補する方を探して、応援すれば良いのです。

財政減を今回の高齢者への対策の理由としたなら、札幌市全体の財政の方向性についても議論しなければなりません。

ジャンプ台、カーリング施設、スケート場などの新設が本当に必要なのかを検証する必要が有ります。

それらは余命短い高齢者には、全く不要な施設です。

ジャンプなどしませんし、寒いですし、足元も悪いので見物にも行きません。

カーリングもスケートも怪我をしたくないからしません。

それらを利用する若い世代への優遇施設であることは明らかです。

課長の演説会ではなく、市民の意見を十分に聞く会を開くべきです。

市民の代表とディベート方式でしっかり議論するべきです。

本来は市議員の役割です。

秋元市長は不支持率が支持率を上回っている事を厳粛に受け止めるべきです。

所管の部局は自分たちの再就職先の確保のための、政策だと揶揄されない説明の努力をするべきです。

とりあえずは広島市を参考に、札幌市の地域性や慣習などにあつた新プランを至急提案するべきです。

お金を出しても、出かけたくなるコンテンツを作る事です。

日本では、平均健康寿命が伸びると厄介なことに、平均寿命も伸びます。

データをしっかり分析するべきです。

つまり介護などが必要な不健康な期間も増えて、かえって行政の負担が増えます。

日本国はこれ以上、国民の寿命を伸ばす政策をするべきでは有りません。

ある年齢を過ぎたら、それ以上は本人、または家族などがその経費負担をする時代はもうすぐきます。

北欧の国々は、福祉国家と言われていますが、実態は日本よりはるかに自己責任による健康管理です。

スウェーデンの場合、命にかかわらない限り救急車は来ません。

風邪くらいで病院に行くことはありません。

新型コロナのワクチン接種も無料では有りませんでした。

自分のお墓も、永遠にあるわけでは有りません。

札幌市の新タイトルは健康寿命の延伸のための施策ではいけません。

高齢者が元気な街札幌事業、または札幌市高齢者生き生き活動事業、等です。

長野県が何故、ピンピンコロリと言っているか、理解すべきです。

寿命は現在のままで、健康寿命が伸びて、行政負担が減るとするのはカビの生えた古いロジックです。

学者などで構成する専門委員会の委員ももっと勉強してから、答申すべきです。いくらパブリックコメントを出しても一方通行です。

市民との対話の機会を何度も実施する事を強く切望します。以上です。誤字脱字はご容赦下さい。

そもそも基本構想から見直さなければ、解決しない問題であるのに、各自が全く違った論点から議論しても前に進むはずがありません。

昔はどうだとか、他都市ではどうだとか、札幌市の 100 年後だとか発言しても、余り前向きでは有りません。

特に札幌市は自分達に都合の良いデータだけを示しても説得力が余りに有りません。

それらのデータは参考にはなりますが、根拠にはなりません。

特に、昭和時代のカビの生えた古臭い根拠など過去の遺物です。

秋元市長の発言は、いわゆるツッコミどころが多過ぎます。

一方で時代は変わったと言って、一方で昭和時代の根拠を持ち出すのは如何かと思います。

失礼ながら、論点ずらし、ご都合比較主義、お役人的答弁に終始しています。

一番大事なのは、現在の時点で未来を考慮した基本設計から見直す事です。

マニュアルを例にすると、一番大事なのはマインドマニュアルです。

次はシステムマニュアルです。そしてそれを効果的にスムーズに行う為のオペレーションマニュアルになります。

マインドマニュアルから見直さなければ、解決しないのに、システムマニュアルやオペレーションマニュアルの議論をいくらしても、より良い方向に向かわないのは明らかです。

何を、何故、誰に、誰が、何故が一番大事で、次にどうやって、いつ等の議論になるのにそうになっていません。

最初の何故から始めなければ、その場しのぎの誤魔化し行政です。

この制度を持続したい？何故？

今の若い世代の方でさえ 100 年後の地球の事は分かりません。

ましてや高齢者は 10 年後すら不明快です。

よく行政は持続可能、という言葉を使いますが、何故、いつまでとお聞きしたくなりません。

哲学的、宗教的な議論になるから、避けるべきなのにあまりに安易です。

根本的には、日本国は民主主義国家です。

この社会はお互いに助け合って生きていこうが基本です。

課題は、誰が、誰を、どこまでです。

親子、友人、近隣住民、世代など、事情は各自で様々で複雑です。

札幌市は日本国の政治の下請け組織で有り、また地方自治法により独自の政策も可能です。

理想は稼げる地方都市です。福岡市を例にするのは酷ですが、高島市長に見習うべきです。

稼げる未来像も示さなければ、札幌市といえども将来は存続すら怪しい限界都市です。家庭で例えると、祖父や祖母、父親、母親、子供達、それぞれが、それぞれの家族の生活や未来、そして老後や将来にどう関わるかと言う話です。

限られた寿命の高齢者、未来に不安を感じる若者世代、それぞれが、小さな希望や小さな幸せを感じられ、そして豊かな未来予想図を描ける政治をするのが、市役所の職員で有り市会議員をはじめとする政治家の役割です。

秋元市長は市民の代表なのですから、市役所ではなく、市民に顔を向けて仕事をするべきです。

簡単に申し上げれば、会社より家族を大事にするべきだと言う事です。

札幌市は 10 年ごとのビジョンが有りますが、これがあまりに抽象的で横文字だらけです。

一例を上げれば、誰もが自分らしく生きられる札幌市？なんじゃそれは！新興宗教？政教分離では？

これら、具体的にイメージしづらい、札幌市の未来像が今回の問題解決の妨げになっています。

ウェルネスでユニバーサルでスマートな札幌市にしたい、と言われてもチンプンカンプンです。

今から 60 年以上前に作られた、札幌市民憲章の方が遥かに理解しやすいです。

日本国では高齢者や団塊の世代の人口が少なくなるのは、まだ最低 15 年かかります。それまでに、どうバランスの取れた行政を実施するのは、国だけではなく札幌市ももっと真剣に考えるべきです。

以前より 10 歳の小学生にも、70 歳の高齢者にも理解できる説明が必要だと提言しています。

頭脳明晰な小学生もいます。経験豊かな賢者な高齢者も多数います。

今回の市長と語ろう会は、時間も限りなく短く、どちらの理解も得られない内容でした。誤魔化しの説明会ではなく、今後は丁寧で多くの市民が理解できる説明の機会を設ける事を切望します。以上です。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

反対意見が多いと思いますが、何をするにせよ大声を上げるのは反対意見を持つ高齢者だと思います。

高齢者の感情的な意見を聞いては何も決まらないので、客観的な事実をもとに適切な判断をして事業を進めてください。応援しています。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

健康アプリ(仮)についてなのですが、

当方は60代でスマホを利用しているためアプリを入れて利用していくことは抵抗ないが、70代以降の高齢者はガラケー利用者が多いのでアプリ自体入れることは無理だしスマホに機種変を促しても変更させるのは難しいかと考える。(頑固だったり使いこなせないなど抵抗がある)

何でもアプリをとするのは「若い人」の考え。高齢者はほぼ対応できないと思う。

また、下肢に不具合を抱えている高齢者に「歩け」というのは無謀なこと。一考を願う。高齢者への敬老パスについては今までの「手厚過ぎた」と考えるので、減額は賛成。今後自分も対象になる年齢になるだろうが賛成です。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

テレビで敬老パスの意見交換会の映像を拝見しましたが、シニアの方が若い方と札幌市長に暴言や野次を言っていました。

札幌市は、そのような市民がいた場合、毅然とした対応、退場や出禁、警察に通報してほしい。

一見、政党関係者の市民と思しき参加者の参加が多く、まともな市民は意見交換会に参加しなくなってしまう。

また、シニアの健康寿命を延ばす必要性を感じません。

交換会に参加した若者に暴言を連発するシニアのために、税金を使ってほしくありません。

あのようなシニアたちばかりではないでしょうが、札幌市は現在納税している現役世代や子供達の健康促進こそ、考えてほしいです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

健康寿命と敬老パスとは別問題。札幌市長の考えで財政問題をすり替えられているように思えてくる。

現行の敬老パス制度をそのまま存続し、高齢者・市民の生活を守っていくべき。

敬老パスを利用して、受診・趣味・買い物・ボランティア活動など多くの市民行動し、経済活動にも貢献していると思う。

また今回のバスの値上がりにより影響を受け、敬老パスを有難く活用させてもらっている市民は多いと思う。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

年配の方に極端に片寄る財源の使い方は税金のあり方として正しくはない。
75歳から2万円程度が望ましい。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

すでに労働人口は多くの社会保障上の負担を負っており、実質高齢者の交通費補助になっている敬老パスについては経過措置を設けず、廃止していただきたい。経過措置を設けるのであれば1年で充分である。

本来の目的である健康寿命延長を目的とするのであれば、運動機会の創出や認知機能低下予防に関するプログラムに予算を充てた方がいい。スマートフォンのアプリ利用に抵抗している高齢者は時代遅れであるので、相手にしなくていい。視覚障害者など、実際に障壁のある者への援助や配慮があれば問題ない。

そもそも超高齢社会となっている時点で受益者負担を原則としないと日本の未来はない。現在の日本が高齢者によって存在していることは間違いのない事実だが、これ以上負の遺産を残さないためにも、不要な敬老パスを無くして他の健康増進事業に予算をあてるべきである。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

いつも市の運営、ありがとうございます。

敬老パスについて思うことは、夫婦でパスの共有は出来ないのでしょうか？

そして、パスの限度額削減と、移動しない人にはパス出さないと言うのはなんとか出来ないのでしょうか？

昔は、活動的でない夫と活動的な妻、奥さんは自分のパスを使いきってしまい、旦那のパスが余っているなどよくききました。

別居ならともかく同居世帯なら、敬老パスを夫婦共有とか、なんとか出来ないのでしょうか？？

人それぞれ QOL は違うので、夫婦二人とも活動的で、足りなくなるのはしょうがないですが、昭和世代の高齢者さんは勿体ない精神に溢れてるので、そこを満たすと、健康寿命アップするかとおもうのですが、いかがでしょうか？

それでなくても、高齢になると、出不精になるのに、動かない移動しない人にはパスを出さないとかはあんまりかと思えます。

身体元気で、お出かけが好きな知人の老婦人は、敬老パスの限度額減で、バス代高騰もあり、移動を制限してると言い、しょぼんとしてる姿がとても切ないです。

QOL が駄々さがりして、健康寿命が云々では無くなってます。

誰もが、いずれ通る道、もう少し、高齢者に寄り添う市政をお願いできませんか？

ご検討、宜しく願いいたします。

市民や職員の皆様が、日々、心穏やかに過ごせます様に～。

ご清聴、ありがとうございました。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

高齢者が増えてきて制度設計が破綻しているので敬老パスは廃止が良いと思います。敬老パスが廃止されることでまだ現役世代で自分達は不利益になりますが、公共交通機関の維持も危うい状況の中で予算を持続的な公共交通機関の施策に回す必要があると思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

敬老パス見直しについて

市行政の運営に日夜ご苦勞をおかけし厚くお礼申し上げます。

さて、表記の敬老パス見直しについて当方の意見を申し上げます。

2点あります。

その1.

現行制度を提案内容に変えたとして財政負担は概算85億円程度になるでしょう。

これまでの説明で現状は65億円程度ですから20億円の増加になります。

しかも、この数値は、現状の対象人数での計算ですから、今後の高齢者増を予定した場合何年持つのでしょうか。

数年で、破綻します。もっとも、財源をどこまで回せるのかにもよりますが 150 億円も 200 億円も出せないでしょう。

その2.

当方としては、この制度は対象高齢者の今後の増加を考慮して、既に破綻してと思っています。

不公平だ等の意見は、市の財政を考えない勝手な感情論に過ぎません。

で、どうするか。市の財源の上限を決めて対象者数で頭割りするしかない。

ですから、毎年金額が変わることになるでしょうが、仕方ないことでしょう。

市の財源が、無尽蔵でないことは誰しも分かっているのです。

少子高齢化社会となって高齢者中心の社会で持つはずがありません。

反対意見は多いでしょうが、市の財政事情、今後の人口動態予想を示して乗り切ってください。

以上、当方の意見です。宜しく願いいたします。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

札幌市敬老パス見直し案で沢山の反対意見がありますが私は見直しが当然と思います。人口構成が昔と違い高齢者が多いこの時代に以前と同じ敬老パス等は無理とわかっているのに集団で意見言えば無理が通ると考えているのだと思っているのです。

若い人が意見を言えば昔自分達が高齢者を背負っていたと言いますが背負う人数が違うし屁理屈と思います。

高齢者は働いてないので納税もほとんどせずに税金を自分たちに使えと言っているのです。

無尽蔵にお金があるわけではないので若い人達の為にお金を使うべきです。

これから更に高齢者が増えるのに段階的に敬老パス見直ししてたら毎回高齢者が圧力団体になるので今まで通り敬老パスにするなら他に大事なことに予算が回らないとはっきり言うべきです。

高齢者を見捨てるのではなく予算を公平に使う為に今まで高齢者は恵まれすぎていたしそれを許していたのでまだ無理を通そうとしているのです。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスについては、「2026 年度から対象を 75 歳に引き上げ、自己負担割合を一律 50%に引き上げる」に賛成です。

現役世代はつらくても納税をしているので、高齢者世代も我慢してほしいです。

高齢が 1 割 2 割も自己負担しない医療費を、税金として負担しているのは現役世代です。「札幌市」を超えた部分にはなりますが、負担しているのは事実です。

そして、私はヘルプマークを付けていて、時短勤務しています。ある日、優先席の向かい側に座っていたら、優先席に座っているおばあちゃんたちに「ヘルプマークを付けてまで“おでかけ”するなんて」と非難されました。その人たちは四丁目で降り、百貨店へ向かって行かれました。働いて納税しているのに、遊びに行く高齢者に文句を言われたのです。優先席に座り百貨店まで行かずとも、ウォーキングはできますよ。通勤で利用する人に意地悪を言うような人たちのために、公共交通機関の利用を優遇する制度を維持するのは腹立たしいです。マナーの悪い高齢にはペナルティがあっても良いとさえ思います。

夫の両親は後期高齢者ですが、健康のためにと近所を散歩したり、マンション内で階段昇降をしています。公共交通機関を使っただけが、健康対策ではありません。

現役世代の声も反映されることを祈ります。

以上です。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

現役世代として、以下の理由から、早急に敬老パス制度の廃止を求めます。

- ・少子高齢化社会にそぐわない制度です。この政策を考えた方々は、人口ピラミッドの分布を見ていないのでしょうか。端から制度として破綻していると思います。
- ・なぜ、資産形成できている高齢者の交通費を、ギリギリで生活している現役世代が負担しなければならないのか、甚だ疑問です。実質賃金が低下している中で、高度経済成長期の旨味をすすってきた世代のために負担する意味がわかりません。
- ・健康増進するのなら、交通機関を使わずに散歩でも筋トレでもしたらよいのではないですか。交通機関を使いたいのなら、自分で負担すればよいのではないですか。
- ・高齢者同士で負担し合う仕組みでも作ればよいのでは？現役世代を財布として使うのはやめてください。迷惑です。
- ・敬老パスの意義について、高齢者を敬うという気持ちがあつて、と市長が仰られていましたが、そんな曖昧な理由で現役世代に負担を強いることはやめてください。先日の討論会をニュースで拝見しましたが、自分たちの利権のために若者の貴重な意見に野次を飛ばすような世代に対し、敬うという気持ちなど生まれませんし、敬うことと費用を負担することは一切関係ありません。
- ・今後、自分が高齢者世代になったとして、こんな現役世代に負担を強いるような制度は絶対に使いたくありません。自分の子や孫の世代に負担をかけていることに何も思わないのでしょうか。
- ・こんなことにお金を使うなら、除排雪費用に使ったほうが恩恵を受ける世代も平等になり良いのでは？もしくは、未来のために、子育て世代に恩恵のある制度拡充を求めます。
- ・札幌市には、こういった無駄で不平等な政策を廃止・縮小し、税負担を軽くしていただきたいです。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

不明

提出方法

WEB

この厳しい財政の中、誰もが大変な状況にも関わらずなぜ高齢者ばかり優遇されるのでしょうか。

通院できない、ボランティアができない等々ニュースで意見聞きましたが、若い世代が同じことをすれば当然のように料金が発生します。

なぜ若い世代ばかりがこんなにも自分勝手な高齢者の負担をしなければいけないのでしょうか。

全く援助しないとは誰も言うておらず、誰もが豊かに暮らすために、高齢者も我慢なさい、当たり前負担すべきだと言っているだけです。

本当に大変であれば、どれだけ料金がかかろうと通院もします。

他人のお金だから、そんなことが言っているのです。

私もこれからお世話になるかもしれませんが、若い世代が負担を強いられる制度は理解できませんし、廃止縮小すべきです。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

敬老パス全面廃止

いずれ廃止になるのなら今のうちに廃止

どうせ 10～20 年後にはこの制度は維持出来ないのなら、今のうちに廃止

せめて 70 歳からは子供料金とし、残りは市でバス会社に補助

最初のみ 70 歳になれば KITACA など貸与し(年齢確認するため)、亡くなったら返還。

バス運転手不足に拍車がかかっている状況で、この様な制度は不要でしょう。

就職氷河期を作り出した世代を優遇する必要はもう無いでしょう。

運転手になりたくても就職すら出来なかったのですから、運転手不足になるのは当然の結果です。

選挙対策で票を集めるために、公約に敬老パス存続と言う人は、即立候補剥奪が良いでしょう。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスの支援額減額は賛成

健康アプリの取り組みは反対。理由は健康管理は個人の問題で、行政が関わる必要はなく、システム開発、維持コストをかける必要はない。

老人の自動車運転は危険で、免許返納を進める施策が必要である。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

対象範囲を「40 代～」と設定した理由を教えてください。

ウェルネスの定義の中で「働く世代や若年層を対象とした『予防・健康づくり』や、～～省略～～が必要」としつつ、なぜそのような対象年齢の設定となったのでしょうか。

より若い世代も対象にすべきと考えます。

また敬老パスに関しては、極端な話不要だと思いますので廃止してよろしいかと思えます。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パスについて

高齢者の交通事故を減らすために、免許返納を促すためには敬老パスは必要不可欠だと

義両親は 80 歳で免許返納をし、今、敬老パスを買い物などに活用しています
まず、高齢者にアプリは無理ですよ

40 代の私でも最近の IT についていくのがやっと

義両親は、ちまたのセルフレジや飲食店のタッチパネル注文ができないから行けない。
と、嘆いています

若い時から IT に触れている者が高齢者になることと、高齢者になって普及された IT
を使うのとはわけが違います

高齢者の健康のために歩数アプリを導入したところでそれが健康に繋がるとは思えないし、そもそも高齢者は携帯電話を常時身につける習慣もないと思います

さらに、高齢者は足腰に不調を抱えている人が大半だということは整形外科などの待
合室をみると一目瞭然

その人達に、ポイントあげるから歩けというのは拷問と同じかと

心身ともに健康でいるために敬老パスを活用し無理なく外出し、社会と関わることが
健康増進に繋がる

そして、外に出るということは少なからずお金を使う

お金に余裕のある高齢者が敬老パスで外出してあちこちでお金を使うことが、最終的に
地域にお金を落とし経済効果に繋がる

そのための先行投資が敬老パスだという考えもありじゃないですか？

敬老パスがないから外出しない、お金使わない、高齢者の貯蓄が減らないということは
想像できませんか？

例えば、免許返納をした高齢者には敬老パスの額を変えるとかしたら、返納も増えるかも

そしたら不幸な事故も減るかも

いろんなところに波及している敬老パスをただただ減額するというのは時期尚早かと

IT に慣れ親しんだ世代が高齢者になるときに見直す

果たしてそのときに、今の若い時達はどう反応するのか

みんな年をとります 高齢者に優しい街になりますように……

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

地下鉄や電車の最寄り駅がない地域に住んでいる住民にとっては、敬老パスの利用先がバスしかありません。

札幌市内の JR でも利用可能にしてほしい。

健康寿命延伸は各自が取り組んでおり、ポイント制度に予算をかけるより JR 利用を優先してほしい。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

見直しには賛成です。

今現在敬老パスを使っている方々は既得権を主張なさるかと思いますが導入された当時と今では状況がまったく変わりました。

考え方を変えることは高齢になるほど難しいのでしょうか。

50%以上の方がまったくチャージしていないのですね。今声を上げている高齢者の方々の意見は大多数の意見ではないということですよね。対象年齢で使っていない方々のご意見も聞いてみたいです。

見直すことは賛成ですが見直し案はもう一度検討する余地はあるかと思います。変更
に反対されている方々がある程度納得するような案を出さなければ難しいでしょう。

個人的には年齢を 75 歳に引き上げるのはどうかと思います。健康寿命を考えるとそれを
超えてから助成されても使える年月が少ないかもしれません。

9 割の方が 4 万円以下のチャージなら助成額はそのあたり、急に 7 万円から 4 万円
になるというのも抵抗があったと思われるので段階的に最後 3 万円くらいまでにして
年齢は 70 歳のままにするとか。

人口減少でこれから地方は厳しいです。札幌も例外ではありません。黙って座っていれば
助成してくれる時代は終わりました。敬老パスの見直しが通ることをお祈りしています。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

私は、豊平区に住む 72 歳男性(会社員)です。

日頃から敬老パスを有効に利用させていただいております。

札幌市は健康寿命延伸に向けた取り組み実施の一般として、敬老優待券(いわゆる敬老パス)の見直しを提案しています。

基本的には、私は市の提案に「賛成」です。

パブリックコメントを拝見しますと現状のサービスを既得権として「反対」を表明している方が多いようですが、市の説明にあるとおり「財政状況や人口構造の変化に伴い、制度の変更が必要」としています。

超高齢化社会が進んでいる現在、65 歳以上の高齢者割合が「人口の 7%」を超えた社会を言いますが、人生 100 年時代ともいわれるようになり、社会の在り方もだいぶ変化しております。

私のように 70 歳過ぎても働いている方も少なくありませんが、年金で生計を立てている方も多くいることも承知しております。諸物価の高騰に生活に四苦八苦しているのも現状です。

しかし、秋元市長の説明にあるとおり「現役世代の負担を増えていることを念頭に、高齢者にも一定の負担をお願いしたい」と見直しに理解を求めています。

道民税、市民税の増収することも考えられますが、市民が知恵を出し、札幌市の財政を見直し、将来の若者に禍根を残すようなことだけは避けるべきと考えます。

市民に丁寧な説明が必要ということで、説明会を開催しているようですが会場では反対派の方の発言が強く、ある会場に参加した 20 代の方の発言に対し、罵声が飛びかい「完全にアウェーだった。」という報道もあるようです。これでは若者が委縮し公正な意見交換にはなりませんので、提案としては年齢別の参加資格にするとか、意見聴取が平等になるような実施形態にすべきと思います。

また、SNSによる意見が聴取できるように、これからの社会を担う若い世代の意見が反映されるような形態を模索していただきたいと思います。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

札幌市と敬老パス利用者双方にとって、いまだ温度差があることは否めません。

その上で、敬老パス制度は 70 歳以上であれば誰でも利用できる現状の制度では、敬老パスそのものに本人の顔写真貼り付けもないことから、年間を通して敬老パスを比較的利用されない友人同士で貸し借りができ、女性であれば女性の、男性であれば男性の、つまり同性であれば他人の敬老パスを利用できる環境であることから、敬老パス上限額を減らすと、このような利用がますます増加することが懸念されます。

健康寿命延伸に向けた取組を盛り込むのであれば、多くの敬老パス利用年齢層では、病院に通院していても身体の節々に支障をきたす方々も多くいらっしゃることからウオーキングなど健康である方だけが得をする施策では当然不満が出ることと存じます。

そこで毎年会社で行われる健康診断および、国保加入者・後期高齢者向けのとくとか検診などの健康診断を受けられた方には敬老パス上限額を増やす等の施策を盛り込んだり、医療部門と連携していくことが必要になると存じます。

また通院を欠かさなくされていて前年度よりも健康状態が軽快になった方にも上限額を増やす施策を検討してもよろしいと存じます。

さらに敬老パスを利用される高齢者のなかには、会社役員であったり収入が多い方も多くいらっしゃることから「〇歳以上は一律〇万円を上限とする」という制度ではなく、収入に応じた対策も必要になってくると存じます。

例えば、国民健康保険制度および後期高齢者保険制度では前年度の収入に応じて、高額療養費の上限額が異なるようにいくつか区分されており、

この制度を利用することで、低所得高齢者には現状の敬老パス上限額程度まで、逆に現役以上の収入がある高齢者には上限額を減らす対策も取り入れてもよろしいかと存じます。

どうしても現行の上限額を減らしたいのであれば、上限額を減らした上で、すべての敬老パス利用者に対して、敬老パスを利用した際には、地下鉄、市電、市内路線バス全線において運賃半額で利用できるあたりが落としどころではないでしょうか？

限額をすべて利用された敬老パス利用者に対しては、自費でチャージしていただいた上で、敬老パスで利用されると運賃半額で利用できる環境になれば反発する声を軽減することができると思います。

敬老パス現行制度変更を札幌市側の一方的な考えだけでは、多くの敬老パス利用者は不満を抱きかねませんので、現行制度よりも上限額を減らす方向で進めたいのであれ

ば、敬老パス利用者にもそれ相応のメリットがないとなかなか進展しない事象と思います。

また敬老パス制度は現役世代(20-50代)の方々には負担になることから、現役世代の声を多く取り入れることも必要と存じます。

まとめますとつぎの通りです。

- 本人以外の他人・友人の敬老パス利用を阻止する対策の取り組み
- 札幌市が勧めるとくたく検診等受診者に敬老パスにメリットを付与する取り組み
- 敬老パス対象者の収入に応じた敬老パス利用上限額設定の取り組み
- 上限額不足分はチャージした敬老パス利用により札幌市内全域は運賃半額にする制度導入

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

令和 5 年に 10,000 円分を負担金 1,000 円で購入しましたが、今日現在半分以上残っています。

テレビで説明会をみましたが、見直しに反対される方は頻繁に使用される方で既得権になっているのかなと思います。

時代の変化とこれから増々少子化が進む中では、制度の変更はやむを得ないと思われます。

又、税金を使用するのであれば一部の人たちに適用せず、市民全体が恩恵を享受できるような制度にしてほしいと思います。

例えば、パートナーシップ排雪の町内会負担金を、市で全額賄う事等です。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

母が後期高齢者です。膝が悪く、外出には公共交通を頼ります。今の7万円(自己負担あり)の自己負担は息子の私が出しています。年間では7万円でも足りない状況です。この見直し案は、前回の見直し案と合わせ、「どうあっても高齢者への財政支出を減らしたい」という意識しか見えません。若者にもっと福祉財源を与えて欲しい、という秋元市長の発言は綺麗事です。高齢者だって市民であり、現実には大勢生きているのですから、外出を支援し、生活の質を保たせるのは、草の根の日常生活の経済を回す上で必要だと考えます。4万円までしか利用しない人が多くいることは、それを上限にした制度を作る理由にはなりません。予算が多くなっても、現実の執行額が少なく収まればそれで良いわけで、さもなくば少ない予算で出発しても、機動的に予算を拡充できる仕組みがあれば良いわけです。7万円より敬老パスの上限額を減らすことには同意できません。札幌の街は地方の大都会であり、そこに愛着を持ち、便利さを感じている人々が大勢います。発展しているのは、札幌駅、大通、すすきのの3地区が筆頭で、ほかに琴似、北24条、新さっぽろといった乗換地点もあるでしょうが、皆、生活の潤いを求めてそこへ行くのです。家にいて、家のごく周辺だけを歩いて、買物や人との交流がすべて済むわけでもありません。高齢者の経済にもたらす影響力が、1世帯あたりでそれほど小さくなくとも、世帯数が多くあればかなりのものであるはずで、いわば人権の保障として、不自由さを支援する発想が必要だと考えます。現実、高齢者の中に敬老パスをあまり使わない人がいるのは、健康上の理由だったり、高齢者施設に入居して外出もそこに依存していることも無視できない理由なのではないかと思います。そういう人については、敬老パスの使用見込額を低く見積もればよろしい。財政の問題を考えるなら、高齢者をひとくくりにして制度を一律に決めるのではなくて、多様なケーススタディを踏まえて無駄を省くことも十分に考えられるべきでしょう。健康寿命をのばす取組に参加させて、ご褒美としてだけ敬老パスのポイントを与えるのは、取組に参加できない高齢者にスティグマを与えるものにほかなりません。健康寿命増進と高齢者外出支援をセットにするのは不適切だと思います。現行制度維持、7万円維持、自己負担は所得によって(扶養者の存在によって)若干加減する余地はある、というのが私たち母子の提案です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

健康寿命の延伸に向けた取り組みは、それなりに理解出来ますが、今回の敬老パスの実施案を納得させる為にとって付けた案という印象が私は強く感じています。上限 4 万円はやむを得ないにしても、適応年齢を 75 歳に引き上げる案には賛成できません。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

若年層に向けて健康維持の取り組みを呼びかけ、それを支援、推奨する取り組みを行政が積極的に行ってほしいです。

札幌市の高齢者の方々に向けた支援、情報提供は素晴らしいと考えています。しかし、その分の労力をいくつか割いて、若年層の健康維持増進の推進に向けることが札幌市の繁栄につながると私は考えています。

なぜなら、高齢者の方々にとって新たな運動習慣、情報を取り入れることは困難であり、またすでに取り返しのつかないほどに心身が衰弱しているというケースはよく見られます。私の母が介護関係の職についておりよく話を聞きます。母曰く、高齢者になってから健康のために動き始めても、それで健康を保つことはほとんど不可能であるとのことでした。

もし、若年層が健康への意識を高く保ち、実際に健康を維持することができたのなら、今以上の健康寿命の延伸が期待できると考えています。さらに、心身の健康を保つことは単に寿命の延伸につながるだけに留まりません。日々の生活を豊かにし、仕事にも積極的に取り組めるようになるでしょう。

この目標を実現するためには、行政による情報、サービス、資金面でのサポートに加え、若年層自身が健康を維持することに前向きになるような意識を持つことも必要です。より具体的には、札幌市の側でイベントを企画し、ラジオ体操、ジョギングなどの記録をもとに参加者に景品を与える、といったことをしてほしいです。

札幌市職員の方々の取り組みを応援しています。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

今回の敬老パスの見直しにより、一人当たりの負担額が三千円以内に収まるのはとてもいいことだと感じた。

今敬老パスを使う人が昔納めたのと同じ金額なら、払うのも納得できる。

私の祖父もよく公共交通機関を使い出かけ敬老パスの存在はありがたいので、敬老パスはなくさずに、敬老パスのチャージ上限額やチャージする本人の負担割合を増やすのには賛成する。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

バス会社でも厳しい状況が報じられており、今回の敬老パス問題の説明会でもヤジを飛ばしたりしていた様子も報道されておりました。

そんな元気があるのなら、補助する必要性はないのでは？と考えております。

そもそもバスなどの交通機関が減る、なくなる方が問題なのでいっそ廃止して浮いたお金で負荷がかかっているバスなどの救済に当てる方が有意義ではと思います。

老人の人口が増えるにつれて負担が増していること、現役世代は全国的な流れを見ても今後減り続ける可能性は高く、老人と現役世代の比率が 1:1 に近づくとつれて財源や負担は跳ね上がることが予想されると考えてます。

ヤジだのまともに話し合う余地のない相手のために金を使うなら交通機関といったインフラ維持に当てていただきたいです。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

健康アプリは、失敗すると思うので、やめた方がいいと思います。利用者が少なく、その利用者は運動習慣や外出の多い健康的の方が多数を占め、家にいることが多い人を、ポイントを稼げるからといって、運動や外出への行動に移させることはできないと考えます。

「ポイ活」という言葉が出てきて、ポイントを貯めている人は多いですが、それはスマホアプリのバーコードを読み取るだけなど、簡単にできるものであって、手間が増えるとしなくなると思います。2 年ほど前に、マイナンバーカードの作成等をすれば、2 万円のポイントが貰えることがありましたが、それでもしない人は大勢いました。1 時間程度の作業、実質 2 万円の時給にも関わらずです。今まで散歩や外出などをしなかったのに、ポイントを稼ぐために、行動するようになる人は、あまりに少ないと思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

現在の上限額 70,000 円まで使用する人はほんの一握りであることを考えると使用限度額の引き下げは検討しても良いと思う。

考えるべきは JR、タクシーの使用を可能にすべきかどうかだ。

当初、JR、タクシーも使用対象に加えるかのような報道もあったが、いつの間にか消滅してしまったようだ。

バス、地下鉄は使えずやむなく JR、タクシーを使用している人も多い。

バス、地下鉄だけしか使用できないのは不公平であろう。

検討枠に JR、タクシーにも使用可能な案を是非加えてほしい。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

Q1 のポイントの有効期限の説明によると、チャージした金額は有効期限なしとのことなので、令和7年度の対象者は、17,000 円で 70,000 円までチャージできる。71,000 円分がチャージ最高金額なので、経過措置のあいだはほぼ限度額までチャージ可能。それに対し、8年度からは、75 歳でないとチャージ出来ない。生まれた年が 1 年違うだけで差が大きすぎて非常に不公平。7 年度の対象者については、財源のことから止むなく、今回の案に賛成はするが、8年度に 70 歳を迎える人にも何らかの対応が必要ではないか。9年度ぐらいまでは、不公平感を減らすための対策が必要ではないか。また、アプリについて、早く制度設計を望む。

今回の案は、市民 1 人あたりの費用負担を 2,000 円程度に抑えることを前提としていますが、利用者目線の計画とはなっていないと思います。

75 歳以上、プレミアム率 50%、割引最大 20,000 円となったときに現在の利用率約 50%が維持できるとは思いません。利用率が今よりかなり下がることが予想されます。

例えば、現在の半分以下になった場合、この制度は維持できるのかどうか。5年後あたりに見直すとのことですが、また、制度の見直しをするとまたお金がかかります。最悪、新しい制度の廃止または、大幅な改訂になりそうな気がします。費用対効果すなわち制度を運営するための費用と市民に還元される額のバランスを考慮する必要があると考えます。制度を運営する費用を市民に公表し、制度の是非を市民に考えてもらう必要があるのではないですか。

例えば、札幌市では、2 回プレミアム商品券を発行しましたが、どのくらいの運営に必要な費用がかかっているかは、市民はわかりません。必要な費用も明らかにして市民の判断を求める必要があると思います。

その意味で、アプリのポイントによる JR やタクシー利用について、新しい必要がどのくらい費用かも考えて、制度設計する必要があると考えます。費用対効果をきちんと予想して欲しいと思います。

既に意見表明をしているものですが、新たな視点での意見です。

制度の持続可能性について

関係ホームページを調べたところ、予想以上の量の資料が掲載されていることがわかりました。新たな制度については概要しか発表されておらず、アプリについてはほとんど発表されていないにもかかわらずです。制度の実施まで、まだ多くの作業が残されて

いると思います。これだけ大変なことになったのは、最初の提案があまりにも利用者目線からかけ離れていたからで、これからの新しい制度の提案には、もっと利用者すなわち市民目線での検討をした上で行なうことを強く望みます。

次に、現在の提案は、2060年までの負担額の推移が書かれていること、スマホでの利用が40歳からであることなどから多少の制度の変更はあるとしても、2060年ぐらいまでは、継続する方向と考えられますが、秋元市政がそこまで続くものではないです。現在対象年齢に近づいているものにとっては、期待感がありますが、若い人には反対意見が多いようですので、今から10から20年後には制度の廃止も検討することを明記してはどうですか。5年後には、プレミアムが2万円程度になり、あまり効果的な政策とは思えないです。この制度の変更にもなう予算措置や人的資源をもっと別の政策に振り向けていくのが良いと思います。場合によっては、アプリ使用の提案を取り下げるぐらいの政策変更があってもいいのでは。高齢者に不評なアプリ使用にこだわることはないと思います。歩くことについては、私企業のアプリに任せてはいいのではないですか。何でも政治がやるのではなく、本当に必要なところに市の予算や人的資源を投入すべきです。

あまりにも今回の制度変更には、市の資源を使いすぎだと思います。費用対効果をもっと重視すべきではありませんか？

札幌市長が次回の制度発表の際に現在の案の変更もあり得るとの発言があったとの報道があったため、少なくとも必ず変更してほしい内容を提起します。それは、1955年以前に生まれた人は激変緩和策の対象になりますが、1956年以降に生まれた人はその対象にならないことです。既に、このことは過去のメールで、少なくとも1956年と1957年ぐらいには、激変緩和策の対象にすべきとの意見表明を行っています。具体的に1955年生まれと1956年生まれの75歳までのプレミアム額を計算してみました。

1955年生まれの場合

年度	年齢	最大のプレミアム額
25	70	53,000
26	71	42,000
27	72	30,000
28	73	25,000
29	74	20,000
30	75	20,000
合計		190,000

1956年生まれの場合

31	75	20,000
----	----	--------

以上の計算から、最大のプレミアム額の差は、17万円となります。チャージした金額は有効期限がないので、チャージを有効に行なうと、この差は最大に近づけることは、可能です。さらに、1954年以前に生まれた人と1956年生まれの人とのプレミアム

額の差は、更に大きなものとなります。果たして、これが激変緩和策といえるのでしょうか。少なくとも1957年生まれの人ぐらいは、激変緩和策の対象にすべきです。1958年生まれあたりからは、激変緩和策の恩恵が段々少なくなるので、費用対効果の観点から激変緩和策の対象にならなくても止む無しかもしれません。どの年度まで激変緩和策を採用するかは、政治判断になるかもしれません。

最後に、本当はこのことは書きたくはなかったのですが、新制度を良く理解している人は、来年チャージ額を最大の70,000円にするのではないのでしょうか。そうすると、来年は多くの予算が必要ではないですか。それ以降は、減少すると思いますが。だからと言って、激変緩和策によりかかる予算を縮小するために変更することには、強く反対します。

4つ目の追加です。

上記に関して、いろんな問題が起きるのは、敬老パス制度を75歳からにするからであって、1956年度に70歳に達する人から激変緩和策を採用したら良いのではないですか。大きな原案変更となりますが、間違い無く予算の削減は進むことになるので、70歳から公共交通に対する割引プレミアムは、継続する必要があります。市長の英断を期待します。

最後に、現行制度の存続を望む署名が多数市に届いているそうですが、最大のプレミアム額7万円の利用者が予算の半分も使うという実態は、不公平だと思います。最大のプレミアム額のある程度の減額と割引率の縮小はある程度止むを得ないと考えます。制度変更によって必要な費用も含めた費用と効果の兼ね合いをも考えた制度が次回の市長の発表となることを期待します。アプリの使用による効果には、懐疑的です。具体的には既に一部を意見表明していますが、詳細が明らかになった時点で意見表明したいと考えています。最後に、関係部局の方々、ゆっくりとした年末年始を過ごしてください。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

若い方を応援する政策に賛成します。

確かに、敬老パスは魅力ありますが、時代は変化します。

敬老パスに使うお金を一人親に還元したり公教育に使うなど若い方で困っている人や義務教育に使ってほしいです。

いろいろな政策は、時代のニーズや情勢に合わせて変えていくべきです。新しい政策も、見直していかなくてははいけません。

少子化ですから、これ以上少子化が進まないためにも若い方を応援しなくてははいけません。

一部の人の敬老パスを維持してほしいという意見に左右されず、少子化がこれ以上進むと敬老パスどころではなくなりますから、それをしっかり説明し、見直ししてほしいです。

市の広報なども使い、敬老パス見直しが将来のプラスになると分かってもらえるようにしてほしいです。

他の自治体の例なども挙げたらいいです。見直ししている自治体は多いと思います。

敬老パス見直しのお金の使い道を示すと反対意見も減るのでは？

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

1-4 健康アプリについて

老人には健康アプリは不要です。(大反対です。)

健康に気を付けている人(普段歩いている人)に対しては、特段、特典を付与する必要は全くありません。

むしろ、交通弱者(思うように歩けない人)の事を考慮するべきで、病院通い等で、地下鉄等の交通機関を利用せざるを得なく、苦慮している人の事情を考慮し、割引率を大きくすべきである。

健康アプリを開発運用する費用は、割引率充実・拡大の費用に回すべきである。

2-4 敬老パス制度について

財政事情を考慮すると、見直しはやむをえないと思うが、割引率は、50%案を一律30%にできないか。

30%負担であれば、段階的实施でなくても、2026年度からの実施でも構わない。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

この先、少子高齢化が更に進むのが目に見えている状況でいつまでも高齢者優遇の敬老パスを継続させるのは現実的ではないと思う。

現役世代も税金や社会保障費の負担が年々増しているのだから高齢者も交通費位自分で負担すべき。

他の自治体も敬老パスの廃止や縮小が実施されている状況であり、札幌市も廃止または大幅な縮小でいいと思う。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

去年骨折をし、半年以上足が不自由でしたが、その時に思ったのが

- ①エレベーターまで行くことが大変
- ②札幌は地下移動が多く、地上は歩道が狭かったり凹凸があり移動に負担がかかる
- ③病院に行くまでが不便(地下鉄駅・街中までの交通機関がだんだん少なくなっている)ということでした。

若かった私ですら大変だったのですから、雪が多い状況や年をとって転びやすくなったらもっと大変だろう、寧ろ外に出ないように出ないようになると思います。

(健康アプリはそもそも高齢者にスマホを持たせることについて私は懐疑的です。セキュリティ問題もあります)

ですので、70 歳から(年齢は変えない。私の周りでは 75 歳で少しギクシャクしてきたなあという方が多いです。ということはもう 70 歳から徐々に衰えは進行しているということですし、70 歳前はまだ働いて会社から交通費が出る方もいるので)主に病院へ行くための敬老パス、習い事へ行くための敬老パスであれば月2万円分(私の通勤費が1か月1万円程度です)くらいは援助しても良いと思います。

以前、意見交換会の時に「月6万円は交通費でボランティアに行っている」という方がいらっしゃったと聞いていますが、それはボランティア団体が援助すべきことであり、交通費を際限なく使うのは筋が違うと考えます。

また、冬のスポーツ関連の施設の建て替えや新築等の話があるようですが、金銭的・精神的ゆとりがあってこそ子供達に習い事をさせられます。建物ありきで子供達に習い事をさせるわけではありませんので、そういうオリンピック関連への悪あがきはやめて、その予算をもっと市民のために使ってください。除雪や市営交通の充実など、「健康寿命延伸」を考えるなら他にもっと使うべきところがあるはずです。

健康には何が必要かと考えると、栄養のある食事、頼れる仲間、外に出ようと思える程度に天候が良いこと、平らな地面、あくせくしない生活です。

市民生活にもう少し目を向けてください。

繰り返しますが建物や制度が最初にあって健康になるというわけではないのです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

今の若い方々が高齢者になっても持続可能に使えるよう年齢を上げるのは当たり前で自己負担を増やすのも当然です。

今の年間生活者は年金ももらえて敬老パスもつかえるなんて甘やかし好きです。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

健康寿命

これは他の政令指定都市と比べても仕方ないと思います。

寒冷地ですから気候に耐えるため必然的に油分・塩分は摂取しがちであり、外に出て運動する機会がどうしても少なくなります。

みんな好きで寿命を短くしているわけではありませんし、比較して寿命が短いことに劣等感などは抱いていないと思います。

特に冬場は外出を控えます。出掛けるとしても車が多いです。それも市内で用務・買出しに行く程度で、できるだけ短い時間で効率よく行動しないと 1 日 1 日はあっという間に過ぎてしまいます。

自転車にも乗れず足元悪い中、歩くには酷な環境です。地域・季節によっては除雪に時間を割かれ、朝から晩まで除雪作業することもあります。

そんな中、健康寿命を延ばすためと言われても、正直言ってそれどころではないというのが私の私見です。

敬老パス

私は 57 歳であります。70 歳か 75 歳になるまでこの制度があるとは微塵も思っておりません。そもそも生きていくかどうかもわかりません。

年齢で一律に区切るだけでなく、市内の交通機関を割引運賃で利用できるための条件を付けた方がいいと思います。

今まで他の市町村に住んでおいて、この敬老パスを取得すること目的に 70 歳になれば札幌市に移住して手続きを取るとなれば、困るのは札幌市民です。まさに財政上がったりです。

こういう制度は、これまでいかに札幌市に貢献したかによります。

やはり札幌市民として市民税を最低 10 年納付した人が最低条件ではないでしょうか。もちろん 20 年 30 年の人にはそれ以上の恩恵を受ける資格がありますが、最低限の条件は付けるべきです。

もちろん誰でも参加できる制度はあってもいいと思います。

私は使えると思えば利用しますし、使えないと思えば利用しません。

常に変化は必要です。不変なる制度などないと思っています。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

還暦を迎え日々体の衰えを感じるようになると、将来に不安は残ります。うちは、子宝には恵まれなかったし、2 人とも道外出身なので頼れる身寄りもありません。しかし、現在の風潮では高齢者の運転には否定的、バスも減便に次ぐ減便。そのうえ物価も上昇と明るい展望が開けません。

そのためなんとか健康を維持しようと出かけるのですが、このうえ敬老パスまで縮小されては、札幌市に納税してきた者として慚愧に耐えません。

とはいえ、若い世代への負担は減らしたいので何らか対策は必要だと思います。そこで以下を提言します。

①現在の敬老パスは存続。ただし無駄にしている方も多いので、前年度の実績に応じた額にするなり、10000 円ずつ無くなったチャージできるなど、無駄の無い運用をする。

②必要性の低い赤字事業を潔く撤退する。

③市側も少しは身を切る（私は高橋はるみ知事時代に職とは関係ないけど毎月 10% 引かれていました）

④自動運転バス等将来の不安を払拭してくれる技術の開発

老人には敷居の高い提案ばかりしないで、納得と安心に繋がる提案をお待ちしています。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

案の内容について、現役世代として仕方がないと思える内容で、受益者も受認すべき程度の内容であると思うので賛成。

また、健康寿命の観点の他に、今後自動車の運転技術が低下する世代であるため、免許返納への後押しになる制度となるよう設計して欲しい。免許を保有し、かつ同一世帯で自動車を持っている場合は、他の移動手段と自動車を保有する資金力があることから、一律に自己負担額を 8 割程度まで上げると良いと思う。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

健康アプリで健康増進と言っておられますが、スマホを簡単に利用出来るような年配者は、そもそも健康上 WHO の定義じゃないですが肉体的・精神的・社会的に問題なく生活出来る状況ではないでしょうか。

それにスマホをくださるのでしょうか。

健康面に不安がある高齢者にとって医療費や飲食費にどれだけ負担額が大きいのか全然御理解されてないように感じます。全ての高齢者を同一にくることが不可能ではないでしょうか。

テーマからずれるかもしれませんが予算の問題があれば交付年齢を上げるのはしようがないと思いますし、収入によって制限するのはやむを得ないでしょう。

私も交付が取り上げられても理解出来ますが政策施策において全ての方が満足出来ることはありえないでしょうから、最大限の御理解を得られる丁寧な御説明を期待します。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

基本的に賛成です。

ただ、1-5 市民から寄せられた意見のように、スマホアプリ利用の不安は解消されないかと思うので、サピカ等のチャージカードに敬老特別のポイントが利用すればするほどの加算ポイント制度があった方が、健康寿命に向けて運動がてらにとお散歩される市民が増えるのではないかと思います。

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

東区

提出方法

WEB

健康寿命延伸の取り組みとして、健康アプリを利用することはよいのではないかと思う。「健康さっぼろ 21(第 2 次)」によれば、生活習慣病の割合が近年増加傾向にあることや、健康寿命と平均寿命の差が 10 年あるとのことだ。生活習慣病の市民が増加すると、札幌市の医療費の圧迫につながる恐れがある。現役世代の負担を減らすためにも、健康な市民を増やすことは必要ではないかと考えられる。健康アプリは手軽に始めることができ、ポイント増加という目的のもと、多くの市民が始めるのではないかと考えられる。

そこで、懸念点としてまず考えられるのが、アプリの使いやすさである。現役世代の負担を減らすためにアプリを導入するのは良いが、使いやすいアプリでないと、特に高齢者は使ってもらえないだろう。

2 つ目の課題としては、アプリを知らせる広報を行うことである。札幌市の取り組みが良いものだとしても、それが市民に浸透しなければ、意味のないものになる。

もう一つ問題を挙げるとすれば、民間の健康アプリとの競合である。すなわち、民間にはできなくて、市だからこそできる取り組みが必要である。

参考になりそうなのは、旭川市が行う、「あさひかわ健幸アプリ」である。「あさひかわ健幸アプリ」では、日々の健康に関する情報やラジオ体操、イベント情報に加えて、協賛企業の抽選も可能だという。

そこで、私は、ポイント獲得によって、その分の税額控除を受けられるシステムの構築はどうかと考えた。対象は、40 歳以上であるから、税額への関心も高いとみられる。また、昨今の物価高騰により、多くの市民が生活に苦しんでいるのは事実である。アプリを用いると、税額控除を受けられることにすれば、それも目的の一部になりうるし、多くの市民が始めるきっかけになると考えられる。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

健康寿命という熟語にととても違和感を感じます。

「共生社会を目指す社会」に健康寿命という言葉は、どう位置づけられるのでしょうか？

今月の札幌の表紙には、認知症の方が、パートナーとともに楽しそうに映っておられました！

認知症基本法が動き出し認知症政策の基本計画も閣議決定され 12 の推進政策も発表されました

今後の政策に「共生社会を目指す」ことを前面に政策の決定を行ってください

敬老パスについては、年収だけでは無く例えばボランティア登録をされている方の条件を緩和されるなど盛り込まれてはどうか？

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パス本来の目的を再認識すべきであると考えます。

敬老パスの廃止及び改悪は高齢者の冬場の日常生活を全く理解していないものです。遺憾ながら提案者が冬場バスにのったことがあるのか疑いたくもなります。

ご存じのとおり、高齢者は足腰も弱って、高齢者が日常の買い物や通院に出かけるのは大変です。特に 12 月から 3 月の冬場は雪道、凍結路面で決死の覚悟で出かけるのであります。決して大袈裟ではありません、高齢者のちょっとした路上転倒は致命傷です。軽い骨折でも日常生活を自立できない障害者にもなりかねません。ひいては高齢者の路上転倒で介護保険、健康保険、生活保護費など財政負担がますます増加することとなるのです。

さらに怪我だけではありません。高齢者が気軽に交通機関を利用できなくなると当然外出機会が減ってきます。日常生活に不可欠な買い物、通院等の他に、「人と会う機会」が減ってしまうこととなります。近年認知症が急速に増加しており、科学的にも人と会う機会が減ってくると認知症になりやすいことが明らかとなっています。敬老パス改悪が認知症増加につながる可能性は決して排除できるものではありません。国や自治体の介護保険負担や生活保護費用が益々増加することが予想されます。

また新規提案である『健康寿命を伸ばすためのアプリ』ですが、高齢者から見れば全くナンセンスであります。アプリ利用による「よく歩くこと」を 40－60 代に適用するのであれば運動不足肥満などの改善に役立つ可能性はあります。しかしながら、これを同じ発想で 70 代、ましてや 80－90 代の高齢者に適用するのは極めて非科学的で、貧弱な発想に思えます。高齢者にとって冬場に道を歩くなどメリットどころかリスク以外の何者でもないからです。逆に冬場は後期高齢者の公共交通機関の完全無料化を実施して欲しいものです。

札幌の冬場は厳しく、高齢者は歩くのに命がけです。

高齢者の生活環境の改善が生活保護費用や介護保険等、市や国の財政負担増を防ぎひいては市民全体の税負担を減らすことにもなるのです。

ご検討よろしく願いいたします。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスは廃止にしてください。

現役世代だけがいつまでもいつまでも負担するのは無理です。

社会保険料のせいでいつまでも手取りは増えず、インフレでお金は出ていくばかり。

もう高齢者優遇にはうんざり。

同じ人間なんだから平等にしろ！！現役世代を殺すな！！

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

1-4 健康アプリについて

健康寿命を延ばし、医療・介護費用を抑制したいとの考えは理解できますが、一方、益々高齢化が進み、高齢者に対する様々な負担も増えるのではないのでしょうか？健康アプリを導入したらこう成るというデータを示してもらいたいです。

また、単純に考えるとポイント付与の会場にも行けない人のアプリやカードを他人が当人のふりをして代理でポイントを貯めることも可能に思えますが、どうやって当人の特定をするのでしょうか？選挙ですら毎回のよう投票用紙の誤配付があるのに如何対策をお考えですか？

また、上限の 2 万ポイントについても 65 歳以上は電子マネーを想定しており、参加できたものだけが得られる「報酬対価」に見えますので反対です。全てプレゼント抽選のポイントにすべきです。さらにこれを介護保険財源からも負担させるのは次期計画の中で議論すべき内容で独断専行に見えます。2 号被保険者の立場で財源として使われることに反対です。

1-5 敬老パスについて

もはや 50 年前の理念や意義も失われ、バス路線も民間移譲となり、ロープウェイなどの直営施設の無料も無くなった現在では廃止が良いです。説明の中に現役世代の負担感を表現していますが、高度成長期の 2,000 円と低所得・高負担が続く現在では全くの別物で同じ 2,000 円程度の負担にも納得がいきません。11 月 30 日の市長と語ろう敬老パスで発言した若者の意見が現役世代の意見を代表しています。

また、当事者たちが主張しているバス路線の廃止や地下鉄が延伸しないのは別問題だし、自ら選んでその地域に住んでいるはずなのに、いちいちこじつけるのは筋違いです。市長は日頃から無駄を省きますと言っていますが、この事業がまさに無駄です。一日も早い廃止を望みます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

対象年齢を 75 歳以上とすべき。かつて、知人は会社の通勤に利用していた。

75 歳までは、何とか自力で交通費を負担できるが、75 歳過ぎると、助成がなければ、積極的に外出しようとしなない。

助成については、1 回目 10000 円に対し 1000 円。2 度目 10000 円に対し 2000 円、3 度目同 3000 円、4 度目同 4000 円、5 度目同 5000 円までとしてもらいたい。

少なくとも、1 回目は 1000 円、2 回目 2000 円は維持してほしい。

若い人が、負担が増えるというが、基本的には順送りではないか。我々も、若い時は、こんなサービスは無かったが、それなりに、いろいろ負担はしていました。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

今回の敬老パスのみなおしについては、対象者の増加や予算及び現役世代との公平の観点から、やむを得ないと考えます。

ただ、できるなら利用金額の引き上げ及び負担増をしながら、一方で直前で逃げ水のように対象年齢が引き上げられる69歳、68歳の方へ何らかの対応ができないかと思えます。

と言うのも、私は現在69歳で、見直し案では令和8年4月時点で70歳となっており引き続き敬老パスを利用できることとなりますが、その時点で69歳、68歳の方はいきなり75歳まで利用できないこととなります。

ここ数年、私も70歳になれば敬老パスが利用できると期待してました。

多分、令和8年4月時点で69歳、68歳の方たちも敬老パスが利用できることを心待ちにしていたと思えます。

については難しいかも知れませんが、利用年齢の段階的な引き上げ以外の方法を含め、当該年齢の方に対する激変緩和の措置があればと考えます。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

1-4(仮称)健康アプリ

健康であることのメリットや、人に会うことといった根源的な社会的欲求を、アプリを通して管理することには意味を感じません。

どのように生きるのか、人としてどう生きるべきなのかといった哲学的議論やコンセプトの共有が必要だと感じます。

アプリを通して人と会うことを増進するよりも、町内会のリアル活動を支援して、朝ラジ体操をみんなでしながら近況報告のコミュニケーションをとっている方がよっぽど健康的だと感じます。

2-1 敬老優待乗車証制度

高齢者への健康増進予算を配分することには賛成です。

しかし、それが地下鉄乗車運賃への補助である必要は無いと思います。

自宅や施設の徒歩圏内での交流をより活発にすれば、治安の改善、独居老人の孤独死などの社会問題にも一定の効果が期待できると考えます。

札幌市の考える削減案通り削減し、予算を他の項目に付け替えるのは賛成です。

まとめ

敬老パスの予算を削減することには賛成ですが、それが「健康アプリ」に振り振られるのは反対です。

健康寿命だけで言えば、地域の文化コンテンツを利用しての改善も図れると感じます。太鼓や音楽など、習字などの習い事など、ほとんど多くの人たちの徒歩圏内に、そうした文化コンテンツは存在するのではないのでしょうか。

そうした文化コンテンツの支援で、高齢者の外出支援だけでなく。

地域コミュニティの活性化や、地域独居老人の相互見守り、地域文化の伝統伝承や、他にも多くの効果が期待できると思います。

今ある既存の社会文化をもっと活用して、地域づくりを促進していくべきだと思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスの見直しについて、70 歳から 75 歳に引き上げると平均寿命まで女性で 10 年間、男性で 6 年間しかない。健康寿命で考えると利用できる期間は相当短くなる。健康で自分の脚で自分の意思で行動できる高齢者を支えるとなると、現行の 70 歳が妥当である。

また、より健康で行動できる高齢者が増えれば、介護保険の利用者数や、市財政からの支出額が抑えられる。

高齢者が増えるのは、統計からして予測できていたことで、利用者にとってのサービスの低下は、介護保険への支出を増やすことにつながる。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

私は今大学院に通っており、来年就職活動を行う立場の人間です。そのため、現役世代の負担がどの程度なのかはまだ実感できていませんが、今後自分の生活がより良いものになるためには、敬老パスを廃止して健康アプリへ移行することが重要なのだと感じたため、拙い文章ですが意見を送らせていただきます。

お話を聞いて私が思ったことを以下にまとめたいと思います。

・敬老パスを廃止して健康アプリの運用を進めていくためには、現状賛成でも反対でも無い人たちへの呼びかけが必要だと感じました。

そもそも映像で見た説明会に来る高齢者の方々は、敬老パスの廃止に反対する人がほとんどだと思うので、反対意見が多いと感じるのは当然だと思います。

今後議論を進めて行くためには、説明会にまだ来ていない賛成もしくはどちらでも無いという意見人達の同調を得る必要があります、そのためには時間をかけて札幌市の考えを広めて行くことが大事だと感じました。また、現在廃止に反対している高齢者の方々に対しても粘り強く説明をすることで、協力を得ることも大事だと考えます。

・健康アプリについての解説をお聞きしましたが、アプリ利用によるメリットについてのインパクトが弱いと感じました。

市民の何のデータを収集して何に活用することで、どのような恩恵を受けられるのかといった具体的なビジョンの説明があると、じゃあアプリを入れてみよう、となりやすいのかなと思います。

個人的には、マイナ保険証の運用による医療 DX の推進について大学の授業で聞いてから、マイナンバーカードに対してのイメージが良いものになった経験があるため、健康アプリについても運用することで何のメリットがあるのかといった点に興味があります。

マイナンバーの時と同様に、アプリ登録でポイントが貰えるキャンペーンなどを行うと、利用が増えるのかなと思いました。

・講演の中で健康アプリ移行への反対意見として、スマホの使い方が分からないといったものがあるとお聞きしました。スマホが使われ始めて 15 年ほど経つのにまだそんなことを言うのか、と正直思いましたが、高齢者の方でスマホが使えない原因は周囲の人(家族など)から使い方を教わる機会が無いことが大きいのでは、と個人的には思います。

そのため、敬老パスから健康アプリへの移行と紐づけてスマホの使い方教室を開くこと

で、スマホが使えないからという理由で反対する人は減ると思います。
また、その際に敬老パスでは出来ないこと、手間がかかること(毎年の再交付など)がスマホでは出来るようになる、手続きが簡単になるといった点を大きくアピールすることが、利用者増につながると思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パス制度見直し案に賛成です。

ただでさえ若い人たちに大きな負担となっているものを今後も無理して継続する必要はない。少子化の現代、若い方を優遇しなければ今後の社会は成り立ちません。

見直し後の 50%の負担でも十分すぎるほどの優遇と感じます。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

初めてコメントします

最近メディアでこのテーマについて目にすることが増え、高齢者の関心が高いのだと感じました。

世代間論争のようになってますが、個人的には将来のある若い世代の立場を優先するべきと感じます。

他の政令指定都市でも、これだけの優遇制度は持っていないのではと感じます。

優遇をいきなり廃止にするのは、高齢者からの反発は相当高いでしょうから、五年くらいかけて段階的に縮小するのが良いかと思います。

また、制度を継続する場合は所得や資産制限を設けるべきです。

年齢で一括して制度を適用するのではなく、本当に必要とするべき人にこそ、援助の手を差しのべるべきです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パス制度は高齢者福祉の観点からのみ論じられているが、交通行政、消費喚起の観点からの議論が欠けている。

・交通行政への支援効果

バス会社、市電、地下鉄にとっては敬老パス制度を通じた利用は大きな収入になっているはず。発表されている改革案は必ず収入減をもたらす。この負のインパクトをどこまで織り込んでいるのか？

少なくともバス会社、市電、地下鉄にこの収入減が経営にどんな影響をもたらすのかきちんとヒアリングすべきだ。

・消費喚起効果

外へでかける機会が増えれば、必ず付随してコト消費、モノ消費がついてくる。ここにも改革による負のインパクトが及ぶ。どれだけの需要減になるのかシミュレーションすべきだ。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

現行の敬老パス制度は不平等だ。例えば高齢の両親は施設に入所しているが、全く恩恵がない。特定の高齢者のみが利益を得る制度はおかしい。
少子高齢化時代にあって、今の制度の存続は反対。高校授業料の無償化も議論されているが、生徒の通学定期を補助した方が若者対策になり、将来の札幌にとっても有益ではないか。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

先日、敬老パスへの意見募集、及び17日付け道新の記事によって、パブリックコメント募集を知り、電話でこのサイトを利用するように案内されたけれど、本当にここで良いのかな？

敬老パスの負担が増加するので反対、と高齢者は強調しますが、私は負担増加に賛成します。高齢者として一定の負担をすることは当然で、しかも現在は優遇されすぎている気がします。

せいぜい、2-3割の優遇で十分。働く人達への負担を軽減する上でも、敬老パス自己負担は増加されるのがよろしいと思います。私もありがたく、年間3万円分ほど使っておりますが。

高齢者が既得権を振りかざして優遇を存続させようとするが、このご時世札幌市への負担、勤労世代への負荷が大きすぎるでしょう。

さて、健康寿命増進に向けての取り組みについて

スマホを使ったポイント制、、、について、私は詳細を知らないので感想のみを。

スマホ等デジタル機器を使えない高齢者が多く存在します。

従って、機器を使用する、その事のみで拒否反応を示すので、ポイントなど無くてもよろしいのかと。

高齢者が主張する、敬老パスを使って移動することが健康に寄与する、というのは詭弁といってもよろしいと思います。健康寿命＝自立した生活は、やる事がある、という単純な日常の生き甲斐につながると思います。

同年代の人達をみるにつけ、元気な人達は何かしらの目的を持っている人が多いです。それは他から与えられるものではありません。健康もしかり、運の善し悪しも大きいでしょう。

高齢者の健康は、高齢者自身の責任です。

高齢者の行き場所を広げる意味で、もし出来るなら高齢者の入場料など軽減している情報などは、高齢者がアクセスしやすい新聞やTV＝NHK(高齢者視聴率の高い番組等)での広報が大切です。

ついでに、喫煙・飲酒を控えて、冬は暖かいところで夏は涼しいところで過ごすのも。

高齢者の余生にポジティブなイメージをすり込めば、意識も楽しい方向に進みそうです。健康は、気持ちの持ちよう、近寄ってもきます。

とかくマスコミは、ネガティブキャンペーンとなりがちなので、ご留意を！

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

「古い」を「敬う」気持ちは、これまでも、また、これからも変わりはありませんが、今回の敬老パスの見直しについては、あまりにも対象となっている方々の意見が「身勝手」に写ってなりません。

また、説明会で 20 代の男性にヤジを飛ばした高齢者の方には猛省をして頂きたい。高齢者の方々はあたかも「既得権」としてこの敬老パスを思っていないだろうか。そもそも老いることは年齢を重ねることであり、誰しものが予見できることだと思います。その為に老後の生活設計を考えて準備をすれば良い事であるような気がします。(障害など不測の事態で、この準備ができなかった方については別途の福祉施策として措置がされていることを改めて考えて欲しい。)

「我々も若い時に高齢者を支えてきた」との意見には、高齢者社会になったことで「あなたの時代は何人で 1 人の高齢者を支えていましたか?」「今の現役世代は何人で高齢者 1 人を支えていると思いますか?」と問いたしたいと思います。

私には子と孫がおりますが、孫子にそこまで負担を強いる気持ちにはなれません。自分の事は自分でという気持ちです。

この国の行く末を考えた場合、高齢化率が今後も高く推移することを考えると若い世代を支える施策を含めて色々な対策が必要であり、それには「財源」を用意しなければなりません。どの施策にどの程度の財源を振り分けるか、まさに「公平」と「国の行く末」を考えなければならない時代です。

今、札幌市の進める敬老パスの見直しを支持いたします。むしろもっと大胆に敬老パスに要する財源を削減すべきと思うくらいです。

秋元市長はじめ担当部署の皆さんも大変なご苦勞をされていると思いますが、私の様な考えの高齢者又は高齢者予備軍の人間も多くいると思います。信念をもって引き続き頑張ってください。応援しております。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

札幌市は、車社会。

地下鉄・バス・JR が発達しているにも関わらず・・・。

車社会で、信号が多くなってしまっているのが、歩くことに抵抗を示す相反しているのも事実だが。

ネット社会になっている昨今、これを有効活用推奨。

逆に、この流れに付いていかないと、日常生活に支障が生じてくると思われる。

(ポイ活のアプリが普及しており、これも受入れやすい)

市民が、歩け歩け活動を活発、そして健康推進していく。素晴らしい光景と思います。

ネックは、雪道は転倒リスクがあり、冬の活動は乏しくなることが懸念要因ですけど。

歩かない習慣が、歩けなくなってしまう事象が、身の回りにもいます。

1 週間でも良いから 30 分継続、出来れば早歩き。

日常でも、ひと駅、ひとバス停前での上下車など工夫で運動機会は増えてきます。

スマホの持ち歩きだけに捉われず、「ヘルスケア」「Garmin」などとの連携を望みます。

抽選に目がくらみ、人によって不正は生じうるかもしれませんが・・・懸念しても始まりません。

景品は、運動用品、若しくは健康推進に取り組んでいる企業の商品など地元品が望ましいと思います。

善は急げ、雪解けの春から、試験的な導入を期待してます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

今日は、5年前に札幌に転入後、車を所有してはおりますが、度々、敬老パスを利用して頂き感謝しております。ありがとうございます。

敬老優待乗車証制度の見直しに当たっては、現在、様々な世代から多くの意見が寄せられているかと思えます。

結論から言って、私は市の経過措置を設けて、実施することには賛成の立場であり、下記により、順不同ですが、私の思っている事を意見として書き出したものです。

1市の平均寿命と健康寿命を伸ばしていく取り組みは、遅きに失した感がありますが、是非とも推進するよう取り組んで頂きたいと思えます。

2現在の敬老優待乗車証制度をそのまま継続していくと、市財政に与える影響は膨大なものとなり、将来を担う若い世代に大きな負担を強いることになり、これは考えなければならない大きな問題かと思えます。

3経過措置として、2026 年度から始まり 4 年後の 2029 年度にチャージ上限額の引き下げを 4 万円にする案ですが、私は 4 年でなく 2 年程度で、チャージ上限額も 4 万円でも良いのではないかと考えております。

4市の見直し案に反対している市民も多いと思えますが、例えば市内でも遠方で、しかも交通の不便な所に住居を構えている市民は、日々の買い物や病院への通院などで、現行制度のチャージ額を満度にしても間に合わない市民もいるかと思えます。

5こうした市民は、何でもかんでも反対をするのではなく、対案などを提示し折合えるような方向に持って行くべき考え方は、できないものかと常々疑問に思っております。

6(仮称)健康アプリの取り組みは、これも様々な意見があるかと思えますが、私の周りの 80 歳を過ぎた友人たちも、ガラケーでなく、スマホを持ち、自由に使いこなしている人達もおりますので、それほどアプリ導入には抵抗がないかと思えますが、スマホを持っていない市民も多くいると思えます。そういった人達の事も充分考える必要があるかと思えます。

以上

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パスの見直しは、二項対立の話でもないにもかかわらず、これまでの市の取り組みは、若者と高齢者の対立をあおってきた面がある、というよりもそのような取りまとめを進めてきたと思います。

D-Agree による「敬老パスの見直し」に関する意見収集、11 月 30 日の市長と市民の意見交換会の開催、とりあえず、市民(若者と高齢者)から意見を聞いたので、従来路線でもある「75 歳以上、上限 4 万円、半額補助」で事業を行うという提案。はたから見ると、これまでの意見収集は、いわゆるガス抜きのなものであって、市からの提案は、市民からの意見を的確に反映させたものになっていないように思います。0 と 10 の間だから 5 にした程度の話で、どうすれば市民が豊かになるのか、市の経済が潤うのかという将来構想が全く示されていないところが問題だと思います。

市民負担の低減と言いながらも、単に市の財政負担低減の話になっています。今後の高齢化を見込んで財政負担を抑制していきたいということは十分理解できますが、それだけでは負担感を感じている若者に対して何もしていないのと同じです。低減だけでなく、プラスの話も必要ですし、将来的に市民が幸せになれるような取組方向の話も併せて提案すべきだと思います。

これだけの時間と優秀な市役所職員の皆様の労力を使って、この程度の中途半端な提案にしかならないことに落胆を覚えます。急ぐ必要はありません。多くの高齢者は負担増加に対して何でも反対というわけではないと思います。若者も高齢者も理解しあえるような、希望を持てるような提案を期待しています。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

私ももうすぐ老人ですが、自分の健康寿命を延ばすために、若者に負担を強いる、というのには反対です。自分の健康は自分で何とかするのが大前提だと思います。

資料の冒頭に、健康寿命を延ばしたい、とありますが、健康寿命と敬老パスがどういう関係にあるのか、資料からは分かりません。敬老パスを使っている人と、使っていない人と、健康寿命にどれだけ差があるのでしょうか？

例えば、敬老パスの使用額と、健康寿命の対比のグラフがあり、そこに明らかに相関関係がある、というデータがあれば、減額してでも存続に理由は立てると思いますが、もし無いのであれば、健康寿命からは説明が難しく、いっそ廃止した方がいいと思います。

さらに経済を活性化させるために、市民がお金を使う機会をより増やすこと。例えば問答無用で徴収される市民税や健康保険料を下げて頂くことも、是非とも検討をお願いします。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

若い世代からすると、なかなか触れることのない話題ではありますが、これから現役世代となって税金制度を支える側としては、高齢者が少数であった時代の制度を改革せず維持するためには、我々はかなり重い負担を課せられることになるのだろうと思います。従って、札幌市の今回の敬老パスの改革やアプリの導入は、必要な改革だと思います。

平均寿命が延び、長生きが一般的になったからといって、敬老の精神を没却してよいとは思いません。しかし、少数の若者で(少なくとも現在の高齢者が現役世代だったころ程度には)負担を軽減して支えられる制度にしなければ、国民のための税制度が一部の既得権益にしがみつ়く存在によって利用されることとなり、現役世代の家計を逼迫して少子高齢化は加速する一方です。持続可能な行政サービスということを考えるのであれば、やはり、制度改革は必要不可欠ではないでしょうか。

また、敬老パスについては、一部の人のみがサービスを利用しているという実態もあり、公的サービスとしては不適切だと思います。この現状については、もっと困難な状況にある人のために使うことのできるはずの、そしてまた、もっと札幌を多くの人にとって住みやすい街にできるはずの、貴重な血税が、もともと活動的な高齢者が安価に遠出できるお得なサービスのために消費されているという印象をめぐえません。目的に立ち返って、より多くの市民の健康に貢献できる制度にできるよう、改革を進められたら良いのではないのでしょうか。

敬老パスの利用条件に関して、収入で上限を設けること(健康への補助は誰にでもあってしかるべきだが、金銭による支援になるなら、それが十分ある人への支援はいらないのではないか)や、名称の変更(老人健康促進乗車証(略称健康パスなど)など、敬老という高齢であるがゆえにそれを敬して利用できるサービスであるかのような名称を止め、目的がわかるものにする)も考えてみてもよいのではないかと思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パスについて現行制度では将来的に立ち行かなくなることは誰でも理解できます。高齢者の方々の意見は理解できますが公共交通機関の負担や本数の低下もある中で移動の権利の確保も重要です。

運転免許の返納やマイナンバーカード、マイナ保険証への移行など行政のスリム化への協力を前提に公共交通機関補助をしていただくのがいいかと思います。

デジタルは高齢者でもやれば出来ます。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

私も 70 才を控え、現行制度を楽しみにする一面があります。
しかし、敬老パス制度事態を全廃すべきと考え、全廃を望みます。
団塊時代の人々は非常に恵まれて生きてきたじゃありませんか。今こそ、後世の人たちに負担を押し付けるのをやめるべきです、
健康アプリと連動して見直しするのは誤魔化しのように感じます。また、健康パス制度の(直接負担額を除く)事務費用や維持費だって多額でしょう、敬老パス・健康アプリ両制度の事務費の額(人件費を含む)が知りたいです。
札幌市の負担や借入金を減らすことを望みます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パス見直し12月19日道新読ませて頂きました年齢増すごとにパス利用者は減少
します

札幌市案…賛成です

必ず誰かがつまずき、誰かが頑張って、誰かが(札幌市)皆の為に働いています

よろしくお願いいたします

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

昨今、テレビで拝見した敬老パス見直しでのお年寄りの意見では、「我々もお年寄りを支えて来た」などの意見を聞きましたが、そもそも今と昔ではお年寄りの数が違いすぎます！

一昔前は、100 才を超える方は余りいなかったですが今は、新聞のお悔やみ欄を見ても毎日数名の方々がいます。

医療が進みこの先も 100 才を超える方々は増えるでしょう！ですがそれを支える若い人が減少している！

矛盾しか感じません、この先を考えると同じ税金を使うならお年寄りでは無く、もっともっとこれからの人達に税金を使って若い人達に希望を持って生きて頂ける街づくりを考えて頂きたい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

敬老パスを必要としているお年寄りは、公共の交通機関を必要としている人なのです。高齢でありながら車の運転をされている方には敬老パスは必要ありません。つまり、免許返納された高齢者又は免許をお持ちでない高齢者だけを対象に敬老パスを発行すべきです。それだけでも大きな経費削減になるし、多くの方の納得ができる対策と考えます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

敬老パスの自己負担割合のチャージ上限を引き下げには賛成しますが、健康アプリの導入にはその必要性に疑問を持っています。
そもそも、このアプリの導入における開発予算及び維持費はどの程度なのか明らかにしてください。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

現役世代の負担が大きすぎるし、高齢者の年金は充実している方なので、敬老パスは廃止して良いと思う。

健康を目的にするなら、バス代ではなく、歩くことを推奨すべきである。特に冬の長い札幌は、公共の施設の開放を進めて、安全に歩ける場所を確保してはどうでしょうか。札幌ドームのナイトランに参加しましたが、とても良かったです。もっと開催日や、施設を増やしてはどうでしょうか？施設の利用料は無料にせずきちんと取ることも大事です。

今まであったものを変更する時は軋轢も多いですが、若い世代のためにも税金を高齢者の無駄遣いに使って欲しくありません。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

物価が上がり生活が苦しいのは低所得者です。非課税世帯にのみ敬老パスを存続するのはいかがでしょうか。

70 才位から思わぬ病気になり、病院通いになりやすいので対象年齢を 70 才のまま利用上限額を引き下げるのが持続可能な制度になると思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

私個人の意見と致しましては、これだけ高齢者が増えている中、見直し案も仕方ないとは思っておりますが、今現在働いて税金を払っている若い方々の中で、年よりばかり優遇されていると言ってる方がいますが、そこまで優遇されているとは全く思いません！皆いずれ年よりになります！自分が年をとった時の事を少しは考えてみたら、そんな言葉は出てこないと思いますし、私も実際約 40 年近く正社員として働き、さんざん高い税金を納めて来ました。

年をとったら恩恵を受けて何が悪いのでしょうか！私は今回そう言う若者に怒りを感じていて投稿させて頂きました！

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスの制度改革について議論されていますが、札幌市の考え方には疑問があります。

年間60億円の事業費については、従前から財政当局の主導でその見直し(削減)について指示されているのだと思いますが、そもそも若者の負担が云々なんていうのはこじつけであり、到底理解が得られません。

札幌市の税体系を見た場合、札幌市に定着している若者世代が一体どれだけ税負担に寄与しているのでしょうか？

札幌市の市税の半分以上は固定資産税・都市計画税であり、これを負担しているのは高齢者人口が増えた現在、正に高齢者になった団塊世代です。

また市民税(所得割、均等割)についても、65才以上でも働いている高齢者が増えている現状では、高齢者世帯の負担割合が増加しているのは否めません。

そもそも札幌市生まれの若い世代は本州に流出しており、札幌に住む若い世代は支店都市である札幌市の特徴から、札幌に転勤で来て数年後には本州に戻る人達です。

つまり、札幌市における若い世代の税負担は高齢者世帯が納入している金額に比べ極めて少ないわけです。

若い世代の将来負担を考える前に、今の市税を一体誰がメインに払っているのか、ということを考えれば、敬老パスの制度改悪は愚の骨頂と言わざるを得ません。

健康寿命の増進と言いながら、高齢者の足を奪うような安易な制度変更は止めるべきであり、もっと他の施策と絡めて議論を深めるべきです。

大体、開催すれば1兆円はかかるであろう冬季五輪をやる財政力があるのであれば、敬老パスの見直しをする意義が見い出せません。

また、札幌ドームの横に新スポーツアリーナを400億円で建設するとか、中島公園でMICE 施設整備に400億円かけるとか、そんな無駄な投資をしなければ、敬老パスの60億円など10年以上安泰でしょう。

なぜ秋元市政はそこまでして建設業界の利権・金権に加担して、一方で市民サービスを低下して負担を押し付けるのでしょうか？

臨時財政対策債という赤字債を札幌市は毎年発行しているそうですが、その償還期間は30年償還が一般的であるのに、札幌市は20年償還と聞きました。なぜそんな毎年の返済負担が増えるような短い償還期間にしているのでしょうか？

他の政令指定都市のように30年償還にすれば、敬老パスの財源など、いくらでも生み

出せるはずでず。

札幌市がこんな現状にあることをどれだけの人が理解しているかは分かりませんが、とにかく無駄な行財政運営をしている一方で市民サービスを低下させるような施策には反対です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

健康寿命を延ばすために大事なのはまずは日々の食事。現役世代ならそれだけで体の動きはかなり確保できる。食生活についての情報をもっと発信すべき。運動によるポイントなどはその後の話で、BMI や食物の摂取バランスのチェック、検診採血での脂質や肝機能の数値、血圧値のチェックなどをスマホやパソコンのアプリでできるとなおよい。敬老パスについての見直し案には全面的に賛成。今までの負担額が低すぎ、50%の負担でもありがたく、妥当と考える。高齢者は自分の都合ばかり考えずもっとこれからのことを考えるべき。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パスのアンケートについて、意見と要望です

まず上限額について、2～3 万で十分だと思います。福祉政策なので広く浅くが基本だと思います。7 万まで使う人は一部で少数でしょう。噂ではアルバイト交通費に使ったり、友人から権利譲渡してもらって、7 万以上使う人がいるようです。上限額まで使う人の使用状況や経路目的地を調べていますか？それも仕事でしょう。

次に要望として JR が利用できると利便性が増します。

最後に札幌市のアンケート意見集約ですが、新聞やテレビを見ない人も多く、オリンピックの時にも感じましたが、職員が大通りでアンケートを集めるとか自分の足で行動しないと、本当の意見集約にはなりませんよ。足で、かせぐ、下請け任せにするは最悪です。電話や口頭はダメとか何を言っているんだか、理解できません。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

現状の制度をととても有難く行動範囲が抵抗無く広がり、買い物、イベントの参加、通院、健康管理等々に有効活用させて頂いてます、車の運転を最小限に出来るのもこの制度が後押しの要因で有る！市長はこの制度を若い人達に負担増財政負担増を全面に今更ながらに高齢者に不条理な対応とも受け止められる案をゴリ押し、若い人達を支えて来たのも今の高齢者の一要因有りと思う、私は現行制度の継続を強く望む!長年自治体財政業務に今は市長として市政に尽力されている様に思いますがオリンピックの件から不信感を持つ市民が増大してます、残念です!市長は市民の財務責任者お忘れなく

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老パスは札幌市は優遇し過ぎる。今すぐ半額負担を実施しろ。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

11/30 の敬老パス意見交換のニュースを見て、議論の仕方に違和感を覚えました。敬老パス見直しの理由として、市長の説明は高齢者を支える現役世代の負担増を強調していたように思います。それに反応して 20 代の方が悔しさをにじませた発言をしていました。その方の X を見てみると賛同するコメントが多かったのですが、中には使う人と使わない人との不公平感を無くすために現金を支給してはどうか？というものがありました。

そこではたと気づいたのですが、敬老パスに市からお金が振り込まれているイメージで捉えられているんだということです。

実際には敬老パス補助額が市の交通局へ移されているイメージです。そのことを考えると、公共交通の維持のための助成金の意味合いもあると思います。

また時間のある高齢者に公共交通に乗ってもらい、少しでも運賃を払ってもらうことは、映画館のシルバー割引と同じような意味があると思います。

なので、現役世代の税金が高齢者世代の福祉に現金として渡されているのではないことも説明し、公共交通の維持の役割も果たしている面も説得の一部として欲しいと思います。

今回の対話集会は現役世代の怒りをあおるような説明になっていたのではと感じました。

敬老パス縮小の説明として、現役世代の誤解を招かないような説明をお願いします。

どうぞよろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

定期券として通勤・通学・老年をつくるのがいい。通学と変わらぬ負担はするべき。学生だって収入はないのだから、老年者と同じ。老年者のバス代を他世代が負担する必要はない。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

元気で長生き…万人が願うこと。その手助けの一つが敬老パス。

本当に元気な人だけが恩恵にあずかっている。中には仕事に行く交通費にしてる人も
いるとか(なんでもあり?)

支給年齢について 70 歳と 75 歳とでは全く身体の動きが違うと聞きます。70 歳開
始はその後の動ける身体を維持するには絶対に変えない方がいいと思います。

また自分たちも高齢者を支えてきたから今の若者にも同じことを求めるのは間違っ
てる。子供の数がこんなに減って支えきれなくなってるのに。昔は複数人で 1 人のお年寄
りを支えてきた。でも今は反対の人数…無理でしょう！

私自身 64 歳まで働いていました。高い保険料を理不尽に思ったこともあります。でも、
そのおかげで今、年金受給してます。あの時頑張ってた良かったと思います。

保険料を払わずに年金受給の第三号の方々にはこれ以上権利を主張しないでと思う。

70 歳を目の前にして思うのは、財政破綻した街で暮らすのは嫌だ？我慢すべきところ
は我慢しましょう！

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

見直しに賛成します。現在保険料などの税金負担が、若い世代にのしかかっています。昔は今ほど保税金負担がなかったと思い、今後も現在の負担を考えると生活が苦しいです。そのため、敬老パス制度の見直しには賛成です。横浜市のように、免許返納者を優遇する方針があれば若い世代も納得して生活ができるのではないかと思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

年齢も大事だが、高齢者でも所得が高い人がいる場合や通勤手当を受けて働いている人などは支給対象外としても良いのではないか。

若い世代より所得がある人は世代間で問題が生じてくるのではないか。

今後、財政負担が増えるのは理解するが、何パターンかシミュレーションを立てて各項目毎に負担が増える説明が必要と考える(年齢、負担割合、対象人数、各政令市の状況など)。その中で妥協案を探れば良いのではないか。

将来的には、車の免許返納者にもそれなりの支援制度が必要と考えるし、免許返納者には 70 歳からでも対象にするなど交通安全の面からも重要ではないか。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスは廃止すべき。パス対象者の僅か十数パーセントに対して数十億円が使用されていること自体、不平等である。

平等性等を鑑みるなら劣化著しい下水道管等、インフラ整備に充当していただきたい。最後に存続を希望している方々に伺いたい事がある。

パスが無いと年金生活に響くだとか何処にも出歩けなくなるとか話されていたがパス対象者の方々は日本経済が一番輝いていた時代を過ごして来たはず。

年金も満額貰っている筈、そんな方々がバス代も払えないほど将来設計を何もして来なかったのか？アリとキリギリスではないが自己責任の欠如としか言いようがないと感じる。

先日、若い方が何でも若者に払わせるのかとの発言をニュースで見たが、まさにそう思う。

札幌市としては毅然とした態度を取って、今こそ廃止すべきである。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

一部の高齢者で費用負担の半分もしめていることに驚きました。
物価も値上がりし子育ても大変なのに老人だけがこのような、恩恵を受けるのは、時代に合わないと思います。老人も子供料金ぐらいは負担してもいいのではないかと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

見直しは必要と思われます。

ただ健康アプリとかは、年寄りには必要ないと思いますし、金額の負担額をアップすれば良い。

何か7万円という金額が一人歩きし、実際上限の7万円を利用する人はどのくらいいるのか？それぞれの金額の利用者数、比率とかのデータを開示して説明して欲しいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

疑問

- 1, 負担金がその都度、金額が上下し、異なる理由は何か。
- 2, 表紙には、7回目の負担金・チャージ額が記載されているのに「できません。」と言われてました、なぜか。
- 3, 6回目までチャージし終え、なお使用し終えた場合、次のチャージは、誕生日以降に送られてくるのだろうか。
- 4, 次年度についても、今年度と同じ要領で実施継続となるのか。

感想

それまで、交通費を節約し外出を控えていたが、この敬老パスを手にしてから、市電・地下鉄に乗る機会を多く持つようになった。

チャージする方法として、サピカのように本人以外の者が機械でチャージすることができれば最高に便利なのだが、郵便局に本人が足を運んでチャージするという、実際にはかなり大きな手間がかかることを理解してほしい。その苦勞のかわりに負担金をもっと低額にしてほしい。

70歳は、足腰に不安が増してくる年代であり、間もなく杖の御世話になったり、やっと歩ける状況であったりという高齢者に、歩いた歩数だとか無理に外出を強要するというような発案はどこから来るのか、全く現状を理解しておらず、論外である。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老パスの上限を2万円にして今のスタイルを維持して欲しい、5年単位で見直しを。
他に市の支出を総点検して無駄がないか見直ししてください。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

お疲れ様です。色々多方面に配慮し、大変だと思います。

市民皆様が譲り合い、自分だけではなく他の世代の方の意見を見て、感じて頂けるといいのですが…。

40代、既婚。3人の子持ちです。20代は主に介護施設で相談員をしていて、認知症の棟に配属されていました。

今は、町内会の婦人副部長をしており、約 20 人の高齢者と一緒に月一度活動の手伝いをしています。

12 月からの冬期間は道路での転倒を恐れて、12 月～3 月までの 4 ヶ月間は活動を休止しております。

年齢は 80 代が最も多く、独居老人も多いです。その様な環境で高齢者との関わり合いの中で感じたことです。

ネットニュースで拝見しました。

敬老パス…正直な気持ちはもっと利用できる金額は低くて良いと思います。

所得制限の様な形をとることはできないのでしょうか？

車を維持できるくらいの収入があれば、敬老パスは必要では無いのでしょうか。

車を持っている方は交付できない形はできないのでしょうか。

正直、共済年金の方に関しては、一般家庭より良い暮らしをしているように感じます。

夫の実家が共済年金で月に 28 万の年金で生活しております。

確かに共済年金は掛け金が大いなので戻ってくる年金が大いなのはわかります。

ですが、その様な高齢者の方に敬老パスの制度は必要でしょうか？

一方、低所得者(生活保護者は除く)には必要だと思います。近所でお風呂が使えずに銭湯に行っている方もいます。

車を持たずに生活している方もいます。その方たちには本当に必要だと思います。

また、これから未来を担う子どもたちにも同じだけ還元してほしいです。

高校の通学や大学の通学も、高齢者と同じく助成を考えてほしいです。

冬期間だけでも、妊婦さんの病院受診に助成を出してほしいです。

札幌市の財源を本当に必要としている人達に届くよう、市民のいろいろな世代の人達が均等に集まって話ができたら良いと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

60 歳で定年しましたが、なぜ 10 年後の 70 歳に定めたのでしょうか？

また、他意見にもありますが、70 代 80 代 90 代と年齢によってと、季節によっても敬老パスの使用頻度が変わると思います。年代によって交付額を決めてはと思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

このパスを継続させる為には、年齢は現状のまま 70 歳として、金額を 2 万円に下げる案がいいと思います。

たくさん(2万円以上)使用したい方はある程度自己負担すべきです。

広くたくさんの方が使用するべきなので、この案でやってみて財源的にやれるのかどうか、決定してしまう前に試験的にやってみるのはどうでしょうか。そして専門家の方に検討していただきたいと思います。

健康アプリを作っても果たして高齢者が使用できるのか？2 本立てにせず、パスだけで考えた方がいいと思います。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

本項の「見直し1」では対象年齢を70歳から75歳に引き上げられとされてますが、昭和31年(1956年)4月1日以前に生まれた方と翌日の4月2日以後に生まれの方では、70歳から利用できるか75歳から利用できるかという点で大きく異なることになります。すなわち、1年の年齢差で対象者になるか否かということになります。

いうまでもなく、高齢者の寿命が大きく伸びていることがこの制度見直しに直結していることですが、昭和31年4月2日以後の誕生者は、もう少し経てば対象者になると期待をしていた方も少なくないものと思います。

私は今回の実施案の内容は十分理解できることですが、対象者年齢を1年で1歳ずつ上げていく、すなわち5年間で75歳に引き上げるということが出来ないかなと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

私は札幌市の制度変更案に賛成します。前回の変更案でもよかったです。

私は現在72歳で、敬老パスを利用しています。利用はしていますが、この制度は問題が多いと思いますし、遅かれ早かれ廃止せざるをえないと思います。以下に理由を述べます。

まず、この制度は市民への直接的な給付の一種ですが、そうである以上公平性が不可欠です。所得等が基準になるならわかりますが、一定年齢以上が対象というのは公平ではないでしょう。若い人たちでもこのような支援が必要なそれなりにいると思います。また、若い人も将来将来この制度の恩恵を受けられるから公平だという考え方もあるかもしれませんが、それは間違いだと思います。将来は現状の延長線上にはありません。市民の年齢構成が今後さらに高くなること、日本が過去のような経済力を維持できなくなっていること、公共インフラの維持の負担が今後ますます大きくなること、などを考えれば、このような制度を維持するが無理になるのは時間の問題でしょう。である以上、時間的スパンを考慮しての公平性も成り立ちません。

札幌市は政令指定都市として他の市町村に比べ財源上有利になっているはずですが、この財源上の有利さには本来意味があるはずですが。多様な人材を引きつけたり、国際競争力を高めるような魅力的な「まちづくり」などに取り組むことで、北海道内の他の自治体にも刺激や利益をつくりだせるような挑戦をしていくべきです。

政令指定都市として有利になっている財源はそうしたことに回していただきたいです。札幌市の将来を大事に考えてください。

以上からこの制度は基本廃止すべきだとおもいます。

ただ、現状ではこの制度に頼っている人もいるでしょうから、ハードランディングは避けるべきでしょうから、私は札幌市の改定案に賛成いたします。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

札幌市が掲げる「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」に賛同しつつ、さらなる改善を提案いたします。以下の2点について

1. 敬老パスの名称変更について

現在の「敬老パス」という名称は、高齢者を敬う制度としての意義を持つ一方で、利用者の健康意識を十分に反映しているとは言えません。また「老人を敬う」という思想はあくまで各個人的な思いであり、それを制度名に盛り込むのは適当ではなく、健康寿命の延長を主眼に置くのであれば、「健康パス」や「ウェルネスパス」といった、利用者のアクティブなライフスタイルを応援する名称への変更を提案します。この変更により、対象者にとって前向きで積極的なメッセージを伝えることができ、制度の意義をより広く共有できると考えます。

2. 年齢制限の緩和について

健康寿命の延長を狙いとする場合、利用対象者を高齢者に限定せず、全世代を対象とすることを希望します。例えば、特定の健康診断や運動プログラムへの参加者にパスを提供するなど、年齢にかかわらず健康促進を目的とした利用を可能にする仕組みを検討いただければと思います。これにより、全市民が自分の健康維持や向上に主体的に取り組む動機づけとなり、市全体の健康寿命延伸に寄与できると考えます。

さらに、健康な高齢者が働く機会を得られるような環境整備を進めることで、健康寿命の延長と労働力確保の両立を目指すべきです。高齢者が社会のために貢献することでやりがいを感じられる札幌市を作ることが、より持続可能で活力ある地域社会の実現につながると確信します。

以上の提案が、「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」をより効果的かつ持続可能なものとする一助になれば幸いです。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

○わずかな利用者が総助成額の5割以上を使っているのは問題が多い。敬老パス制度の維持・存続を困難にしている。

○5万円以上の利用者の使い方の実態はどうなっているのか、調べたのでしょうか。普通の高齢者はそんなに使わないでしょう。働いていて通勤に使っていて、交通費の支給を受けているような人がいるのではないのでしょうか。

○中には病院へ通うのに、上限の7万円～5万円を使っている人がいるかも知れませんが、そういう人に対しては別途、別の制度で助成することを検討し、敬老パスの利用上限は4万円までとしてはどうでしょうか。

○「健康づくりでポイント獲得」と謳って「(仮称)健康アプリ」を導入しようとしていますが、このねらいは失敗すると思います。そもそも人は、ポイントが貰えるから「歩こう」「出かけよう」「人と会おう」となるのでしょうか。今まであまりで歩くことが無かった人が、このような動機付けで出歩くようになるとは思えません。いてもわずかな人に限られるのでは？利用する人がいるとするならば、すでに活発に出歩いている人が、ポイントが貰えるなら利用しない手はないと考えて使おうとするでしょう。しかしそれでは、健康寿命の延伸を目論む高齢福祉課のねらいに沿った動きにはならないではありませんか。高額な委託費を支払って、健康アプリの開発を業者に委託・外注するのは止めてください。

○2-5 経過措置を実施します

このページの措置については了解しました。なお、対象年齢を70歳から75歳に引き上げることも了解しました。

○現行の「敬老パス」制度を2030年以降も存続させることを要望します。

○なお、高齢者に限らず市民の健康づくりのためと言うなら、現在市内に中央・西・東の3か所にしかない「健康づくりセンター」を他の各区にも設置してください。以前は手稲区金山から「西健康づくりセンター」へ通っていましたが、年を重ねたため数年前から行ってません。手稲区にも出来ればまた通えるのですが。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パスを有効に活用しており、当制度には感謝しております。

中心部への通院や会合、買い物などで、年間で 1 万円程度の利用状況ですが、当制度には感謝しております。

○この度の敬老パス制度変更には賛成です。

その理由:半分以上の対象者が全く利用していないこと、12.3%が 5 万円以上のチャージ額が総助成額のおよそ5割になっていることは受益者とそうでない人の間に著しく公平感が損なわれているためです。

○自己負担割合50%の引き上げについて、1 万円や 2 万円の負担割合をもう少し小さくできないでしょうか？

私がバス利用していると、高齢者がスーパーでの買い物に敬老パスを利用している光景をよく見かけます。

また、大きな病院で乗車、下車する光景も日常です。日常的な生活上の利用であれば、年間 1 万円か 2 万円で十分だと思っています。

5 万円以上も利用している方が具体的にどう利用しているかわかりません。

○歩くことは健康寿命を長く維持するにはとても良いことです。私もサツドラのウォーキングに参加していますが、民間企業と連携をすれば良いと思います。

以上

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

このアプリ、果たしてどのくらいの市民に認知され、スマホに DL されるのか、かなり懐疑的である。

健康寿命延伸に向けた取り組みを札幌市が行っていることすら知らない。

広報なんてほとんどの市民が読んでいないし、新聞も撮っていないし読んでいない。

ポスターなど公共交通機関の車内にあっても、みんなスマホに夢中で見ちゃいない。

TVCM でも、テレビを見ない人はたくさんいる。

なので、市民一人一人にコロナワクチンの接種券を郵送した時のように、テレビで CM、ラジオで CM、そこいらじゅうにポスター（特に限られた人しか利用しない公共施設よりも、スーパーマーケットやコンビニ、ファミレス、ファストフード店等）、そのうえで、郵送にてしっかりと市民に周知させて DL を促すべきだと思う。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

先日 TV で市民と市長の意見交換会を拝見しましたが自己中心的な高齢者が多いと感じ腹が立ちました。

どちらかといえば敬老パスをフルに活用できている人は地下鉄沿線などに住む経済的にも時間的にも余裕があり比較的健康的な人たちだと思います。

そして、その恩恵を受けている一部の人たちが代替え案に強く反対しているのではないのでしょうか。

私自身は今年から 70 才となり敬老パスが支給されましたが自宅最寄りの駅が JR のためほとんど利用する機会がありません。

現在検討されてる代替え案で JR.タクシーにも使え限度額を 2 万円に引き下げる案に大賛成です。

札幌市も大都市で広域となっているので広範囲の交通機関で利用できることが平等で私のまわりでも同意見の人が圧倒的に多いです。

また交通機関を普通に利用できない介護を必要とする人にはタクシー利用ができ平等です。

また、この制度を継続していくためにも年齢条件を 75 才から引き上げる案にも賛成します。

広く浅く平等が絶対条件だと思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パス変更案に反対です。

対象年齢70歳から75歳へ引き上げ、チャージ上限額7万円から4万円に引き下げ、自己負担率50%に引き上げ。どれも制度の大幅な後退です。

謳い文句の健康増進にも逆行し、出不精の高齢者を増やすことにほかなりません。当初案説明会では財政の問題でない、健康寿命の延伸のためだと強弁していました。

もとより高齢者に相いれなかった健康増進アプリ。形を変えて残す必要性は見当たりません。

札幌市として新たに予算をつけ仕事を増やすような事業ではないでしょう。より市民のニーズに即した施策に予算と人を投入すべきです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老パスについて、今後補助の割合を縮小するような札幌市の方針が度々報道されていますが、反対です。

そもそも敬老パスは健康寿命延伸のために高齢者が屋外に出やすくするために考えられたものではないでしょうか、小生は地下鉄を利用して豊平川の河川敷のパークゴルフ場に度々行っております。年金暮らしなので、地下鉄代が上がればこの回数も減らさざるを得ません。本来、高齢者が健康に暮らせれば社会全体の医療費も縮小されることを狙って、健康増進を国を挙げて推進していたはずです。市町村によっては、無料のパークゴルフ場を作るなどして健康増進を図っているところもあります。(札幌市のパークゴルフ場も無料などを検討して頂きたい)健康増進が進めば、ひいては社会全体の医療費の圧縮に繋がり、若い人の負担軽減につながるものと思います。また、地下鉄は乗客の多少の増減に関係なく走行していますので、割引の運賃で乗車しても、プラスにこそなってもマイナスにはならないと思います、いかがでしょうか？ぜひ今のままの70歳からの存続を希望いたします。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パスの市役所案に賛同します。

小生、高齢ですが、心身共に何ら障害ありません。

案は、活動に応じて市営交通のほか交通機関のパスを発行するもので、小生のように時に JR ほかを利用する者にとっては朗報です。以上から賛同しますが、障害者には別途、支援策を講じて下さい。

それから、スマホでの付与にも賛成します。反対している人の中に働きに出ていて、上限に支障が出るため反対しているのかな、と見ています。限られた財源を有効に使いましょう。以上

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

年金受給や定年退職が延びたのは働けるからなので敬老パスの対象年齢の引き上げは良いと思いますが、敬老パスを売買する老人を見るとガッカリします。

私は 2 回、目の前で売買している高齢者を見ました

高齢者全員ではないけど当たり前で売買している姿をみるといっその事、廃止にしたらいいと感じてしまいます

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

敬老パスとアプリを分離して使用することになった事を歓迎します。

敬老パスの使用を 75 歳以上にすると将来利用可能金額を 4 万円にすることは賛成です。

ただ負担額が当初は 2000 円(使用金額 1 万円)5000 円(使用金額 2 万円)9000 円(使用金額 3 万円)14000 円(使用金額 4 万円)以後 1 万円につき 5000 円ずつの負担とする

次年度は 3000 円(使用金額 1 万円)7000 円(使用金額 2 万円)12000 円(使用金額 3 万円)以後 1 万円につき 5000 円ずつの負担とする。

翌年度は 4000 円(使用金額 1 万円)9000 円(使用金額 2 万円)以後 1 万円につき 5000 円ずつの負担とする。

その翌年度からは 1 万円につき 5000 円ずつの負担とする、このようにした場合はどうでしょうか？

当初は利用者の負担増の激変緩和策として取り入れて欲しい。

もし敬老パスを選択した場合もアプリを使うことが出来とのことですが、そのアプリにたまったボランティア活動等で獲得したポイントを公共施設等に寄付出来るようにしてはどうでしょうか？

例えば学校の PTA 等で使用してもらってはでしょうか。以上

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

本来であれば、頂く年齢に近いので現状での存続を希望した方が良いでしょうが、大反対です。むしろ、即刻廃止でも良いと思うくらいです。先日開催された説明会を YouTube で拝見しました。

自分の事しか考えてない現在の利用者たち。

発言した若者へのヤジ「あんたも年取るんだぞ」「自分たちも若い頃は支えて来たんだ」など、「75 才過ぎたら、アプリなんて使えないです、ガラケー使っている人だっているんです」などの発言。現状を変えたくない、今の既得権益を守りたいという自分たちが生きている間さえ良ければ良いとしか考えない高齢者たち、そんな方々の為に負担する必要を全く感じない。そもそも 17,000 円の負担で 70,000 円利用可能なんてあり得ないと思います。

12 月 25 日に市役所前で行われたデモ(抗議集会?)を敬老パスを守る会の X で拝見しました。

コメントは若者からと思える意見ばかりかと思えます私と全く同じ考えですので、ご担当の方はご一読頂ければ幸いです。

正式な意見とは認められないかもしれませんが、自分の事しか考えない高齢者の意見には同意出来ませんし、皆んなが苦しい中、相応の負担は負うべきと考えます。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

基本的に健康アプリと敬老パスを抱合せ併用するのは合目的的でなく、発端の発想に無理があります。水と油とは言いませんが制度としての親和性に欠けていますし、本来、目的が違うものであります。

敬老パス制度が財政的に持続可能性を目指すのであれば、これに特化して制度を単純にすべきだと考えます。すでに当該案にある上限額の引き下げ、負担額の引上げ等に対処することで済むことです。ただしこの場合でも、すでに市は 12 月1日から公共交通機関の運賃引上げ改定、バス路線の短縮、経路変更、ダイヤの間引き運転等を実施していることから、現在の敬老パス利用者には現行制度のままであっても負担が増え、且つ利用限度額は実質的には低下した上、更に不便をこうむるという二重のダメージがあるということを念頭に置いてください。

更にこの度意図している市の案では、限度額の引き下げ、チャージ額の引き上げ等と重複することになると、更なる負担増なるダブルショックについて十分な考慮をする必要があると考えます。

次に、高齢者の健康寿命延伸策に関しては、何かインセンティブを付して促進したいのであれば、例えば後期高齢者医療制度の保険料について、その人の受診回数、医療費等の多寡に応じた上で。或はスマホ利用で歩行アプリによるポイント制希望者には保険料の一部を割引く等で効果が期待できると考えます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

この度の敬老パス制度の変更案に賛成します。

札幌市の当初案は、アプリを使う等、スマホを持っていない或いは使いこなせない人が多いという高齢者の立場を全く理解していない乱暴な案であり、高齢者は市に対して強い怒りと不信感を持ったものであり、市はそれを理解すべきだ。ここまで揉めるのは、それが根っこにあるからだ。

私たち高齢者がまだ現役で働いていた頃、私たちの親世代である高齢者は、無料の敬老パス等の恩恵を享受していて、それを私たちが支えてきた。だから、私たちも同じ様に恩恵を享受する権利があるという考えは、その通りだと思う。当時は大勢の現役世代がいたので、少ない高齢者を支える事ができた。しかし、今は違う。大勢の高齢者に対して、少ない現役世代が支えている。ここが大きな問題なのだ。しかも、当時は 1 億総中流時代と言って、中間所得層が大勢いたが、今はアベノミクス等で非正規雇用者が大幅に増えて貧富の格差が拡大し、多くの現役世代の所得が低くなっている。これも大きな問題なのだ。だから、今の現役世代は私たち高齢者を支え切れなくなっている。我々も苦しいけど、現役世代はもっと苦しいのだと思う。こんな中で、曲がりなりにも現行制度を残してくれる事には感謝をしなければならないと思う。もうこれで我慢をしなければならないと思う。

現役世代の人たちは、税や社会保険料等、既に重い負担を背負っており、多くの人たちは「敬老パスなんて必要ない」「廃止すべきだ」と思っていると思う。あまり反対を続けると、現役世代の人たちを敵にまわしてしまう事になる。このあたりで決定すべきだ。市長の言う「せめて子ども料金分の負担を」は理解できる。所得の無い子どもですら半額払っているのだから。よって、消極的ながら、今回の市の案に賛成します。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

現行の年間利用最大金額(7 万円)を半減にすることとし、負担金割合の見直しは行わず、現行どおりとする。

歩数のカウントは、これを行わないものとする。

なぜなら、病弱者・身体障害者あるいはスマホの不保持者にとっては、何のメリット・恩恵もないからである。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老パスを見直して高齢者福祉をバツサリと切り捨てるとは、全く札幌市はいったい何を考えているのか。ここまでの札幌市の発展に貢献してきたのはまさに今高齢者となっている市民なのに、敬老パスを使ってバスや市電・地下鉄などに乗りたければ、歩いてポイントを貯めろ。とは全く理解できない。「健康寿命を延ばすための施策」などと取ってつけた屁理屈を並べても誰も納得するはずがない。

札幌ドームに「新モード」と名付けてカーテンを設置するのに需要見通しも立てずに、気前よくも 10 億円もの金をつぎ込んだが、果たして投資金額に見合うような利用実態がありますか。ほんの数回アリのバイ的な利用があっただけではないか。その施策の大ミスによる赤字を少しでも埋めようという一面もあるのかもしれない、本来の敬老パス制度の趣旨を踏みにじる改悪には断固反対する。

そもそも「健康寿命を延ばすため」といいながら外出機会を抑制する施策自体が大間違い。現在横浜市では高齢者の外出機会を促進し、高齢者に健やかな暮らしを過ごしてもらいたい。として札幌市とは真逆の敬老パスの無料化に向けて見直しを始めている。それが結果として高齢者の元気や健康増進につながり、社会福祉に要する費用の削減につながるという慧眼だ。

また、札幌市は若年層からは札幌市の制度改悪方針に賛成の声が寄せられていると、ごく少数の意見を大きく取り上げる恣意的な見解を出しているが、私の周りではそのような意見を聞いたことはない。むしろ高齢者から外出機会を奪いバスの乗客数が減ると、さらなる減便につながり、結果我々も不利益をこうむるので敬老パスの制度改悪には反対だという意見を聞く。

このようなひどい施策を実行するようなら、市民としては札幌市に市民税を納入したくない。市民税は他の市町村にふるさと納税を使って限度いっぱいまで納入することにする。多くの市民が反対する冬季オリンピックの招致活動に巨額の税金投入を何年も続けたり、札幌ドームの大きな収益源であった北海道日本ハムファイターズに北広島市に転出されたり、秋元市長が就任してから市民の思いを汲むことのない市政になっている。今求められるべきは敬老パスの改悪ではなく、横浜市のように広い視野に立って高齢者福祉を充実することだと思う。

敬老パス制度の改悪には断固反対する。さらに現在利用できない JR についても利用できるような制度の拡充を求める。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

交付年齢は 70 歳からでいいと思います

その代わり所得や財産によって制限が必要と考えます

健康増進だからと言った理由で何でも助成すべきではないと思います

財産や収入のある方もいらっしゃると思うのでそのあたりも考慮すべきではないでしょうか

経済的に自立出来ている人には必要無いですよ

例えば

年金等で年収 240 万円以上の方

又は

家屋等固定資産をお持ちの方

これらの方は把握できますよね

貯金等の金融資産の把握は難しいと思うので、できることからやればいいのか

金融資産も把握出来ているのであればそれも支給制限の材料にしていいと思います

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パスは、不平等な制度だと思う。足腰が悪く利用出来ない方もたくさんいると思う。先日の意見交換で心ないヤジに腹立たしい。
今の高齢者は他人任せが多い。医療費負担もそう。いっそのパスを廃止し、別の福祉に費やした方が良い。
因みに私も年金生活ですが、住民税がかなり引かれており、年金の手取りが目減りしている。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

現役世帯の負担を考えると縮小又は廃止が妥当かと思えます。

反対運動を行っている老人は自分たちは特権階級か何かと勘違いしているのかとさえ思えます。

市の予算の問題を訴えても反対している老人は全く理解することは無いと思えますので市長には臆さず進めてほしいと思えます。

市長の姿勢に賛同いたします。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老パスは廃止で全く問題ないと思います。

そもそも他の市町村全てに敬老パスがあるわけではないので、札幌市が継続する必要はないと思います。

現在の高齢者はそれなりに年金ももらえているし、医療や様々な面で優遇を受けているのですから、敬老パスは廃止でいいと思います。

若くても、働いていても、生活が苦しい人はたくさんいるのですから、みな平等に交通費を払えばいいと思います。

そんな事にお金を注ぎ込むのではなく、年齢や既婚・未婚に限らず、市民全体にメリットがある事に使って欲しいです。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老パスについて様々な意見があり、既に十分検討されていると思うが、免許を持っていなかったり返納するなど、公共交通機関に頼らざるを得ない高齢者と、免許を持ち自分で車を運転して移動できる高齢者は切り分けて考えてもいいのではないか。高齢者が運転する車の事故を減らすためにも、免許の返納は進めていくべきで、制度的に免許返納のインセンティブが乏しい状況にある。敬老パスが免許返納のインセンティブになりうるような制度設計をお願いしたい。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

高齢者の免許返納が推奨される中で、移動手段が制限されることもありますので、敬老パスが存続されることには賛成です。

しかし、若い世代の負担が増えるようなことになるのであれば、敬老パスの制度自体に反対です。高齢者の移動費を負わないといけないのか疑問を感じてしまいます。

そのため、市民一人当たりの負担額が少しでも減り、制度が維持されるように、見直し 1(対象年齢が引き上げ)と、見直し 2(自己負担割合を 50%に引き上げ、チャージ上限を 4 万円に変更)が実施されることを願っています。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

現行敬老パスは JR では使用できない上、バスの減便や路線廃止、運賃値上げがあり、現住所では十分に活用ができない。敬老パスの使用対象を地下鉄、バスから変更しないのであれば、せめてバスの減便、路線廃止、運賃値上げに対して最優先で対応してほしい。

また、敬老パス利用のうち、どこの線区でいくら使用されているのか、把握できているのか。公表されているか。上述の通り、市内でも敬老パスを利用しにくい地域があるため、地下鉄沿線の住民が使用割合の多くを占めているのではないかと感じている。

住んでいる地域により、福祉を利用できない、利用しづらいことは不公平である。市内全域の高齢者に対し、公平に行き渡る方法を検討してほしい。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

そもそも敬老パス制度自体が、高齢者ばかりに偏った制度だなと感じていますが、存続するのであれば、見直し案のように、上限額の引き下げは絶対必要だと思います。年金のみの収入で厳しいと言いますが、それぞれ貯蓄してないのが問題なのでは？自己責任のように思ってしまうのですが、、、今それを言っても意味ないですが。

現役世代の給料は増えない。なかなか贅沢ができない生活です。その中でさらに高齢者ばかりに税金が使われるのは納得できません。署名や街頭での呼びかけもされているようですが、高齢者は時間があるからできることですよね。それに引っ張られないで欲しいです。オムツ代が高い。洋服にもお金がかかる。働きたくても保育園に入れる保証もない。子育て世代にもっともっとお金を使ってください！！

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

敬老パスについて、現行制度から札幌市が示している減額してでも維持をしていくという案への変更について賛成です。むしろ、段階的に減額していき、最終的には敬老パス廃止の方向で良いと思います。

テレビの報道を観た際に自分たちの事しか考えていない老人が多数いると感じました。そもそも現在と敬老パスが開始された当時では状況が大きく異なっています。それを現在の状況に合わせた形に変えて行く事は当然のことだと思います。

また、事業費の確保する収入についても、現行の敬老パスを使用している世代(敬老パスの使用見込み世代を含む)はこれから札幌市を離れることは無いかもしれませんが、子育て世代は子育てのために現在札幌市に住んでいますが、働き方も変わってきているため、子育てが終わった後も札幌市に住み続けるという保証はありません。そうなれば、事業費だけの算出だけではなく、それを捻出するための収入減についても考えていかなければならないのではないのでしょうか。

様々な費用が値上がりしする中で現行制度の廃止は厳しいと思いますが、そもそも負担者が減り続ける中で今までの制度をそのまま維持し続ける事に無理があります。昔からあるので自分たちも受けられて当たり前という制度については、全て今後維持し続けるか否かを考える時期ではないのでしょうか。

ただでもらえていたものが、もらえなくなる事に対する反対は必ずあります。現在だけを考えるのではなく未来を考えた制度にするためにも、学校授業の一環として札幌市内の中高生に今回の問題をどの様に考えるか意見を求めてはいかがでしょうか。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

今、敬老パスを 7 万円分利用しています。もう 2 万 4 千円分になりました。往復 1000 円かかります。本当にありがたいです。いきなり 17000 円で、7 万円使える事大歓迎ですが、何故そうなったか不思議です。最初から、4 万円は、2 万負担ならそちらで良かったのに？何故今更と感じます。札幌市は、素晴らしい!と、あちこちの友人達と話しています。今のまま、と、切にお願いします。毎日、仕事をしている友人も、おります。もう、敬老パスは無くなり、サピカを利用しているそうです。私達の事を、考えて下さいませお願いします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

敬老パスの対象年齢を引き上げるのは絶対に反対です。

75 歳以上になれば、確かに支給対象は減りますが、逆に政策効果が激減します。高齢者が社会参加する機会を減らし、福祉の形骸化に繋がります。高齢者の就労が広がっているなら別ですが、年金生活者に通院のためのバス代も厳しいのです。

ただ、七万円の上限は少し下げても良いし、高所得者には支給しないのは当然でしょう。我々は団塊の世代を支えるために随分負担して来た感があります。しかし、いざ我々が恩恵を受ける段になると、それを取り上げられ経験を随分して来ました。このまま敬老パスを「軽老パス」にするなら、選挙で意思表示するしかありません。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

現状は、高額利用する方だけが得をする制度に他ならないと思います。

単純に、子ども乗車料金(子どもサピカ方式)で高齢者も子ども同様に毎回半額負担で乗車出来るようにすれば分かりやすいえ不公平感もそれほど強くない気がします。高齢者用優待サピカ(仮)取得後は、転居(死亡)するまで地下鉄券売機等でチャージし、繰り返し使えるようにすればよいと思います。

中学生・高校生でも利用時は大人料金を支払って乗車しています。少子高齢化の現状から考えると、高齢者の方々にも公共交通機関を利用する場合には相応の負担をいただく必要があると思います。

高齢者の方々には今と昔とでは現役世代と高齢者世代との比率が全く異なる現状を十分説明し、これまでの優待パスの存続が困難な理由をご理解いただく必要があると思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

健康寿命のために敬老パスを発行しているのは理解していますが、病気の種類によってはすでに公共機関の乗り物に乗れない人もいます。タクシー代は補助されません。できれば、対象の方に公共機関の料金を一律、子供料金にするのはどうでしょうか？今まで凄く安く一部の人だけ使えていたのですから、色々と考えて皆で少しずつでも金額を負担するのが良いと思います。上限を決めて半額負担が良いと思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

現在の敬老パス制度の変更に賛成です。

ただもらい続けるのではなく健康寿命延伸と絡める変更はすばらしい。

限りある税金の予算の中でいつまでも同じ待遇が続くというのは勘違いです。

今の敬老パス制度を続けるのであれば、敬老パスは廃止し、子供や社会人の通勤通学の補助にまわしてほしい。

それが我々高齢者に最終的に回ってくるのだということを、高齢者がもっと学ばなければいけない。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

リソース(税収)には限りがあるため、あれもこれもとはいきません。

今回の敬老パスの見直しも、限りあるリソースの中でどこを調整していく必要があるか、という背景から出てきたものと思います。

どうか高齢者の方ばかりの意見を取り入れることのないよう、切に願います。我々現役世代やサラリーマンは、毎年の社会保険料の負担増に悩まされています。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パスの意義はわかるが持続的な制度とするために見直しをすることには賛成する。対話集会の報道を見てこの件に興味を持ったが、市長が仰る「若い世代にも納得してもらうため負担をお願いしたい」「せめて子どもと同じぐらいの負担」というのはそのとおりと感じた。高齢者には既得権と思わず応分の負担をしてほしい。個人的な意見としては、年齢だけで対象を区切るのではなく「無職」「低所得層」「免許返納を行った市民」などにさらに対象を絞っても良いくらいだと思う。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パスは、買い物や習い事、コンサートなどで元気に出歩く人にとっては有難い制度だと思いますが、対象者の交付率からも分かるように、高齢者のなかには、もともと必要のない人や足腰が悪い、施設に入っているなどの理由で、バスや地下鉄などの交通機関を利用したくても利用できない人が多くいます。

このように、敬老パスは使える人と使えない(使わない)人が存在しているので、公平な市民サービスを提供する観点から非常に不公平な制度と考えます。

さらに、健康アプリ制度を導入して健康づくりを進めようとしているようですが、健康意識の高い人は、日ごろから歩いたり、走ったり、筋トレなどを行っていますので、どんな制度設計になるのか分かりませんが、手間暇かけてこんな制度は必要ありません。むしろポイント稼ぎのために、必要以上に運動し、体を痛めるようなことになるのではないのでしょうか。(歩きすぎて足を痛めている人を知っています)

健康寿命は、一人一人の意識、努力(運動・食事・生活習慣)で伸ばしていくものと考えます。

従いまして、敬老パスは全廃でいいのですが、どうしても継続したいのであれば、公平なサービスを受けれる制度にしてください。

全廃の場合は、これに要する経費は他の事業(例えば、学校給食無償、児童手当の拡充、介護施設や児童施設で働く職員への支援など)に使ってもらいたいものです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

札幌市の敬老パス制度は、とても良い制度です。しかし、これは既得権ではありません。その都度、状況に合わせて決定されるべきです。

わたしが、心配しているのは、札幌市の上下水道の更新です。もし、オリンピックが開催されるならば、その資金で札幌のインフラ全体が更新されること期待していましたが、それもむずかしくなりました。

将来、札幌で生きていく若者たちが、困らないように年配者は考えて行くべきです。敬老パスの見直しもその一つです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

『健康対策』

最近病院にかかる頻度が増えてきていろいろ考えさせられるようになった。

こんな時に敬老優待パスの問題が持ち上がってきた。

健康増進や引きこもり対策として敬老優待パスが創設されたように思う。

しかし昨今高齢者の増加により、市の予算を圧迫しだしているらしい。

利用実態を見ると約40万人に対し、交付率約34万人の85%、チャージ率50%で平均チャージ額13000円程度だ。

現在7回分の分厚い冊子が郵送で届く敬老優待パス引き換え券が無駄のように思われるので、健康増進と経費削減の上でも利用者が区役所等取扱場所に交付を受けにシステムにすればよいのでは？そして交付上限も利用実績から4万円程度にして様子を見ながら順次削減してはどうだろうか。

若者が減少している昨今、高齢者も相応の負担をしなければならないと思う。

【70才を過ぎてやっと敬老優待パス交付の対象者になったのに】

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パスへの減額は賛成です。廃止するわけではないので理解してもらいたい。中学生の交通費も大人料金、馬鹿になりません。現役世代、税金、物価、ガソリン代どんどん上がり子どもたちの給食費、学校代などもかかります。子ども手当が出ていても、子どもの将来の為に貯めなければ意味がない。手当が給付されるのも非課税世代ばかり。共働きでも生活は大変です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

私は来月から敬老パスの資格を得て恩恵を受けます。そもそもの敬老パスが高齢者を優遇し過ぎです。

見直し案で健康増進なる余計なモノを付けて更におかしなモノにした感があります。現役世代の負担軽減と、高齢者も相応の負担無くして今後の高齢化社会は成り立たない。札幌五輪も約半数の反対があった中でも突き進んだ様に、過剰な優遇は止めるために一定程度は見直すべき。

具体的には 2026 から三年間、利用額を利用額を 15%つつカット、同時に負担額は 15%程度アップして、概ね現行の半分にする。最大でも恩恵は年間 3 万円、その負担額は 1 万～1.5 万。70～75 才は最高額を相応に減じて良い。

とにかく高齢者の過剰優遇はやめるべき。通院費用に困るなら医療費控除に通院費を認めれば良い。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

1-2については、健康寿命に着目することは、良いことと考えます。

2024年現在、介護予防センター、地域包括センターなどの福祉事業関係や民間のスポーツジム等を利用して、身体を動かす高齢者が増えていると感じます。

高齢者本人が身体の衰え等を感じ、通っているのです。

高齢者全体の健康寿命を延伸する発想は理想ですが、出来る高齢者をターゲットに健康寿命を延ばす、ことが将来的には健康寿命が延び、結果、医療費等の軽減につながるものと考えます。

今後とも継続できる事業計画を樹立していただきたい。

健康寿命の延伸に関する事業を考える時に、行動を起こしたことに対する褒美(ポイントで景品や敬老パスへの代替等)を考えているように見えるが、敬老パスと基本的に切り離すことが、継続する健康寿命の延伸に繋がると考えます。健康寿命の延伸に対する行動は、老若男女全に係る事柄です。皆が参加したい、やりたいと思える、新しいステージを考えてください。

2-5については、子供料金が大人の 1/2 負担であることから、高齢者の利用負担も 1/2 にすることは理解できます。経過措置も十分理解できます。

但し、今回の制度の変更が、今後とも継続する予算措置が樹立できる見通しが立っているものか検証する必要があります。将来的に10年後には財政困難となりさらに見直しをするのであれば、現在支えている年代(50代60代)が、敬老パスを利用できないことになるのであれば、行政不信を惹起することになります。

事業継続できる制度を樹立してください。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パスは制度自体を廃止すべきだと思います。

まず第一に高齢者だからと言って優遇する理由がわかりません。

この件に対して抗議デモや署名活動を行っている高齢者が沢山いますが、そのような元気があるなら自ら労働して得たお金で公共交通機関を利用すべきです。

これから高齢者の数は増える一方ですが、税金を払う現役世代は減る一方という事を考慮すると現在のような高齢者を特別扱いする制度は持続可能ではありません。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

札幌市で現在施行されている敬老パス制度の存続？変更について議論されていると思いますが、「敬老」パス制度について私見を述べさせて頂きたく連絡差し上げました。まず私の意見の結論としては、「敬老」パス制度は反対で、廃止を希望しています。以下にその理由を記載させて頂きます。

それは「敬老」パスの配布対象を「札幌市内に住民登録がある 70 歳以上の高齢者」にしているためです。

そもそも行政の福祉制度とは、個々の市民の不足している部分を補うものとして存在しているはずで、では「敬老」パスは 70 歳以上の市民のどのような部分を補っているのでしょうか。

「敬老」パスが公共交通機関の負担軽減という制度である事から、金銭面を補助する制度と思われます。ただ札幌市の資料ではありませんが、「2019 年「全国家計構造調査」結果の概要」の第 4 表「世帯主の年齢階級、資産？負債の種類別 1 世帯当たり資産現在高？負債現在高」を見ると、若年世帯よりも高齢世帯の方が資産を持っている事が伺えます。もちろん個人差はあると思いますが、この表を見ると 70 歳以上の市民に限っている「敬老」パスの存在意義は崩れるのではないのでしょうか。

公共交通機関の料金の負担軽減という観点を重要視するのであれば、本制度の対象範囲を年齢ではなく世帯収入などで決めるべきかと思います。そして年齢で対象を決めないようにし、「敬老」という言葉を制度から消して頂きたいです。

私は老人を敬う気持ちはほとんど無いです。もちろん理論的で知識もあり、性格的に穏やかな高齢の方は尊敬しています。ただそれは年齢は関係なく、そのような方でしたら私より歳下でも尊敬すると思います。老人はむしろ非理論的で保守的、新しい知識を学ぼうとせず、怒りやすい方が非常に多いように思います。そのような方は到底敬うことはできません。

長くなってしまい申し訳ありません。まとめると、

1. 「敬老」パス制度は廃止し、世帯収入など別の尺度で給付対象を決めて欲しい。
2. 「敬老」という言葉を制度から消して欲しい。

以上です。どうぞ宜しくお願い致します。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

私は 11 月 30 日に実施された「市長と語ろう敬老パス」に参加させていただいた者です。

市長と敬老パスに関する意見を交換する場として開催するとされていましたが、開催時間はわずか 1 時間、意見の発表についても希望者の中から抽選で 10 人程度と、とても意見交換と呼べるような場ではなく、市の計画案を一方向的に示し、市民の意見を聞いたとのアリバイづくりのために開催されたと批判されても仕方のない内容だったと思います。

私はその場で意見を表明できなかつたため、パブリックコメントとして文書で表明します。

まず、市の敬老パス制度をなぜ、見直さねばならないかという点についてです。

市は、その理由として、「20 歳以上の市民一人あたり負担額の増加」をあげ、「2000 年頃は 2000 円だったが、2025 年には 3000 円、50 年には 4000 円になる」との見込みを示しています。これは敬老パス関連予算を単純に人口割りしたものと思われるのですが、あたかも、成人市民一人一人が高齢者のために自分の財布から直接お金を出して負担しているかのごとき誤解を与える説明です。市の施策にかかる経費について、「一人あたりいくら」と説明できるような項目が果たしてあるのでしょうか？たとえば、「オリンピックを誘致するために市民一人あたり〇〇円かかりました」とか、「新幹線札幌延伸関連費用は市民一人あたり〇〇円です」などと、説明しないしできないことから明らかです。

市の歳入は、市税の他、地方交付税や国や道からの交付金などでまかなわれており、歳出も、各部局横断的にまたがる費目含め単純な割り算だけで説明しきれものではないでしょう。

したがって、少子高齢化に伴う医療介護等の高齢者予算については、敬老パス関連だけではなく、総務・環境・土木・教育など歳出全体のバランスを含めてトータルに見直すなかで算定されるべきものと考えます。

敬老パスだけを取り上げて、「高齢世代＝受益者」対「若い世代＝支える側」との対立の構図をあえて作り上げて、敬老パス制度の改悪（上限額の大幅減、自己負担の大幅増、対象年齢の引き上げ）をゴリ押ししようとする市の姿勢は、そもそも、福祉施策を推進すべき自治体本来の使命を投げ捨てたものと言わざるを得ません。

蛇足ながら、国の財政制度等審議会などで声高に主張されている「社会保障費の自然

増の削減」などの意見は、企業負担を減らし国民負担を増やそうとする財界の主張を代弁したものであり、この文脈で市の敬老パスの見直しを見たとき、大型開発や大企業への支援は増やすけれど、社会保障は減らして市民負担を増やそうとする姿勢を市が示していると言えなくもないでしょう。ましてや、敬老パス予算の削減によって若い世代向けの福祉施策が充実されるなどとはけっして考えられません。

12月の第4回定例市議会において、市有施設使用料や各種証明書交付等手数料を、物価高騰を理由にっせい値上げするとの提案がされたことからそれは明らかです。次に、敬老パスの持つ経済効果について述べます。

過日、バスの減便や地下鉄最終便に接続するバスが無くなった問題で、バス会社の担当者と話し合いを持つ機会がありましたが、話しが敬老パスにおよび、その担当者は「乗客のなかに占める敬老パス利用者の割合について、経営上無視できない数値にのぼる」との趣旨の発言をしていました。具体的な数値、金額については不明ですが、市営の地下鉄・市電の乗客に占める敬老パス利用者の割合も、経営上無視できない数値になるものと思われる。敬老パスの制度改悪に伴い、地下鉄・市電の乗客数が減少したときの地下鉄・市電の経営上のマイナスについて、交通局の資料を用いるなど試算することは可能と思われるので、敬老パス改悪に伴う市の財政支出の削減幅と市営交通の収益の減の影響について数値をお示しいただきたいと思います。

また、高齢者の外出支援策としても効果を発揮していた敬老パスについて、市内の小売店・デパート・種々のサービス施設などの売り上げなどについての考察も必要になると思われる。さらに、民間にも浸透している様々な高齢者割引制度（映画館や理髪店、体育施設、スキー場、スーパーなどのシルバー割・シニア料金など）との整合性や影響についても考察したうえで、その改悪案の功罪を判断すべきだと思います。

高齢ドライバーの免許返納促進に果たす敬老パス制度の効果についても検証が必要でしょう。その他、地球温暖化防止のため CO2 削減に果たすマイカーの都心部乗り入れ規制と公共交通の役割、積雪寒冷地における外出支援と健康増進効果など、検証が必要な項目は多岐にわたると思われる。

次に、敬老パス利用の開始年齢、上限金額、一部自己負担額について述べます。

制度創設から約50年を経るなかで、利用上限額や自己負担額に多少の変更があったものの、利用者数は徐々に増える傾向にあり、高齢者の外出意欲を支え健康増進に役立つ制度として、浸透してきたものと思われる。

このたび開始年齢を70歳以上から75歳以上に引き上げるという案について、定年年齢の延長をその理由にあげていますが、のちに述べる「健康寿命」との関連で言えば、その理由の整合性に疑問を挟まねばなりません。市は、他の政令市や全国平均にくらべて短い札幌市の「健康寿命」を伸ばす必要性を強調しています。札幌市の健康寿命＝男性は約72歳、女性は約75歳とのデータを示して「その延長が必要」と強調するならば、外出支援と健康寿命の延長に貢献してきた敬老パスの利用開始年齢を70歳から75歳に引き上げるのではなく、むしろ65歳に引き下げることこそ、その効果を最大限発揮できるものと思われる。75歳で敬老パスを利用できる年齢になったとしても、身体が不自由になった（健康寿命が限界に達した）などの理由で利用できなくなったの

では本末転倒と言わざるを得ません。

上限金額・自己負担についても、金額の制限と利用者負担の引き上げで市の予算の削減を図るのではなく、上限金額と負担金の撤廃をしたとき(無制限の無料パス化)の影響の試算(市の予算だけではなく、健康寿命の延伸効果や経済効果も含めた試算)も必要になると思われます。

市は、敬老パス対象者のうち半数以上がその制度を利用しておらず(チャージ0円)、チャージしている対象者についても大半が4万円以下にとどまり、一割程度しかいない5万円以上のチャージ利用者のために、敬老パス予算の5割が使われているとしています。

市の指摘の意図するところは、敬老パス制度の不公平感を煽り、世代間の対立のみならず、敬老パス利用者間の対立まで目論んだうえで、将来的に制度の廃止に結びつけようとするものと考えざるを得ません。

金額の制限と利用者負担の引き上げによって「できるだけ多くの方に公平に使ってほしい」(秋元市長の弁)という目的を達成することができないことは自明であり、結局のところ、制度の廃止か、前に述べた無制限の無料パスにしない限り、公平性が実現できることはありません。注意しなければいけないのは、現在、敬老パス対象者でありながら、まったく利用していないか少額だけの利用者のなかに、多額の利用をしている人に対する「不公平感」が存在するのかどうかです。私見では、そのような「不公平感」はないと言い切れません。何故なら、市民個々の居住地の違い(都心から遠いか近いか)、交通機関利用の差異(主にマイカーや徒歩・自転車利用もしくは身体的障害などから利用できないか、頻繁に公共交通機関を利用するか)、生活サイクルの違いなど、多様に差異があり、一概に比較はできないからです。

過去半世紀にわたり市民に親しまれ活用されてきた敬老パスを、引き続き「持続可能」な制度(市の予算の持続可能性ではなく、市民の生活と健康の持続可能性)として存続させるため、角度を変えた検証が必要と思われます。

市は、健康寿命を延ばし医療・介護などの高齢者予算を縮減するための方策として、「(仮称)健康アプリ」を導入するとしています。「『楽しみながら自然に健康作り』『健康作りでポイント獲得』をコンセプトに市民の健康を支えます」とうたっていますが、その効果については、はなはだ疑問と言わざるを得ません。

「歩く」「健診受診などの健康管理」「イベント・ボランティア参加」「介護予防教室への参加」などでポイント付与としていますが、付与されたポイントを電子マネー化して使用するための予算は、敬老パスの改悪で削減した予算が充てられます。高齢者のデジタルデバイド(情報格差)の問題を放置したまま、スマホアプリの拡大によるポイントマイレージへの誘導は、IT企業のプログラミングやシステム開発費用など、企業収益の拡大に利用されるだけではないでしょうか？

市の説明によれば、「(仮称)健康アプリ」については、まだ開発途上で「皆様のご意見をお聞きしてよりよい制度にしていく」とのことです。しかし、「(仮称)健康アプリ」の開発費として、現在までにすでに7億2600万円が外部委託で支出されているとの説明も聞きました(12月17日、藤野での出前講座で)。年間約50億円の敬老パス予算を

削減するために7億円の外部委託費を支出するなど、通常では考えられない無駄遣いと言えます。

仮に、「(仮称)健康アプリ」が、札幌市民の健康寿命の延伸にとって効果的な制度であるとするならば、これまで市民に親しまれ活用されてきた「敬老パス」制度を縮小して得た財源で創設するのではなく、それぞれ独立した別の制度として新たに設けるべきと考えます。(所管する部局も予算の科目も別のはずです)

いずれにしても、国や自治体の福祉施策は、「支える人」と「支えられる人」との二項対立で成り立っているのではなく、所得の再配分という性格を含め、高齢者・子ども・女性・性的マイノリティ・少数民族など、社会的・相対的に弱い立場に置かれている人々を中心に据えたビジョンをもとに立案するものと考えます。

老人が生きやすい世の中は、現役世代にとっても暮らしやすい社会であるはずですが。ここまで書いてお仕舞いにしようと考えていたところ、12月20日の北海道新聞に、先に行われた「市長と語ろう敬老パス」の報告を中心とした意見広告が掲載されていることを発見。改めて批判を書き加えなければならなくなりました。

ひとことで言って、この「意見広告」は、市の敬老パス見直し案にとって都合の良い声だけを切り取り、会場で出された意見についても、それに対する秋元市長の反論でまとめたものであると言わざるを得ません。主催した市の都合の良いようにまとめられた記事を、あたかも参加者の総意でまとめられたかのように広報することはフェアではありません。参加した人によって、印象や感想は様々に変わるものと思われまます。各種マスコミの報道についても、「市の案に批判殺到」とした記事もあり、一方で、一人の20代の市民の発言を紹介して、現役世代の負担を強調した報道もあるなど、まちまちでした。それを一方的なPRのみで1ページの全面広告とする手法に、市の敬老パス改悪への焦りと後ろめたさを感じるのは、私だけではないでしょう。私の知人などは、この全面広告を「札幌市の必死の醜い形相が透けてみえる」と評していました。

全面広告も、地域や大学までへも出向いて出前講座を行ったり、改悪周知のためのパンフレットを作成したり、まさに『必死』ですが、これら広報費用にどのくらいの予算をつぎ込んでいるのか、市民に知らせる必要があるのではないのでしょうか。

おそらく、億単位以上の莫大な費用と思われまますが、そんな無駄金を使うくらいなら、敬老パス制度の存続と充実のために智恵とお金を使えと言いたくもなります。

その他、JRやタクシーなどへの利用の拡大、SAPICA という IC カードの使い勝手の悪さ、敬老パスのチャージは何故郵便局を利用しなければならないのか、など、疑問や意見もまだまだありますが、あまりにも長くなりすぎたので、またの機会に譲ります。

結論として、市提出の敬老パス改悪案は、「健康アプリ」とともに白紙撤回し、従来の敬老パス制度の存続と拡充を図ることこそ肝要であると申し述べて、私の意見表明を終わります。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

敬老パスの減額案について、賛成致します。

年配者一人当たりの若者の負担割合が増加傾向。

年配者を優遇する必要性はないと感じます。

今の年配者も働き盛りの時代に、年配者を支えてきた実績はございますが、その時期から出生数減少の兆候が表れていたのも関わらず、少子高齢化が進み、現在出生数上昇の為にいろいろと改革されているのが現状です。

現在の年配者が少子高齢化に目を背けたから、現在の状況があると感じております。

私には3歳の娘、1歳の息子がいますが、札幌市の子育て支援については、他地域の子育て支援と比べると魅力を感じられません。

年配者ばかりを優遇するのではなく、今、今後を見据えた子育て世代。若者の結婚・出産などの項目に力を注いでほしいです。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

スマートフォンがない、または使えない市民、低所得層や高齢者、障がい者が利用できないアプリ事業に税金を投じることには反対です。
ポイントで買い物や抽選への参加も可能という個人的消費に税金を投じる必要はない。
敬老パス制度と目指す方向は明らかに違う。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

今回の見直し案に反対します。

引きこもりがちになる冬季間、交通機関を使い、大通りに行き地下の歩行空間を歩くのも健康に良いし、社会参加のために出かけるのも健康につながります。

敬老パスの負担金を増やすとか、老人の乗車料金を設定するとか、今後も続けていけるような見直しは必要だと思いますが、今の案ですとポイントにするか敬老パスを選ぶとか、全く違うものを無理に並べていると感じます。

もう一度、一から考え直していただくよう強く望みます。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

健康寿命の延命と敬老パスは分けて考えるべきと思います。

これは、敬老パスそのものの存在について、敬老と福祉を混ぜている現在の制度は意味不明になっていると感じるからです。

分けて考えるべきものと思います。

また、敬老パスは高齢者の既得権益のようなモノでは無いのですから、市の財政も考慮して続けるのかやめることも視野に入れて検討する事が大事であると、考えます。

また、敬老パスの利用云々よりもその利用する公共交通機関が無くなるという問題が起きてる事から、一度廃止して、公共交通機関存続への補助などに充ててもらったほうが、全世代で理解されるのではないかと思います。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

12/27 の STV どさんこワイドの報道を見ました。現役世代としては、敬老パスは「高齢者ばかりずるい」と思います。もっと子育て世代に手厚くサポートしてほしい。これまで安く交通機関乗っていたくせに感謝することもなく、反対活動している高齢者を見るとイライラします。

すぐに廃止することは現実的ではないと思いますが、将来的には廃止すべき。その分の予算を子育て支援なり除雪対策になりあててほしい。我々が一生懸命働いて納めた税金が高齢者に回っている現状に理解ができない。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

我々世代だけではなく、今後札幌で生活をする子供世代の為にも全世代に責任を持っていただき、計画書通りの変更をお願いしたいです。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

70 歳以上の市民が対象は改め、要支援・要介護認定のある市民を対象にすべきです。その他の人は介護予防のために社会活動やボランティア、健康診断等をした人を対象にポイントをつける制度を導入して奨励金を支払う社会参加を促す制度にすべきです。例として広島市の高齢者いきいきポイント活動があります。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

存続を希望します。

老人だって言われなくても孫子の代の応援をしています。直接対決させるやり方は卑怯な無責任なやり方と思います。

私達も若い時からずっと税を納めてきたのです。そして老人も今だって税を納めてますよ。

ただ、本来目的から外れて勤務先から通勤手当が出てるのに使ってる人や貸し借りして不正に使っている人も聞きます。この制度は高齢になったから受け取れるボーナスではないでしょう。顔写真がないから不正利用を厳しく取り締まれないでしょうが上限額が少なくなればやめるのでは？

普通の年寄りには 7 万円なんて使えません、見直して 4 万円十分と思います。

健康アプリは意味不明です。今若い人達のウケを狙っているようで、人口減が見込まれ予算が潤沢でないのだから、直ぐにまた見直しとなるのでは？健康な人ばかりが優先されるのも不公平ではありませんか？視点をずらすための案のようで、拙速に導入すれば自分の首を絞めるのでは？

これからバラ色の未来という訳ではないのだから、節約しながらみんなで進めるのが良いと思います。

もしどうしても健康アプリ導入を推し進めるならば、慎重に内容を検討された方が良いと思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

敬老パスの限度額を見直す札幌市の提案についてです。

高齢者の割合が増えている現状で、札幌市の財政が厳しい中では限度額を減らすのはやむを得ないと思います。

今までの優待額を既得権のように主張し、減額に反対する方々の主張もわかりますが、税金による財政は高齢者のためだけではないので、優待廃止がなかっただけでも良しとし、札幌市の減額案に妥協すべきです。

札幌市としても財政収支全体をみての判断なので市の提案内容に賛成です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

秋元市長は「敬老パス利用に格差あり」「財政的課題」「高齢者健康増進」のためパス見直しすると説明するが、しかし利用格差平準化なら手稲区住人が JR 利用可能ならまだまだ向上出来ますね。

新たなアプリで可能なら何故手直し出来ないのか？

更に新制度移行でアプリ開発費約 8 億とか。札幌ドーム暗幕二の舞いと思います。

札幌市は何れ廃止を見据えてますよね。それなら現行最大 7 万円から 5 万円に引下げ、アプリ開発投資止めませんか？

脱炭素化向かうなら、札幌市内時差式信号機を矢印式信号機にしましょう。可成り渋滞緩和で排気ガス削減なります。

又、何故、高速新川出口と手稲出口の料金が違うのか？市民として納得出来ない。同一市内料金としない市長や議員の常識を疑います。

某国会議員は5号線出口新設と言うがお金無駄です。新川出口を優先信号機や矢印式信号機に付け替え、手稲出口は同一料金にすれば、エネルギーロス改善になります。

どうも北海道の交通網体系はおかしいです。

札幌駅や新千歳空港出口表示から目的地まで遠いとかね。

除雪も集中させるから人員不足です。作業平準化や分散させればもう少し楽な作業なると思います。

健康から横道なったが、市長や幹部職員の方々、もっと市民目線で見てください。特に市議会議員は何考えてるか分からんね。

宜しくお願い致します。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パスについて、居住場所で不公平がある。
知人に聞けば敬老パスで飲酒、パチンコで街に出る。
私のところからは、バスも少なくほとんど使えない。
公平性を持ったの存続は賛成です。
今の使用料金の半額が良い。
その分、バス路線の存続を願います。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

今の制度は、不公平です。

使用料を半額以下にして、バス路線の存続を希望します。

他、敬老パスの使用をタクシー及び違う交通機関でも使用できるようにして欲しいです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

約1年前、札幌市は「健康のため歩くなどでポイントを貯めて使うアプリ」を提案しました。

高齢者は「スマホ・アプリ」など使えない。敬老パスと全く意味が異なるものとして反対しました。それでも「アプリ開発」を続いています。

皆さんが反対しても続けているのは、「オリンピック」と同じことをしていると感じています。「アプリ開発」にお金を使うのは止めてください。もしアプリにお金を使うなら、「敬老パス」の項目から支出しないで、別枠からの支出にしてください。「アプリ開発費用」が、「敬老パスの金額」に上乗せされるのは、納得できません。

最初は「財源問題ではない」と言い、2月札幌市ホームページにも「財源問題ではない」と掲載されていました。今になって「財源問題」「若い方の負担」などの言葉で「世代を分断する」発言になっています。分断をおおる言葉は、止めてください。

敬老パスが使えなくなると、外出が難しくなります。外出しない→引きこもり→体調不調・バスや地下鉄乗車が減少・お買物が減るが考えられます。高齢者や社会にとっても、良いことは何もなくなります。2年後の70歳は敬老パスが使えなくなり、引きこもり老人が多くなります。

私は精神疾患の当事者や家族の支援のため敬老パスを使って助かっています。もし今後「敬老パス」を無くすようでしたら、「3障害同じく制度が利用できる社会にしてください」。精神障害者のバスの半額・タクシーの割引・医療費の割引・区役所の精神障害者の手続きなどが、安心できる社会であるなら、私のように高齢な者が動かなくてもすみます。

外出支援策の「敬老パス」と、「健康寿命延伸のアプリ」は全く別の施策です。高齢者が使いやすく、外出できて良かったと思える制度の「敬老パス」を残して頂きたいです。横浜は、高齢者の制度を良くして「免許返納者は、無料で交通機関を利用できるなど」と聞きました。高齢者に優しい札幌になってください。お願い致します。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

健康寿命延伸と敬老パスを絡めたことが、問題を複雑にしてませんか。

敬老パスの将来的な廃止を視野にいれての提案だったから老人は怒ったと思います。初めから、敬老パスを縮小の提案しても大反対は起こるでしょうが、財政が厳しいのならお願いするしかないでしょう。私は、アプリで二万円まで出せるのなら、敬老パスの上限を二万円でもいいのでは。

アプリは、反対です。お役所に個人の健康管理を委ねる人は、少ないと思います。

歩くアプリは、沢山あります。健康管理のアプリもあります。それは、個々の責任です。もう少し知恵を出してください。

ちなみに札幌市の健康寿命がみじかいのは、高齢になってからの転入が多いからではないでしょうか。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

長過ぎる。

財政に余裕がないなか、即時の実行を求めます。

20 代は収入に対しての社会保障費割合が現在の高齢者より高く、高齢者に対する予算を少しでも若者向けに使用して欲しいです。

経過措置は年収が低い高齢者のみ認める形にして欲しいです。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

不明

提出方法

WEB

市民一人当たりの負担は増え続け、札幌市として財源の捻出が難しいため、見直しはやむを得ない(敬老パスは廃止してよい)。

「ボランティアに行けなくなる」などの高齢者の意見は理由になってるようで理由になっていない。そもそもボランティアではなくアルバイトをして賃金をもらい、社会貢献する道があるのでは。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

私は79歳になる高齢者です。バスや地下鉄でよく外出します。

バス停でいかにも敬老パスの利用者とおぼしき方と話をします。そういう場合、ほとんどの方は、「敬老パスがあるから年金が少なくても買い物、通院、見舞い、習い事に出掛けることができます。これがなくなったら家に引きこもりがちになってしまいます。」と、いいます。

私は重度障がい者なので、札幌市の交通費助成を受けながら外出をしていますが、それが出来るのもこの制度があるお陰です。

高齢者の中には、杖をつきながら外出している人もたくさんいます。

体の一部が不自由になっても敬老パスは人々の活動を支えていることをしっかりと見つけて、この制度を改悪したりなくすようなことを絶対にしないで下さい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パスがあることで、今の高齢者の気軽な街歩きを保っていると思います。

私も、通院や街歩きなど、年に数万円のサピカを利用しています。

気軽な街歩きにより、自由に使える金を持つ高齢者の街中の商業施設利用が促進され、かつ、高齢者の好奇心向上心が図られ、歩行時間等運動量が増えることにより、介護保険の使用が削減される。

私も、街歩きの際には飲食店・商業施設利用と各店舗をめぐるために、ある程度の金銭消費と意識せずに一万歩以上の歩行になっています。

高齢者の不得意なアプリの使用・運動の規制などにより、アプリ登録・ポイント変換など面倒くささが先に立ち、高齢者の出不精を増進させると結果的に介護保険の利用増につながると思います。

単に敬老パスの利用額増加だけでなく、高齢者の健康増進及び消費行動の促進による市内経済に向上も併せて市政を行うべきと思います。

このことから、アプリ利用によるポイント制には反対です。

高齢者が利用可能金額も含め、気軽に利用できる現行制度の継続を願います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

R6 年から 70 歳になり敬老パスを使用しています。

最初は、あまりにも優待されるので疑問に思い使用していませんでしたが、半年位経って使用し始めました。

敬老パスに付いてまず考えたのは、優待率の高さが上限 90%、次に利用上限が 7 万円/年と信じられない優待率でした。本当にこんなパスを使って良いのか考えた。

自分は年金生活者で市民税は納めてますが、現役の若い人と比べると僅かな額です。

現役世代に自分たちが使う敬老パスの負担を掛けて良いのだろうか？それでなくても現役世代は社会保険その他が上がって青息吐息の現状だと推測。

息子、娘にそんな負担は掛けたくない。

私は見直し案に賛成で来期からでも実施すべきで、上限まで利用する人とあまり利用しない人の公平さを考えれば上限は 1 万円で良いとも考えます。

その分を市民皆にいきわたる除雪、排雪費に使用することを希望します。

次に、札幌市の市政に付いて、今回の敬老パス見直しはあまりにも時期が遅く、突飛だったのが高齢者から強い反発を受けていると思う。

少子高齢化は何年も前から予測されていたのだから、もっと以前からその動きをすべきだったのではないかと考える。行政は 20 年、30 年先を見据えてしなくては市民としてやってられない。

札幌市の財政は苦しい現状なので先を見据えて市政を施行することを希望します。

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

中央区

提出方法

WEB

1.古く時代にあわない政策を見直す必要性

本制度はほぼ 50 年も前に策定されたものです。高齢者の健康の度合いも、健康寿命を延伸する対策に関する研究の発展の度合いも、当時とはまったく異なります。したがって、ターゲット層の見直しや、エビデンスに基づいた対策について、ゼロベースで見直す必要があると考えます。さらに、人口ピラミッドも大きく変動しており経済状況もまったく異なることから、そのような背景を受益者に理解してもらう必要があるように思います。

2.本政策の目的の明確化

AbemaPrime で取り上げていた時にも意見が出ていましたが、高齢者の健康寿命を延伸することが本来の目的であるとしながら、1975 年に開始された際には「高齢者を敬愛すること」も本制度にぼんやり加わっており、それが議論の焦点が絞りづらくなっているように思います。AbemaPrime では、敬老と福祉（低所得者層に対する経済的負担の軽減）は切り離すべきだとおっしゃっていて、まさにその通りだと思いました。またおもしろいことに、本制度のことをよく知らない時は、本制度の目的がまさか健康寿命の延伸だったとは想像もしませんでした。つまり、先述のとおり、政策と目的がまったくかみあっていないことがそもそも問題だと考えます。本制度によって実際に健康寿命がどの程度延伸するのか効果を測定・評価できるのでしょうか。目的がうやむやなまま本制度が一人歩きしているように感じます。今一度、敬老、福祉、高齢者の健康寿命の延伸という3つの目的に分けたうえで、それぞれどのような政策を打つことでどう効果が測定できるのかを検討していただきたいと思います。

3.費用対効果について

パブコメの資料にはどの程度の税負担になっているかが明確に示されていて、とてもわかりやすく感じました。その費用に応じて、どの程度の効果が実際に期待できるのか（評価）までセットにして示していただくことで、各世代にとってさらに検討しやすい資料になると思います。敬老パスの有無により高齢者の各年代の行動がどのように変化し、それによってどの程度健康寿命に影響するか（しないか）シミュレーションできたりするならば、とても興味があります。

4.免許返納との関連

本制度は公共交通機関の利用を推奨するものと言えるので、高齢者の免許返納と連動した制度にするのはいかがでしょうか。それであれば納得感がありますし実際的です。

免許を返納するからといって交通費の全額を負担するというのはさすがにやり過ぎな気もしますが、免許の返納を促すにはちょうど良い制度だと思います。高齢者が地域で孤立せずできるだけ心身を動かしてつながりを保つことが健康の維持につながるのだと思います。ですので、免許を返納したからと言って、雪道にひとりでリスクを伴いながら公共交通機関を利用して骨折したのではまったく意味がありません。ひととのつながりを活かして車に乗せてもらう、乗り合う、誰かに移動を支援してもらうことに遠慮しないでいい街づくりが大切な気がします。

5.公共交通機関を使用することと健康との関連

ひとが人生をどのように使おうと自由ではありません。しかし、たとえば、ひととのつながりを持ちづらい高齢男性が公共交通機関を使ってタバコの煙で蔓延したパチンコ店で誰ともしゃべらずひとりもくもくとパチンコを打つ日々、というのは本当に健康とつながっているのでしょうか。移動の部分支援するよりも、どのようにひととのつながりを維持するか、あるいはあらたなつながりを作ってもらうか、いかに体を動かしてもらうか、いかに社会の役に立っているという充実感を持ってもらうか、といった点に着目した制度を新たにつくってほしいと思います。

6.健康アプリの取り組みとひととのつながり

健康アプリの取り組みはまさに健康寿命の延伸に直結した制度なので納得感があります。たとえば、ポイントを貯めるのをチーム制にして競うイベントを打つですとか、ポイントを交換する際には複数人で合算する(仲間で使いひととのつながりに活用する)、あるいは地域に貢献するイベントや運動イベントに参加する場合はボーナスポイントがもらえるなど、何かしらの方法で健康行動へのインセンティブを高めるように利用するのもひとつのように感じます。

7.最後に

受益者は人数も多いでしょうし、声をあげる時間もあると思います。しかしその声が大きいかという理由でこの制度が維持されるのであるのは良くないと思いコメントしました。パブリックコメントをする機会をくださりありがとうございます。高齢者も含めそれぞれの世代にとって真に財源を投じるに値する政策を実施していただきたいです。今後とも市のみなさまのがんばりを陰ながら応援させていただきます。いつもありがとうございます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

70 才になって敬老パスを使わせていただきました。助かりますけど同時に申し訳ないなと言う思いもあります。

年金生活になって、住民税非課税、医療費の2割負担、健康診断の基本料金無料、インフルエンザのワクチン接種無料等、たくさんの恩恵を受けています。

この上敬老パスの負担まで、高齢者は甘えないでもらいたい、未来を担う子ども達に使ってもらいたい。例えば子供のインフルエンザワクチンをもっと安くしてほしい、何人も子供のいる家庭は高いからってインフルエンザのワクチンを打てない子もいます。

結論敬老パス半分は負担してもらいましょう、健康を考えるなら歩きましょう、パークゴルフも歩くので健康にいいですよ。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パスは廃止した方がいいと思います。

他の都市も廃止しているのになぜ札幌市だけが敬老パスがあるのか意味がわかりません。若い世代の負担が増えるので、廃止してほしいです。

市長が高齢者を敬ってくださいと言ってましたが、そんなに負担したかったら、札幌市役所職員の方が沢山負担して下さい。

そうすれば、若い世代だけではなく全員が納得できると思いますよ。

俺らにそんなこと言うんだったら、お前ら公務員がまず行動しろや。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パスは70歳以上であり、健康寿命延伸に向けた取組はいままで70歳以上と理解してきましたが、「1-4健康アプリの取組」では40歳以上が該当となっています。

①対象年齢を引き下げれば予算が膨らむのに、何故対象年齢を引き下げたのでしょうか。

②70歳以上の老人はスマホを使いこなすのが困難な人が多くポイントの活用も難しいと思いますが、何故スマホを活用したアプリの利用に誘導するのですか。

③専用アプリの開発と維持は業者に委託することと思いますが、その費用を明示してください。

④2000年頃の負担割合(2000円程度)と同じくしたいようですが、当時より現在のほうが収入がずっと増えていると思いますが、その点の考慮はしないのですか。

⑤敬老パスと目指す方向は変わらないとのことですが、老人には使い勝手が悪く、私は反対です。

⑥チャージ額及び負担割合共に現行と同じ制度の維持を希望します。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

まず、健康アプリ+敬老パスと敬老パスの2通りあるとよい。健康アプリだけだと健康でない人にとっては冷たすぎる制度です。

バスの減便と乗り換え前提で、前以上の交通費もかかっているし、運転免許証返納しても、不便に感じているばかり。高齢者は通院でパスを使っている人が多いし、今以上の負担が出ると厳しいのではないのでしょうか。

私の親は無料のパスがあって趣味活動や、買い物など楽しんでいましたし元気の間でもありました。現在は高齢社会ですから負担は仕方がないことですが、できれば今の状態を持続してもらいたい。

あとニュースで高齢者と若い人の意見交換を見ましたが意見が違ってくるのは当たり前です。

高齢者と若い人を分断させて、煽っている感じがしてとても不快に思いました。別々に意見を聞くべきです。

あと税金の使い方に無駄がありませんか？

自分の家だったら節約するのは当たり前ですが、無駄な出費がないか市民に使い道をわかりやすく開示して意見交換する場があればいいと思っています。

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

北区

提出方法

WEB

あいの里のように地域によっては地下鉄、市電がなく、交通手段が主に JR とバスしかないため、高齢者の間でも格差が生まれていると私は感じている。

アプリで対策をしようとするのもよいと思うが、敬老パス自体も JR でも使えるようにしてほしい。

高齢者の割合がとても低かったころにできた制度で、そのころは成り立っていたが、現状は、全く違うということが、札幌市の資料からもわかると思う。

現状、子供世代のほうが少ないのに、子供世代への拡充はなぜされないのかがとても疑問で、高齢者ももちろん、頑張ってきたとは思いますが、自分たちを一番に考えているというのはかなりやばいのでは？と思う。

話は少し変わりますが、資料で 9 割が 4 万円以下のチャージしかしてないということでしたら、今まで通り、4 万円以下のチャージまでは今まで通りの自己負担の割合として、それを超えたら、より、とても大きい数値にしていくというほうがより良いのではないだろうか。

そうすれば 9 割がたの人には同意を得られるし、そっちのほうが最初から、大きい金額を変えるよりもまだいいと思う。

これだけだとまだ不足しすぎている面もあるし、将来性にも欠けるが、第一考案としてはまだいいだろうと思う。

経過措置の自己負担の割合が急激に増加しすぎているのも老人が文句を言う原因にもなっている。

老人が、今の日本の現状、若者の現状について理解を示せるように市がもっと説明したり、おじいちゃんおばあちゃんがいる子供たちに何らかの対策を講じていくことができるのなら、もっと革新してもよいのではないだろうか。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

「敬老パス」という名称自体が「敬う」という個人の感情を強制するような印象を与え、現在大きな社会問題になりつつある、学生や労働者による高齢者憎悪を煽っており不適切であると考えます。

まず、本件「敬老パス」について報道されているような多数の身勝手な言動のために、現代では高齢者が敬愛ではなく憎悪の対象になってしまっていることを率直に認めなければなりません。若い世代と日常的に接する者として、今の学生や労働者が持っている高齢者に対する憎悪の感情は、昭和生まれの我々にとっては想像を絶するようなレベルに達していることを強く実感しています。

こうなってしまう原因には高齢者のこれまでの功績に対する学生・労働者側の理解不足もあるでしょうが、高齢者側による現代の労働者が置かれている苦境に対する理解が不足していることが圧倒的に大きいと考えます。

現代の日本の労働者は、昭和世代が経験していない激しい国際競争や資源価格の高騰、著しく高騰した学費のための借金、そして高齢者を支えるための非常に高率な年金税や健康保険税といった、いまだかつてない厳しい環境下に置かれています。これを高齢者に対して周知することが第一でしょう。

そこで、労働者から失われてしまった高齢者への敬愛を取り戻すためにも「敬老パス」の名称を「勤労感謝パス」と改めることを提案します。そうすれば労働者もかつての勤労者であった高齢者への感謝を意識することができると同時に、高齢者もかつてより厳しい環境の中懸命に働いている労働者のおかげでこの制度が成り立っていることに気づくことができるので、世代間対立を和らげる効果が期待できるのではないのでしょうか。

「敬老」という文言を変えないまま制度を存続させることは、世代間対立を煽り取り返しのつかない自体を招くことにつながるため、賛成できません。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

結論から言うと、札幌市の見直し案の通りが良いと考えます。

持続可能な札幌市の運営を考えると、事実としていま現役世代2人ほどで1人の高齢者を養っているような時代に、現行の敬老パス制度のようなことを続けていたら今後立ち行かなくなるのは明白です。高齢者の生活も大変とは思いますが、やはり今後の札幌ひいては日本が存続していけるよう、時代に合わせて相応分の譲歩をして頂くのが妥当ではないかと思えます。

こうした問題においては高齢者と若者の世代間対立による分断を起こしてはいけませんので、札幌でともに生きるファミリーとして仲良く暮らしていけるようしっかりと説明をして進めていただきたいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

現在、敬老パスをつかってます。年五万円位で、ちょうど良いです。

この、市の、持続可能な制度、なかなかいい案だとおもっています。健康アプリとは、別に考えればと思います。

お年寄りも、この制度ありがたく受け止めて、それ相当の負担は必要だとおもいます。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

この計画の妥当性(効果)については、現時点ではよくわからないと考えます。

そのため、まず、この案にて試行したうえで5年後を目途に予定する検証で、妥当性を検証しては如何でしょう。

なお、その際、検証する項目を定量化するなど誰にでも理解しやすいものとしなければ、現在の議論(混乱?)が先送りされるだけだと考えます。

なお、これまでの議論、報道等を拝見し、感じたことを羅列します。

市長への要望の際、「世代間の分断をあおっている」というようなコメントがあったこと、意見交換会での若い世代からの発言について「やじ」があったこと、などあったようですが、見方を変えると高齢者は、「既得権を主張している」と現役世代(税負担者)から受け取られないか、が懸念されるようです。

「敬老優待乗車証」とありますが、70歳以上が人口の22.3%(2023年)を占めているとのことですが、「優待」すべき対象として多すぎると思います。

「健康寿命延伸に向けた取り組み」とありますが、この取り組みと健康寿命延伸との因果関係がよくわかりません。

アンケート等では、「通院」や「ボランティア」というキーワードが目につきました。これらについては別の方法で対応すべきではないでしょうか。

どこかの場面で、「子供は有料」というようなコメントがあったように思います。例えば、高齢者料金(大人の75%程度)の設定について、バス会社に差額を助成するなど、仕組みを単純化しては如何でしょうか。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

健康寿命延伸の為

①啓蒙活動

小中学高校での教える時間を取る。

内容としては、歩くことの大切さについて、人の体のすばらしさについて。

②皆保険の廃止

上記に関連し、自分の体は自分で守る事の大切さを理解する為に。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

若者の意見ということであげさせていただきます。

敬老パスの見直しについてですが制度として見直しについては賛成の立場になります。福祉施策としての敬老パスは若者世代の負担が増えるということもあり見直し自体はやむを得ないのではないかと考えます。

特に、高齢者部分の負担額の部分については増加はやむを得ない部分があるのではと感じていますので仕方の無いことだという認識です。

しかし、健康アプリ施策については少々疑問が残ります。

現役世代のスマートフォンなどと親和性の高い世代についてはアプリをインストールしてこまめに使うということが出来るかもしれません。

しかし、今現在の老年世代においてはスマートフォンがまともに使える人はあまり多くないというのもあり時期尚早なのではないかと思えます。

そのため敬老パスの見直しについては複数の選択肢を残しながら段階的に移行を促していくのが良いとは思えます。

段階的にと言っても 2 年程度の移行期間では足りないと思えます。10 年程度の移行期間を設けるべき事項だと考えます。

またそもそも敬老パスを福祉施策として健康アプリに移行していく必要があるのかは再度検討されるべき事項だと考えます。これは敬老パス施策と健康アプリ施策は別建てで検討されるべき事項であってひとつの施策として考えるのは大変宜しくないのではないかという話です。

そのため福祉施策として健康アプリを新規開発することについては(中身については除くが)何も問題は無いと考えますが、その延長線上で敬老パスの廃止というのは少々やりすぎではないかと考えます。

意見の内容

年代

20～29 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

北海道の大学に通う学生です。

昨今、敬老優待乗車証(以下、敬老パス)について様々な議論がされていますが、1 人の学生としての意見をお伝えさせていただきます。

まず、敬老パスの存続については賛成ですが、制度を存続させるためには見直しが必要であると考えました。

現在の敬老パスは、最大 17,000 円のチャージで 70,000 円分を利用できるようになっています。差額の 53,000 円の負担は現役世代の負担となっていますが、少子高齢化が進み、20 年前と比較すると高齢者人口は 10%以上増加しています。今後も高齢者人口は札幌市のみではなく、日本全国で進むことが厚生労働省の資料からも予測されているため、現役世代の負担はより増加してしまうことが容易に予測することができます。

そのため、以前と同じように高齢者を優遇するのではなく、日常的に公共交通機関を利用する現役世代にも敬老パスと同様なサービスを与える、または、既に議論がされている敬老パスの制度そのものを改善することが必要であるといえます。

改善案の例として、敬老パスの利用金額の上限を 70,000 円から 50,000 円に変更する、地下鉄やバス、路面電車を利用した際に SAPICA と同様にポイント還元を行う(現在は 3%ですが、敬老パスでは 10%にする等)、自動車免許を返納した人や近所に公共交通機関が無い人が優先的に利用できるようにするといった改善案の例を挙げさせていただきます。

高齢者の意見を聞くことも大切ですが、現役世代の意見も取り入れること、分断を生むことをできる限り避けること、利用者と負担者の双方が納得するための制度にすることが大切であると考えました。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

一番年金受給良い時代の世代が権利意識ばかりで不満を感じます。
敬老パスの予算を他の除雪含めて有効に使わなければだめです。
昔の権利意識の時代は終わってます。
秋元さんもしっかり意見を言わないと職員が疲弊します。
議員の意見を無視して自分を意見を言ってください。
私も、来年対象者になりますが敬老パスはいらないです。
意見交換会があればよんでくれれば発言します。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

健康アプリの導入は、幾つもの健康への悪影響と、個人健康情報の流出が懸念される。

1:健康アプリの導入の事業経費が示されていない。参入は外資系企業でも好いのか？

2:健康アプリに載せるデータの種類が示されていない。歩数計だけでなく、位置情報、脈拍、体温、呼吸数、体重、体脂肪率、等も載せるのか？導入後に、後付けで、次々と、なし崩し的に、追加されるのでは無いか？

3:健康アプリは「歩きスマホ」を誘発し、他の歩行者との激突や、交通事故に巻き込まれ易く成る。

4:コロナワクチン接種者は、体内に酸化グラフィンが入っているので、健康アプリでスマホが、長時間の通信状態と成るので、そのマイクロ波の被曝により、心臓疾患や血栓、等を引き起し易い。

5:スマホはセキュリティが低いので、健康アプリのデータが流出し易い。

6:健康アプリを数十万人が利用した場合、基地局からのマイクロ波で周辺住民は迷惑し、電磁波過敏症を増加させる。

7:健康アプリを数十万人が利用した場合、基地局との交信による、電力消費も大幅に増加する。節電に反する事業を、市が勧めるべきでは無い。

8:後期高齢者の中で、スマホを使い熟せる比率が低いことから、健康アプリの導入自体に意味が薄い。

9:位置情報や歩行コースが、第三者に流出すると、拉致、誘拐に巻き込まれ易くなる。

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

中央区

提出方法

WEB

札幌の健康寿命の延伸のためには、高齢者向けの制度でのポピュレーションアプローチではなく、全世代に自らの健康を見直してもらうユニバーサルアプローチが必要であると考える。

その実現に向け、市民にとっての「健康」の位置づけを「あって当たり前のもの」ではなく、「自らつくるもの」へと変える必要がある。

1946 年、世界保健機関 WHO を設立したスーミン・スー博士は「健康とは、肉体的、精神的、社会的に満たされた Well-being な状態」と提唱した。これら全ての要件を満たし、健康な状態を実現することは極めて難しい。

だからこそ、健康はあって当たり前のものではなく、自ら作り上げる一つの目標のようなものとして、札幌市民の幅広い世代に認知してもらうことが必要だと考える。

そのために自分自身の健康について見直し、自分の行動の在り方を考え直す機会として、令和 8 年 4 月リリース予定の「健康アプリ」の拡大活用を提案する。より効果を上げるためには下記 4 点の変更が必要であると考えている。

1 つ目は対象者を 40 歳以上から 18 歳以上への引き下げである。健康寿命を伸ばすためには、年齢を重ねてからの対策ではなく、若いうちからの対策をすることが必要であり、より多くの札幌市民にこの健康アプリを通して自らの健康を見直し、健康を作り出すための行動を起こす機会を提供することができる。

2 つ目はスマートフォンでの事業参加に加え、母子手帳のような、この取組専用の紙媒体での参加を可能とすることである。電子機器の使用に馴染みのない高齢者の方々も気軽に参加できるようにすることで、従来の目的でもあった高齢者への健康寿命の延伸に向けたアプローチを行うことができる。

3 つ目に、ポイントを獲得できる活動の拡大である。健康診断やワクチン接種など、身体的な健康を保つために必要な活動の他、肉体的に満たされた状態を実現する活動の他、夏休みラジオ体操や札幌雪まつりなど地域のイベントまたは、札幌市協賛の催しに参加することでコミュニティの強化、構築を通し、精神的、社会的に満たされた状態を作ることが期待できる。肉体的に満たされた状態にする活動を必須項目とし、一定のポイントを獲得することができ、精神的、社会的に満たされた状態にするための活動の回数に応じて、そのポイントを獲得することができる。全ての活動において、参加証明書が必要であり、札幌市が対象イベントで発行する。紙媒体での記録を行う人は、シールまたは、スタンプでの参加証明、アプリで行っている人は、会場に設置された QR

コードを読み取り、アプリ上で記録する。地域のイベントのような「人に会うこと」をポイント獲得の対象とすることは、札幌市民の新たなコミュニティの構築、強化に繋がり、Well-being の精神的、社会的に満たされた状態の実現に効果的であると考える。

4 つ目は、獲得したポイントの活用方法の変更である。抽選や電子マネーではなく、自治体で使用可能な商品券に換算することで、健康づくりに参加した市民自身にも、その市民を支える地域にも商品券という形で還元し、地域コミュニティの拡充及び、消費活動、札幌の経済の活性化を図ることで、さらなる保健、社会制度の強化にも繋がると考える。

上記 4 つを変更を実現することにより、この健康アプリを通して、札幌市民の幅広い世代に自らの健康を見直す機会を提供し、Well-being の周知、及び広範囲での実現で、札幌の健康寿命を伸ばすことができると考える。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

北海道の健康寿命の割合は厚生労働省発表の健康寿命の令和 4 年値についてによると延びている。敬老パスのおかげなのか？であれば目的とする数字はどれほどか。そもそも雪の積もる北海道において、他府県と同様な結果を求めるのは無理な話である。健康寿命を上げたいのであれば、子どもの運動能力を上げる(他府県と同等にする)努力をするのが先であり簡単なはずである。この地に住む人は、好き好んで雪のある札幌に移り住む人間よりも、そもそも住んでいる人間やかつて住んでいた人間の方が多いと考えられるから(根拠はない)。

公共交通機関は「歩けないほど遠く」に行くための手段であり、健康寿命を上げるための手段ではない。

効果があるのであれば縮小しながらも続けていければよいと思うが、検証はされているのか。

今まであったものを無くすのは大変だということはわかる。そこが市長の役割だと思うので頑張ってください。

敬老パスはいらない。自分の所持金でできないことはしない。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パス制度の見直しについて消極的賛成です。

基本的に敬老パス制度は今のまま維持してほしいのですが、今の財政状態を考えると見直しせざるを得ない状況だと思います。昔と今はあまりにも違いすぎます。

また、(仮称)健康アプリについて。なぜ 40 代以上からが対象なのでしょう？このアプリには「人と会う」こともポイント付与条件になっています。これでは 40 代以上の方々だけのややせまい交流になってしまいます。対象年齢を 18 才以上にして、もっと広く多様性のある交流ができるようにすべきだと思います。ボランティア参加も 10-20 代の若い世代の参加促進にもなるでしょう。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

基本的に実施案には賛成です。

但し、以下の意見です。

取組 1.対象年齢引き上げは、5 年程かけてください。

取組 2.負担割合は 2 万円、4 万円と 2 段階の割合、高額利用は通勤に利用している方が多いと思います。

尚、市は市民の年齢構成等把握出来るのですから、もう少し先の見通しを正しく立てるべきと、思慮します。

宜しくお願い致します。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

健康アプリの対象年齢の根拠が不明です。

札幌市の健康寿命が低い理由や、そのためにどの年齢から対策が必要なのか統計的なデータの裏付けがあると、わかり良いです。

特に札幌市は、冬期間運動不足になりがちですので、身近に運動施設や地下歩行空間の様な、雪を気にせず歩ける場所の整備も合わせて必要と考えます。

①敬老パス制度と目指す方向は変わりませんとありますが、

健康寿命男性約 72 年、女性約 75 年

敬老パスの対象年齢 70 歳→75 歳

年齢の引き上げは、健康寿命延伸に向けた取り組みに反すると感じました。

②敬老パスの案内は、全対象者に送付するのではなく、申請制にしてはいかがでしょうか。

③利用実態から上限額の引下げ(2 万円が妥当)及び自己負担額の引き上げ(素案の通り)を希望します。

※敬老パスの本来の目的と違い、通勤費となっている方もいらっしゃる様です。全ては税金です。スパーっと切り込んでも良いと思います。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

【敬老パスを存続する件】

かつて高齢者が少数だったころは、高齢者は敬老の対象だったが、今や人口の3分の1を占めるようになり、これからの超高齢社会を維持していくには、社会に支えられる側から、若者と一緒に社会を支える担い手にならざるを得ない。また、高齢者はその意識を持つべきである。行政も総花的な解決を図るのではなく、敬老パスは超高齢社会では時代錯誤ということで、全面廃止すべきである。行政として、全面廃止という勇気ある決断を期待します。また、応援します。

ただ、全面廃止という英断はできないと思いますので、以下の通り意見を述べます。

【対象年齢を 75 歳に引き上げる件】反対

日本人の健康寿命は、男性約72歳、女性約74歳です。

札幌市から敬老パスの目的には、この健康寿命を延ばすことがあるとの説明がありません。

この度、敬老パスの交付年齢を75歳に引き上げるとの提案ですが、健康寿命を過ぎてから交付しても、健康寿命を延ばすことに資することができないのではないのでしょうか。

この度の提案は、健康寿命を延ばすことに矛盾していると思います。

したがって、対象年齢を75歳に引き上げる件は反対です。

【チャージ額について】賛成

私は、ちえりあや各大学のセミナーなどの生涯学習、トレーニング、通院などに地下鉄等を利用しており、自分ではかなり出歩いているほうだと思います。それでも交通費は月平均 3,000 円程度、年間で 4 万円程度です。

通勤に敬老パスを利用する方もいると側聞してますが、それも高齢者の社会参加に役立っている以上、一概に否定すべきではないとは思いますが、報酬を得ている以上、交通費で職場から支給していただくのが筋だと思います。

したがって、年間 4 万円に制限するのは妥当と考えます。

【負担額】賛成

交通費を半額でも補助していただければ、非常に助かりますので、自己負担額を50%に引き上げることには賛成します。

【健康アプリについて】判断不能

健康アプリの概要が不明なので、判断できません。

具体的にイメージできるよう、例えば、チエリアの講座参加 1 回につき、50 ポイント。図書館 1 回利用につき、10 ポイント付与など、具体的な事業とポイントがわかるように提示してください。24 年度中の発表をお願いします。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

まず敬老パスについては可能な限り早い段階で廃止すべきと考えます。

自治体の財政には限りがあります。その中で将来の地域の財産になるものに手厚く回すべきです。何が将来の札幌市の財産となりうるか。それは「子供」「産業」「観光遺産」だと考えます。

教育費や観光資源の整備、産業振興のためのインフラや企業誘致などは未来の収入増につながります。財政運営の中で絶対に確保すべきものとそうでないものはどうしても現実問題出てきます。

敬老世代の切り捨てだという声もあるのは事実です。ですが、社会全体のために決断しなければ地域そのものが死にます。

個人的な話ですが、私たちの家庭は子供がいません。それでも私は子供のために税金が使われるのであれば負担増は我慢します。それが自分の未来のためにもなると信じているからです。それに私も人生の折り返しに差し掛かりました。残りの人生で何を残せるかについてよく考えます。私も含めそれ以上の世代の方々には自分が将来地域のために何を残せるかを考えていただきたいです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

数十年前から高齢化社会が予測された中、当初、無料であったことに驚きがある。現行の制度は、福祉なのか保健の事業なのか曖昧である。当初の流れから高齢者に対する福祉事業と思う。補助事業は、補助率50%以下でなければ、補助でなく、事業者は、札幌市と思う。

しかし、敬老パスは、免許の返納者、通院及び買い物難民の私にとっては、大変助かりますので、限度額を4万円、補助率を50%に引き下げることであれば、我慢できます。今後、団塊の世代が減少すると、敬老パスの使用者は減少すると思います。高齢者になればなるほど、健康差が出てくるので、健康事業への参加についてポイントをつけそれに敬老パスに付与するのは反対である。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

「市長と語ろう！敬老パス」(以下市長対話と呼びます)の動画見ました。

20代の方、立派な意見でした。あのような完全アウェイの環境の中、よくぞ言っていただけました。頭が下がります。

私は現役世代であり、敬老パスの制度には反対の立場です。制度自体不要と思っています。

説明会や市長対話では大半が見直し反対の方でしょうが、見直し賛成の方や制度不要と思っている方は参加していないだけです。

札幌市を含め現代の日本は現役世代が高齢者の年金や医療費等を負担している構図であることは間違いありません。

30年前から介護保険料は4倍になりました。消費税という闇深き税金も増えました。35年前は0%です。インフレも進んでいます。

対して、日本人の所得の中央値は30年前から100万円下がっています。

働いても働いても手元にお金が残りません。現役世代の人数は減っているのに税負担は増える一方。これからもっと悪化します。

今までの制度、市民サービスが維持できるわけがないことは明白です。

財源がないため維持できないと説明してもよいのでは？と思っています。

安芸高田市では「財政破綻を免れるため、不要な事業は廃止しなければならない」と市長自らが市民に対し説明しています。結果、多くの事業を廃止したにも関わらず絶大な支持を得ていました。市民にもきちんと市の財政状況を説明し、納得していただけたからです。

札幌市がそういう説明をしないから札幌市民には危機感がない(=なんでも欲しがらだけ)のだと思います。

これまで納税してきたと偉そうに語っている高齢者がいましたが、現役世代に負担を強いる国を作ってきた責任を棚にあげ、今よりずっと楽な時代を逃げ切った立場で交通費まで要求するとは呆れ果てます。

あと市長対話や説明会で反対するのは結構ですが、人が話している途中で横やりを入れるようなヤジは民度が低いとしか言いようがありません。

一人間として恥ずかしいです。

長くなりましたが、現役世代にも還元される公平性のある予算配分をお願いします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

総人口のうち高齢者人口が占める割合が 10%を超えるのは、1995 年の統計期で明らかになりました。2020 年には 27.8%となっています。2010 年からは人口の自然増加は減少となっています。行政というのは、先を見越して手を打っていくのが役割なのではないでしょうか。

今回の敬老パスの問題でも、23 年末に一方的に変更が報道され、24 年初めに説明会が行われ、唐突に現行の敬老パスを廃止する、これをごまかすかのように健康敬老パスを導入する。しかも中身は検討不足で質問に「検討中」や「推測」でしか答えられない。こういう状況であるのに、2024 年度予算には変更のための 7 億円強を予算化しました。

札幌市の行為は、結論ありきが前提で、従わせるというように感じる横暴さを感じました。

さらに不信を助長させたのが、秋元市長の高齢者と子育て世代・若者と対立を煽る発言です。行政能力が問われるものです。

本来であれば、先に札幌市の実情を明らかにして、市民対話を繰り返すことが必要だったと思います。年初めの説明会でも、低年金、高物価など、生活苦にあえぐ中、少しぐらいなら値上げも覚悟するとした発言は聞かれました。合意を図るための基盤はあったと思います。現状は、どういう結論となっても禍根の残るものとなります。

先を見越し、先手先手と住民に問題を提起し、市民対話を繰り返し、納得性を高めるとともに、対案であったり、提起した事業の展望などを示し、よりよい成果に結びつけるのが行政だと思います。地方自治は民主主義の学校です。ここを徹底すべきです。

1-4 健康アプリの取組

「敬老パスと目指す方向は変わりません」は、違います。健康アプリには、敬老パス制度にある敬愛という精神が形骸化しています。

アプリ活用前提を筆頭に、「日々の健康づくりでポイント獲得」の実現性など、高齢者が利用するには困難度が高くなっていることです。これまでの外出支援や健康維持・増進などの効果を著しく低減させるものです。

あわせてごさかしいと思うのは、40 歳以上が事業対象者だということです。健康寿命を延ばすのであれば、早くからの対策が必要です。これを 40 歳以上とするのは、介護保険基金を事業の財源とするからだと思います。基金は今後の介護保険料値上げなどの対応策とされています。これを財源に健康アプリを成り立たせるというのは、昔の

「消えた年金」時代のグリーンピアを彷彿させるものです。一方で若者と対立を煽り、一方では介護保険基金を財源とするという「こざかしさ」です。本気になってやるのであれば、一般財源で考えるべきです。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

申請制度にして交付料として 1 人 1,000 円徴収すると良いと思います。
敬老パスを渡しても使用しない(チャージしない)人が一定数いると思います。
申請・交付料とすることで、交付されて使用しない人から収入が見込めると思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

今回改正する理由は何ですか。

財政上の問題ですか？公平感ですか？それとも健康増進ですか？

札幌市では「敬老パス」の本来の目的に立ち返るべきです。

そして、過去の利用状況(利用額や年齢と主な目的)また、利用しない人の理由(コロナなど特殊な状況は除く)を調べることも必要です。更に、リタイアの10年は何を意味するのでしょうか。定年が65才になっても体力の衰えはかわりなく70才は70才です。最後に、健康アプリは別の施策として計画すべきで、「敬老パス」問題と一緒にすると混乱し賛同が得られにくくなると思います。

利用している人達に既得権意識を持っている人も多いので、丁寧にわかりやすい説明をすることが必要でしょう。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

私ももう少しで年金生活者になりますが、高齢者が多くなりすぎて、いまや予算が追いつかないのに、今のまま続けてほしいと言う意見をする人に逆にこの制度を、どのようにしたいのか聞きたいです。JR やタクシーにも使える制度を推し進めるとか、札幌市も考えていると思うので、このまま上がり続ける予算でどのような敬老パスにしたいのか意見を教えてください。反対するだけなら誰でもできます！

高額利用している方が少人数な、このような敬老パスを考え直すいい時だと思います。今の若者は自分たちの時には年金だけでは生活できないのでしっかりと貯蓄しています。今の高齢者の多くは年金だけで生活できるじゃないですか！

今の敬老パスは、高齢者優遇パスだと思いますので、秋元市長のお考えを応援しております！

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

1. 私たち夫婦の敬老パスの利用の実態

75 歳を超える私たち夫婦の敬老パスの利用は、大通や大谷地にある病院への通院、春と秋の円山動物園・中島公園、創成川沿いのライラック見物や大通りの催事、書店等の買物などで、2 万円以内の利用です。我々夫婦にとって、敬老パスは札幌市に住んでいて良かったと感じさせてくれるものの一つです。

以前は、地下鉄二駅ぐらいい歩けましたが、今では一駅がせいぜいです。ですから、敬老パスは通院等の外出や高齢者の楽しみに役だっています。また、自分の健康は自分で、買物兼散歩も趣味の一つで、万歩計持参で、一日平均 8000 歩以上歩いています。

そんな中で、もし、これが、改正案どおり改正されると、負担の面で、今まで 2 万円チャージしていたのが、1 万円チャージになり、外出や楽しみが半分に制限され、札幌市に住んでいて良かったと思えない、さびしい老後の生活になると思います。きっと、あの頃は良かったと夫婦で話すことになるでしょう。

2. 今回の敬老パス制度改正でわからないこと

①現行の敬老パス制度の維持費用で、何にどれだけ経費がかかっているのかがわからない。例えば、チャージの委託手数料、維持管理費用、乗車券費用等、何にお金がどれだけかかっているのかがわからない。したがって、改善すべきところがわからないし、経費がかかっているとされても、納得性もありません。

②新設の健康アプリの開発費と維持管理費用がわからない。また、どれだけの人が利用されるのか、想定利用者数もわからない。さらに、健康アプリで付与されるポイント（電子マネー）の上限金額がいくらを想定しているのか、その経費はどこから捻出されるのかもわかりません。

③敬老パス利用をJRやタクシーまで拡大した場合のソフト等の改修費用がどれだけかかるのか、わかりません。

④福祉費用で支出されている敬老パスの利用の地下鉄乗車料収入は札幌市交通局の収入に貢献していると思っているのですが、敬老パスの利用減に伴う札幌市交通局の減収分は考慮されているのかわからない。私は、札幌の地下鉄は重要インフラであり、それが存続可能となるためにも、車利用から地下鉄利用に変えた一人です。敬老パスの利用も地下鉄の維持に役に立っていると思って利用していましたが、今後、それができなくなります。地下鉄利用者の減少が料金値上げ、さらに、利用者減と悪循環となり、

地下鉄の持続可能性が危うくならないか心配になります。

3. 今回の敬老パス制度改正の問題点

①現在の改正案では、高齢者の負担増をお願いするが、その分楽しみがある、という案になっていません。一方的に、敬老パスを支える世代の負担ばかり強調され、敬老パス利用者の一人として、肩身が狭い思いをしております。

②敬老パスと健康アプリのどちらかを選択制にする改正案では、75 歳以上では敬老パスと健康アプリの両方を利用できないこととなります。ということは、敬老パスを利用する 75 歳以上は健康寿命延伸の対象者ではないということになりますか。札幌市の改正案では健康長寿延伸対象者は75歳未満の市民とは書いていませんが、札幌市の案には、その様な意図が隠れているようにも理解できます。選択制を取るがゆえであり、75 歳以上の高齢者はどうでもよいということなのか、との反発が出るのももつともな話だと思います。

③いきなり、対象年齢を70歳から75歳に変更するのも乱暴な話だと思います。同じ政令市の名古屋市では65歳以上、横浜市は70歳以上が敬老パスの対象年齢としております。札幌市が他の政令市より財政的に厳しいという認識を持っていませんでしたので、札幌市が他の政令市とは違い、財政的にという説明が足りないのではないのでしょうか。

対象年齢を70歳とするのは健康寿命を迎える前だから意味があります。それを75歳にするのは高齢者福祉ではなく、財政的理由でしかありません。

④世代の負担として、若い世代の負担軽減と言いますが、負担の問題は敬老パスだけではないと思います。札幌市の税の使い道全体を見直す中で、70歳以上の高齢者の負担増というなら理解できますが、敬老パスだけをやり玉にする今回のやり方は高齢者の反感を招くだけで、協力は得られないでしょう。

⑤今回の制度改正の趣旨は、案1の敬老パスを維持する経費が重たいので、75歳以上の高齢者が負担増をし、75歳以上の高齢者自身を支える政策なのか、案2の敬老パス利用者の負担増をし、そのお金で、健康アプリのポイント(電子マネー)のお金を捻出するという、75歳以上の敬老パス利用高齢市民が75歳未満の健康アプリ利用市民を支える案なのか、どうも案2のように思える。2案とも、高齢者福祉政策ではなくるので、札幌市として看板の掛け替えが必要となるのではないのでしょうか。

⑥改正案は利用者の多い1~2万円の利用者の負担を重くする案であり、敬老パス利用者の気持ちに添わない案です。札幌市の考えは収支改善が目的で、高齢市民の健康と福祉に寄り添うことが目的でないことが明白に思えます。

4. 今回の改正見直しへの提案

①7万円を4万円にすることは賛成です。70歳以上の高齢者が7万円も使う人がいることに驚きです。

②70歳を75歳にすることは反対です。敬老パスの利用開始は健康寿命前であるべきです。

③敬老パスでタクシーやJRの利用は基本反対です。なぜなら、ソフト等の改修費用が莫大になる懸念があるからです。

ただし、ソフト等改修費用が少額であること、または、タクシー業界やJRがソフト等改修費用を負担するなら再考すべきです。

④敬老パスと健康アプリのどちらかの選択制も反対です。70 歳以上はどちらも利用可能とすべきです。

そこで、次の 3 パターンを提案します。

・70 歳以上の場合

パターンA敬老パスと健康アプリ併用で、敬老パスの利用金額を 4 万円までとし、電子マネーの付与はしない

ただし、敬老パス利用のみも可とします。

パターンB敬老パスと健康アプリ併用で、敬老パスの利用金額を 2 万円までとし、電子マネーの付与はする

・40 歳から 69 歳までの場合

パターンC健康アプリで、電子マネーの付与はする

⑤健康アプリで使える電子マネーで、がん検診を含むとくとく検診の受診時に使用できるようにする。

⑥敬老パスのチャージは年 1 回とし、チャージの委託手数料を削減する。

⑦70 歳以上の高齢者も制度を支える側であることは理解できますので、現行制度より負担増はしかたがないと思います。問題は増額の程度です。負担比率については、改正案では、3 年後には 5 割負担になる、とても厳しい案なので、せめて、最大現行の負担額の 2 倍とするのが、精一杯ではないでしょうか。これを 3 年かけて最大現行の負担額の 2 倍とする。ただし、チャージ 1 万円はもともと負担割合が低かったことから 3 倍とすることを提案します。

例として、1 万円は 3 千円(3 割負担)、2 万円は 6 千円(3 割負担)、3 万円は 1 万 2 千円(4 割負担)、4 万円は 1 万 6 千円(4 割負担)とする。

	チャージ	10,000円	20,000円	30,000円	40,000円	備考
現行	自己割合	10%	15%	20%	20%	
	自己負担額	1,000円	3,000円	6,000円	8,000円	
提案	自己割合	30%	30%	40%	40%	負担額 2 倍ただし 1 万円は 3 倍
	自己負担額	3,000円	6,000円	12,000円	16,000円	
改正案	自己割合	50%	50%	50%	50%	
	自己負担額	5,000円	10,000円	15,000円	20,000円	
	現行との倍率	5 倍	3.3 倍	2.5 倍	2.5 倍	

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

札幌市の財政事情が厳しい事は理解出来るので、敬老パスの自己負担額が多くなる事は、仕方がない事だと思う。

①半額の負担はやむ負えないと思うが、敬老パスを7万円分から4万円分に減額する事には反対である。

現状の敬老パス受給該当者のチャージ金額の平均が2万6千円くらいであるので、上限を5万円にするのが限界ではないか？半額負担なら7万円上限もあっては良いのではないかと考える。

②敬老パスの支給年齢を75歳に引き上げる案には、明確に反対する。支給年齢は現状の70歳を維持してもらいたい。

①の理由として、市の担当部局の過去データで、現状のチャージされた敬老パス金額を1万円強とするデータがあるが、何故か支給対象者数を分母とした。意味の無いと言うより、金額をわざと小さく見せる数字を発表している。

本来のチャージ者数を分母とする金額に置き換えると、2万6千円くらいになるものを、小さい数字に置き換えて、見る者の目を欺いている(サモシイ)。

この事から、敬老パス金額上限を5万円とした。7万円を必要とする人が居るなら、負担額3万5千円で、7万円を維持する事も良いのではないかと考えられる。

②の理由として、市長は70歳でも働く人が増えている事を理由としている様だが、働くのは年金では生活出来ないの働いているのであって、余録を稼いでいる訳ではない。余録のある人は、ほんの一部だと思う。

冬季間と地下鉄乗車時しか使わない私自身でさえ、年間2万円分は利用している。

市長のように、何百万円の期末手当を貰える人には理解出来ないでしょうが、高齢者にとって、敬老パスは少ない手取りを減らさない大事な役割を担っているし、敬老パスを使って出かける事は、色々な事を見たり、他人と会話する健康維持にも役立っていると考えるのが妥当である。

私自身も半月板を損傷し、長距離の歩行が厳しい現状であるので、市長の言っている歩く事が健康維持には重要だとする考えには、全面的には賛同できない。

札幌市の財政が厳しいのであれば、市長の期末手当の廃止と、訳の分からない(区内に駅が無い)理由で延伸を画策している、東豊線の清田延伸など、絶対やってはいけない。

2回目のパブリックコメント提出になりますが、前回のコメントで述べた、半額負担上限

の5万円と対象年齢を現状と同じ70歳からにする件について、概算数字を使って、検証する。

市の担当部署がホームページに掲載しているデータ(金額表示をわざと小さく見せている)から、敬老パス交付者の平均チャージ額は、2万6千円ほどになっている(表示では、1万1千円強)。

一人当たり2万6千円 x チャージ者20万人で、約50億円の支出となる(市長のマスコミ発表とほぼ同じ)

ここからは、統計学上の数字の羅列になるので、実際の運営金額とは異なる数字となる事は、了承願いたい(議論を簡略化する手法の為)

チャージ額2万6千円の個人負担額は、現状は8千円/人となるので、半額負担にすると、1万3千円-8千円で5千円/人となり、5千円 x 20万人で10億円の市の負担軽減となる。チャージ額5万円上限なら、2万5千円-1万円で、1万5千円 x 20万人で30億円(実際には少ない数字になるでしょう)になる

チャージ額平均が2万6千円なので、さらに金額の多い人も一定数いると思われるので、上限額5万円を提案した、7万円はやはり多過ぎる感覚があるし、7万円を使う人は業務で使っている感が否めない。

支給対象を、健康寿命云々の訳の分からない理由付けで変えようとしていることに関し、健康寿命よりも市の支出削減を狙ったものである事は明白である。

市の5歳階級別人口から、70歳から74歳は15万人くらいと推定できるので、2万6千円 x 15万人で39億円の支出削減(ターゲットはこの部分である事は明白)

上限額を5万円で半額負担、対象年齢を75歳からとすると、合計で40数億円の支出削減が実行出来る

これは、高齢者に対する仕打ちに近い政策で、市の財政健全化を目指すのであれば、札幌ドームを大和ハウス工業に売却して、維持費10億円の削減や、市議への政策活動費の支給停止・市長を含む特別職の期末手当廃止などが考えられし、更に言えば、区内に駅が無いので延伸政策を掲げている、地下鉄東豊線の延伸など絶対やってはいけない政策である。

今回のパブリックコメントが何通寄せられるかは分かりませんが、制作担当部署として、意見を捉えた市長への提言を期待します

敬老パスの改正案の中に、歩いて健康維持する為のアプリに関する事が載っていました(詳細は不明)

アプリを使ったシステムについて、問題点と課題を挙げます。私がマイナンバーカードのポイント取得時に経験した事ですが、当時、私の使用していたiPhoneがアプリに対応していなくて、ポイント申請が出来ませんでした。その結果、多大な費用を負担して、スマホを買い換えました。

高齢者が所有しているスマホが、常に最新型のスマホではありませんし、最新型に変える理由も、使う頻度から言って、ありません。

運用するアプリを、市販されている全スマホに対応させる事は、費用の面からも不可能です。

このことから、今回の改正でアプリを導入した場合、数年後からアプリを使える高齢者は減っていきます。この事も企んでいるとした、とんでもない改正案と言わざるを得ない。

今回の改正案では、アプリの更新費用や高齢者のスマホ(対応可能な)の購入費用は含まれていないと考えます。

スマホの買い換えを高齢者に要求するなら、その事も明確に表示すべきではないのか？

若い人達のように、頻繁にスマホを使用するなら、電池の寿命等で2、3年での買い換えは必要となるでしょうが、高齢者であれば10年近く同じ機種を使う人も多くいると考えられる。

これらの問題点も明確にした上での、改正案の詳細な説明を明示する事を要求します。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

1-3 医療・介護など高齢者予算の推移とも関連するが、健康アプリへの切り替えに際しての25年度当初予算(案)では、約20%がシステム改修費として計上されていた。その分を含んだので、老パス予算が膨大になっていた。システム改修費に予算の20%を必要とするのは理解できない。

そこまでして健康アプリにこだわるのは政策的意図というより、システム改修業者に仕事を回すことで、景気刺激に貢献しようということではなかったのか。

この取り組みは40歳以上の市民を対象としており、敬老パスの対象となる高齢者とは全くことなるが、新制度と従来制度を比較しての議論は混乱を生んで当然だと思う。

また、予算規模の観点に重きをおいて高齢者への敬老パス制度の維持・見直しを提起しても、反感を買うだけだし、理解の促進にはつながらないと思う。仕切り直すべきだ。

本取組は全市民に公平であるのか。

健康づくりに取り組むことでポイント獲得という組み立てに重点がおかれたことにより、健康な市民を対象にした制度になっているように感ずる。

極端な例をあげると、高齢で、介護を要するような方、視覚に障害のある方、車いすユーザーのような方々はこの制度の恩恵を受けることができるのか。健康な人を対象にした制度としか思えない。

また、貯めたポイントは公共交通機関や買い物、抽選に参加できるとしているが、人手不足でバス路線が廃止されており、このような地域の住民は利用できるサービスが制約されてしまうように思えるが、素直に受け入れ難い。

「2-3 敬老パス制度の1人あたりの負担」の負担額の推移について

札幌市の想定する新制度への誘導を意図したものであろうが、人口の推移は事実の推計であるのに対し、現行制度を維持した際の1人あたりの負担額は札幌市の行政取組みで変わり得る未確定値である。

今回提示された表は、札幌市は現行制度を一切変更(改革・改善)をしないまま2060年度まで継続するということになるが、これでは札幌市の職員及び幹部はあまりにも改革の意欲がなく、かつ発想が貧困な組織という誤解を生むことになる。

もしこの考えで作成するのであれば、現在の制度を変えない場合の確実な数値にしておけば良かったと思う。具体的には、一挙に制度を変えることができないので5年後(2030年度)程度までだったのではないか。その程度であれば、若者世代の負担が大きくなる云々の不毛な議論や世代間の対立などの混乱は生まず、本来の議論が進ん

だのではないか。

2060年度までの表にしたことで世代間の断裂を生むことにつながっているように思える。残念だ。

実際、「2-6」で見直し後の表を提示しているが、それ以外の選択肢には廃止、上限や自己負担額の見直しなどを行った数値を加えて提示したとすると、世代間の断裂は生まなかったと思う。あまりにも新制度への移行を強硬に推進しようとするあまり混乱を招いたのは札幌市の姿勢(作成・提示した表を含む)そのものではないのか。

見直しを行うことで20歳以上の市民1人あたりの負担は2000年頃の負担と同水準の2000円になるとしている。そのことにより、札幌市は「制度を利用する世代と制度を支える世代、双方のご理解とご協力をお願いします」とのフレーズで市民に訴えているが、この考え方で良いのだろうか。

今回は随分と予算・経費を強調している感があるが、福祉部局だけの狭い枠内で考えるから、支える世代の負担を考えろという論になるのだろうか、例えば、敬老パスで交通機関を利用することで、バス会社や地下鉄等の路線維持にいくばくか貢献できるし、何より、バス路線が存続することで(20代以下の)中学・高校生等の通学の足を守ることに資することになる。

高齢者が通院でもバスなり地下鉄を利用することで、飲食や買い物をするので地域の経済活動に資することになる。それにより、20歳以上の世代だけでなく、効果は全年代層に波及する。このように考えると、札幌市が提示した「利用者」と「支える」側の経済的な負担に限定して論を進めるのには疑問がある。

さらに、支える側と支えられる側の金銭的負担に限っていえば、健康保険での医療費の負担で特に高度な治療を要する患者には、支える側の負担が大きすぎるから、患者さんも無理して治療を受けなくて良いとか、治らない病気なら無理して治療を受けなくて良いので考えて病院を受診しろと札幌市は主張しますか？そうではないのは、「お互いに」という考え方が根底にあるからではないか。

それからいえば、今回の場合は「健康で高齢期を過ごすために」とかにすれば良かったと考える。そして、意見が対立する中で強引に進めても良いことはないので、現行の敬老パス制度は廃止、検討中の新制度は中止とすることが良いし、白紙にして全世代向けの制度を構築する方が良いのではないか。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

利用可能金額ばかりが議論されているようですが、金額よりも使える交通手段の検討が必要だと思います。

念頭に置かなければいけないのは何よりも真っ先に「公平性」です！

バスや地下鉄の駅が近くなって JR だけしか使えない人は残念ながら何の恩恵もありません。

同じ高齢者なのに不公平だと思いませんか？

この機会に JR やタクシーにも使えるようにするべきです。

当初、案として出ていた JR、タクシーも使えるような話はどこへいったのでしょうか？

金額は少なくともいいので利用できる交通機関を検討して！

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パス制度の対象を非課税所得者などの低所得者のみに限定してください。
健康寿命の延伸という大きな題材はどうしても当の高齢者には理解しがたく、実施には費用がかかりすぎます。
また、裕福な高齢者に市税を使う余裕はないはずです。したがって単純に今の制度を継続し対象を非課税所得者などの低所得者に限定すると増え続ける高齢者にかかる市税を少しでも削減できると思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

◎敬老パスの料金は大幅な減額に賛成です。

・地下鉄、路面電車や中央バスが何本も走っている地域の方は利用頻度が多くメリットがあります。しかし、私が住む手稲の奥やJR バスの地域は全く利用できません～利用できるのはJR バスのみです～そのバスも何本も走っていません札幌駅までは一時間もかかります。JR なら 20 分で行けますが運賃は 1000 円かかります。敬老パスを利用することはできません。敬老パスを利用したのは雪祭りで最初に 1000 円分を入れて地下鉄札幌駅から大通駅までの間で 2 回か 3 回使っただけです。

・TV ニュースで改正に反対している声や 7 万円分も使っている話しには腹が立ちます。若い世代の負担の話しが出ると反発したりヤジまででるのを見ると身勝手なものだと不快になります。

・どれも賛成は静かで反対反発は猛烈と言うのが常です～放送も大きな声で反対と言うのを取りあげるので反対が多いと見せています→身勝手なものだと呆れます。

◎敬老パスは利用の公平からも大幅に減額すべきです。JR も利用できるようになればと思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

敬老パス制度における 1 人あたり負担が将来的に負担増になると、グラフなどで示しているが、20 歳以上の人口の推移と、70 歳以上の人口の推移の割合を単純に比較し、現役世代の負担が増えるとしているが、その根拠はあまりにも短絡的で、敬老パス制度に予算をかけたくないために示したデータであり、恣意的である。

またこの示し方は、現役世代と高齢者世代を分断することになり、それを行政が絶対に行うべきではない。

実際には、高齢者であっても、税金などを納めているし、経済活動を行って間接的に札幌市の税収に貢献している。

健康寿命の延伸や札幌市の財政安定化を図りたいというのであれば、敬老パス制度はタクシーや JR でも利用できるよう対象を拡大し、高齢者の外出支援をさらに促すようにすべきである。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

今年67歳になる男性です。札幌市が掲げる「高齢パス制度」見直しに賛成です。

財政および現役世代の負担増を容認できる社会情勢にはないと思います。

現制度の継続は現状維持ではありません。高齢者人口増加と生産年齢減少により、必要財源の急増と現役世代のさらなる負担を強いることを意味します。

目先の損得ではなく、札幌市が持続可能で魅力ある都市であり続けるため、限りある資源(財政)の再配分、現役世代の負担感や財政課題の克服、未来への投資が重要と考えます。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、札幌市の 2045 年人口推計(2020 年比)は、

総人口マイナス 8.3%(16万4千人減少)

生産年齢人口マイナス 21.0%(25万4千人減少)

70歳以上人口プラス 34.4%(14万2千人増加)、が想定されます。(全国同様のトレンド)

高齢人口の急増と生産年齢人口の著しい減少、支える側と支えられる側のバランスが急激に崩れ歪な構造となることが想定されます。

過去に経験ない未知の領域で多くの社会問題が顕在化すると思われます。地域経済、国や自治体の財政は急速に萎んでいきます。

限りある資源、萎んでいく財政下で、地域や子供たちの将来を見据えた戦略的かつ効果的な資源投下や再配分がますます必要となります。

説明会の動画を見ました。

高齢参加者から、現制度の継続維持イコール現状維持という認識の意見が散見されました。

現制度維持は、人口構造変化により財政や現役の負担増をもたらし、決して現状維持ではないことが理解されていないと感じました。

28歳の方の勇気ある発言に共感し賛同します。心無いヤジには心の貧しさと恥ずかしさを感じました。

高齢世代と現役世代との分断させないでほしい旨の発言がありましたが、現制度維持の主張がまさしく世代間断絶を惹起していることに気づいてほしいと思います。

やや情緒的になりますが、67歳を目前とする私は、先輩たちのこの課題への振る舞いを大変恥ずかしく苦々しく感じました。

敬老制度とは、現役世代の方々がお年寄りを敬い労いの気持ちを形にしたもので、高齢世代が現役世代に「もっとよこせ」と「おねだり」するものではありません。反対する高齢者の方々の振る舞いは現役世代に「せびっている」状況に映ります。今の現役世代とりわけ若い世代の方々は決して経済的には恵まれた状況にありません。金銭的理由から結婚や子供を持つことを躊躇せざるを得ない若者も多数います。しかし、これからの地域や国を支えてもらわなければならない方々です。私たち高齢世代は将来を担ってもらおう彼らを応援する立場であるべきではないでしょうか。

最後に蛇足ですが、「現状維持」について…

現在の敬老パス予算48億円を固定(キャップ)し高齢者間で配分する(一人当たり補助額は減る)ことも現状維持です。

言い換えれば今回の札幌市案はそういう意味では現状維持で敬老パス予算を減額しているわけではないと思います。現在の社会情勢では現状維持でも大変なことだと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老パス見直し案には反対です！

財政に限りがあるのは当然です。しかし、アクセス道路の建設など敬老パス以上に無駄な建設です。オリパラの招致にしてもどれだけ無駄な税金が使われたでしょう。

健康アプリが悪いと思いませんが敬老パスとは別物です。むしろ、敬老パスとは関係無く若者たちに使ってもらい、こんな風に使うのか、こんないい事があるのかと市民に周知していく事で市民全体に理解が広まるのではないのでしょうか。今のようやり方では若者と高齢者を分断するだけで何も発展的に解決しないと思います。

札幌市の財政で何が無駄なのか立場で意見はそれぞれあるかと思っています。もっと時間をかけ、考えてほしいです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

○1-4:アプリの取り組み(①スマートフォン事業参加②アプリ活動の健康管理ポイント付与③貯めたポイントを付与を電子マネー抽選)についてアプリ開発費用でコスト増になるので、実施しない。

○2-4～2-5:新しい敬老パス制度は、札幌市の案に賛成です。

*「オッカムのカミソリ」の言葉があるように、シンプルが一番で、アプリ・ワンクリックは判断力が鈍っている高齢者には無理です。又、「健康寿命を延ばす為」の言いましは、費用を減らしたら動かなくなるので、まったく逆で、詭弁に聞こえます。

○市の財政の無駄を省く:冬季オリンピックの誘致失敗、ドーム等の運用の失敗、素人がやっているように見えます。札幌市民の税金を使って進めていますので、責任のある、怠けた行政をしないで下さい。

○私自身、銀行、整理回収機構、中小企業で経理畑を長くやってきましたので今後、市の財政に参画していきたいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

昨年10月に70歳になり、適度に便利に敬老パスを利用しているものです。

結論から申しますと、現在、札幌市が考えられている見直し案に賛同します。

70歳の誕生日前に敬老パスの案内が届き、内容を拝見したときに、あまりにも優遇されていることに驚きました。同時に、それを負担せざるを得ない若い世代に申し訳ないという思いになりました。

仕事の都合で札幌市以外にも、東京都、大阪市、神戸市に延べで30年ほど住んだ経験がありますが、他の政令都市と比べても高齢者の負担割合が少なすぎると思っています。

すでに優遇制度にどっぷり浸っている方々からすれば、「いまさらやめないでほしい」と言われる心情はそれなりに理解できますが、提示されている統計データには合理性と説得力があると思います。

毅然とした態度で見直し案を実行していただくことを願っています。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

高齢化及び少子化の進行や市営交通の経営状況等を考慮すると、現制度の見直しは必要と考えます。

年齢を 75 歳に、負担額を 50%に引き上げるのも結論としてやむを得ないと考えます。

しかし、見直しが健康寿命のためであるような論法、チャージ上限額の設定、当面は存続といった手法では、現利用者の理解を得るのは相当困難であり、5年後のさらなるハレーションが目に見えます。素案はこじつけというか策に溺れて迷路に迷い込んだ印象がぬぐえません。

高齢化と経営状況等の客観的データを元に正面突破し、単純明快で持続可能な改正案にすべきです。

そこで発想を転換し、75 歳以上の料金枠を設定し大人の半額(子供料金と同じ)とすることを提案します。

公共交通の利用は応分の負担が大前提です。希望者には高齢者用サピカを付与しますが、通常同様の申請方式とし保証金もいただきます。

先行き不透明な敬老パス制度ではなく、一人の利用者として位置づけ、利用する限り応分の負担を求めるのが、公営企業のあり方と考えます。

変更には様々な手続きと時間を要するので、実施年を遅らせてでもじっくり準備すべきです。

制度を複雑にしたり折衷案にすると、国の社会保障制度同様わけの分からないものになりかねません。

高齢者料金の設定という単純で持続可能な制度の導入により、高齢者の外出支援、明るく豊かな老後生活に寄与することを願っています。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

敬老優待乗車証(以下:敬老パス)についての考え方を「ポイント」と切り離したのは良かったのですが、そもそもこの問題を「福祉政策」と「交通政策」(高齢者の移動手段)の二つに分けて考える段階の次元にもう入っているのではないのでしょうか。

札幌市内では公共交通機関としての路線バスの廃止が相次ぎ不便になりつつある中で、やはり公共交通機関を利用しなければ移動できない高齢者にとって支援をしていくためにもこの敬老パスは欠く事のできない重要な手段となっています。

まず敬老パスの支給年齢ですが試案では 75 歳からとなっていますが、年金の支給開始年齢(繰り上げ支給する人もいます)が 70 歳であるならば、やはりここは 70 歳からの支給にすべきです。

それと合わせて敬老パスの自己利用額上限が試案では 2025 年度～2029 年度にかけて段階的に1万円ずつ引き下げて4万円までにするとしていますが、今後の運賃値上げも考えれば5万円にするべきでしょう。

下記は自己負担額も含め『私案』になりますので検討していただければと思います。

現行の1万円分までは千円、更に1万円分追加で2千円、更に1万円分追加で3千円～の様な分かりにくい負担額ではなく1万円分追加でも「定額」にすべきです。

(補足部分になりますが一、7 万円までの補助が必要な場合にはそれぞれの年度で割増しで発行する事も可能かと考えます)

2025 年度までは現行通りとの事ですので 2026 年度からの内容になります。

【試案】自己負担額

2026 年度初めの1万円分まで=1500 円 2 万円分～5 万円分までは1万円1枚=2000 円合計:5 万円までの購入で 9500 円の負担

(6 万円分、7 万円分が必要な場合は、それぞれ 1 万円分につき 3500 円追加負担)

2027 年度初めの1万円分まで=2000 円 2 万円分～5 万円分まで 1 万円 1 枚=2500 円合計:5 万円までの購入で 12000 円の負担

(6 万円分、7 万円分が必要な場合は、それぞれ 1 万円分につき 4000 円追加負担)

2028 年度初めの 1 万円分まで=2500 円 2 万円分～5 万円分まで 1 万円 1 枚=3000 円合計:5 万円分までの購入で 14500 円の負担

(6 万円分、7 万円分が必要な場合は、それぞれ 1 万円分につき 4500 円追加負担)

2029 年度初めから 1 万円 1 枚=全て 3000 円合計:15000 円、以降の年度も同じ

(6万円、7万円分が必要な場合は2028年度と同額追加負担)

※2026～2028年度の間は激変緩和処置として初めの1万円分までは500円の減額にしています。

自己負担については札幌市の案では50%としていますがこれではあまりにも負担率が多額になり過ぎです。一般国民が負担する健康保険の負担率と同じ最大上限を30%にとどめるべきです。50%負担はあまりにも重い負担となりムチャクチャです。大反対です。もし札幌市の案で「福祉政策」と言うのであればなおさらな事到底受け入れられない負担割合ではないでしょうか、酷すぎますよ。

尚、敬老パスの適用については札幌市内のバス運行事業者、札幌圏内の福祉(身障者中心)タクシー事業者と札幌市営交通に限定し JR 利用を含め多用途での使用などでは、そのためのシステム改修に伴い莫大な費用が掛かるため必要ではありません。高齢者の移動手段として考えるべきで改修費用は最低限にとどめるべきです。また、毎年送付される「敬老優待乗車証利用者負担金納付書」についても前年に利用実績がない人については送付せず後年必要となった場合には区役所にて申請手続きを申し出をし発行すれば無駄な事務経費及び送付料金も削減できるはずです。

「健康ポイント」については福祉政策として進めても良いと思います。こちらは別に60歳からと限定せずにポイントを貯めた場合には1ポイント=1円に換算して10ポイント(10円)1単位で敬老パス(充当不可)とは切り離して Sapica に充当できるようにすれば良いのでしょうか。

ともかく高齢者にとっては切実な問題ですので、この【試案】も十分な検討材料として審議会への真剣な議案としての提示を強く望みます。今までの様な分かりにくい方法ではなく誰でもが納得するシンプルなシステムに変更すべきです。シンプルにする事により札幌市の事務作業経費も軽減できるはずです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

1. 敬老健康パスの素案については各区で意見交換会を行ったが、前回提案と大幅に内容が異なるのに、各区での説明会や意見交換を行わないのか。

各区での意見交換会を行うべき。

2. 昨年11月に行われた D-Agree による意見募集、AI による分析については、こういう形で意見募集が行われていることをほとんどの市民が知らなかった。

ネット環境に慣れていない高齢者にとって、こういう形では意見はあげにくい。

まず、D-Agree にアクセスしやすく、Password の設定が大変、難しい利用規約を承諾しないと使えないなど、難しい。

当然、若い世代の意見が相対的に多くなるので、この結果を市民の意見とすべきでない。

3. 敬老パスの見直し案は「利用者負担を5割にする、対象年齢を75歳に引き上げる」とするもの。市の財政負担を増やさない、減らすことが目的となっている。高齢者の人口が多くなればそれだけ市の負担が増えるのは当たり前。始めに予算枠ありきでその枠内で納めようとするのはおかしい。

4. 敬老パスは、現在対象になっていない市民も、70歳になれば対象になる。年金と同じである。20歳以上の市民の負担額が増すことを強調し、世代間の対立をあおるようなやりかたは良くない。

5. 敬老パスの財政的な問題については、やはり意見交換会で率直に論議し、合意できる点を見つけることが大切と思う。

6. 敬老パスについては5年後の見直しが予定されている。どういう視点で見直すか明確でない。財政面だけでなく、少なくとも利用者の側からの評価を含めるべき。

また、健康アプリについては見直しがないので、見直しは敬老パスを廃止し健康アプリに統一するためと見られる。敬老パス廃止が透けて見える。

7. 健康アプリは高齢者だけでなく、40歳以上が対象となる。目的も「健康づくり」で、交通費補助を目的とする敬老パスとは異なる。この両者を同一の予算内でおさめようとするには無理がある。まだ、前回の「敬老健康パス」に固執しているよう見える。

<事業費、経費の問題>

事業費：市財政の負担分+利用者の負担分、決算額でどうなっているか

2023年度決算：63億の予算で決算52.3728億円うち利用者負担11.5134億、市の支出は、40.86億円。

2030 年度総事業費 52.13 億円:敬老パス 39.36 億円+健康アプリ 12.77 億円
現在約52億円の決算、この52億に健康アプリへの支出12.77 億(2030 年)も含めることに無理がある。

少なくとも、現在の52億円は敬老パスに使うべきであり、健康アプリの予算枠は別立てとすべき。

8. 敬老パスへの支出は、地下鉄やバスの利用を促すので、間接的に地下鉄事業やバス事業者への支援にもなる。敬老パス事業の波及効果についても評価すべき。

9. 健康アプリについては、どのような活動でどの程度のポイントが付くかイメージしか示されていないが、例示されている内容ではかなりハードルが高い。

足腰の強い健康な人でないとポイント稼げない。これでは、たとえ敬老パスがなくなっても、健康アプリには乗り換えられない。

健康アプリは、運動ができる健康な人にポイントが付くのであって、これでは敬老パスの代わりにならない。

要介護2以上の人にポイントつけると言うが、こういう人はポイント使用できないのでは。必要なのは要支援の人でないか。

10. 敬老パスと健康アプリはどちらか一方の選択となっているが、そもそも目的が違うのであるから、どちらも受けられるようにすべき。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

- 1, 現行の敬老パス制度は、自己負担が高いことや JR やタクシーの利用ができないなど不十分さがあるにしても市民にとって非常に使いやすい制度であり、存続することを求めるものです。
- 2, 敬老パスの利用が順調に増加しているため、札幌市の負担が増加するのは当然であり、これを制度見直しの最大の理由としていることは、市民に敬老パスを利用するなどと言っていることと同義であり、行政の在り方として問題あり。
- 3, 札幌市が負担している費用は市民負担額も含め、ほぼ全額が交通事業者を支払われているものであり、交通事業者(札幌市の地下鉄や電車も含まれる)にとって最大の収入源になっています。もし、敬老パス制度の見直しが行われれば、交通事業者の経営にとって大きな影響があることは明白です。この影響について見直し案では全く触れていないのはなぜか。
- 4, 敬老パスの利用者は通勤や通学時のラッシュアワーの時間帯を避けて乗車しており、交通事業者にとって大変助かる乗客です。
- 5, 札幌市の調査によれば、敬老パスの利用者は、外出時には買い物や飲食など1人当たり 6000 円以上消費しており、街に賑わいを創出するばかりか、直接的な経済効果は、札幌市に負担の数倍に上ると思われます。
- 6, 札幌市は敬老パス制度がもたらしている経済波及効果について調査を全くしていませんが、同じ敬老パス制度を行っている名古屋市では 2～3 倍の経済効果があるとされています。
7. 敬老パス制度の見直しを実施すれば、大幅に利用者が減少することは明白です。
- 8, この敬老パスの見直しは、利益相反行為に当たる重大な見直しであり、次の市長選挙の争点として市民の審判を仰ぐべきと考えます。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

どんどん簡単な読み書き、計算、運動ができなくなってくる年代を対象にしたコミュニティを作ったら楽しくなるかと思います。

間違っても正解！チャレンジする事が大事だと思います。できたら嬉しいですね。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

敬老パスの見直しは札幌市の見直し案に賛成。

自己負担割合 50 パーセント、上限額四万円、対象は 75 歳からが良い。

道内他の町村部は高齢者の交通費補助が無い地域もあり、札幌市の敬老パスを既得権だからと継続させるべきではない。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

- ・これまでの敬老パス制度を存続してください。
- ・JR やタクシーで使えるように改善してください。

敬老パスは、高齢者の外出を支援し、明るく豊かな老後の生活の充実を図るために設けられている。

これまでもたびたび改定されてきて、現在では負担割合を 10-15%に抑えて運用されている。これを 50%に引き上げ、さらに上限を4万円にしようとしている。また、パスの適用を70歳から 75 歳に引き上げようとしている。一方で健康アプリなるものを発足させようとしている。そして、現在の敬老パス予算の一部をアプリに充てようとしている。

・当初は制度改定理由として、財源が苦しいということではなく市民の健康増進のための改訂ということであった。しかし、直近の市長の説明では、将来世代に負担がかかるという世代間対立を煽り、財源を理由とした改定であるとしている。

・現行敬老パス制度にも、外出しやすくして高齢者の健康寿命を延ばそうとする意味はあるが、それだけでなく身体的に外出しにくい高齢者が少しでも外出しやすいように配慮して、社会との接点を断つことなく元気に暮らすことを支援しているはずである。

・この予算の一部を健康アプリに充てるために改定をしようというのは、制度そのものの廃止に向けた動きに思えてならない。

・健康アプリには反対しないが、両者は目的が異なるので、もしこのアプリを発足するなら、現在の敬老パス予算規模はそのまま維持し、予算は別に立てるべきである。

・敬老パス予算の絶対額は増えているが、市予算に対する割合は以前から変わっていない(0.4%)のではないか。予算規模が大きくなるので財政上の問題は起きない。

・そもそも、市の予算は市民の暮らしと安心・安全な社会を作るために使うべきなのに、僅か8分の短縮のために 1000 億円も都心アクセス道路につぎ込むような予算に問題がある。

・オリンピック誘致の時には将来世代への負担等、一言も言わなかったではないか。やり方が卑劣である。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

【1－4(仮称)健康アプリの取組】

○健康アプリを導入するのであれば、スマートフォンの購入補助金を導入してほしい。

○スマートフォンを持っていない人への対応を検討してほしい。

○健康ではない人が取り残されるのではないかと健康に支障を抱える方への配慮も必要ではないか？

福祉乗車証や、サピカ助成を受ける程度の支障ではないが、外出に不安を抱える方への配慮が必要ではないか？

【2－4敬老パス制度は当面存続します】

○5万円以上のチャージ額が総助成額のおよそ5割というのであれば、チャージ上限額を5万円未満にするだけでも、十分、助成額費用の削減につながるのではないかとチャージ上限額の変更により総助成額を削減し、対象年齢と自己負担金額は現状維持してほしい。

○チャージ上限を4万円に変更することは賛成

○対象年齢を70歳から75歳にすることは反対

○自己負担金額を50%にすることは反対

○自己負担金額をあげるというのであれば、健康アプリのポイントではなく、敬老パスのほうで、利用対象をタクシーやJR北海道などにも拡大してほしい。

○敬老パスのICカードの利用データを収集し、匿名化して販売するなどして、利用データを新たな収益源として助成金にあててはどうか？

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

敬老優待は、超高齢社会になりこれまでと同じことをしていくのは不可能。

現在の高齢者は高度成長期を支えてくれたが、これまでと同じような高齢者支援の継続は無理。

現役世代から高齢者への支援は、市民税を払っている現役世代の納得のいくものである必要がある。

高齢者には医療費の支援(窓口負担:現役3割、高齢者1割 & 高齢者医療費の4割は現役が負担)、年金の世代間不公平、国の施策での給付金等様々な形で、現役が負担している。

当面、敬老優待をするというが、今の現役世代が高齢者になったときに同じことをできないのは明白であり、30年先を見越した施策をしないと現役世代は納得ができないと考える。

私が75歳になるとときには、更に制度改正が必要であり、今から経過措置など設けず実施できる持続可能な制度が必要。

なお、健康寿命を延ばすための施策は必要。

敬老優待がなくなると、外出をしなくなるというが、貯蓄がある高齢者には貯蓄を使ってもらえばいいだけで、現役が負担すべきとは考えない。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

①敬老パス見直しについて

母は98歳で毎年利用者負担金納付書が送付されますが、90歳過ぎてからは身体的にも利用ができなくなり、そのまま書類は毎年廃棄しています。

下記敬老優待乗車証の利用実績のように、利用できない方が一定数いる現実があります。つまり不要な経費はかけないでいただきたい。

令和5年度の対象者 435,917 人に対し 204,917 人チャージ率約47%なので、対象者の半数以上の方が利用していません。

・利用希望者は、申請していただいた方のみ利用者負担金納付書を送付することとしたら、令和5年度といくら経費が軽減されるかを公表してください。

・チャージ限度額を5万円にしたらいくら経費が軽減されるか上記と同じように公表してください。

②地下鉄収入およびプレミストーム賃貸収入の増加案(市民のドーム利用増加案)

・ドーム内の観客席が急で上り下りが大変である。そのため利用率を高めるため、4 基位のエスカレーターの設置を検討すること。

・現在福住駅からドームまでの移動は、旧イトーヨーカドーまでと地上に出してから、徒歩で約10分位かかり、(イベントの帰りは20分以上かかる)雨天時や冬季の降雪時には特に不便である。

ですから福住駅から「1 駅」だけ延長しドームの北口付近に地下鉄駅を新設し、雨風に当たらないでドームにつながる通路を検討してもらいたい。そうすることで札幌市民の利用率も上がり、健康寿命延伸につながります。

これは高齢者が増えていくことを考えると、当たり前を考えるべきものです。

追伸

バスの小型・中型バスへの転換を推進してもらいたい。運転手の不足からどんどん減便され、市民の足が削られ、正社員・パート等も含め、勤務自体不便になってきています。あの大型バスの免許を取るのは、大変だしまた公共のバスをワンマンで運転するのは相当ハードルが高い。ですから現状より小型のサイズのバス採用で、女性の運転手をもっと増やして行って、札幌市民の足を現状より減らさないようしてもらいたいと思います。

JR・中央・じょうてつバスなどへ働きかけてほしい。(小型・中型バスは、利用率の低い地域や夜間などに配置できるのではないかと、また考え方を全く変えて大型バスをなく

し中型バスを基本とすることも検討してもよいのではないか、或るいは自動運転バスを推進していく)

これらのことを再検討し、見直し案を新たに作成したうえで札幌市民へ提示してください。

よろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

ただでさえ今は世代間対立が起きているのに、さらに対立を煽ってしまったのは否めない。

そもそも 1 人当たりの負担といっても、税金をいくら払っているかで実際の負担額は違うはず。税金をたいして納めていない人まで自分がものすごく負担をしているかのような勘違いをしているのではないか。

12 月の懇談会で市長が収入のない子どももバス代を払っているのだから高齢者も応分の負担をしてほしい、孫の世代の負担を減らしてほしいと言っていたが、子どもがバス代を払っているのではなく、親が払っている。孫がと言えば年寄りには弱いと思っているのかもしれないが、孫がいない人もいるのでみんなに響くとも思えないし、何かずれていると感じた。

現役世代こそ、あなたの親のことを考えましようと言いたい。市は子育て世代への支援に舵を切るようだが、どこかに支援を集中させれば、いつか必ずそれが負担になる。子育てに支援しても、その子どもたちが結局札幌を離れてしまうのであればすべてが無駄な支援となる。

ずっと暮らしてもらうためには、就職先があるのも大事だが、老後に安心して暮らせるかというのも大きな選択肢になるはず。世代間対立を煽り高齢者より若者に寄った施策を行うようなところに長居しようとは誰も思わない。今回の件は当事者である高齢者の意見を最初に聞いてから進めるべきだった。

身障者用トイレのゴミ箱が車いすで使えない仕様だったなど、当事者を外して進め失敗している例があまりにも多い気がする。当事者の高齢者と腹を割って話し合えば、もっと建設的で楽しいアイデアが出たかもしれない。

たとえば、地下鉄に向かう道を冬でも歩きやすくしてバスに乗らなくても済むようにするにはどうすればいいか、など、支援額を減らす代わりに市ができることはアプリじゃなくてもあるはずだ。現役世代は会社員なら勤務先から通勤手当が出ていることが多い。出ていないならそれは高齢者のせいではなく会社のせいである。

無職となった高齢者は通勤手当などないのだから、交通費はそれこそ自己負担になる。それだけでも高齢者への交通費支援は理にかなったことなのだという発想が必要だ。通勤手当並みではなくても支援があれば高齢者の活動が活発になり、それこそ健康維持にも経済活性化にも役立つはずだ。

世の中の仕組みの至らなさをすべて高齢者のせいに行っているようにも感じるので、一

度住民 1 人 1 人について、実質的な納税額と自分が税金から受けている支援、他者への支援への負担額などを計算して通知するしかないのではないか。

この件では高齢者パスだけがクローズアップされてしまったが、高齢者だって税金を納めているし、そもそも税金による支援はどの世代もお互い様だ。また、世代が同じでも状況はみな一様ではない。高齢者もかつては現役世代だったし、今の現役世代もいずれ高齢者になる。若いうちは自分が高齢者になるなど想像もできないだろうが、親や祖父母に甘やかされて育った世代がすでに子育てをする現役世代となっている今だからこそ、自己中心的な現役世代の負担理論に行政が加担するようなことがあってはいけない。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

通称「敬老パス」の実施変更に対し、私の意見は反対である。その理由は以下の通り。

1, 利用者が少ないなどの指摘があるが、市民に意見を本当に求めて作成したのか？他都市がやっている、予算が多くなった、などは安易な考えと思う。また若い世代に負担が多いというが、高齢者は今まで市民税を長年支払って来た。

敬老パス利用を巡って、市民を分断をするような発言、記載はやめるべきである。

2, ポイント制を導入するから問題はない、と説明しているが、高齢者の利用をもっと多様に検討し、行動目的など、しっかりとアンケートをするなど、十分検討し提案したのか疑問？市民の意見が全く取り入れていない。またアプリ開発に莫大な予算を使うことが予想される。税金の無駄遣い、机上の空論で市民生活を困難にすることは許されない。

3, なぜ今改悪するのか、冬季オリンピック招致に失敗し、これに使った膨大な税金、無駄遣いをどう考えるのか、市民に説明がない、敬老パスに予算を増額し市民の足の交通の確保を優先すべきである。買い物難民をつくらない交通網を充実すべき。

4, 駅前再開発に企業に 200 億円もの市民税をつぎ込むのは、まさに無駄遣い、市民の福祉に使うよう税金を回すべき。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

(1)厚生労働省の「2022(令和 4)年国民生活基礎調査の概況」によると、高齢者世帯の 48.3%が「生活が苦しい」と回答しています。統計は異なりますが総務省の調査でも、月々の貯金をとり崩している高齢者の生活実態が明らかになっています。高齢者の最大の収入源である公的年金も、物価上昇分の一部がカット支給となっております。また近年の継続的な円安による物価高と様々な社会保障料の見直しによる負担増の中で、私たち高齢者の日々の生活環境は一段と厳しさを増しております。従って今この物価上昇が延々と続く時期に、「敬老パス」制度を大幅に改変し、高齢者のへの金銭的な負担増を図ることに対しては、特に慎重な当市の対応を求めます。

(2)また、高齢者が日常的に外出を行うことは、健康寿命の延伸につながります。今回提案されている「対象年齢の引き上げ」は、就業率が激減する70歳から75歳の高齢者、特に健康寿命年齢の挟間の者にとっては、外出減につながるのではないかと大きく懸念されます。慎重な当市の対応を求めます。

(3)以上の理由から、現行「敬老パス」制度の見直しについては、提案自体を一旦凍結し、より多くの高齢者が納得するかたちで再議論すべきと考えます。高齢者の生活環境が改善されるまでの当分の間、現行「敬老パス」制度を継続することを求めます。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

現在敬老パスを利用している人はもちろんですが、今後利用する人も全員納得する案は難しいと思います。

財源に限りがあり、またこの制度を支えていく世代の負担をみんなで考え少しずつ歩み寄り、一定の見直しをしながらこの先も長く続いて欲しい制度です。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

この制度が施行された当時とは状況が変わってきており制度の見直しは必須だと思います。

特定の世代だけに負担を強いるのではなくなるべく世代間格差や不公平感が生じないようにするためにも今回のような改正には賛成です。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

見直し 1 について、定年が 65 歳に上がっているので、75 歳に引き上げるのはやむを得ないと思うが、現在 70 歳～75 歳の方は 60 歳定年だった方で、支給対象になるのに定年(60 歳)から 15 年かかることになるので、これまでの対象者や 65 歳定年の方と比べると 5 年間分、損をしているように感じる。不公平感がなくなるよう、当面、支給対象者の年齢に応じた制度にしてもいいのではないか。

見直し 2 について、自己負担割合と上限額の見直しに賛成です。今後、納税する主な層である 65 歳以下の人口が減少することを考えると、今のままでは納税負担が高くなるので、高齢者にもサービスを維持するためにサービス低下には理解してもらいたい。高齢者がサービス低下に反対する気持ちはわかるが、上の世代が少子化の流れを作ってきたツケであるので、その世代として責任を取ってもらいたい。逆に、現在の若い世代も自分の老後を考えて、少子化に真剣に向き合う必要があると考えるべきだと思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パスの見直しには賛成です。

医療・介護資源、利便性を目的として、道内各地の自治体から高齢者住民が札幌市に転入しています。道内各地の自治体から転入してきた人たちに対して、介護保険をはじめとする社会保険制度には住所地特例制度がありますので、対象施設に入居した場合、転居前の自治体が保険料を負担することになりますが、敬老パスのような独自政策の場合、すべての転入者が享受できる一方で、その費用は札幌市の負担となります。

ただ、自分たちの都合で転居してきた住民にも、対象年齢で一律に敬老パスを支給可能とすることは、自治体政策として公平感があるとは言えない状況です。例えば、札幌市に住所を有し、30年以上住民税を納付した方などというように、居住年数に応じて交付するなど、現役世代が不公平だと感じないような制度を検討すべきではないでしょうか。

また、札幌市が実施した「敬老優待乗車証利用者実態調査について」も確認しましたが、現在敬老パスを利用している人の4割は年間1万円未満しか利用していません。ICカードであれば、すでに交付・利用している人がどのような利用をしているのかを確認することは容易かと思えますので、過去の利用状況に応じて年間のチャージ金額の上限を決めることも検討すべきではないでしょうか。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パスは、買い物や習い事、通院、コンサートなどで出歩く人にとっては有難い制度だと思えますが、対象者の交付率からも分かるように、高齢者のなかには、もともと必要のない人や足腰が悪い、施設に入っているなどの理由で、交通機関を利用したくても利用できない人が多くいますので、公平な市民サービスを提供する観点から不公平な制度と思えます。

また、制度開始当初の対象者が 3%から 22%に増えて予算規模が膨らんでいることから、多くの若者が不満に思えるのも、もったいなことです。

敬老パスは全廃でもいいのですが、どうしても継続するのであれば、チャージ上限額を 3万円、自己負担割合を 50%とし、利用できない人のために敬老パスに見合うよう、タクシー基本料金分の利用チケットを配してください。これであれば、不公平感がなくなります。(タクシーチケットは、利用者負担金納付書と交換)

全廃の場合は、徹底した子育て支援(おむつ無料配布、保育園・幼稚園の無料、医療費の無料、学校給食費無償など)、介護施設や児童施設で働く職員への支援などに使ってもらいたいものです。

さらに、健康アプリ制度を導入して健康づくりを進めようとしていますが、健康づくりは、一人一人の意識、努力(運動・食事・生活習慣)で伸ばしていくものと考え、健康意識の高い人は、日頃から歩いたり、走ったり、筋トレやストレッチなどを行っていますので、手間暇かけてこんな制度を導入する必要はありませんし、導入するのであれば、この予算を子育て支援等に充ててください。

どうしても導入するのであれば、ボランティア活動(例えば、雪かきやゴミ出しが困難な高齢者などへの対応、公園や遊歩道のごみ拾いなど)に特化してポイント付与するのがいいのではないですか。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

健康寿命と敬老パスは切り離した政策が必須です。

敬老パスは健康寿命増進、経済的効果、公共交通利用増進効果を果たしていると思います。

これからの高齢化社会に向けて、高齢者の足、楽しみを奪わないで頂きたいです。

若い方のメリットも登録した方、抽選になるなど、制度自体に矛盾があります。

健康アプリは、民間の方がすぐれているし、アクセスもしやすい。

高齢者の健康増進は、民間に任せて、市は、福祉政策としての敬老パスを考えて実施して欲しい。

運転免許証返納、交通費値上がり、物価高騰の生活のなか、街まで出かけると 1,000 円弱かかり、敬老パスを楽しみにしている者としても、いきなり 50 パーセントの負担は大きいのです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

健康寿命の延伸を考えるにあたり、年齢を区切らず健康づくりができるようにしてほしい。

健康アプリを含めて今ある健康センターなどを有効に使えるようにするべきと思います。

健康寿命延伸と敬老パスの存続は別問題。

なので若者に向けた出前講座の中での敬老パスにより税金の負担が大きいような話にするのをやめるべき。

外出をすることが、健康のために良いので交通機関を使いやすく考えます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

WEB

何とか 70 才を迎えて、さてこれからどうしようと心細く思っていたとき、届いた敬老パス！

そうだ、不安だったマイカーの運転も止めて、通院や買い物、友人たちと山歩きにも、敬老パスで健康を維持増進したい。ぜひとも敬老パスは、現状のままで存続して下さい。心から希望します。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

敬老優待乗車証制度(以下「敬老パス」という)は、現行制度を維持して頂きたい。高齢によって免許を返納し移動を公共輸送機関に頼らなければならない人がどんどん増えている。

敬老パスは、高齢者の自由外出を促進し高齢者の健康増進に大きく寄与してきたのであり、札幌市として本来であれば敬老パス利用者をさらに増やして高齢者の健康増進を図ることが当然である。

年間60億とか80億円の歳出は、高齢者の健康を促進することによる医療費の軽減や、外出支援がもたらす高齢者の消費拡大で十分におつりが来ている歳出額である。スマホも自在に使えない人もいるのに健康アプリを導入しての高齢者の健康増進など、誰が考え出したのか愚策にもほどがある。

若者の負担を減らす必要があるなどと言っているが、地方自治体の主人公である高齢者と若者を分断するような手法を行政が行ってはならない。

一兆三千億円を超える予算規模なのに敬老パス財源を確保することが出来ない筈がありません。

高齢者を敬愛されているなら敬老パス廃止や制度の低減に進むのではなく敬老パスの現行維持をして頂くよう求めます。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

今回の札幌市敬老パス見直しは大変良いと思います。
その都度その時代にあう事を見直す事は必要です。
人口分布が変化している以上、高齢者であっても相応の負担はするべきです。
札幌市の示している意見に賛成です。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

担当者様

お疲れ様です。私は減額に賛成です。

通院は、毎日病院に行く訳ではないと思うし、趣味などは自費負担してもいいのではないのでしょうか？趣味にお金をかける余裕があるのであれば自費負担は当たり前だと思います。

札幌市の財政の事を考えて市の案をのむ事を考えないと、他のサービスにお金が行かなくなり低下して自分が困る事になります。敬老パスがなくなってしまうかもしれません。

あれもこれもって言っていたら、ワガママとしか言いようがありません。

札幌市の財政の事も考えて、生活が大変な方がいると思いますが、札幌市が破産すると市民の皆さんが困ると思うので、その辺の事も考えて欲しいです。

私が思っている事を書かせていただきました。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

不明

提出方法

メール

現行の制度より負担額が増えるのは、年金生活者(当方 75 歳)としてつらいものがありますが、せめて子供料金(半額?)の支払いで済ませてほしいものです。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

不明

提出方法

メール

私は現在 67 歳の高齢者です。もう高齢者優遇政策は廃止すべきです。
子供達の教育に予算を増やすのが当然だと思います。選挙のための人気取りの政策は
終わりにしてください。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

不明

提出方法

メール

札幌市敬老パスについての意見です。

私は現在 72 歳、敬老パスの対象になっていますが、札幌市の制度変更案に賛成です。そもそもこの制度について幾つか疑問があります。このような制度があるのは一部の都市、おそらく政令指定都市なのかもしれませんが、何故一部の都市に住む高齢者だけが優遇されるのでしょうか？また、経済的な理由での優遇ということなら高齢者だけが対象はおかしいと思います。

また、市の財源は限られているし住民の高齢化は年々進みますから、このような目的の支出が高齢者向けに偏るばかりになりますからそれは問題です。将来の札幌市を考えるならそれはまずいでしょう。若い人たちへの支出のウェイトを増やすべきです。

ただ、この制度で現在の生活が成り立っている人もおられるでしょうから、そこへの配慮も必要でしょうから経過措置は必要かと思います。現在市から提示されている案は高齢者に甘めですが総合的に考えれば妥当だと思います。よって市の案に賛成します。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

結論は「原則」全廃。

- ①団塊世代全て後期高齢者入りで予算パンク。
- ②既得権(エゴ)を返還して働いている方々に還元すべき。
- ③冬季間の除雪・排雪は素早く、一隅を照らすほどの気配りをしている(予算増加)
- ④未使用率の正確な把握。この間、パス悪利用して運び屋家業のならずものもいると聞く。
- ⑤全国自治体の高齢者への hospitality の実情はどうなっているのか。札幌市は過剰サービス、知恵をもった良き市民である。「札幌ピンキリ」でいかに恵まれているか示すべきである。
- ⑥交通難民が多い区の方々(自家用車非保有者)に限定してかつ自己負担率 50%でパス給付。
- ⑦年間収入だけではなく、「資産」を含めた査定(資産家等はタクシー利用可能なはず、経費で落とす輩もいる)を行う視点が必要。
- ⑧高い給与と終身身分補償なのだから、難しい問題こそやりがいがあるはずです。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

不明

提出方法

メール

【パブリックコメント(敬老パス制度見直し案に関する意見)】

私は 30 代で札幌市に在住しており、現在子育て中の世代に属しています。日々、家庭での生活や仕事、教育などに追われながらも、札幌という都市が高齢者から子どもまで誰もが暮らしやすい環境を築き、維持していくために何が必要か、どのような制度・施策が望ましいかを考え続けています。この度、札幌市が示している敬老優待乗車証(以下、敬老パス)制度の見直し案について、市民の意見を募集していることを知り、以下に私なりの考えや提案をまとめてご意見申し上げます。長文になりますが、今後の制度設計や市政運営の一助となれば幸いです。

【1.はじめに:現代社会の変化と敬老パス制度の意義】

敬老パスは、これまで札幌市において、70 歳以上の高齢者が地下鉄・市電・バスを割安で利用できる優待制度として、多くの方々に利用されてきました。その背景には、高齢者の社会参加促進、外出機会拡大、引きこもり防止、健康寿命の延伸や、車の運転を継続することが難しくなった高齢者が公共交通を利用しやすくすることによる交通安全対策など、多様な意義があったと理解しています。

敬老パスは、高齢者に対する「感謝」と「福祉」の側面を強く打ち出した制度であり、長年札幌市に住み、税金を納め、地域社会を支えてきた先輩方へ敬意を示す手段としても重要でした。同時に、高齢者本人にとっては生活の質を支え、自立した移動を保証する手段であり、家族や地域コミュニティにとっても負担軽減や交流促進、地域活性化に寄与するなど、多層的な効果を有していたと考えます。

【2.制度見直しの背景:財政・人口構造・社会情勢の変化】

一方で、今回札幌市が敬老パス制度を見直す背景として、報道や市の発表によれば、以下のような要因があると理解しております。

(1)財政状況の厳しさ:

少子高齢化の進行により、現役世代が減少しつつある中、高齢者福祉全般にかかるコストは増大しています。また、インフラ維持や子育て支援など、他世代向け施策への資金需要も増大しており、市全体の財政バランスが難しくなっています。その中で敬老パス制度の給付負担が大きな割合を占め、見直しが避けられないとの考えが示されています。

(2)人口構造の変化と利用者増大:

70 歳以上人口は今後も増えると予想されており、敬老パス利用者が増えるほど財政

負担が拡大します。現行制度を維持したままでは、市の予算を圧迫し、将来的に継続困難となる可能性があります。

(3)社会情勢の変化:

近年、物価高や燃料費高騰、公共交通機関の維持管理費の増大など、公共交通を取り巻くコスト環境は厳しくなっています。また、高齢者ドライバーに対する免許返納が求められる中で、公共交通がその受け皿となることを考えると、公共交通利用促進は社会的要請でもあります。こうした中、負担をどの世代がどの程度担うべきか、より公正な見直しが求められています。

【3.現行制度への評価と課題】

現行の敬老パス制度では、70歳以上であれば自己負担割合が10～24.3%程度で済み、残りは市が負担する仕組みになっています。このような大幅割引は、高齢者にとって非常に利用しやすい制度であり、健康づくり、孤立防止、買い物・通院・文化的活動への足として機能してきたことは事実です。

しかしながら、子育て世代としては、次のような疑問や課題を感じております。

(1)負担の世代間不均衡:

現行制度は、高齢者が極めて低い負担率で公共交通を利用できる一方、現役世代や子育て世代は通常運賃を支払い、税負担も担っています。高齢化が進む中で、高齢者全体への給付を拡大し続けることは、将来的な負担増や世代間不公平感につながります。特に、子育て世代は住宅ローン、教育費、日々の生活費負担が重く、賃金上昇が追いつかない状況で、税・社会保険料・公共料金など様々なコスト増を感じています。その中で「高齢者向けの優遇は維持され、自分たちには目に見えた恩恵が少ない」という不公平感が蓄積しています。

(2)将来世代への影響:

現在の子どもたちが大人になったときに、市の財政状況がさらに悪化していれば、公共サービス全般が劣化し、結果的に子どもたちが享受できる行政サービスの質が下がる懸念があります。敬老パス制度の過度な継続は、将来世代へのツケを回すことにもつながりかねません。

(3)交通網維持とのバランス:

公共交通機関を健全な経営状態で維持するためには、適正な利用者負担も必要です。極端な割引は一時的には高齢者の利用を促すかもしれませんが、交通事業者側の経営を圧迫し、将来的な路線縮小やサービス低下を招く恐れもあります。それは結局、高齢者も含めた全市民にとってマイナスとなる可能性があります。

【4.市が示した見直し案への所見】

市は2026年度から、敬老パスの年齢要件を75歳に引き上げることや、自己負担割合を一律50%に引き上げる案を示しています。この方針について、私は以下のように考えます。

(1)年齢要件引き上げについて:

平均寿命延伸や健康寿命延伸が進んでいる現代、70歳以上を一律で「高齢者」として特別優遇することが妥当なのか、社会全体で見直しが求められていると感じます。75

歳へ引き上げることは、ある程度の合理性があるかもしれませんが。今日の70代前半はまだまだ元気で社会活動に積極的に参加できる方が多く、経済的にも比較的豊かな層が存在します。75歳という線引きは一つの目安として理解可能ですが、それが全ての高齢者にとって公平かどうか、引き上げ後に新たな不満や不公平感が生じないか慎重な検討が必要と考えます。また、75歳以上でも経済的に恵まれた方もいれば、70歳前後でも低所得で苦しい方もいるため、単純な年齢要件だけでなく、所得状況や障がい・要介護度などによる配慮も併せて検討すべきではないでしょうか。

(2)自己負担割合の引き上げ(50%)について:

一律50%の自己負担は、現行の10~24.3%と比べて大幅な引き上げです。これにより、多くの高齢者が利用を控える可能性もあり、それが逆に高齢者の閉じこもりリスクを高める可能性があります。また、低所得高齢者にとっては負担が急増し、外出機会を奪う懸念も出てきます。

しかし、限られた財源を世代横断的に活用するためには、ある程度の自己負担引き上げは避けられない側面も理解できます。全体負担が増える中で、高齢者だけが優遇を維持することは難しく、また現役世代から見ても、不満や対立感情を高める原因になるでしょう。50%という数字はインパクトが大きく見えますが、他都市での事例や、割引率をもう少し段階的に引き上げるなど、ソフトランディングの手段も考慮いただきたいと思います。

(3)過渡期対策や激変緩和措置:

一気に制度改正を行うと、特に現在70~74歳の層や、経済的弱者の高齢者に大きな影響が及びます。年齢要件や自己負担割合を引き上げる際には、移行期間を設けて段階的に実施する、あるいは低所得者向けのさらなる減免制度を導入するなど、きめ細やかな配慮が必要ではないでしょうか。激変緩和措置は、市民の理解を得る上で重要なステップとなり得ます。

【5.世代間公平性と公共政策のあり方】

私は子育て世代として、敬老パス制度に一定の見直しが必要であることは認めつつも、制度の廃止や過度な自己負担増加が高齢者の生活を圧迫する状況は避けるべきと考えます。なぜなら、現役世代もいずれは高齢者となり、同じ課題に直面する可能性があるからです。世代間対立ではなく、持続可能な都市運営を目指すために、次のポイントを重視したいと思います。

(1)世代間の対話と理解:

高齢者の中には、「自分たちは若い頃、札幌市の発展に尽くし、税金も長年納めてきたのだから、今は恩恵を受けたい」という思いがあるでしょう。一方、若い世代・子育て世代は、「これから子どもを育て、社会を支えようとしているのに、税と保険料の負担ばかりが増え、高齢者優遇が手厚く、不公平ではないか」という不満があります。この溝を埋めるためには、単純な給付・負担の二元論ではなく、世代間の相互扶助と理解が必要です。行政側は、制度見直しの必要性や、それによって将来世代が受ける恩恵(財政の安定化、公共サービス全般の質維持など)を丁寧に説明すべきです。

(2)全世代型社会保障・施策の構築:

これまで日本の社会保障制度は高齢者偏重と指摘されてきました。今後は子育て支援や若年層への投資と、高齢世代の支援策をバランスよく設計する「全世代型」の福祉制度を目指すべきです。敬老パス制度についても、高齢者のみならず、障がい者、子育て世帯、学生など、公共交通を日常的に利用するが負担が重い層への優遇策と合わせて検討し、より社会全体のニーズに合った公平な仕組みを目指すことが望まれます。

(3)公共交通と持続可能な街づくり:

敬老パス制度は、単なる割引制度ではなく、高齢者の公共交通利用促進という政策的意義があります。持続可能な街づくりの観点からは、車依存から公共交通利用へのシフトは望ましい方向性です。したがって、高齢者への過度な負担増で利用を阻害するのではなく、適度な負担水準と利用促進施策を組み合わせ、公共交通基盤を強化し、誰もが利用しやすいまちづくりにつなげていただきたいと思います。

【6.提案:多面的なアプローチによる改善策】

ここまで述べたように、敬老パス制度の見直しは多面的な課題を含みます。以下にいくつかの改善策、あるいは検討すべき論点を提案します。

(1)段階的な自己負担率引き上げ:

一気に50%へ引き上げるのではなく、例えば最初は30%、数年後に40%、さらに数年後に50%へ、という段階的な引き上げによる激変緩和を行うことで、利用者への心理的・経済的負担を分散できます。

(2)所得連動型の負担設定:

全高齢者を一律で扱うのではなく、年金所得やその他の所得水準に応じて、割引率を段階的に設定することも考えられます。一定以上の所得がある方には50%負担、低所得層には30%負担といった配慮で、真に必要な層への恩恵を確保しつつ、制度の公平性を高めることができます。

(3)他の支援策とのパッケージ化:

敬老パス制度見直しによる高齢者負担増が避けられないのであれば、同時に高齢者向けの外出支援や福祉サービス、地域コミュニティ活動支援などを充実させることで、単純な「負担増」イメージを緩和できます。「敬老パス割引率が上がるが、代わりに地域サロンや健康増進施設の利用券、またはタクシー利用補助など他の形の支援が強化される」など、多面的な施策パッケージ化で理解を得やすくなります。

(4)全世代向け公共交通利用促進策:

高齢者への優遇だけでなく、子育て世帯や若年層への公共交通利用支援(例えば子育て支援世帯への定期割引やバス乗り放題パスの検討など)を並行して打ち出すことで、「特定世代のみ優遇」という印象を薄め、全世代にメリットがある政策として打ち出せます。これにより、敬老パス制度を見直す過程で生じる世代間対立を和らげることが期待されます。

(5)市民参加型の議論プロセス:

今回のパブリックコメント募集は非常に有意義ですが、今後は市民参加型のワークショップや意見交換会、オンラインフォーラムなどを定期的で開催し、年齢・属性を超えた対話を促すことも重要です。敬老パス制度は世代間の利害が交錯する領域であり、市民

が互いの立場を理解し合い、合意形成に向けて話し合う場を設けることで、納得感のある制度設計が可能になるでしょう。

(6)長期的視点と持続可能性確保:

敬老パス制度は、短期的な財政均衡だけでなく、長期的な都市ビジョンと照らし合わせて考えるべきです。将来、人口減少や高齢化がさらに進む中で、公共交通の確保や高齢者福祉をどのように組み合わせていくのか、20年先、30年先を見据えた計画が求められます。今回の見直しはゴールではなく、あくまで通過点であることを念頭に、持続可能な福祉とまちづくりを目指していただきたいと考えます。

【7.結びに:幅広い世代が納得する制度設計を目指して】

敬老パス制度は札幌市の特長的な福祉制度として、多くの高齢者に親しまれてきました。しかし、財政状況や人口構造の変化、社会情勢を踏まえれば、見直しは避けられない現実があります。その中で、私のような30代の子育て世代は、自分たちが現役で働き、納税し、子どもを育てる中で、高齢者世代への過度な優遇を「不公平」と感じることも少なくありません。また、高齢者側の立場からすれば、長年市や社会に貢献してきた実績と誇りがあり、「今こそ恩恵を受けたい」という気持ちは当然理解できます。

このように立場や価値観が異なる中で、敬老パス制度をいかに持続可能かつ公平な形へと再設計するかは、市政運営上の大きな課題です。私は、市が示した見直し案を「やむを得ない一歩」として理解しながらも、もう少し柔軟な対応や段階的な変更、所得や健康状況への配慮、さらには他世代支援策とのバランスを取ることで、市民全体が納得しやすい制度設計が可能になると信じています。

最終的に大切なのは、「世代間の対立」ではなく、「世代間の協力」です。子どもが生まれ、育ち、社会に羽ばたき、高齢になっても快適な生活を営める——そうした循環が維持される都市こそ、札幌が目指すべき持続可能なコミュニティの姿です。敬老パス制度は、その循環を支える一要素であり、見直しを通じて、より強固で公正な制度に再構築するチャンスでもあると考えます。

以上、30代の子育て世代としての意見を述べさせていただきました。札幌市が今回のパブリックコメントを通じて多様な声を真摯に受け止め、円滑な制度見直しへとつなげ、将来世代が安心して暮らせる街づくりを推進されることを、心より期待しております。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

札幌市の敬老パス制度は非常に有難い制度だと思います。

ただ、たしかに資金的にも市も現状のまま運営して行くのも厳しい事は、分かりますが健康寿命を考えると70歳から現状のままで運営する事が一番制度を活用する上では良いものと思います。

上限を4万円ぐらい迄にして対応するのがいかがと思いますが更なる検討お願いいたします。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

そろそろ免許返納を考えている所です。病院に行ったり買い物に行ったり、バスに乗る事が多くなると思います。何とか現状維持で制度をお願いしたいと思います。

意見の内容

年代

不明

居住区

手稲区

提出方法

メール

高齢者の健康維持の為のパスの今回の改革は「健康寿命延伸に向けた」制度である事の周知を怠ったまま市民説明で、全市民に周知・徹底されていることと勝手に想定・解釈し多少の集会を開催したのみで、当初案を修正し再度ポイント制の導入等、高齢者が使えなくなる手法を併設し改革の効果を大きくする用に、変更したものとしか受け止められない。

高齢化が進む中で財源に限りがあることは理解出来るし、また若年層の一部不公平感が有ることも想像出来るが実際の全世帯全年齢層への当該案件に関するアンケート等所謂、Evidence の開示もされない中で論議する事自体市側の進め方に拒否感を抱く。

またパブコでデータの開示をしているがどれだけの市民(パス対象者/若年の納税者)がパブコで意見を表明するだろうか?除雪に関しても困難を強いられている高齢者に対する優しさが無い中で当該パスの制度改革に向けての取り組みかたも市側は十分に市民の意見を取り入れる努力を更にすべきである。

改革を全否定するつもりは無いが使いづらくする事のみが善では無い。【今一度立ち止まって慎重に制度設計と説明を尽くす事を考えるべきである】と言いたい。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

メール

・健康寿命延伸と敬老パス縮小をリンクされた議論はおかしい。

・敬老パス自体は即刻廃止

1. 健康寿命を延伸させることは重要であり、健康診断や予防の徹底・高齢者の運動促進自体は必要。ただし、敬老パスを縮小させて運動させる必要はない。運動はそのようなものがなくてもできる。

2. 敬老パスは「そもそも不要」であり、即刻廃止すべき。病院に行けない等の声もあるようだが、「交通費がなく病院に行けない」のであれば、対象者を限定し生活保護などの手続きを取って交通費を支給すればよい。生活扶助の問題は「年齢固有のものではない」

3. そもそも高齢者世代には年金なども支払保険料に対し、過度に給付が行われているうえに金融資産の保有金額も非高齢者に比し圧倒的に多い。もちろん生活困窮者は高齢者にもいるが、「高齢者だけを過度に保護」する必要等ないし、個人的には若年層や未来のある子供たちへの給付を増やしてほしい。

4. 敬老パスを廃止にした原資で、健康診断の定例化や地域での運動推進などの費用に充当し、健康寿命延伸へとつなげてほしい。また、収入や資産の状況に応じて全世代に対し生活支援を行う中で、高齢者の移動(免許返納・代替交通手段等)問題も取り組むべき。以上

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

メール

先日、横浜市の敬老パスに対する対応をネットで見ました。

運転免許証の返納者に対し、3 年間、市の交通機関の無料パスが配布されるとの方針を公表したようです。とても良い案です。

札幌市としても、敬老パスの節約ばかり考えずに高齢者に寄り添う配慮が必要と考えます。若者が反対するからとの意見もあるようですが、その若者も案外早く年を重ねます。そうなった時、若者は何と云うのでしょうか？

優しい気持ちを持ち続けたいです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

不明

提出方法

メール

市内在住 60 代無職です

敬老パスは市側の案のように段階的に見直すべきで最終的には廃止でも良いと思います

①札幌市の財政難

②他都市でも廃止或いは廃止の方向にあること

③パスの恩恵を受ける高齢者の公平性に偏りがあること

払える高齢者には払ってもらうべき

今や高齢者の生活満足度は他の年齢層よりも高いとのこと

しょっちゅう敬老パスで出かけてサークル活動や仲間と飲み食いする元気な人よりも病院通いにだけパスを使う人やボランティア活動のために使う人などを優先すべきと思います

説明会での若い人の意見に対して「自分たちも高齢者を支えてきたんだ！」というヤジが飛んだらしいですが、少しでも恩恵を受けられるだけ有り難いと思って欲しい

私たちやもっと若い人たちの頃には廃止になってるかも知れないのだから

若い人たちの流出を防ぐためにはより住みやすい札幌にしていかないとなりません

時代は変わるのですから頭の固い高齢者の意識も変わって欲しいものです

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

廃止すべきです。2, 3年の激変緩和措置は致し方ないかもしれませんが。

少子高齢化が進み、今後札幌市も人口減少に向かいます。また、団塊世代が後期高齢者になります。

ホームページにもあるように、現役世代の一人あたりの負担が増えます。年金制度と同様です。

敬老パスは助成金だけではなく、役所の人件費、通知書の郵送料、郵便局への事務委託手数料等様々な経費も発生します。

減額ではこのような費用は引続き発生するのでそれも踏まえ廃止です。

現役世代、若者、子供たちの負担をこれ以上増やしてはいけません。負担を増やしてまで、遊びに行く、買物に行く、旅行に行くなどの交通費を捻出することなどあってはいけません。

もちろん障害者や通院が必須の方(例えば人工透析など)など本当に支援が必要などころには、しっかりバックアップが必要です。

廃止して浮いた財源により、ヤングケアラー等貧困家庭、除排雪、バス減便等々優先してよりしっかり取組んでいただきたい。

多くの利用者は反対なのは当然でしょう。説明会の様子もテレビで見ました。財政に余裕があればいいですが、そうではありません。

選挙を考えれば、投票率の高い高齢者向けの施策は大事なのはわかりますが、

今後の財政収支、世代の負担も考慮し、市長がしっかりリーダーシップを発揮し決断していただきたい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

不明

提出方法

メール

現在 76 歳で大変お世話になっています。

私は見直し賛成で、子供料金と同じ半額にしていただけるとありがたいです。

今年 8 月神戸から妹が来て、札幌の交通機関でも使えるのに驚きました。

日本全国に通用するパスで、子供料金と同じと聞きました。

健康アプリでポイント云々とお聞きしましたが、手続きや事務処理に手間をかけることが無いようにして欲しいです。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

メール

私の願いはただ一つ【2 万円分の金銭チャージを残してください】。その理由を申し上げます。

私は白石区に住む今年 84 歳になる要支援1、貧乏な一人暮らしの老人です。敬老パスを頂いてから 10 年以上になりますが最高使用額は年間 3 万円ここ数年は 1 万円チラシで見つけた安い食料品の買い出しに使う中央バスと通院に使うJR北海道のバス代が主でたまに地下鉄に乗る程度です。近年通院の際雪道をバス停まで歩くのはしんどいなと思うことも増えて最初にこの改革案を目にした時はタクシーも使えるぞと喜びました。しかしその後金銭によるチャージが廃止されポイント獲得には健康づくりの社会参加やウォーキング、人とのふれあいだけと知り元来人付き合いが苦手な老人サークルに顔を出したことも無く地元での付き合いも無い私の様な人にはそれらでチャージが出来そうになくチラシで値引き商品を見つけても往復で 420 円のバス代が掛かっては簡単にそれらの買い物にも行けないと考え暗澹たる気持ちになりました。心房細動の持病が有りこの頃の外出は必要に迫られた買い物と通院と散髪くらいです。週一回カートを引いて近くのスーパーに買い物に行きますが戻って玄関にたどり着くとマラソンでも走り終えたかのような息切れや動悸が激しくウォーキングのポイント獲得などとても無理。70 歳の頃なら徒歩で 20 分~30 分の買い物も日常茶飯だったので喜んでポイント獲得にウォーキングを取り入れたと思いますが現在はその気力も体力も有りません。つまり 70 代前半と 80 歳過ぎの条件を一律に金銭によるチャージを外す今回の改正案は逆に不公平だと思います。高齢特に 80 代になると体力、気力も人それぞれ千差万別、健康で歩ける方はウォーキングでのポイント獲得も大いに結構だと思いますがこの案が実行されると私の様な持病を持つ老人の外出は更に億劫になり主な目的である健康増進にも逆効果、一年いや半年で格段に衰えを感じる老人の体調の事など全く聞かずに考えた案ではないかと怒りさえ感じています。いきなりこの制度に改革するのではなく身体的弱者や 80 代には現在と同じ金銭による 2 万円までのチャージも選択肢としてを残してほしいとの思いです。私の人生も最終コーナーに差し掛かり体調が何時急変してもおかしくはない年齢になりました。この案が実行される一年後でも敬老パスを必要とする生活を送っているかどうかは神のみぞ知る所ですがこの改正案には悩んでいる人も多いのではと思いで発言させて頂きました。宜しくお願い致します。私の切なる願いが採用される事願っています。

令和 6 年 1 月 23 日

札幌市長秋元克広様

上記のメールを送ってからほぼ 1 年札幌市の当初の計画は少し変更になったようですが高齢者に対する補助の削減の方針は大筋では変わらない様に感じます。私もこの 1 年間で買い物にも苦痛を感じる程益々動けなくなって来ました。そこでお願いですが特に年齢は申し上げませんが高齢者には是非とも漏れ聞く 5 割の負担と言わずに今まで通りの 1000 円 2000 円のチャージで 2 万円までそしてタクシーにも利用できる高齢者パスを残してください是非ともお願いします。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

メール

私は出来るだけ早急に廃止していいと思います。
少子化が進み若い世代の負担になっているのは歴然です。
これからは子供達を社会全体で育てていかなければいけないと思います。
未来の子供達に予算の割合を増やすべきです。
高齢者優待の時代は終わりにしましょう。
今回の札幌市の政策案には賛成します。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

メール

私は札幌中央区に住む78歳男です。

今回いろいろ意見がある敬老パスについて私なりの考えを述べさせていただきます。

基本的には賛成ですが、一部修正も入れてはどうでしょう。

26年度からの開始は良いと思いますが、いきなり50%は厳しいと思います。

途中で一段階割引率を入れて最終50%にする案が良いのではないのでしょうか？

26年度から60%割引、27年度から50%割引とではどうでしょう。

又割引率、時期は話し合いで変更もありでしょう。

現在高齢者は優遇されており、子育て世代に負担が掛かりすぎです。

あれば便利で、ありがたいですが誰かが負担をしていけば不公平です。

学生割引は何パーセントかわかりませんが、それを下回ってはだめです。

医療費をはじめ若い人たちにいろいろ負担をかけている現状では厳しくありませんか？

既得権みたいに思わないで高齢者も考えるべきです。

前回のパブコメで反対者が多く若い人が賛成意見を出したところ猛反対されたとか。

私も現状のほうが都合がよいですがここで考えなおすべきです。

経済的に困窮している方は、買い物、食事に出かけられないのでは。

お金があるから敬老パスを利用することが可能ではないですか？

札幌市考えに基本的に支持します頑張ってください。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

メール

日々お勤めご苦労様です。

敬老パスなど高齢者の健康など色々ありますが……

本当の意味で趣味、健康維持体力増進などの意味でご利用されている方がどれほどいらっしゃるのか。

現実問題、年金ぎりぎり生活されている方は、趣味などにつけられない現実があると思います。

わたくしの周りでさえ「休日に外に出たら、お金が出ていく」と外出を控える方が大半です(就労者です)

敬老パスですが、行政負担ではなく運賃を半額にするなどの方法が良いのではないのでしょうか？子供料金のような。

ポイントと言われましても、1,000 ポイント溜まれば 1,000 円分札幌市内どこのお店も使用可能とか。

サピカ、高齢者に限り還元を10%に戻すとか。

スマホ、PC などの媒体をメインに広報されていますが、今時点、全く無縁の生活をされている方もたくさんいらっしゃると思います。

どんなにきれいごとを言ってもお金がなくては何もできません。

自分自身も年金生活になったら引きこもりだろうなと思っています。

また他県で実施していますが、高齢者と若者が同じアパートに住んでそれぞれコミュニケーションをとっているとか。

若者は、高齢者の知恵を借り、高齢者は若者の助けを借りウィンウィン関係を築くとか。

老人ホーム、クラブ、町内会などに幼稚園児から高校生までたまに訪問して交流するとか。

誰でもわかりやすいかつ便利、楽しいで健康寿命延伸にしてほしいと思います。

楽しい、わかりやすい、使いやすいが一番ではないでしょうか？

乱文で申し訳ございません。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

不明

提出方法

メール

自分は 79 歳ですが、長年続く制度ですが、一般的な高齢者は、一万円のカードで充分ですが、7 万円目一杯使って居るのは割と余裕の有る高齢者ですね～

誰もが、高齢者になるのだから補助的な金額で充分だと思いますが、役所の説明が、全く良くないと思います!

ウォーキング等で健康ポイント等そぐわない制度が高齢者に合うと思いますか?難しい話をしないで、単純に予算上の問題として削減する説明が出来ないのかと役人の説明能力不足かと情けない話です!

一方で札幌ドームの赤字対策も出来ない問題も有るし、もう少し少数市民の反対に対処決断出来る役所を発揮して下さい!

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

南区

提出方法

メール

■敬老パスに関する意見

札幌市民としてこれまで立派に税金を納めてきた高齢者のひとりひとりの立場からすると【現行に近い形を希望する】のは、当然なのです。税金を収めてきて、さて高齢者になり、やっと敬老パスの資格が！と目前にして札幌市の財政を理由に大きく変革するならば、高齢者市民が札幌市に詐欺に遭わされた様相、気分になります。これまでそれを楽しみに生きて待ち望んでいたのですから。

もちろん、札幌市がそんなつもりでなく、高齢者大幅増に伴い、これまで通りにはいなくなつたための窮余の策として札幌市が提示したご案であることは重々、理解しております。

移動距離の長い、交通機関を長く乗ってバス料金がかさむ高齢者には『子ども料金のように高齢者料金を新たに設ける。』と良いのです。

真駒内近郊から定山溪病院へのバスを利用する通院者などは、札幌市のご案では報われず、地下鉄のみ利用の高齢者とは訳が違って何千円も往復にかかります。

なので一律に敬老パスで金額を付与するのではなく、バス利用金額に応じて反映する【高齢者バス料金を新たに設けて】下さい。

そうすれば、高いバス料金の高齢者には多くの見返りがあり、近距離バス移動の高齢者にはさほど付与にならない。一律というのがいけない。なぜならば、札幌市は広いから。行く場所も近くから遠距離までも個々に違うから。高齢者料金を支払う専用パスを区役所で発行すれば、偽の高齢者を棲み分け出来るというものです。

これまでの敬老パスは一律何万円という形を高齢者になると付与してきましたが高齢者バス料金の設定によるとバスに乗車せず使っていない人には付与せずに済みます。敬老パス予算をそこで大幅に減らせます。利用しない高齢者にもよく言えば公平、悪く言えば大雑把に一律で高い敬老パス費用を渡していたことがむしろ大盤振る舞いだったのでありませんか。

秋元市長の悩みの種を平和裏に解決するにはバス利用距離に反映となる【高齢者バス料金料金の設定】がどなたにもほんとうに優しいことなんじゃないかと思うのです。秋元市長も、今の 20 代から 64 歳の皆さんもいずれその恩恵に預かることが出来るように今からこの機に大人料金の他に70歳以上のシルバー層向けに【高齢者バス料金の新設定】を提案いたします。

以上

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

メール

「健康寿命延伸に向けた取組について」

「敬老パス制度の見直しについて」

以上の 2 本、YouTube にて拝見しました。

結論として、私は敬老パス制度の見直しは必要であると考えます。

しかし、札幌市が提案する制度の 3 つの点について全面的には賛成できかねます。

その理由1. アプリ運用について

アプリ運用は、なくてもいいです。

電子マネーの扱いが高齢者には馴染みが薄く、アプリを前提としていることに高齢者への配慮が感じられないです。

アプリ運用の 4 つの目的は理解できますが、果たして 75 歳以上の方がスマホを使い、アプリ運用が容易くできるでしょうか。

75 歳以上の方でどのくらいの方がスマホをお持ちで、自由に使われる技能をお持ちでしょうか。

これは持つ者と持たざる者、使える者と使わざる者のデジタルデバイスになるのではありませんでしょうか。

アプリ開発やその後のメンテナンスなど、これも事業費がかかります。

「見える化」とも言われていますが、高齢者にとってスマホは画面が小さく、とても見づらいものです。

アプリの健康管理や歩くこと、人と会う、介護予防、ボランティアなどでのポイント獲得は、アプリでなくてもできるはずです。

アプリ獲得のためにどれだけの人が動けるでしょうか。周りをみても、75 歳以上の方で病院にかかっていない方は少ないです。

アプリは面倒だ、よくわからないとかえって、利用が抑えられてしまう方向になってしまうようなこともあり得ると思います。

それが狙いでしょうか。

その理由2. 対象年齢の拡大(引き上げ)

現在 70 歳以上となっていますが、「敬老パス利用」に際しては、70 歳はほどほどの年齢と思われます。

実施案では 75 歳からということですが、これは現状からみて、少し合っていない印象です。

見直しは、主に事業費の抑制という観点からスタートしていますが、これは理解できません。もともと「高齢者の豊かな生活云々…」という目的でスタートしていることを考えれば、75歳以上を対象にすることはその、趣旨にそぐわないのではと思います。

物価、公共料金、交通費(地下鉄、市電、バス)もどんどん値上がりし、上がらない年金暮らしの身にはこれ以上の出費は押さえたいところです。

病院受診に安心して出かけられるようにしていただきたいものです。

その理由3. ポイント一律上限撤廃

前述理由1. 2で記した通り、アプリ、ポイント制度に賛成しかねます。

最後に、札幌市の高齢者人口の今後の増加時に伴う高齢者事業費の増加について説明がありましたが、これは今に始まったことでなく、人口構成の将来を見据えれば十分に予測できたこと、すなわち、札幌市の将来的な財政面での運用や計画が十分でなかったことについて十分反省することが必要だと思います。

これは、高齢者事業だけでなく、子育て支援、街づくりもしかりです。

50年後の札幌の街はどうなっていますか。「こんな街を目指している」と青写真を市民に見せてほしいです。

高層マンションや高層ビルが乱立するのでは、「美しい街」にはならないでしょう。法的な規制が必要と考えます。

大通公園に人々が集まり、安らぎ、にぎわう場所になっているのは、開拓時代の政策(防火帯?)のお陰です。

オリンピックが開催されたパリの美しい街並みは「街づくり」の計画があったからこそと思います。

札幌らしい「街づくり」を期待します。

分野は異なりますが、旧札幌ドームの運営についても甚だ疑問を抱いております。

何と6億円以上も赤字とのこと。運用計画が甘すぎましたね。誰の責任でしょうか…。

市は、本気であの場所、あの建物を生かして、赤字を出さないように対策を考え、即実施すべきです。

サッカーワールドカップのために建てられた「ドーム」、現状を考えると無念です。

以上です。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

メール

敬老優待乗車券は、大幅な減額又は制度改正を提案します。

本来、高年齢者であっても個人的な移動は、自己負担すべきだと思うからです。

仮に健康寿命延伸に向けた取組であるとして、存続させるにしても、7万円のチャージ額は、制度対象外の若者、未利用者及び低額利用者からみると不公平そのものであり、全対象者の 6.1%しかいない一部の高額利用者によるエゴだと思います。

敬老優待乗車券を継続して維持するのであれば、その上限額を利用実績等の平均額程度(2万円程度)にすべきです。

また、敬老優待乗車券に関しては、本来目的のとおり利用されているか否か不明であり、対象者以外の利用や通勤等の目的外利用されていないことを立証できないのであれば、廃止することも検討すべきである。

制度改正の反対者の中には、買い物や医療機関への移動時に使用しているといったが、買い物はネット宅配で補えるし、医療機関への移動は、敬老優待乗車券制度を変更し、マイナンバーカード保険証と紐づけて、医療機関受診実績と乗車券利用実績の照合を可能な制度に改正すべきと思います。

以上です。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

北区

提出方法

メール

標記について 77 才小生の①現状と②意見を述べさせていただきます。

①現在の利用について

いくつかの基礎疾患を持つ身ではありますが健常を維持するため家に閉じ込まないよう活用しています。

- ・市内各施設から知的刺激を得られることから散策、学習、購入行動を続けています。
- ・家の周りを散策するだけでは得られない効果(例えば毎回違った箇所を多いに歩きます)があります。
- ・友人知人といくつかの交流の機会を作りサロンの愉しみを継続しています(現在月 4 回)。

夜会は減りましたが懇談・学習と食事を楽しんでいます。

敬老パスは自身の健常維持と経済的な支出に多いに貢献していると自負しております。

②意見

- ・現役世代との不公平感について

一律に支給されている利用(枠)の見直しで是正すべきです

例えば①

70 歳以上の就業者は通勤手当の支給を受けながら敬老パスを使っている者が多いようです。～是正すべきです。

例えば②

札幌の地下鉄は一定の曜日と時間にのみ混雑します。

空席が多い時間帯に利用を制限することで不公平感の払拭に繋がります。

- ・最大 7 万円の利用枠は絶対額として大きいかもしれません。暫定措置も含めて当面、5 万円が適宜と思います。

- ・利用者の負担割合について

現行では最大 7 万円枠を利用した場合の支出は 1 万 7 千円で負担割合は 24%です。

それなりに適宜な割合と思いますが現在のシステム上(段階的な負担が最後で一気に上がる)皆さんの利用額が低いため(5 万円以内で止める)結果として負担割合も小さく止まっていると思われます。

- ・負担割合は世の中の的に妥当な割合、医療費等公的費用の最大割合 3 割負担が妥当と思われます。

・5万円を利用枠とした場合は1万5千円の負担額となります。段階的な負担増ではなく一律にすべきです。これであれば最大利用枠7万円もあり得ると思います。
以上、参考意見(パブリックコメント)としますので宜しくお願い致します。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

メール

少子高齢化が予測される中、この制度を実施することは、当初から維持することは無理であった。

また、福祉制度か高齢者の健康維持の施策か目的が曖昧である。補助制度は、50%以上の補助は、事業者は札幌市となるので、市の補助率は50%未満の制度とすべきである。

また、70歳以上の高齢者の労働者も増加しているため、通勤に使用することもあることから、額の上限を下げるべきと思う。

しかし、近隣に商業施設、医療機関がないため年金受給者にとっては、この制度は、非常に助かる制度である。バスと地下鉄の乗り継ぎに対して乗り継ぎのメリットがないことや、高齢者の運転免許の返納が増加することから、上限4万円、補助率40~50%としてはどうか？今後、団塊の世代が減少することから使用者は減少すると思われる。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

メール

ある時点まで高齢者の増加は致し方ない事だとおもいますので「敬老優待乗車証制度」の対応は可能な限りの財源で取り組んで頂きたいと思っています。

今回の資料を見て思いましたが「健康アプリ」のことが書かれていませんのでどのような仕様のものか判りませんが開発に関して一つ提案が有ります。

私は両下肢にポリオ障害のある高齢者ですが僅かな距離(一日 1 キロから 1.5 キロ程度)の散歩を日課としています。

ただ足を引きずって歩くためにスマホで利用している万歩機能では正しい歩数が表示されません。

例えば同じ 1km を歩いても私の歩数は 1800 歩程で妻(健常者)歩数は 2500 程を表示しています。

多分札幌市が検討している健康アプリも歩数をベースにすると思いますが障害者や高齢者の中には歩き方により正しい歩数が表示されない方が多いのではないかと思います。

是非歩いた歩数だけでなく歩いた距離でカウントし参加できるように開発してほしいと思います。

既に健康アプリの試作が有るのでしたらモニターをやってみたいと思っています。

蛇足になりますが歩いた距離は地図アプリ等によりかなり正確に測定が可能です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

メール

パブリックコメントの表題が「健康寿命延伸に向けた取組・・・」とあり、「敬老パス」の用語が抜けていることに違和感を覚えますが、まずは一昨年暮れに発表された素案に対する様々な市民意見を受け、新しい案を提起されたことには敬意を表します。

しかし、新しい案につきましてもまだまだ大きな問題点や疑問があり、改善を図っていただきたい点など「敬老パス制度」についてを中心に以下に列挙します。

1.新しい提案は将来的には「健康アプリ」に全面移行を図ることを目標に、敬老パス制度は一定の見直しを行ったうえで「当面存続」する趣旨であると理解いたします。見直し内容は①対象年齢の引上げ②自己負担割合の引上げ③上限金額の引下げの3点ですが、この新しい提案である「75歳以上」「半額補助」「利用限度4万円」は経過措置付きとはいえ、制度を有している政令指定都市の中でも突出して条件が厳しいものとなっています。特に、「健康寿命、健康アプリ」に関する議会宛説明ペーパーでは「バス、電車を使って一人で外出できる自立割合は75歳から急激に低下する」と記載する一方で、敬老パスの利用開始年齢を「75歳に引き上げる」という方針を打ち出すことは極めて不誠実な対応であると言わざるを得ません。負担割合を一定程度引き上げるとはやむを得ませんが、対象年齢は現行の70歳以上を維持すべきと考えます。

2.仮に議会宛の市の説明ペーパー通りに「バス、電車を使って一人で外出できる自立割合は75歳から急激に低下する」のであれば、団塊の世代の殆どが75歳以上に突入するこれからも事業費が増え続け、2055年には事業費が80億円に膨れ上がるというのはどういう試算に基づくものでしょうか？相対的に70歳以上の人口比率が高まることはよく分かりますが、今後、「一人で外出できる自立割合の高い70歳～75歳の高齢者」が減少する中で、2055年の事業費が80億円になる、という試算の根拠は何なのでしょう？是非教えていただきたいと思います。

3.最終的には負担割合を50%程度に引き上げるとはやむを得ないとは思いますが、低年金などのため、経済的余裕に乏しい高齢者でも安心して外出できるよう、最初の1万円分の負担額を最少額にするなどの「優しい」対応も考えてください。

4.敬老パス事業に関する「事業費が膨らみ続ける」という表現にも違和感があります。ここでいう「事業費」は一般財源と言われるものの中からの支出であると聞いておりますが、その支払相手先は市の交通局或いは地域の交通を支える、その意味では市にとってどうしても必要なバス会社であると思います。改定案では補助率を50%にしていますから、改定後は「敬老パス」というよりもむしろ「シルバーパス」「シルバー料

金」のような性格になると思います。「世代間対立」が騒がれているような現在、「敬老」という心にもないネーミングはもう卒業した方がよいのかもしれませんが)……そうだとするならば、市民が乗ろうが乗るまいが定期的に走っている交通機関に高齢者が半額で乗車することによって、どうして市全体の収支が悪化することになるのか、私には全く理解できません。(むしろ半額でもどんどん乗車した方が市の収入は増えると思いますが……)しかも、高齢者が乗車するのは主として日中の閑散とした時間であり、朝夕のラッシュ時ではありません。市の部門ごとの「縦割り」でみて、「財源がない」というのではなく、市全体の収支でみていただきたいと思いますし、その観点での説明が必要です。また、そうだとするならば、半額補助にした場合の利用限度を4万円に引き下げることは意味をなさず、現行の7万円のままで構わないはずで、ボランティア活動などに励む高齢者の支障になるような限度額の引下げは避けるべきです。

5.市では大学などに出向き、「若者の意見も聞きたい」との意向のようですが、先日の市長との対話集会では「高齢者福祉を負担している現役世代の声を聞いてほしい」と強く主張した若者があったことが話題になり、報道されています。(私も対話集会に参加してその場をみていました)この問題に限って若者に問えば、この反応は当然なのですが、北海道新聞の社説(12/25 付け)にもあったように数多くある市の施策の中でなぜこの問題に限って現役世代の負担を殊更強調するのでしょうか?市のこれまでの説明の仕方では若者と高齢者の分断を煽る結果になりかねません。……このようなことに長々と時間を費やすのではなく、北海道新聞の社説にもあるようにバスの減便問題、市民の足の確保の問題、高齢者の運転免許返納推奨など交通施策全般の議論を重点に市民を巻き込んで議論すべきと考えます。

6.最後に、これが今回の提案の柱なのでしょうが、「健康寿命延伸に向けた取組」の「健康アプリ」についてですが……これは私のような高齢者には苦手な分野ですが、以下のように考えます。……アプリポイントについては顧客を囲い込むため民間で広く行われており、その限りでは全く問題はないのですが、行政としてこれを行う場合は限定的、保守的に考えるべきだと思います。アプリを使いこなす「元気な老人」が「歩く」「イベントに参加する」たびにポイントを稼ぎ、電子マネーに交換できる、そしてその一方で様々な理由で外出が困難である、或いはスマホを使いこなせない情報弱者を切り捨てるという「冷たい行政」になりかねません。「健康アプリ」についてすべてを否定するわけではありませんが、当面は試験的導入にとどめ、効果を慎重に検証すべきだと思います。ましてこのアプリ事業を推進するために敬老パスの内容を大幅に引き下げるということは避けていただきたいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

メール

実施案については、市長と語る会に出席した際に一定説明を受けました。そのうえで意見を述べたいと思います。

①健康寿命延伸自体は、好ましいことであるとは思いますが、しかし、現行敬老パス制度とは、めざす方向は違うとおもいます。敬老パス制度は当初上限なしの無料パスでした。これは、敬老の精神と社会活動参加を促したものでした。若いことから、70 才になれば、敬老パスが支給されると心待ちにしていたものです。現役世代にとっても将来の安心を与えてくれる制度の一つでした。それに比べて、健康アプリ制度は、電子マネーが欲しければ、「歩きなさい」と指示される気分になります。それも 2 万円限度であれば、範囲が狭く限定されます。私は、現行敬老パス制度の継続をのぞみます。本当は、上限を撤廃した方が、健康寿命延伸に貢献すると思いますが。

②市の説明に違和感があります。それは、一つの事業予算に対する市民負担の増加をことさら強調している事です。市民は、市全体の予算を支えています。不要・不急と思われる予算を含めてです。私は、現役世代の時も 72 才の現在も働き税金を納めています。自分と現役世代や子供たちを含めて支えているのです。非働世帯であっても消費税をふくめた関税を納税し国民・道民・市民・自分を支える一員なのです。札幌市が行うべきは、その事業が役に立っているかを検証して効果的な予算の配分を行うことでしょう。敬老パス事業は大変役に立っている制度として、全国に誇れる制度の一つであるとおもっています。

③市長は、「負担をするものと受益をうけるものは対立するのは当然のこと」との趣旨の発言をマスコミで言われました。大変驚きました。行政のトップとは思えない発言です。この論理では、社会的給付をうける者は、納税者と対立することが当然との理屈になります。あまりにも憲法・社会保障・社会福祉の理念からかけ離れた考え方です。働けない人たちの生活を保障することは、国の義務です。その義務を果たせるように国民は納税しているのです。「税は健康で文化的な生活をおくるためのサービスの費用」と国税庁は HP で税の目的を説明しています。全市民が豊かで安心した生活を送れるような政治が行われていれば、対立などは起きません。市長はその先頭に立つべきです。

④市は、「敬老パスの 5 万円以上チャージ額が総事業費の 5 割をしめている」のは不公平だと主張しています。でもこうした結果は当然であり不公平ではありません。「多く利用しているのは立派」であり「上限があり制限してごめんなさい」とお詫びする問題です。

⑤以上の理由から、無料パスを望みますが、当面は現行の敬老パス制度を維持するよう要望いたします。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

1. 敬老パス改訂計画案を撤回し、せめて、現行策の実施を求めます。
計画案が完全実施された時、パスとしての利用額はわずか 20,000 に減額となる。これは、私の住居から札幌駅を往復すると、年間 20 回しか出られない。
また、「自己負担」50%の多額を徴収する意義は理解に苦しむ。取り止めてほしい。
2. 市民の足を守る交通政策の抜本的な改革が求められます。市内のバス料金は 12 月より 30 円の値上げを実行し、さらに減便を住民に説明もなく強行しました。私の利用する「じょうてつバス」は、この 1 年間に、126 便も減便しました。「運転手不足」の一言で減便を当然視しています。
これでは、敬老パスを利用しようにも、交通手段を奪われていることになります。市の交通政策の再構案を求めます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

大変ありがたく使わせていただいております。

私は、通院、時々友達と会う、買物に行く、体育館に通う等に使用しています

年々高齢者が増、財政も大変と理解します

優待最高額七万円を三万円に引き下げる、最高額を利用する人、一万円で十分な人、不公平感のない様使用率の統計等を取り決めていただきたいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

私は敬老パスを利用しています。が、こんなに恵まれている市は財政源が安定しているからなのだろうと思っていました。

一度実施されると「廃止」や「減」の話になると、「削られて生活きつい、健康上、助かっていたのに」と不満になってしようものようです。

私は1ヶ月 3,000 円～5,000 円の恩恵と見て、(3000 円×12、4000 円×12)の中をとって4万～4万5千円の補助で続けていただければ幸いです。

三姉妹とも通院多い中、私は人工関節、妹は股関節筋など散歩はするけど、筋力をつける動作を(かならずしも公共施設でなく)自宅で行っている人が70代の中には多いと思う。

元気な人しか取り上げられていないけど。

でも市の財政が第一なので、決ったことには従います。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

関係者各位

敬老パス見直し案について

私は去る 11 月 30 日に行われた市長を囲む意見交換会で私見を述べさせて頂きました。当日は突然のご指名でもあり、まとまりのない意見となりましたがその後、改めて自分の考え方を整理致しましたので、意のある所を述べさせていただきます。

まず、敬老パス導入の目的ですが、当初は高齢者(70 歳以上)の健康増進と社会活動への積極的参加を促す為であったと了解しております。(私の義父も 88 歳で他界いたしました。趣味の囲碁クラブに出向いたり、家内と連れ立って街を散策したりと大変お世話になりました。)

開始時は交通費全額免除であったと記憶致しておりますが、その後一部補助に変わり今日まで続いており、私(81 歳)もその恩恵に浴しております。

然るに、先日のお話では市の財政状況の悪化と人口構造の変化などを理由に適用年齢の引き上げ(70→75)や補助金の減額等が検討されておる由、導入時の目的や精神とはかけ離れた方向に向かいつつあると懸念せざるを得ません。

そこで、これまで種々検討されおる問題点はさておき、当初導入時の原点に立ち返り、私案を述べさせていただきます。

- 一、70 歳以上の高齢者については年間補助金額の上限を設定し、原則全額補助とする。
- 二、補助期間は当該年度限りとし、翌年への繰り越しは行わない。
- 三、敬老パスの申請は任意とし、年度開始前までに交付をうける。

理由:

- 一、現行制度下では負担金を前払いで納入する必要があり、納入金額も回数ごとに変動するため積極的に活用する意欲がそがれる。
- 二、このため、遠距離への外出は自分で運転するか、家族任せにする事となり自ら積極的に行動しなくなる。
- 三、現行制度下では申請は最寄りの郵便局で受け付ける事となっており、無料化することで不要になる事によるコストセーブはかなり大きいのではなかろうか?
- 四、補助期間を限る事により、取得意欲が増すのではないかと推測する。
- 五、無料化する事により、敬老パスに代わってマイナンバーカードの利用も考えられる。

六、パスを利用する事により家族が一緒に出掛ける機会も増え収益につながるのでは？

七、高齢者の行動が活発化する事によりパス導入のもう一つの大きな目的である健全な健康社会の実現に多大なる貢献が期待できる。

八、市の行政の大きな柱である観光事業の促進についても高齢者の生きがいとなるボランティア活動の活性化に大いに寄与する事となる。

以上、何等数字的裏付けもないまま私見を述べさせていただきましたが、最後に今回検討されている、適用年齢の引き上げやポイント制の導入等は高齢者の社会活動への参加意欲を著しく削ぐことは間違いなく、避けて頂きますようお願い申し上げます。

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

正直、老人の人の気持ちも若い人の気持ちもわかりますね。

私もまもなくその時が来るわけですから。

資金のこともあるので、一概に老人の意見に賛成というわけにもいきませんが。

ここで市役所の皆様。発想の転換なんです、75 才過ぎたら地下鉄・バス・電車、子供料金というのはどうでしょう。これだと皆様、老人たちもウィンウィンだと思うのですが。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

先日、アスティ 45 での敬老パスに係るパネル展示会へ伺った際の職員の回答と問題点について

1.敬老パス制度の対象者について

対象者が、年々増加するとの事であったが、死亡数や死亡率を考慮しているかとの質問に対して、考慮していないとの事であった。

2020年10月1日現在の70歳～74歳143,481人、75歳以上268,750人、合計412,231人道新のお悔やみ欄を見ると平均1区で2人が死亡している。

$10 \text{ 区} \times 2 \text{ 人} = 20 \text{ 人} \times 30 \text{ 日} = 600 \text{ 人} \times 12 \text{ ヶ月} = 7,200 \text{ 人}$ 1年間で7,200人の減少を考慮していない事は、根本的な数字に問題がある。

2.少子高齢化について

少子高齢化は、1992年の国民生活白書で使用された。この30年間少子高齢化対策は、何をしてきたかとの質問に、何もしていなかったとの事であった。これでは税金泥棒と言われても止むを得ない。

3.経費削減について

412,231人に対して毎年、敬老優待乗車証利用者負担金納付書を郵送しているが、不幸にして納付書を使用出来ない対象者がいます。

納付書の未利用率が30%とすれば、 $123.669 \text{ 人} \times 84 \text{ 円} = 10,338,196 \text{ 円}$ (10月1日以降は $110 \text{ 円} \times 123,669 \text{ 人} = 13,603,590 \text{ 円}$)が無駄になっている。納付書が必要な対象者は、業書にて応募させれば良いとの質問に対して、考えていなかったとの事であった。

以上

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

(改訂私案)

- ①対象年齢 75 歳以上
- ②チャージ上限3万円とするのが妥当
- ③自己負担一律 30%

- ・70代は敬老ではなく現役である、後期高齢の75にすべき。
- ・チャージ額3万以上の特権階級の赤字が大であり、3万円を限度とするべし。
- ・高齢者の運転を免許返納をうながす為には自己負担 30%くらいのことは考えてやるべし。免許もなくなり敬老パスを高負担では高齢者がかわいそうだね。
- ・敬老パスの赤字解消と健康アプリはどうも結びつかない。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

最近の制度説明会で、道新の記事によれば、若者のことも考えて欲しいといった趣旨の意見に対し高齢者が我々も高齢者を支えてきたと発言したようですが、今の高齢者は騎馬戦方式で複数人が一人の高齢者を支えてきましたが、これからの若者は肩車方式で一人の若者が一人の高齢者を支えていく時代となること、年金等の各種制度も若者にとって将来不安となる改正が予想されることから若者の将来の負担を少しでも緩和させるため、敬老パスの即時の廃止が将来の多くの札幌市民の幸せになると思います。

健康アプリについては情報が少なすぎて分かりませんが、一般健康診断、がん検診、各種感染症のワクチン接種、歩いた歩数に対するポイント付与等は費用対効果が見込めると思います。

健康都市札幌

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

【私見】廃止すべき

現在若い人たちに助けられ維持されている制度が沢山ある。そして今後更なる少子高齢化が進むことは明らかで、一定期間ごとに制度を見直さざる(含:廃止)を得ない事は明白である。その中でどの制度を存続させ、または改正するかの判断として重要なのは、どれだけの人に影響があるか(公共性)という点だと思う。

では代表的な社会制度はどうか考えてみたい。

・年金:高齢者の生活基盤であり影響を受ける人の多さからも廃止は無理で改正に頼らざるを得ない。

・健康保険:国民皆保険であり、利用者の多さから改正に頼らざるを得ない。

・敬老パス:未利用者が対象者の 53%にも及んでおり廃止できる制度である。また、利用額を見ても、わずか 12%の人が助成額の 53%を利用しており、公共性が高いといえるかは疑問である。

将来的に財源が潤沢であれば良いが、今後の札幌市の財政状態を推測するに、早晚改正が必要となるのは明らかで、今廃止に踏み切るべきである

職員の人達は大変だろうが、先延ばしするのではなく、千葉や広島、静岡などと同じように今、英断すべきである。

【改正に対しての意見】あくまで廃止すべきと考えるが敢えていうなら

1.年齢の引き上げについて

資料によると健康寿命は男性 72.08 歳、女性 74.69 歳となっている。しかし 2 年後から 75 歳に引き上げるという案になっている。これでは健康寿命を過ぎた男性はこの制度を使わずに自己努力で 75 歳までの 3 年間でたどりつかなくてはならない。特に男性の 75 歳という年齢は制度の目的にそぐわず、せめて男性 72 歳、女性 75 歳にすべきではないだろうか。

2.子ども料金を同じ方法にすべきである

子供のように割安料金にしたら良いと思う。個人的には大人料金の 75%くらいが妥当だと思う。(座席は一人分使うので子供と同じ 50%では少なすぎると思う。)

<通勤定期がわりに使われる実態>

現在の高齢者の就業割合は 70 歳～74 歳:32.6%、75 歳～79 歳:18.1%というデ

一タがある。通勤定期代の支給を受けながら、敬老パスを利用し通勤している人がいる。定期代は大人料金で支払われるため差額の不労所得を得ていることになるが、雇用主は正規の定期代を支給せざるを得ない。上記方法に変更したら解決できると思う。

3.健康アプリについて※敬老パス利用者の効果を図る検証データが無いので判断できない。

新たな制度を作る必要はないと思う。103 万円の壁撤廃で地方の財源が大きく減ることが取りざたされている。抑えられるものは抑えるべきだと思う。

導入せざるを得ないというのであれば、スマートフォンの利用率は新型コロナの流行で一気に上昇、60代が91%、70代が83%、80代が62%というデータが2024年3月にNTTドコモの関連会社から出ている。このレベルなら導入は可能だと思う。ゴミステーションが遠いので自宅前に作ってほしいというのは個人のわがままではないか。

また、歩数カウンターというのがあって電動でスマホが揺りかごのように揺られ、自動的に歩数を伸ばせる機械が2,000円もしないで売っている。もし制度を作るのであればこういった機械に騙されないような対策が必須である。(ポケモンGOで使用し歩数を稼いでいる人がいると聞いた。GPSと連動させることは難しく、実際の歩数として距離が計算されている。)

【要望】

1.今後の説明会開催に際して

11月30日開催の市長と語ろうというイベントをTV等を見た。あの場で発言した20代の若者は四面楚歌の中、本当に勇気のある人だと思うし、多くの現役世代の考えを代表した発言だと思う。しかしヤジが飛び交ったのは、制度が変わると困る人が大半だったからだと思う。こうならない為にも世代別に一定数入れるべきだったと思う。(賛成も一定割合必要だと思う)

例)20~59歳:50%程度、60~69歳:10%程度、70歳以上40%

また、事実に基づかない発言は正すべきである。『殆どの方が改正に反対している。』と発言した方がいたがそんなデータがある訳が無い。それは現在利用していて改正されると困る人の殆どが反対しているというのが正しい話だと思う。全世代にアンケートをとったら、若い人を中心に廃止が一番多いような気がする。

※11月に元同僚(私以外70代)と5人で会食をした。使わないので要らない、廃止4/5人、使うので助かっている1/5人だった。皆使っていると思っていただけに意外だった。つまり特定のごく一部の人だけが反対しているという、これが実態に近いのではないか。

2.財源は子育ての為に使ってほしい

東京都のようにはいかないと思うが、まず給食費を無償化すべきである。資料によると2025年度に必要となる敬老パスの事業費65億円、これを現在の小中学生数約13

万人で割ると、年間一人 5 万円になる。学校の年間授業日数約 200 日なので一食当たり 250 円(ほぼ現在の実費)、理論上は給食の無償化が可能になる。実際はこの通りにいかないとは思いますが、この使い方の方が市民の賛同を得られるのではないだろうか。

以上私見まで

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

スマートフォン持っていません。

アプリという言葉も解りません。

普段、歩くことを心がけています。

老人クラブに参加しパークゴルフ、国書、麻雀、卓球などしています。スマートフォン持っていない場合のポイントの証明はどうすれば良いか教えて下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

1 「敬老パス見直し案」に反対です。

敬老パスは、受益権の一環でこの民主主義の世の中では、ある程度の平等性が担保されなければならないのである。

私の居住する清田地区は市営地下鉄もなく、昨今の中央バスのダイヤ改正等から交通難所の地域であるからして、中央区民等利便性の住民とは違って、敬老パス使用の中央バス利用が大きな交通手段なんです。

当区には、行政機関は、清田区役所しかなく、国の出先機関への用・・・(以降読み取れず)

意見の内容

年代

不明

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

敬老パスの運用方法が昨年から検討されてきたが腑に落ちない点がある。

昨年は「老人に街中に出て行きやすくし、健康増進を目指すため現行の費用負担方法を変更する」と言われていたと記憶している。しかし、「今年は財政状況や人口構造の変化を理由に見直しを行う」ことに理由が変わっている。

先づ聞きたい。人口構造の変化はたった1年で理由が変わるほど変化したのか？

何がどのように変わり、前言を撤回する様な要因で有ったのか市民に説明をする必要があると思う。

次に最初の「老人の健康増進を目指す云々」はどこに行ったのか？この理由として挙げた健康増進は簡単に引っ込めることが出来る内容と考えるが如何なものか？

更に来年、市長が今回の事で記者会見で謝罪を行う方向で話が進んでいると漏れ聞こえてきているが、これが事実であれば市民にこのパブリックコメントを求めることや、各所で行っている意見交換は「如何にも市として市民の意見を聞いている」振りをした詐欺行為であるし、更に余分な税金を使い市の職員のいらぬ労働をする行為であり、二重に犯罪を犯しているとしか言えない。

アリバイ作りの行政は市の政策を腐らせることになり、民主的な政治とは到底言えない。

市にお金が無いのならそのように言えばよい物を、聞こえの良いことを言っておいて、途中で行き詰まった途端、嘘でその場を取り繕うようなことは止めて欲しい。

市長や市の幹部でないと考えつかない様なやり方では市民は付いていかないし信用もしない。早く「正直な政治」を行うよう、市民として切望してやまない。

このペーパーを怒りを持って提出する。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

長い間(75 歳～83 歳まで)敬老パスのお世話になりありがとうございます。

高齢者の増加、少子化の流れは止めようがありません。

私たち高齢者も譲歩して共に歩かねばなりません、ついてはと以下の①、②案を提案します。

年齢は 75 以上

①チャージ額、5 万円、負担金 2 万円とする

②高齢者の乗車料金を半額(学童並み)とする

敬老パスはリスクばかりではなく、高齢者の健康年齢向上に寄与しています。引きこもってれば、すぐに医療機関のお世話になってしまいます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

私は 2021 年 12 月 22 日恵庭より里塚の娘の所へ転居しました。

札幌へ来て老人へのサービスにびっくりです。

今敬老パスの見直しに様々な意見があり市としても苦労されていますね。

私としては最初から取組がよすぎたのだと思います。

17,000 円で 70,000 円はおかしいです。

年金ぐらしの老人で病院へ通うはあたり前です。

半額負担で十分です、それだけでも大変ありがたい事です。

最初から良くされると納得できない人がふえるのはあたり前です。

年寄りには仕事ができなくなるとお金の使い道を考えます、年金をどうわりふりするか。

特に国民年金の方は？

私は 70 歳まで仕事しましたので、余裕はありませんが老後施設に入ると 15 万以上のお金が必要と考えています。

私は娘の家なので家賃はありません、生活費＋病院代です。

少なく共 70,000 円かかります。贅沢はしていません。

8 月より後期高齢者になり医療が極端に安くなりました月 60,000 円まで落せます。

それ以上かも…

生活費＋医療費です。

娘にはもう少し切りつめてと言われます。皆さん色々な事情をかかえています。

私も主人が自営業で失敗し家・土地を手離し財産はありません(53 歳です)

3 人の子も目の当たりにし財産を当てにしてないはずです。

人間恵まれるとあたり前と思います。私も国民年金だともっと切りつめたと思います。

今 75 歳私は仕事がしたい！！

何にも資格はありません。年齢がじゃまします。

足は不安定です。札幌へ来て 22 年 23 年 24 年と入院し股関節・膝は悪いです。手はうごきます。

認知ではありません。足が不安定で遠くへの移動はできませんが私みたいな人間でもできる事があればしたいと私でも思います。

国民年金の方だと余計思うのでは……

若い時に財源を残せた人は別とし すみません言わんとした事が外れました。

恵庭・千歳はバスの補助あり札幌のような額ではありません

老人よりも子・孫・若い世代の人達が住みやすい市であることを願っています
年寄りも自分の身は自分で守らないといけないと思います。

みんなが納得は難しいと思います。少しずつ寄り添えるといいと思います。

時間をかけ検討をお願い致します。

一度実現した事を見直しするのは大変な事と思います。

市民の皆さんが理解し住みやすい札幌であることを願っております。

長い文面申し訳ありません。

老人は一度楽するとそれが当たり前と思います！！

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

現在月に 2 か所の病院に通っています。駐車場の有る所は冬場でも車で通院していますがもう歳ですから免許は返納するつもりです。今は車と併用なので所用で市内へ出掛けるのを併せ 3 万円程度で間に合っています。

市内へは、病院、買物、文化教室等なるべく家族にめいわくが掛からない程度にして出掛け体調と頭の体操を兼ねて外出しております。

車が無くなれば、バス、地下鉄、市電に頼らざるを得ず、敬老パスが減額されるのはこまります。

コンサドーレ札幌のゲームは 8 試合は行ってます。

どうか現行維持をお願いします。

今まで私達が現役世代の時は税金もきちんと払って高齢者の分も見て来たではありませんか！

現行維持をお願いします。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

私は、医大まで、バスと地下鉄で行っております。

検査で採血で 7 本～8 本をとるため、主人がいっしょに行っており。

その他にも病院があり、主人が歳のため運転は無理です。

市内の買い物や病院を息子や娘にお願いするわけにはいかないので敬老パスが大変役に立っていますので減額されるとこまります。

どうか現行維持をお願いします。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

A 私は各所の集会に参加しました。市の発表に対して全ったく質問の出なかった部分に対して質問します。道新 11/21～11/23 市の予算公費負担額 50 億円とある、毎年 50 億円の内訳の詳細を公表して下さい。明らかにして議論すべきです。

B 私の意見としてはチャージ金位は、区役所に収入課が有るのだから何で郵便局なのか、無駄な経費と思いませんか。

C 必要としない 53.1%+1 万円 17.5% = 70.6%の方は、各区で面接して最初から支給しない用にする。必要な人には迷惑な話だ。

1-3 10 年間で 143,479 人増加した。その内市外から転入して市民になった方は何人か、又市民となった方は皆と同等の扱いか、これ平等か。

2-1～4 負担金について、1万円が千円なのか 2 万円が3千円なのか、全て 20%にするべきだ、誰に遠慮したのか答弁を。

チャージ額 0 円 53.1%、車の所有者及びその家族であって、日通の表語＝戸口から戸口までである。全く必要としていない。

ですから道路は渋滞し、電車、バスはガラガラの状態です。以上上記 C に共通。

2-4 一見直して。各交通機関値上げの時代です。最低でも 5 万円までお願いします。

2-5 今和 7 年分からでも現行負担金を変更。20%に変更するべきです。経過も変更。

総評として経費が高過ぎると思います。もっと紙質を落とすとか、あまりにも無駄と思われるパンフレットが多いと思います。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

現在検討されておられる、標記について高齢者の 1 人として、制度現状維持をお願い致したく、ご進言申し上げます。

但し一部の改正案(1)対象年齢の引上げは賛成です。

昔と相違して 70 才代現役で働いて居られる方が大部分と思います。

又現在の雇用状況(人手不足)の中での担手です。

次に現行制度運用に対するメリットについて申し上げます。

(1)高齢者を積極的に外出する機会を得られる

(2)公共機関、施設の利用により、札幌市全体の活性化

(3)外部との交流により、認知症等の発症が抑えられる

(4)引きこもり防止対策の効果がある。

(5)商業施設へ出向くことにより、町全体が活性化する

(6)高齢者による交通事故の多発を抑制するため「運転免許証」の返上促進等もあげられます。

本制度の現状維持をお願いする次第であります

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス制度見直し案、おかしいですよ！財源問題、様々な世代の負担などいいがかりとしか聞にえません。現在車で、区外への出かける際、習い事、買い物で動いてます。それ以外の区内での習い事、会議へは敬老パス使用で助かってます。尚高齢になり、運転はやめて、免許返納をと云われている中、今迄以上にバス又は地下鉄の利用が増々必要です。今のまま続けて下さい。

健康寿命延伸に向けた取り組み案もおかしいよ！

健康維持には自ら 12 年前より子供達は離れて生活してる為、健康第一、自分の身体は自分で守り迷惑かけられないと思い、筋肉トレーニング、ストレッチと会費を払い通ってます。

お陰様で足腰も痛くならずにご過せてます。

絶対敬老パス残して下さい。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

平素から札幌市政に対するご活躍について敬意を表します。

さて、私は平成元年に公務員を退職し年金生活を送っている、93 歳の男です。

家族は、妻が認知症を患い特養ホームに入所しております。

8 年前に自分の運転に危険を感じ、また行政の方針に従い車を手放しました。

現在の主な外出は、妻の面会に週二日、自分の通院に月 1 回(4 件)、その他所用で外出するときに敬老パスを使用しています。

年金生活は 34 年になりますが、この間に年金額は物価の変動等の理由で約 1 割減額されています。

また、昨今の物価は上昇を続けており、少なくとも 3 割以上は高騰しております。

年金額は物価の動きに連動して上下することになってはいますが、物価の上昇に基づく増加には連動しないようです。

私を取り巻く環境はこのように四面楚歌の状態です。

この上敬老パスの料金が上昇することは、年金生活者にとって死活問題になります。

市財政の苦しいことは理解しておりますが今回の敬老パスの改定は見送ってください。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスのパブリックコメント意見

1. 健康寿命アプリの費用を説明するべき

敬老パスの変更は札幌市の都合だけで動いてはいけないことだと思う。札幌市の予算でお金が無いから敬老パスを縮小することと健康寿命アプリを結びつけると一挙に二つを解決するとの発想であるが分けて考えないと敬老パスの問題は解決できないと思う。敬老パスを縮小しながら一方でアプリの費用についてはいくらかかるか説明もなく撤回も札幌市は表明していない。アプリのお金をしっかり説明するべきである。

2. 敬老パスの札幌市予算内での優先順位を上げてください

年寄り敬老パスの反対は物の値上げが酷く否応にも負担が増えていっている状況に対し、誰にもその怒りを言える事は出来ないでいます。その反動が敬老パスの反対に強く反映している可能性もある。国民年金はもちろん厚生年金だけでも生活は苦しいのです。6 万円や 13 万円で生活出来ると思っているのか？健康寿命とかを考える余裕すらないと思います。

生活保護以下の生活が現実にあるのです。私は 80 歳に近い年齢ですが今年きた年賀状は昨年のお金の 1/3 以下になりました。敬老パス問題はそんな中で声を出せば自分たちの権利を守ることができる可能性のあることなので何とか守りたいと考えているのです。敬老パスを使う年寄りが少ないとの意見もありますが敬老パスさえも節約させなければならぬ生活があるのです。制度が出来た時から経費が 5 倍になったという札幌市の説明ですが、現在の金額が問題にならなくてはならず今後も増えることが問題なのでから本当に問題ならば説明をしっかりとしてください。年寄りの目線から見ると札幌市の予算の中の敬老パスに対する優先順位を上げてほしいと思います。横浜市では市長選挙の公約になっている程重要な問題です。札幌市は土地面積が広く地下鉄の乗り継ぎが無ければ目的地に着かないことが多く交通費は他の都市と比較して多くなっていると思うので補助は必要です。多額のお金が必要な中央区の再開発計画を見直すだけで費用の捻出は出来るのではないかと思います。

3. 敬老パスの見直しは中期計画で新しい機関の設置を

札幌は今後 50 年間の敬老パスの制度を作ろうとしているように思う。若者は年金のように敬老パスの恩恵を受けられないなんて誰が言ったのか？札幌市が若者に何を説

明しているのか？分断を顕在化して札幌市の応援団になってもらうためなのかと思ってしまう。取りあえず 10 年間の制度が維持できるのであればそれで良いのではないかと思う。団塊の世代がこの世にいなくなれば経費の状況は変わるのでないか？30年40年後まで札幌に居住するか定かでない学生に敬老パスのことを説明して反対してほしいのですか？札幌市が向き合うべきは長年札幌に住んでいる高齢者ではないかと思う。市民と常時話し合う機会を設けてより良い制度を目指してほしい。

4.敬老パスとアプリを分離してください

札幌市役所は学生に PR するより市の独善がこの事態を招いてしまったことをまずは反省すべきである。更にアプリを撤回せずに来年度予算に組み込んだことも敬老パスの直接関係する年寄りの意見を無視している。アプリは横浜市の制度を参考にしているというが、横浜の友人に聞くとアプリを使っている仲間は居ないと返答です。アプリが上手く行かないのは目に見えております。上手く行くと考えているなら根拠を示して頂きたいです。アプリを採用するなら横浜市と同じく敬老パスとは別の制度としてください。

5.健康寿命延ばすのには室内運動器具の補助が有効です

健康寿命が短いのは札幌には長い冬があり、家に籠っていることが原因の一つにあります。

年を取って働かないでいると急に体力が低下することを実感します。家の中では出来ることが限られてくる。そうすると座っているとだめですから出来るだけ外に出ようとするが、寒さが苦手な年寄りには買い物や雪かきが精いっぱいです。冬季間に家の中で運動が出来ることが札幌市民にとって求められていると思います。室内健康器具を購入する市民に補助を出してくれませんか。札幌市の補助金は運動のきっかけになり、アプリより直ぐ効果があると思います。冬の屋外のウォーキングは札幌では出来る人は限られてくる。

6.今回のパブリックコメントの有効性に疑問

来年の予算の骨子が出来た段階でのパブリックコメントは何のためかと疑問に思う。札幌市はパブリックコメントの結果を計画に反映すると言っているなのでその言葉を信用して意見を出しております。本当に市民の意見を真摯に受け止めて頂きたいと思っております。

※横浜市の免許返納対策と敬老パス※

札幌市は免許返納した場合何も見返りとしての対策をもっておりませんが、アプリが横浜市の制度を参考にしたとの話が有りますので書き添えますが、今年の 10 月から返納者に対して 3 ヶ年敬老パスを無料にする制度を始めます。札幌市も参考に導入をお願いしたいものです。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

手稲区

提出方法

郵送・FAX

はじめに(予定の)自己負担 50%の制度に感謝している。

聞いてみたいこと

1. 共通(夫婦)カードの制定は難しいのか

1. 死亡などで本人の利用が出来なくなった場合、或いはカード返上などの場合の取扱い窓口はどうなっているのか

1. 返上時のカード残高の有効活用は出来ないか

1. 全国的に札幌市の教老パスと同様の制度はあるのか、あるとした場合実態のはあくは？

※新制度移行案には全面的に賛成である

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

健康アプリと敬老パスは別々のものと思います。

健康アプリに必要な経費もむだでもったいない。

歩数の記録は歩数計やスマホなどでも出来る。

夏は歩いたり、自転車など利用している方もいると思う。

歩ける方は歩いていると思う。

冬は歩く距離に不安な方が多くいると思う。

健康アプリは不要で、敬老パスだけにしたい。

私は今年度からなので年間の使用金額は不明ですが、週に 2 回買物通院他などでバスを利用するとして、年間 5 万円弱必要かなと思います。(あくまでも目やすです)

バスを利用して外出できたら、健康増進維持にもなると思います。

自己負担額が増加するのは、ある程度仕方ないと思う。

敬老パスの長くこの制度を続けて欲しいです。

若い方々にも納得してもらえる負担額にして長く続けて欲しいです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

公共交通の取り巻く環境

・JR は赤字問題から国民の足となる路線の廃止、バス会社は運転手不足に対応した減便と値上げ等

札幌市民は非常に迷惑と不便を感じている。学生・サラリーマンは通学・通勤問題、高齢者は外出の機会がますます遠のく。特に駅直通バスがなくなった区は、乗り継ぎの負担と運賃増・時間ロスが重なり非常に迷惑している。

公共交通企業としての自覚、責任感の欠如である。

この状況下で札幌市の「敬老パス」見直し案は、市民にさらに追い打ちをかけた内容になった。

見直し案について意見

・見直し案はもう少し早く対応すべきであった。JR とバス会社が赤字や人手不足で減便・値上げをすでに実施している。

民間企業がすでに対応に乗り出したので、市も急いだ感じが強い。

敬老パスの年齢引上げと料金値上げを同時実施する案に加え、健康アプリなるものの追加で、議論を深めようとしている。

ただ市の作成の資料では、敬老パスは当面存続、値上げと年齢引上げは経過措置になっている。議論を深めたいとする一方で、すでに結論ありきのようにも受け取れる。

・見直しは必要不可欠であるが、利用がバス・地下鉄・市電に限られるので、是非タクシーまで利用拡大の検討をお願いしたい。

同時引上げを市民に求めるのであれば、利用者としてはさらに足の確保拡大を札幌市に求めたい。

また健康アプリにこだわるのであれば、利便性、納得性が必要である。私は代替案として公共交通機関に高齢者料金の新設を求めたい。

料金は敬老パスカードで精算し、チャージも利用者が行う。市は地下鉄・バスなどの事業者に見合った助成をする。

敢えて健康アプリに時間とお金をかけるより、現実的な選択を行うべき。

令和 6 年 12 月 25 日付の北海道新聞の「札幌の敬老パス」についての社説の中で「誰もが移動しやすいまちづくりのためにも、高齢者料金を設けるなど世代間扶助の福祉とは別に、交通政策の観点からも制度のあり方を考えたい」と記述があった。これらを参考にしてもらいたい。以上

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

若い方々への負担をかけるのは反対です。

①70 才以上は、子ども料金と同じく半額ではいかがでしょう

②割引証書は、本人が区役所へ伺い、いただく(郵送料の負担を無くするため)

③交通費とは別ですが、円山動物園の入園料を半額ではいかがでしょう。無料にすることはないと思います。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

本件の「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」についての意見を述べます。

まず驚いたことは、「敬老パス制度」が何時の間にか表記の実施案に取って代わってしまったこと、「敬老パス制度の一人当たり負担」が前面に押し出されてきたということです。

そこで、その実施案の中身について感じたことを記してみます。

①.「健康寿命の延伸に向けた取組」について

実にお役所的な発想が見え見えで、本件の実施案の理由付けに「健康アプリ」まで作りだすという姑息な手段だと感じた。

②.「敬老パス制度の一人当たり負担」について

20 才以上の負担増を強調して、現役世代の感情におもねるという手段は、お役所の常套手段が出たなというように感じた。

それにその数値をどうやって導き出したのかも解らないし、そもそも通常の税金の相互扶助の基本から成り立っていることからみて特別に引張りだして「どの範の負担が大きい」とかいう解説は、実にミグサイやり方だと感じた。

以上が主に感じた点なので、これを踏まえて私の所感を述べます。

(1).「健康寿命の延伸」について

当局が、本当にそこまで考えて要るのであれば、取って付けたような理由付けにするのではなく、全く別の制度として主に「前期高齢者」向けに検討すればいいことである。「後期高齢者」は、総じて「歩かない」のではなく「歩けない！」のです。

(2).「敬老パス制度の一人当たりの負担」について

このような現役世代の支援を仰ぐような手段は、余りにもみっともないので、遣らないように。

以上の点を踏まえての私の意見は次の通りで、この「実施案」の「2-4 敬老パスは当面実施します」と「2-5 経過措置を実施します」については、当局の実情を十分に察して、止むを得ないこととして容認することとします。

但し、当面とは言わずに、その後も存続をお願いします。

以上

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

約 10 年前の敬老優待乗車証制度の年間予算は 40 億を切っていたと考えます。それが、2055 年の事業費が 80 億を越えると試算をされています。私自身はその額ではおさまらないと思います。その要因は、本年度で、われわれ団塊の世代が全員後期高齢者になり、今後さらに、少子化、超高齢化、人口減少が進み、札幌市への高齢者の移住がさらに高まることの現実を考えた時、いまからしっかりその対策に取り組むことがさらに重要と考えるからであります。来年から対象年齢を 70 歳から 75 歳に引上げ、自己負担割合を 50%に引上げ、チャージ上限を 4 万に変更することに自分は賛成いたします。先日の市民説明会で若い人が提言をしたことを、大人の市民、行政もしっかりとうけとめて、未来の子どもたち、若い人の負担を少しでも軽減する責任が札幌市全体にあることもしっかりとうけとめることが大切であります。そして、今後の流れとして市民説明会も大事ですが、敬老パス制度、健康寿命延伸に関わる検討会議を立ち上げて、冷静な議論をする必要があります。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

現行の「敬老パス」の存続を望みます。

自己負担が増えると利用出来なくなる。

なぜ足を踏み出す機会を奪うのでしょうか。

今が一番いいと思っています。

運転免許の返納を考えはじめ、更に使用を考えているのに本当に心外です。

7万を5万円にというのは、財政上は仕方ないかと思いますが、バス路線も減って不便ですので、JR やタクシー利用にも使用出来るように努力して変えてください。

アプリ使用は当然大変です。

高齢化を問題にせず！！スマホない人はどうするのでしょうか。目も不自由なのです。

想像してみてください、分かると思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス制度の対象者と事業費？

現在 50 億円で 80 億円となる見込みと言われていますが、その内訳を明らかにすべきです。想像ですがもし 70 才以上の方々全員に敬老パス等の資料を送付しているのでしたら一考すべきです。毎年この方法だと事業費は増加します。市は 70 才から 75 才に変更を考えている様ですがこれは高齢者の社会参画・健康寿命増進策に矛盾した政策です。

70 才以上 79 才までの方々全員に敬老パスを送付すべきです。80 才以上の方々は届け出にして希望者の方々に送付すべきです。

理由として市長が好んで利用するホテルを例にみますと、ホテル・テナントの複合体です。ここで働く清掃スタッフ等は殆どが 65 才以上 80 才未満の男女です。敬老パスを利用して健康寿命を伸ばしています。現在市内で建設中の大型ビルは殆どがホテル・テナントの複合体です。今後益々雇用は増加します。しかしここで働く清掃業務等はホテルと同様に殆どが高齢者の男女です。

市長は今年の漢字に「続」と発表しました。札幌オリンピック、日本ハム移転等々市長の目線は一般市民からかけ離れています。除雪の問題もそうですが住み続けられる札幌の主役は札幌市民です。

是非市民の目線で政策決定を宜しくお願いします。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

・12 年前、札幌に転居した時に敬老パスの制度を知り、何て素晴らしい制度だろう！と大変嬉しく感動しました。

以来、通院や買物、文化活動への参加と、今や生活に欠かせない制度になっていただけに、今回の提案は本当に残念で、怒りすら覚えます。ポイント制度と併せての提案ですが、ポイント制度は制度として有意義なのかもしれませんが、敬老パス制度の内容変更とは目的がちがうと思います。私達高齢者はどこにでも歩いていけないからこそ敬老パスが必要なのです！！

・敬老パスの制度は将来的にも必ず残してください！！

財政難であればせめて上限を少し下げる等あるかと思いますが、その時でも初回からの半額買担はやめて下さい。

年金生活で収入の年金も据え置きや減額が続いています。

生活は苦しく、大変です。札幌市の素晴らしい制度、敬老パスは絶対残してください！！

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

280 の意見と連名で提出

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

時代状況、札幌市の財政事情、高齢対象者の増加等、詳細なデータを示しての内容は理解でき、段階的に見直しを計ることは賛成である。

・懸念されること。健康寿命の延伸として、健康づくりでのポイント獲得をあげている。昨年からバス路線の変更や減便により、高齢者の生活・活動が制限され不便な状況があり、家にこもる現状が続いている。益々、外出や活動が減り、介護認定を受けるケースが増えると考えられる。

・70 歳まで働く時代、健康な高齢者が地域活動の担い手、あるいは担わざるを得ない状況がある。特に町内会活動(区より様々な研修案内、会議)、福祉活動、子育て支援等のボランティア活動をしている方が多く、その中で交通費が支払われていない、あるいは一律〇〇円としている場合がある。高齢者の活動を促し支えていくために、ボランティア活動にもポイント付与をするべきと考える。

住みよいまちづくりをすすめるために、検討していただきたい。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

- ・敬老パス制度の存続を希望します。
 - ・現行より負担が増えてもしかたがないという気持ちもありますが、年齢の引き上げには反対です。70 才からを継続してほしい。
 - ・日々の健康づくりでポイント獲得の「歩くこと」「人と会うこと」は夏場はできても冬は難しいです。
スマホの操作にも不安を感じます。
 - ・そもそも“敬老”を市はどう考えているのでしょうか。
- せつかくあるこんなすばらしい制度をなくさないでほしいです。
負担を増えることがしかたないと思います。
制度は残してください。70 才からをつづけてください。
- ・高齢者の私は若い世代に負担を押しつけるつもりはありません。私にも子や孫がいます。どの世代も共に豊かに幸せにらせる札幌市になるよう、世代がいがみあうことのないよう、市の方々の言葉の使い方にも配慮をお願いしたいと思っています。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

高齢者が年々増えることが判っているのに最初から安すぎたと思います。経過措置等と云わず現時点ですぐに自己負担額を半額にすべきです。それでも充分有難いことです。

健康アプリについては、どれだけの高齢者がスマホを使いこなせるかは、疑問です。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

◎持続可能な制度として、敬老パスの見直し

①対象年齢 70 歳から 75 歳に引き上げ②自己負担割合を 50%に引上げについては賛成致します

◎健康アプリについて

スマートフォンが必要となりますが、75 歳以上の方の使用率は何%ですか？

又、使用していない方のスマートフォンの購入費用と維持費年間でいくらかかりますか？購入できない方もいます。

又、スマートフォンの使い方の分からない方もいます。

そして、健康管理で歩くことでは、歩行がスムーズでない方、また札幌の冬道は雪が多く、滑って骨折する人も多く逆に危険です

健康寿命延伸に向けた取組とは思いません。

さらにスマートフォンに対する事業費が必要になりませんか？

(単純に敬老パス制度だけがわかりやすい)

simple is the best !

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

白石区中央に住んでいる年金暮らしの者です。

敬老優待乗車証の利用については、おもにバス、地下鉄に利用しております。

娘家族が厚別区におり、共稼ぎのため、帰りが遅く、小学6年が二人で留守番をしている状況です。

そのため家の掃除方々様子を見に行っていることが多いです。(冬は雪の状況をみながら)

市の財政も大変だと思いますが、もう少し段階的にできないか希望します

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

私は毎月何回もパスを利用しています。

1年で、3万以上利用させてもらってます。

今のままでパスを利用して行けたら、ありがたいです。

家の中にばかり居ると足腰も弱くなり、脳も働かなくなります。

なるべく外出する様にしています

パスは本当にありがたいと思っていますので

今までどおり、よろしく願いします

人間は皆年を取って行きます。

若い人達も年を重ねて行くと色々な所に支障が出て来ます。その時この様なパスがとてもありがたいと思います。

外へ出る様にして脳と体を鍛えて、もう少し生きたいと思います。

どうぞパスをなくさないで下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

手稲区

提出方法

郵送・FAX

70 歳時に敬老パス通達をいただき、試みに 10000 円分チャージをしました。
結果2度限りの使用に終わっております。

手稲地区からは市中心まで JR 使用不可、バスは乗り換えにて時間のロス、現在は本数も大幅減便に至っております。

せめて、JRの札幌市区間使用可能なら良好と思いますが、手稲区に地下鉄延線の話
を聞いてから 40 年以上に至っておりますが、不公平感は否めません。(JR を利用中)
近年、新聞、TV 等で見直し案に反対意見を主張している姿を見ますと大変残念に思っ
ております。現在の財政、若い世代の先行を考えますと、今迄使用してきた事に感謝の
気持ちを表しても良いのかと痛感致しました。

市民の声を聞くことの大切さは十分、分りますが、

市長、市議の皆さまは市民からの民意で選ばれた代表ですので、思案のうえ決めた結
果に於いて市民は遂行するに至ってはと一個人としては考えます。

中々決まらない状況を見守っていましたが、原案に賛成いたします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

- ①私は生きるための食品の買物と病院へ行くために利用しています。温泉遊び等には利用していません。余裕がないため。住んでいるところから近くのスーパーには行きは徒歩、荷があまり重くない時にはまた徒歩です。バスの料金を大切にしたいからです。一番安いスーパーの前にバス停がないことが困っています。他のスーパーの前にはあるのに(でも安くはない)ウォーキングを兼ねたこの利用のしかたはとても、有効に利用していると思いませんか。
- ②このシステムの7万円の上限額を残すことにして下さい。下ってしまうとバスに乗る人が少なくなり今以上に料金が上り便数も減ってしまうと思います。7万円を残していただければ半額を負担してもいいと思います。他の金額だと同じ半額になりますがとても高く思います。今は7回ですが10回～12回一度に2回までとか。持ち上りなしにしてもいいのでは。
- ③健康アプリの取組について、内容がわかりませんのでなんとも言えませんが、スマホ、電子マネーを利用して物事を進めることは、思ってもいないことがおこるのでさげたいです。スポーツ教室は無料ではないし、冬道も命がけです。そのために怪我してはなんのための健康なのかわかりません。
- ④敬老パスには氏名が記入してありますがその本人だけが確実に利用していると思いますか。信じるしかありませんが男性女性と同じですしケースに入れると全くわかりません。検討必要ありませんか。
- ⑤敬老パスの入金について、10回～12回と増やすのは、1回の負担を少なくするためです
- ⑥健康について、もっとウォーキングなどすぐ利用できる場所が欲しいです。ロードヒーティングの道、ウォークができるとか。
- ⑦今のシステムと料金が変わることを考えただけでも気落ちしています。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

- ・敬老パスの財源が問題であれば減額・負担増もやむを得ないと思うが、健康アプリに財源が回るのであればおかしい。
 - ・健康アプリの対象者 40 才～69 才の人が敬老パス対象者に増員され事業者が増えるのではないのか。その分を敬老パスの負担割合の引上げとチャージ上限額の引下げを行なうのは納得いかない。取組みへの効果と事業費の見込みが見えない。
 - ・敬老パス、健康アプリに世帯年収等を考慮して決めてほしい。
- 収入が少ない人にとっては負担割合の引き上げは、生活面の負担増加となり外出や医療機関への減少につながりかねない
- ・高齢者関係予算のみ表示され市税金体の支出割合など全体が見える化して他の支出に対しての負担増加がないのか表示すべきではないのか

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

意見

1 修正案では

5年後に存廃を含めた見直しを実施するとしていたが

実施案では

5年後を目途に検証を実施するとなっている

(1)そもそも、

5年後は、札幌市長が交代しているかも知れない

5年後の存廃は新市長の裁量の範囲であり現市長が発信すべきではないと思われ、修正され良かった。

要望

1 原案では

タクシー利用も可能にすると行政側から書面提示・口頭説明を受けた

しかし、修正案では「現実問題として困難」の一言で片付けられているので

腑に落ちません。これでは、フィッシング紛いのやり方と同じと思います

市民側からの要請に対し、行政側から回答の場合は「現実困難」もあり

と思うが、これではおかしい。

札幌市民としてはこれが、信頼されない典型的な事例であると思っています。

手稲区の地下鉄延伸要望に対して、現実困難ですは市民要望に対して

回答を示したものでそれはそれで納得感はあると思っています

(1)タクシー業界の支援振興にもなり、先ずは歓迎する改定と思いましたが

～令和4年度の予算のなかでも、タクシー振興14億円を計上していたはず

(2)原案で書面にて発信したのであるから、相当程度業界と詰めた検討を

重ねたはず。まさか、担当者間で挨拶程度で発信したと云うことではないはず

その検討の進捗状況を、丁寧に札幌市民に分かるように、「説明を求めます」

～具体的に、どのような現実問題なのか、なぜ問題解決出来ないのか

そもそも、業界希望する全車にカードリーダー他無理は高いと思っていました

この件は、今後もこの制度がある限りずっと先まで継続して、指摘されます

現在の担当者が、先々の後任者に置き土産をしないよう。

*札幌市のアナウンスの仕方では、今後は割引して聞いておく必要あるのか

と思い不安です。住民投票問題も同様ですボタン掛け違っている

(3) タクシー利用可能はいつでも実施できるはず不断の検討を継続してほしい

(4) JR 利用も可能にする

とありましたがそもそも無理。ガリバーのシステムにつなぐ

ことはそれこそ現実問題困難と始めから期待していませんでした

2 敬老パスは、年金と同じく「仕送り」で成り立っているもの

仕送り方式を見直す場合は、国、道、も絡むので相当の覚悟と準備が必要

3 どこで、線を引くのかは政治の役割です事務方の稚拙と政治不在が重なった結果です

4 原案の時点で、素直に自己負担の増額を発信すれば、七転八倒せずに済んだもの
11500 円が 20000 円になる等あたかも給付金増額になる で頼失墜が余曲折の始まり

頭かくして、尻隠さずのような改定であり札幌市民としてはとても残念です

5 80 億円だの一人 4,000 円の話は、現時点での物価水準及び予算体系によるもの

財源の説明時は、全体財政の将来展望がないと話にならない

物価と賃金と税金は毎年増額していくもの

6 身を切る改革もしないでオハコにいきなり手を突っ込むのは勘弁願いたい

7 オリンピック 27 億円問題もあり行政の停滞が札幌市民に基だ広がっています。

早期に終息に向けて動かしていただきたいです

以上

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

(全体)

将来にわたって敬老パス制度を残すためには負担額/率を増やす札幌市の案しかないと思います。概ね賛同したいと思います。

意見ではないですが、資料内に不明点、使ったことがないのでわからない点がありましたので質問させてください。

(1-4 アプリでの取組)

①40～64 才で抽選とあるが、どれくらいの人数、どれくらいの確率でポイントがもらえるのか。加えて何ポイント付与で検討しているかも教えてほしい。

②敬老パスは 70 歳以上なのにアプリはなぜ 65 歳以上にするのか。

(2-4 と 2-5)

チャージとあるがSAPICA含む交通系ICカードと同じように何回もチャージできるのか。(1000 円チャージを繰り返したら得すぎませんか?)

質問は以上です。読みにくいかと思いますが、回答、集計よろしく申し上げます。これからも頑張ってください。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

他都市に胸を張れる高齢者の交通費助成制度。札幌市の総予算の 0.4% を”金食い虫” だとして廃止しようとする。おまけに世代間の分断まで持ち出す秋元市長は、札幌市の歴史に汚点を残した市長として刻まれることになります。

まだ引き返せます。70 歳になったら敬老パスを利用できると楽しみにしている高齢者に冷水を浴びせる愚策です。

清田区は公共交通がバスしかなく、同じ税金を払いながら中心部へのバス路線も福住で短縮され、バス代の値上げもあってトリプルパンチです。3 シーズン前の大雪災害では、清田団地からのバスダイヤが数日ストップしました。地下鉄を清田区まで延伸してほしいという区民の願いも置き去りにされたままです。

2030 年の北海道新幹線の札幌延伸も不透明さを増しています。なのに、起爆剤にしようとしてオリパラ招致をこり押しして失敗。都心再開発、不要不急の都心アクセス道路に国費の他に市費を投じる。市民の声を聴かない市長の施策は間違ってますよ。ただの行政屋では未来の札幌の街づくりは悲観的と言わざるを得ません。

敬老精神に応える敬老パスを存続してこそ、市長の名が歴史に刻まれることになります。1000 円で 1 万円分をチャージできたのに、5000 円払わなければ利用できない自己負担率の引き上げは、外出抑制を招き、かえって健康寿命を短くします。交通費助成と健康寿命の延伸は別の施策です。

高齢者と現役世代の分断という国いいなりの施策からの転換を強く求めます。敬老パスの存続と JR、タクシーへの利用範囲の拡大は十分に両立します。

逆立ちした税金の使い方を見直すよう求めます。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

私は敬老パスの見直しに大賛成です。

対象者の 9 割が 4 万円以下のチャージ額なら経過措置もいらず来年 2026 年度からすぐにでも上限を 4 万円、負担割合を 50%にするべきとさえ思います。

見直し反対派のギャーギャーうるさい方達に配慮するにしても 2026 年度からチャージ額 5 万円以上には一律 50%の負担を求めても良いのではないのでしょうか。

先日、道新の投稿欄を読んでいたらお隣の江別市には敬老パスがないんですね。

札幌市民は恵まれているんだと思いました。

物価高や交通費の値上がりで大変なのはわかりますが、少子高齢化社会の中 SDGS です。持続可能な社会を作っていないと将来もっと困ることになります。

見直し反対派の方達に言いたいです。「自分達世代さえよければ良いのですか？」と。

「あなた達のお子さんやお孫さん達の将来のこと考えていますか？」と。

私が対象年齢の 75 歳になる頃にはこの制度がなくなっていると思うので期待していないので大丈夫です！

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

私は 77 歳になるまで色々なサークルに入って運動して来ましたが、前から悪かったヒザが悪くなり自分で考えてヒザの筋トレ、ストレッチを 1 日 30 分～1 時間くらいして現状維持でがんばっていますが、冬はすべったり雪道でガタガタしていたりして足に力が入りますので、ヒザが痛くなります。それで買い物に行くのにバス停まで 5 分ほど歩いて1停留所でもバスを利用しています。今は大型スーパーが多くなり家の近くに買物する場所がありません。若いころはなんともなかったが、体の色々な所が悪くなります。私だって元気に歩いてどこでも行きたい。敬老パスで少しは動けるのでたすかります。敬老パス今まで通りとは望みませんが 1 番利用の多い 3～4 万円の人自己負担を現行の負担額にしてほしいと思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

市民からの意見ですが

老人にとって敬老パスはとっても大切なパスだとお気付きでしょうか？「スマホ」で、ポイント取得が出来る方・出来ない方居ます。散歩へ行き転倒されたり、事件にまきこまれたら、札幌市は責任とれるのでしょうか？

スマホも使用苦手な方たくさんいます。見切り発車の考えはやめた方が良いと思います。

現行の「敬老パス制度」を残して下さい。そして JR やタクシーに利用拡充をして下さい。令者の願い要望しております。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

「現行の敬老パス制度を維持し、拡充」するように意見を述べさせていただきます。

地域の高齢者の方々にも意見を聞きました。「高齢者にとってとてもすばらしい制度です」「病院、買い物、趣味、習い事などで心おきなく外出できるのでとても健康的に生活しています」「足が痛いので買物スーパーに行くのが大変、タクシー利用できたら助かります。拡充してほしい」「JR 線路の近くに住む方は JR が使えたらありがたい」たくさんの方々の意見や要望がありました。

行政はこれらの方々の方々の要望に応えるためにどうするか検討するのが仕事だと思います。継続維持を考えるべきです。

敬老パス予算削減ばかり考えているのは反対です。とんでもない！

代替に「健康アプリ」なる物を考えているのは見当違いだと思います。

私は若い時から働いて税金を払ってきました。50年間の敬老パス制度を支えてきました。ここに来て世代間分断をあおるのは行政がする事をやめてください。

現行の敬老パスの存続、維持、拡充を望みます。とても良い制度です。

改悪するのは、社会を住みにくくし、高令者へのいじめに等しい事、未来の人達にとっても冷たい政治です。

政府の無為無策が原因の

物価高騰のおり、野菜が高い、ガソリン灯油も上がって私たち市民は苦しい生活をしています。

今こそ「現行の敬老パス」が必要です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」に対する反対の意見を述べます。

まず、札幌市が公表した「パブリックコメントの実施について」の表紙の文章についてです。「札幌市では、令和 5 年 11 月に高齢者の健康寿命延伸に向けた取組の素案を公表し、敬老優待券乗車制度の見直しや財源問題、制度を支える世代の負担など、様々な世代の市民の皆様から、多くの意見を頂戴いたしました」とありますが、この表現内容は札幌市の提案の内容と市民の意見を混同しています。誘導的です。素案の提案内容は敬老優待券乗車制度の見直しであり、その理由は財源問題と制度を支える世代の負担であるとし、その見直しに対して市民から意見を聴取したはずでず。「札幌市では、令和 5 年 11 月に高齢者の健康寿命延伸に向けた取組の素案を公表し、敬老優待券乗車制度の見直しや財源問題、制度を支える世代の負担などを提案し、その提案にたいして様々な世代の市民の皆様から、多くの意見を頂戴いたしました」とのセンテンスになるのではないのでしょうか。

健康寿命延伸に向けた取組の実施案(以下実施案)1-3「医療介護などの高齢者予算の推移」で、2013 年 2023 年 2040 年の高齢者関係予算の推移と増加が示されていますが、高齢者関係予算の割合の推移が示されていません。2040 年の予測は 2013 年から 27 年後です。27 年間の予算の増加を比べその増加を強調しています。推計で高齢者は増加傾向にあるとしています。増加する傾向であれば、増加に合わせた医療介護の社会保険と敬老パスなどの高齢者福祉へ予算を配分した施策が必要だと思えます。

(実地案)1-4「健康アプリの取組」では、外出支援による健康寿命の延伸の手段として「健康アプリ」を提案し、敬老パス制度と目指す方向は変わりませんと説明しています。現行の敬老パス制度は外出支援による健康寿命の延伸の手段として交付され継続されているので「健康アプリ」に置き換える必要はありません。交通費の現物支給である敬老パス制度は高齢者福祉です。「健康アプリ」はポイント制により報酬を付与するものです。高齢者福祉ではありません。敬老パスは区民地区センターや体育館、図書館、文化施設、観光施設などでの行事への参加と趣味やボランティア活動、通院や買物などに使え、高齢者にとって外出しやすい制度です。「健康アプリ」は、電子マネーの交付を得るためにポイントを貯めるものです。ポイントの報酬として電子マネーの交付を受

けます。企業的な発想です。「貯めたポイントは抽選で電子マネー化する(40歳以上から65歳)」も企業的な発想です。「健康アプリ」の開発とその維持管理で事業費がかかります。無駄です。デジタル関連企業とのつながりがあるのでしょうか。

(実地案)1-5「市民から寄せられた意見」では、現行の敬老パス制度を存続し JR・タクシーへの使用を拡大することとの意見や署名も多くあったはずですが、その意見は「市民から寄せられた意見」のなかに含まれていません。除外しています。

(実地案)「敬老パス制度の対象者と事業費」では、制度開始時の1975年と2023年2060年の対象者と事業費を表していますが、制度開始時から2060年の期間は85年です。2023年から2060年は37年後です(図表より)。比較対象とするには妥当なのでしょうか。1975年の事業費1.3億円から2055年の80億円の見込みは、開始時1975年から80年後(2055年)の比較です。今年(2023年)は戦後80年です。戦後の1945年と2025年が比較にならないことと同じく80年間は期間は比較の対象にはなりません。

2023年から37年後の2060年には70歳以上の人口が22.2%から34.2%となっています。敬老パス制度の1人当たりの負担額を2000年頃と2025年2060年の推移で示しています。2060年は2025年から35年後です。35年後の負担額の経過と比較は妥当なのでしょうか。妥当ではありません。

35年後の予算規模や事業費の割合の推定も見込みも示されていません。

1人当たりの負担の増加のみを強調し宣伝しています。人口の増加であれば予算を増やし手当をする施策とするべきです。外出支援の予算を増やすことで健康寿命を伸ばすこととなります。さらに、実地案の「敬老パスは当面存続する」とありますがその後に廃止することを意味しています。見直しでは対象年齢を70歳から75歳へ引き上げる案です。75歳はすでに札幌市の男女の健康寿命を超えています。意味のない見直しです。

「実施案」は、2060年までの人口構成と1人当たりの負担の増加額を示し、「健康アプリ」を導入し高齢者の外出支援としての敬老パスを廃止する。事業費を2000年頃の25年前の水準へ引き下げるものです。高齢者の人口の増加に合わせて事業費を引き上げ外出支援をすることが、介護予防による健康寿命を伸ばすことにつながると考えます。「健康寿命延伸に向けた取組の実施」の1-2では、「札幌市は、健康寿命が他の政令市や全国平均に比べて短く、ここを延ばしていく必要があります」とのべています。敬老パスを廃止し予算を削減することで健康寿命を延ばせるのでしょうか。現行の敬老パスを維持し拡充することを求めます。

以上が実施案に対する反対の意見です。

「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」に対する反対の意見を述べます。

1月14日にパブリックコメントを提出しました。意見を追加します。以下の札幌市長の発言は「11月30日の敬老優待券乗車証(敬老パス制度)の見直しに関する対話集会」の12月3日付道新の記事からの引用です。

「対話集会」では、市長は「所得のない子どもも交通費の半額を支払っている。せめて子どもと同じぐらい負担してくれませんか」と発言しています。敬老パスの自己負担の引上げに、民間事業者のバス会社の子ども乗車料金を引き合いにしないでください。見当違いです。そもそも、敬老パスの自己負担と民間事業者のバス会社の料金は全く違います。高齢者の外出支援としての敬老パスは高齢者福祉であり、バス会社は民間の交通事業体であり子ども料金は民間交通事業体の料金制度です。子ども料金を引き合いにすることはやめてください。

敬老パス制度を維持し、次の世代へも外出支援としての敬老パス制度を継続することを求めます。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

解せない点

- 1) パブコメの設問が、敬老パス存続でない事
- 2) 健康アプリの導入は、高齢者全体にそぐわない事と、敬老パスの問題と切り離して考える別問題として議論すべき事
- 3) 世代分断を煽る様な財政問題でなく、市の提示した新制度で、いくら削減できるのかなど、現状の市の負担との比較を提示すべきでは？
- 4) 市の説明が(新制度導入計画の)懐疑的。正直に説明していない。なぜ最初から本当の事を知らせて、案を提示しなかったのか？
- 5) そもそも市全体の予算配分の中で考える問題で、不用不急のものに予算をつける必要があるのか？政治は最低生活のレベルを底上げする為に自治体の役割があるのだから、予算の組み替えなど、もっと考えるべきでしょう

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

テレビで若者と高齢者を170 人集めて若者と高齢者を対立させるのを見てました。どうして対立させる設定にしたんですか。

市長も想定できたでしょう。市長はどこを見て考えているんでしょう。

若者も、高齢者も希望をもてるアイデアはないのですか。

兵庫県明石市に見学しに行って来たらどうですか。

日本全国では平成の内に出ている事と聞きました(提案)

健康アプリ? 60 代 70 代の人を使いこなせますか

少数の人が使える案おかしいです 気づきませんか

ドームに暗幕のカーテン(ビックリしました)あの暗幕どの用に使うのですか そんなお金あるのでしたら敬老パス代にください

50%支払う敬老パスを考えてる方自分なら出せますか

年金からバス代に1万円、2万円出せますか

政治家の責任です。市の案は反対です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

「敬老パス」制度は、高齢者の生活の充実を目的とし、外出を支援するためのものであり「健康アプリ」事業は健康寿命延伸に向けたとりくみのひとつ。全く目的の違う事業を並列で対比し、議論する事自体に矛盾がある。

記名方式による意見では、なかなか回答ができず市民意見を阻害する結果となる。市民の本音が聞きたいのであれば無記名のアンケート又は住民投票等の方法をとるべき。

「敬老パス」の財源の実態が明らかにされておらず、高齢者予算の今後の動向の中で、ウエイトがどの程度上がるのか不明。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

当初案、市長は本気である内容を最善と考えたのだろうか？だとしたら私たちが選んでしまったその人には失望を超えて絶望しかない。少子・高齢長寿化は不可逆であり、現行の敬老パス制度の維持が困難であることについては、容易に市民的合意が得られた筈だ。それを弱腰になり目くらませに訳の分からぬ「健康アプリ」などを持ち出した愚。故に本来、修正ではなく、一度白紙撤回するのが正解だったと思う。

本旨は「負担(最大 1.7 万円):給付(利用限度額 7 万円)」のバランス是正であり、しくみはシンプルで長続きする方が良い。12 歳未満に「子ども料金」(半額)があるように 70 歳以上を「敬老料金」として一律半額にすればよい。もちろん市民以外(観光客)にも適用し、札幌は高齢者に優しい街として、少しは新・三大夜景落選の名誉挽回にもなるだろう。

さて「健康アプリ」である。その中身たるやスマホ・ゲーム感覚、ポイント付与・電子マネー、糞ポピュリズムそのものである(スマホを持たぬ者をいとも簡単に斬り捨ててしまう)。年齢を 65 歳(40 歳～)からに変更したこと自体、敬老パスの代替えとは別物であったことの証左ではないか。ここまでこのアプリに固執するのは、市が開発業者に絡め取られ(癒着し)、抜き差しならぬ状況になっているのではと勘繰ってしまう。

次に事業費(世代間の負担議論)は“伏魔殿”である。

今後益々事業費は逼迫すると言うが、地下鉄・バスは高齢者利用の有無多寡にかかわらず一定の運行をするのである(高齢者が増えるから増便するわけではない)。このことは重要である。よって事業収支を考えると、敬老パス利用者が増えれば収入は増えるが、一方、それ以上にバス事業者(JR、中央、じょうてつ)への運賃の補填支出が膨らむということだろう(地下鉄は市営なので収支が同じドンブリ内)。ところが今回の冊子を見ても、20 歳以上の負担額の抑制(比較)が意図的に強調されているだけで、その収支見通しや算出根拠が不明である。

最後に。前述の「健康アプリ」は言うに及ばず、最近の市政活動全てに渡り(各種サービス、広報・啓発、参加申込み・・・)、PC やスマホ所有を前提にしたものばかり。札幌市はそれらを持つことを推奨(市民の条件化)しているのか。たとえ大多数が所有しているとしても、持たざるマイノリティは「市 HP から」「詳細は QR コードで」と言われてどうすれと考えているのか。

これでは多様性社会を口にする資格などない。怒り首の遠吠えと一蹴することなかれ、全部署で共有し対策を講じることを切に願う。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

「敬老パス」の恩恵を受け有難い制度だと感謝しております。札幌市民である特典は、将来にわたって若い世代も受容できることを願っています。

私は、健康増進・医療節減を主要目的として最上限7万円を利用していますが、これでは足りません。

記録はしていませんが、10万円以上は公共機関を使っています。

5万円以上をチャージする人が1割いて大きな財源となっているとのことですが、これと若い世代の生活圧迫とは別次元と思います。若い方も確実に老人になるわけなので制度維持は必要で財源の現在と推移を公開していただきたい。利用上限額を下げれば乗り物での外出を自粛することで対応できますが敬老パスを利用しない考えですむものではありません。都市生活も厳しいものです。大幅に下げないよう切望致します。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

70代を如何に過ごすかにより、80 代、90 代での生活に影響が出るといわれています。

雨の日や雪道の時、地下を歩くことにより 1 日 8000 歩の目標達成ができ 1 人ランチを楽しく過ごすことができます。

ストレス解消にもなり、地下歩での様々なイベント等で刺激をもらえて、認知症、老人性うつ病、ねたきり等の予防にもつながります。

老人の行動支援のために敬老パスは不可欠です、老人の楽しみをうばうような政策はやめて下さい。他にいくらでも節約する項目はあると思います。

市長には再考を節にお願いします。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス実施案では、雇用安定法や、平均寿命の上昇を理由に、支給年齢を 70 才から 75 才に引き上げる一方、健康アプリでは、高齢者に該当しない 65 才からは高額な電子マネーを交付するなど、整合性のとれない実施案となっております。

これは、目的、施策、対象年齢が異なる健康アプリと敬老パスを同一制度内に混在させた事が原因ですので、これらを完全に分離して実施設計を行わないと市民の理解や協力が得られないと思います。健康アプリを敬老パスの代替えしたり、敬老パス予算を流用して健康アプリを行うのは無理筋であり反対です。

健康アプリの意見

対象者は景品によって、40 才～64 才と 65 才以上の敬老パス不交付者に 2 分割してますが反対です。

健康寿命の施策は、若年時から長期に亘って、健康への生活習慣化を促す物ですので、敬老パスの取得有無に関係無く、40 才(将来は 20 才)以上の全ての市民を対象とすべきです。

参加は任意であるべきです。現在の医療知見では、札幌市の健康アプリと健康寿命延伸の明確なエビデンスは確立されてません。健康アプリが健康寿命延伸効果が不確である以上、このアプリは市民に強制するのではなく、希望者の任意参加とすべきです。(実施案では、70 才～74 才は健康アプリの選択枝しかなく、半強制的ですので、敬老パスも選択枝にすべきです)

予算規模について

健康アプリは、従来の敬老パス予算と切離して、新規に予算を計上すべきです。

2030 年の健康アプリ予算に 1,277 百万円を計上してますが、ポイント等の事業内容を検討して減額すべきです。そもそも、健康寿命の施策は健康への生活習慣化を促す制度で且、任意参加制であって、高額な電子マネーを鼻先にぶら下げて運動を半強制参加させる物ではありません。ポイントによる報酬についても、図書券、市営プール券、提携店の割引券程度又は抽選であって、今回の 2 万円の高額な電子マネーは不要であり、億単位の予算は必要としません。

(2 万円の電子マネーを 65 才の中年に支給するのは福祉予算では有りませんし、電子マネーで喫煙、飲酒したら健康寿命延伸にはならない)以上健康アプリ意見

敬老パス制度の意見

敬老パス予算は市民(20 才以上)一人当たり負担 3000 円が妥当な基準です。

これからも高齢者の増加は続き、これを支える 20 才以上の市民の減少が続くので、市民一人当たりの負担額を基準に敬老パスを見直す方式は賛成です。

実施案では、2005 年当時の一人当たり負担額 2000 円を基準とし、その理由として、「現在 70 才以上の方が現役だった 2000 年頃の負担」を根拠としてますが、論拠が不明です。

現に、敬老パス予算が過去 20 年間に亘り、市議会で承認され、問題なく施行されて来た経緯を踏まえれば、20 年前に遡った数値を負担基準にする事の妥当性は見出せません

秋元市長が 11/30 の意見交換会で述べたように、持続可能な制度にする為今後、高齢者が増え、支える市民が減っても、今以上の負担にならない事が肝要との事ですので、今後は今年の負担額 3000 円を基準とし、これを超えないように利用者の負担額、利用上限額、支給年齢を適時に見直すべきと思います。

見直し 1. 対象年齢 70 才→75 才に引き上げ

反対です。当面、従来 of 70 才支給とする。

理由①

対象年齢の引き上げは、財源論から検討すべきもので、高齢者雇用安定法平均寿命が 10 年延長された事を理由に支給年齢を引き上げるものではありません。

特に、札幌市の平均寿命、健康寿命は他都市と比べ短い事からしたら支給年齢の引き上げは利用期間の短縮であり、外出を支援する敬老パスの趣旨に反します。

理由②

実施案では、70 才～74 才は健康アプリの選択しか選べません。五年後を目途に見直すのであれば、この間は敬老パスも選択するようにすべきです。

(健康アプリは市民に強制するものではなく、任意参加制度であるべきです。一方、敬老パスは高齢者にとっては生活上の必需品です)

理由③

財源及び利用者感覚からすれば、改革の順番が間違っています。

先ず、敬老パス利用者の負担額を増やす→それでも予算不足なら利用上限額を引き下げる→それでも予算不足なら支給年齢を段階的に引上げるのが順番です。

見直し 2. 自己負担割合を一律 50%に引き上げと共にチャージ上限を 4 万円に変更いずれも反対です。

高齢者が増加し、支える 20 才以上の人口減からすれば、持続可能な制度を維持する為改革は避けられませんが、改革が急激であり、且、財源不足の説明、その対応策がありません。

1. 敬老パスは高齢者に対し平等を趣旨とする福祉政策ではなく、外出を容易にする政策ですので、利用者によって利用頻度に格差が生じるのは当然です。財源が許容できるのなら 7 万円は維持すべきです(週 2 回のバス利用、月 1~2 回の地下鉄利用が高額利用者なのですか?)

2. 自己負担割合は、実施案の一律に 50%ではなく、利用回数の少ない人に配慮して、従前の負担割合に準じた引き上げとしたい。

例えば、倍の引上げの場合、チャージ額 1 万円は 10→20%、2 万円は 15→30%、3 万円～5 万円は 20→40%、6 万円は 22.5→45%、7 万円は 25→50%
以上敬老パス意見

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

人口減少が取り沙汰される中、高齢者人口は増々増え、いかに健康寿命を延ばし、長生きするか国民皆、まして高齢者自身が一番考えています。

健康寿命、高齢化、社会福祉は個別に考えるのは困難とも思われます。

だからこそ、福祉事業の一環として行われた高令パス、昨今の物価高を考慮すれば、なおさら、年金生活してる者にとっては、バスに乗るのもすべて交通機関を利用する際、2.7%年金が上がったとはいえ、外出を控えてしまうことは当然になるでしょう。

改革も必要でしょうが、そのシステムを導入する際にも経費はかかります。

デジタル化するあまり高令者が混乱してしまう施策導入は再考して頂きたいです。

ポイント制でなければ、健康寿命は延ばせないのか、疑問です。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

今は、車を運転していますが、いつかはできなくなります。

病院に行く、デパートにお歳暮を買いに行く、映画を見に行く等、移動手段は公共交通に頼るしかありません。

年金はすずめの涙ほどしかなく高い交通費を出すことは生活を圧迫するだけでなく生活の質も低下させることになります。自分なりに税金も納めて真面目に生活してきました。

もちろん若い人たちにも税金は使われるべきですし、使わなければいけないと思います。これからずっと社会を支えていくのですから。

我々高齢者にもほんの少しの税金を使って下さい。

何千億もかかるわけではないでしょうから

税金はできるだけ多くの人の生活の向上のために使ってほしい！！

一部の人のためだけではなく！！

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

敬老パスを廃止すると、公共交通の利用を控え、不便な生活になると思うので、廃止すべきではないと思います。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

敬老パス制度見直しは少子高齢化の影響で仕方がないのではないのでしょうか？対象年齢は75才以上、チャージ限度額4万円の提案となっておりますが、要介護認定になり公共交通機関の利用が難しく病院への受診等の外出はタクシーか家族所有の車に頼るケースも考えられます。路線バスの減便や廃止の影響も同様です。チャージ限度額4万円分を給付金に代えて支給できるようにしてみてもどうですか？要介護認定の時にいただく介護保険証を添えて各区役所の保険福祉課給付事務係に給付金申請できる様にすると良いでしょう。(家族介護をしている方の負担は減ると思います。)又、身障者手帳所有の方で敬老パス利用が出来ない福祉サピカ利用の方に対してもチャージ限度額4万円分を給付金として給付できるようにしてみてもどうですか？

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」というタイトルでありながら、柱とする取組の実施案の中に「・敬老パス制度は一定の見直しを行ったうえで当面存続すること」を入れるというクソミソな考え方であり、まさに言語道断なことであることから、実施案の即刻取り下げを求めます。

敬老パス制度の見直しは高齢者を迫害することであり、それをクソミソの議論でごまかすのは極めて危険なイデオロギーです。

水と油を瞬間接着剤でくっつけることができると信じているような職員と市長の発想なのかもしれないが、それをここまで放置して市民の分断と混乱を招いている市議会の監視能力の無さにも呆れてしまいます。

「健康寿命延伸に向けた取組」を考えることは必要ですが、敬老パス制度と切り離して検討することを求めます。

また、財政上の問題から「敬老パス制度見直し」が必要であるなら、それはそれで単独の実施案を検討して市民の意見を聞いてください。

とこかく、現時点での「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」は廃案にしてください。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

「2－4 敬老パス制度は当面存続します」の項目の(見直し1)で対象年齢を70歳から75歳に引き上げるとしてありますが、一気に5歳も引き上げるのではなく、2年ないしは3年ごとに1歳ずつ引き上げる緩和策を施してください。

年金の受給開始年齢の引き上げのときや京都市交通局での実施例(これでは2年ごとに1歳引き上げ)があります。

敬老パス制度は明確な既得権ではありませんが、「70歳になったら使えるようになる」という将来への期待感をもった既得権であると思います。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

健康寿命延伸に向けた取り組みのひとつとして「(仮称)健康アプリ」を導入し、活動実績に応じてポイントが付与されるとのことであるが、健康アプリの利用がポイント受け取りの唯一の手段であることから実質的に健康アプリの利用が目的化していることに違和感を感じる。

また、もともとスマートフォンを利用しない人、または事情があってスマートフォンが利用できない人への代替措置がないことも行政の事業として問題と考える。

あくまで健康寿命延伸に向けた取り組みのひとつであるため健康アプリによらない手段でも電子マネーに相当する恩恵が受けられるよう手段の多様化を図る必要があると考える。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

1, 敬老パス制度と新制度(ポイント制)について、新制度(ポイント制)は札幌市民の健康寿命を延ばすことが目的だが、このためには若い年齢層から取り組む必要がある。敬老パスは高齢者の健康維持のため外出促進を目的にしたものと理解している。これは外出できる元気な高齢者の健康をさらに維持・更新する効果を求めるものとする。若者の健康増進か。高齢者の健康維持かの選択を市民に要求し、若者対高齢者の対立構造を惹起するようなことは、市長としてすべきではない。

2, ポイント制について

(1)1月17日道新記事「歩いて健康商品も獲得」という住友生命の提供するプログラムが紹介されている。これは今後市が取り組むとしている施策も同じようなものではないか。民間がすでに取り組んでいるのに、行政があえて取り組む意義はあるのか

(2)70歳以上の高齢者にポイント制は有効に機能するか。すでに健康寿命近くまたは越えている高齢者にとって、ポイント制は複雑(煩雑)で、敬老パスは外出行動を支援し健康を維持しさらに増進する効果があるとする。

3敬老パスの意義

(1)私は敬老パスのおかげで自家用車使用を控え、さらには自家用車を廃止した。高齢者の免許返納にも役に立っていると考えられないか。また、車利用より公共交通機関利用の方が、歩く距離、階段使用など高齢者の健康づくりに寄与すると考えられる、

(2)70歳を越えてからポイント制の健康活動は有効に機能するのか。さらに75歳を超えれば健康寿命を達成している。高齢者の健康維持で大事なことは閉じこもることなく積極的に外出する機会を持つことといわれている。積極的にバスや地下鉄の公共交通機関を利用できる敬老パスは外出機会や意欲を支えている。

(3)外出を控えがちの高齢者に対し外出の機会を増やし、身体的にも健康増進に役立てることを目的にあるのではないか。(ポイント制は高齢者にとってインセンティブが低い)

(4)現行の敬老パスの利用実態で0円(未利用者)が53.1%ある。これはマイカー利用者が殆どと推測される。逆に7万円等高額利用者は高齢運転の弊害を懸念してマイカーを持たない(廃止)か、免許証返納者であることが考えられる。私も敬老パス利用でマイカーから公共交通機関の利用に切り替えた。手稲区から都心まで、車だと20分程度で済むがバス、地下鉄乗り換えて1時間かかる。帰りの地下鉄バス乗り継ぎだと、1時間に1本のバスへの乗り継ぎで30分以上待たねばならないこともあり、慣れるま

では苦痛であったが、敬老パスでの格安利用はインセンティブとなった。現在 7 万円の限度額では足りない状況で、これが 4 万円となると非常のつらいことになる。

(5) 地下鉄は赤字経営と聞いているが、敬老パスにより利用率に寄与していないか。敬老パス利用は 2 割貢献していることにならないか。

3, 利用限度額の縮小について

(1) 現在年間の利用額は最高 7 万円を順次減らすこととしているが、手稲区に住む私にとって 7 万円でも足りない年がある。なぜならば各種のイベントや、市の便民施設(大通公園、市民会館、L プラザなど、地下歩イベント)利用や友人仲間との会合参加のため都心部に出る機会が多い。我が家から都心部までバスと地下鉄乗り換えると片道 450 円、往復 900 円。都心部の住民なら半額程度と思われる。一律の利用制限は再考すべき。

(2) おそらく郊外住民でバス+地下鉄の乗換利用者は限度額の引き下げは賛成できないと考える。限度額は住んでいる地域の交通事情によって選択できる現行のままにして欲しい。おそらく都心部の住民は引き下げても影響少ないのではないか。

(3) 限度額を使い切った場合、JR 手稲駅~札幌が 340 円、約 15 分の所要時間、1 時間に 4~5 本運行。バス地下鉄だと 450 円、所要時間約 1 時間越え、1 時間に 1 本運行。当然 JR 利用します。

1, ポイント制を導入した場合、具体的に〇〇歩で〇〇点、これで〇〇円分の公共交通機関が利用できます。というような説明があれば理解しやすい。スマホのアプリを使用するとのことであるが、高齢者が利用する場合アプリの使用方法についてしっかりと教える体制を整えて欲しい。少なくとも区役所にいつでも対応できる部署を設置して欲しい。

2, 敬老パスに利用者が 53%であることから、この制度の必要性が薄れているが、おそらく未利用者は公共交通機関の利用が不便でマイカー利用から転換できない市民ではないか。私の居住地からバス、地下鉄乗換で都心に出る場合、1 時間強の所用時間。マイカーだと 20 分程度。本来ならば高齢者運転は控え、できればマイカーをやめ、免許証返納し公共交通機関利用が望ましい。が不便さを克服するのはかなり難しい。しかし私の場合は高齢者パスによってどうにか不便さを克服した。敬老パスは高齢者のマイカー離れに寄与していることを考慮すべきと考える。

同じ公共交通機関でも JR は手稲-札幌間 15 分ほど。運賃も 340 円(バス-地下鉄だと 450 円)しかも 1 時間に数本の運行(バスは 1 時間に 1 本程度)で非常に便利。したがって JR 利用が便利な市民は敬老パス利用は少ないと考えられる。

ポイント制で JR も利用可能とのことであるが、その分バス-地下鉄利用が減ることを市として考慮が必要ではないか。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

敬老パスありがとうございます。65 歳からいただけると嬉しいです。現行に加え、タクシー券も選べるように。

金額は年間で、地下鉄、バス、市電は 3 万円、タクシーは 2 万円まで。外出する機会を与えるためなので高額でなくていいが、体力がある内に参加出来る事が重要。

市の施設や協賛施設にてパスをかざすと、月 1 回ポイントが貰え交通費に補填出来る(若い方も)などの楽しみがあるといいです。

財政厳しく、若い方の負担も大変かと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

案の通りでよろしいかと思ます。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

まず、この市からの提示が健康寿命延伸に向けた取組みであると銘打っているのからして、間違っていると思います。全く反対だと思えます。嘘だと思えます。このタイトルは。ここで、ちょっと話は変わりますが、年金者組合連合札幌支部協議会の事務長は、歩行の負担が大きいため数百メートル先のスーパーにバスで通う高齢者の事例を紹介しています。

考えてみると、バスは最低でも片道 240 円かかり行って帰ったら 480 円、1 回の利用で。週に 2 回スーパーに行くとして、(だって新鮮なものの方がいいし、毎日だっていって少しずつ買えるのもいいかもしれないし。1回だけで重い買い物になるのは持ち歩くのが大変です。) $960 \text{ 円} \times 52 \text{ 週} = 49,920 \text{ 円}$

スーパーだけでも4万円以上、さらには病院へ行ったり散策に行ったり、映画だって見たいと思われたり、劇団四季のライオンキングを見に行ったり、AOAO のペンギン見たり、円山動物園へ行ったり、JUNKU 堂へ本を見に行ったり色々街へ出たい、と思われているのかもしれない。

それには 4 万円は。7 万円から 4 万円、(2026 年)更に下げられていく上限、これはあんまりだ。

お年寄りになったら運転免許を返納しましょうという考え方を為政者側で広められているように思います。

それなら、その後のお年寄りの足についても考えるのが当たり前ではないでしょうか。お年寄りはこの世に生まれて苦難の中を歩いてこられ、生きてこられた方々ではないでしょうか。

この方々の健やかなることを願わぬのは人生に対する不敬というものでしょう。

2024.9.12 の市議会厚生委員会による「修正案」の資料では、「加齢に伴う高齢者の自律の変化は、75 歳から急激に下がる」とあり外出できにくくなる年齢だと考えるのはおかしい。私の身近にいる 75 歳以上の方々は、皆地下鉄 BUS に乗り外出している。どんどん乗っていらっしゃる。

又、私も地下鉄には大抵週 5 日かそこらは使わせて頂いていてお年寄りの方もよくお見かけします。

私も 61 ですが、よっぽどのことがない限り元気よく出かけたいです。

出掛けることによって多少疲れが、若い時より残りますが、それは外出時間を考えて少々短くしたり時間帯を考えたり(夕方遅くは出ない、みたいに)すればそれほど支障

はないと思います。

国民の例としては公務員を基準としてみるのが一番適切だと思います。公務員はその国、日本から給与を頂いているからです。公務員の退職年齢が60歳なら、60歳以上はリタイア組として扱い高齢者として敬老パスによってもいいのではないのでしょうか。75歳、70歳にせずに。民間企業は民間企業で恣意的であり国の一員のモデルとして標準としてふさわしいのは公務員です。その人を鑑みて市民の暮らしを考えるのが常道です。どうか敬老パスは60歳以上で御考慮して頂きたいです。

60歳から札幌の街に気楽に行けるのなら足も強くなるし、足かダメになると健康も衰えやすいです。

そうすると介護される人が増えてこの名目の健康寿命延伸にもものらないことになります。

又、予算について。

広報さっぽろを見させて頂くと、市の予算は一般、特別、企業の3つの予算が2020年1兆6,709億円から2024年1兆8,496億円になり、1787億円5年で増えています。

又、2024年4月号に市債の推移としてH15(2003年)2兆1892億円から令和6年(2024年)1兆6946億円と借金返済、借金を返すのに4054億円も用いられています。

市債の返済に20年近くで4054億円です。

すごいと思います。

敬老パスのこの見直し案後の事業費について市の担当者は敬老パス39億3600万円のうち利用者の負担額は17億5100万円となると決議しておりこれから市の財源は22億円弱となり現在の50億円から28億円減り、半分以下の抛出になります。市債の返済に年平均200億円超出せるのに何故とってしまいます。

又、介護保険料も高くなりそうです。

元気なお年寄りを多く作るために60歳以上からの方々に、バス、地下鉄、市電を無料で提供してみてもいいかがでしょうか。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

・現行の敬老パス制度の存続を求めます。

将来の予算増を理由にしつつ、その予算を更に分割して 65 歳から 75 歳に健康アプリ制度創設を含めることは全く納得できません。

利用に耐えないと思われる、このアプリ開発に億という膨大な市税を投入することも看過できません。別予算にすべきです。現行敬老パスの廃止(5 年後?)を目指す地ならしとして「健康アプリ」創設をだしてきたと思われてなりません。

・年齢 70 歳から 75 歳に引き上げることはあまりにも酷です。

70 歳過ぎると多くの方は退職し、少ない年金生活をしている年齢です。

また 70 歳ころから自家用車を手放さざるを得ない年齢でもあり、公共の交通機関を必然的に利用しなければなりません。そして 70 歳頃から急激に身体の故障が多くなり病院通いが増える年代であり、最も敬老パスが必要な年齢です。

現行の敬老パスがなければ外出を控える等で高齢者の健康維持を危うくする結果を招きます。また、市電、地下鉄の利用も減り結果的に市の財政に影響が出るでしょう。市民に寄り添った市の予算の使い方とは言えず冷たい市政ではないかと思えます。

・利用上限額を減らす上に負担額を 50%も課すことは容認できません。

少ない年金生活者の敬老パス利用者を減らす結果(効果)を招くことは必須です。

・若者との世代間の対立・分断を煽り利用することは許されません。

敬老パスの予算は 20 年前の市の予算に占める割合 0.4%でした。しかし現在市の予算規模(23 年度)は 1.4 倍に増えており、敬老パスに占める割合はやはり 0.4%で変わっていません。不要不急の都心アクセス道路事業等への多額の予算投入こそ見直し、市民要求の切実なこうした制度こそ市民の税金を使うべきではないかと思えます。

世代間の対立を利用するのではなく市民要求を大切に制度を残すことで高齢者も若者や現役世帯も将来、安心して住める札幌の街と思えるのではないのでしょうか。

以上、切に現行敬老パス制度の存続を求めます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスの始まりは無料で 30 年間

そもそも最初から無料スタートはおかしな話です。

又、最初からも現在も、本人ではなく身内の者が委任状を利用したり、70 歳以下の人が利用しても不明の状態でしょう。

現在自転車に乗れるうちは3万以内で足りていますが、自転車に乗れなくなり通院にも乗り物を使うようになると5万を越えるようになるかと思います。

高齢者より、子育て世代への手当をと言われますが、私が二人の子育て時代は病院代は、3歳まで無料。現在は中学、高校までのびつつありますし、いろいろな児童手当や米券、牛乳券等、現在 40 代前半の子育て世帯は、子供が産まれたときから様々な手当が確立されていたと思いますよ。

私が働いて税金を納めていたころより、充実していると思います。

札幌近辺の方からは、高齢パスはうらやましいという声がありますが、札幌市には地方に住んでいる年老いた親を呼び寄せて増えている 70 歳以上の人口もあります。

世代別に応酬しあうことなく、家庭でも、親や祖父母に、子育て時代の世の中のこと、話題にしてみるのもよいかと思いますが。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

失礼いたします。人口が減っていく北海道敬老パス見直しではなく現行のままお願いしたい、人生百年と言われる時代になり近くにいる老人も元気な人が多くいます(老人と言われても元気な人は働いてほしい)

一瞬ここはどこかと思う程、外国人が道いっぱい大声でカッポしている事

ロシア、中国が北海道を魅力に思っている事

そして土地(山)が買われているとも聞きます

日本の土地が簡単に売買できないよう、何か国の方策があるのでしょうか。

戦後 80 年私は 83 才になります。戦争の記憶はかすか二、三ありますが世界的には戦争、地球温暖化による異常気象、飢えを考へますと有り難く思っていますが、ある意味で日本、日本人は臨としていくべきと考えており老人と言われても元気で北海道を守って行くには(老人達も必要)→年収の壁の改善が必要現行のままよろしくお願いたします。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス現状維持を！

- ・昨年の説明会で、敬老パス見直しはどこの都市を参考にしたかの説明で「浜松です」との回答。浜松市は17年度に既に廃止している。廃止している都市を参考にするとは、廃止を狙っていると思われる。名古屋を参考にしてほしい。
- ・有識者による論議を重ねたとしているが、健康寿命に主眼を置いたもので、敬老パスのありかたは話し合っていない(道新報道)。
- ・そもそもポイントは機能するのか。スマホ専用アプリを使う事が前提で、スマホを持たない人、使えない人へのポイントカードの配布等、複雑さは否めない。更にアプリの開発やポイントの機械等莫大な経費とその維持費がかかる。
- ・本来歩くことはどこへ行くか、歩くかどうかは人間の自由の権利でそれにヒモを付けたりポイントをつけ、「誰が何のため、どこへ何回行ったか」等の個人情報由市や業者に管理されることになる。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

今回の修正案に強く反対し、現行制度を残してほしいと強く要望します。

○70 歳から 75 歳への引き上げについても、70 歳以上の人たちは、敬老パスを有効に使いたいと思う年齢です。気候危機の面からも、車社会からの転換で車を手放す人も増えています。市は、健康面をさかんに強調しますが、70 歳以上の人たちはボランティア、買い物、趣味など有効に使っていて、健康にも役立っています。

○高齢者の負担で若者の理解を得られるようにしたいと言っていますが、市民負担の公平化と言って、世代間の分断をより大きくする何者でもありません。

敬老パスの予算は一般会計の中で 60 億円で 0.5%であり、市財政を脅かすものではありません。1人当たり 3000 円の負担を 2000 円に抑えたいとの言い方ですが、オリンピック誘致や子供政策に対する予算で市民負担を示したことはありません。高齢者にこれほど喜ばれている制度を将来なくす方向だと、今から高齢者にわからせようとしているのでは。

私は、ちなみに、現役時代ずっと税金を払い続けて来ました。若者も歳をとるのです。分断をあおるのはやめてください。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

私は毎月 2 ケ所(循環器病院、整形外科)の病院にかかるときの通院や買い物、家族や知人と会うための日常生活の交通手段として使っており、「敬老パス」はとても役立っております。

スマートフォンが使えないと「健康アプリ」は利用できません。「敬老パス」と「健康アプリ」を一緒に考えるのはおかしいです。

対象年れいを 70 歳から 75 歳に引きあげるとは一人では歩行がむずかしくなる年れいです。

札幌市はもう少し税金の使い方を考えて今の「敬老パス」制度の存続を考えていただきたいと思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

・「健康づくりでポイント獲得」の制度は不用と思います。
財源を敬老パスの方へ回して欲しいです。

・領収済通知書も簡素化する。
たとえば A4 の用紙に何枚か印刷する(今の大きさだと A4×2枚です)、紙質を落とす。

・2005 年以降交通費も上がっていると思いますので使える回数も少なくなっています

・2050 年には一人あたりの負担が 2 倍の約 4000 円になるとの事ですが個人の負担が 50%になると個人負担も 2 倍になるとと思いますのでチャージ額 70,000 円を維持して下さい。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

- 1.健康寿命延伸施策と敬老パスの見直し別問題である
- 2.健康寿命延伸に向けた取組(事業・予算)はどうだったのか、そしてその効果はどうであったのか具体的に示してほしい
- 3.敬老パスの年齢・使用金額について方向性は是とするが段階的に行うべき。年齢も使用金額の上限はまず6万円から順次下げる方法がいい
- 4.敬老パスの財源問題について 2005 年度からの決算額はどうなっているのか、予算に占める割合はどうなってきたのか具体的に示すべき
- 5.その上、今後どうしていこうとするのか考えを示すべき

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

北区

提出方法

郵送・FAX

私は2022年10月(78才)で車の運転をやめ、本格的に敬老パスの利用を開始しました。それまでは1枚買う程度でした。使い始めると年に7枚使い、4月がまちどうしいことになりました。バスは便数も有り、利用しやすく敬老パスに感謝しました。いつから使う、どのくらい使うということは生活の環境が変わることなのでわかりません。いつも手元にあることが大切なことに気づきました。若者が敬老パスに署名した「私の祖父母が使っています。私達の時代にもほしい制度です」と言っていました。せっかくの制度も利用できない人は沢山います。タクシー、JRでも使えれば、もっと広く活用でき、制度も生きるはずです。

若者にも老人にもやさしい札幌、心かよえる札幌になることを期待している1人です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

郵送・FAX

1 意見

「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」には反対である。

2 理由

①秋元市長は福祉とは何かということをつかていない。だから、当初案のような間抜けな案が出てくる。福祉とは何か、健康寿命の延伸とは何かをきちんと考えて再度修正案を検討し、市民に説明すべきである。

・令和元年11月に「神戸市敬老乗車制度・福祉乗車制度のあり方検討に関する有識者会議」の報告書が提出されている。その中に、「敬者優待乗車制度は社会参加のための一つのツールであり、一方で・・・歩いていける居場所の整備など、・・・神戸市として活力を生むような前向きな施策の充実が必要・・・」とあり、単に他市で縮小・廃止しているからそのマネをするだけという秋元市長の実施案には反対せざるを得ない。なお、仙台市は70歳以上は変更せず、負担割合も(10%から)25%である。

・札幌市の資料に「・・・市全体の要介護認定を抑制するために、・・・」とあるが、行政機関が「認定を抑制する」と表現するのはおかしい。これは、例えば「要介護リスクを下げる」等の表現にすべきである。複数の福祉関係者が疑問を持っている。秋元市長だけでなく、市職員全体が福祉について(さらに言えば行政全体について)もっと真面目に考えるべきである。

②現役世代の負担増を理由にするのであれば、市の予算額全体・個々の事業についても負担額の推移を示すのがスジである。オリパラ招致時と同じ手法を使っており、市内部から説明としておかしいとの意見が出ないのは財政に詳しい職員・一般常識ある職員がいないということになる。

③選挙公約にないことを実施するのであれば、「市長と語ろう！敬老パス」という(時間的にも内容的にも予算的にも)無意味なことで誤魔化そうとせず、きちんと各区において市民に説明すべきである。初案は市民に説明したが、実施案(修正案)は初案とは目的・内容が異なるのであるから、市長は逃げずに説明すべきである。私の周囲には「秋元に投票しなければ良かった。騙された」とまで言っている市民が多数いる。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスは是非今迄通りに継続していただきたい。

スマホは使いこなせません。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

70 歳になって敬老パスを使うのを楽しみにしていました。
今その目前にアプリだのがもち出され何がなんだか理解できずというところです。
スマホなど使用しなくても利用できるような、
敬老パス事業を実施していただきたいと思います

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

◎敬老パスを「5 年後の検証を前提として、廃止する」と言う事は、今この物価高の中、外出を抑えると言う方が多くなると思います。その為に、人との交流がなくなり、認知症が加速したり、健康の面でも、足腰が弱くなったりと、影響が出てくると思いますので、敬老パスはいつまでも、継続して欲しいと強く希望します。
高齢者の方にとっても、とても重要な制度ですので。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

私はスマホとをもっていない納税者の 1 人です。

私達の年代は敬老パスをもらえない世代です。

しかし年金生活の中で納税はしています。

若者にも、高齢者にも札幌市でゆたかに生活できるという姿勢で市政をしてください。

敬老パスをひきつづき残して下さい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

歩いた歩数をスマホと連動させるのは、困難ですし、膝が悪いので、歩けません。今までどおりの制度のままにしてほしい。

負担額が増えるのも、年金だけで暮らしている者には、大変です。20,000 ポイントためるのは、大変です。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

交通費の支援のための敬老パスです。

削減されると生活費に関わります。物価高騰で生活を切り詰めなければならない中、生活が脅かされます。

現行の敬老パスを継続し、JR・タクシーへの利用ができるようさらに充実させてほしいと考えます。

以上

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

- 75 歳は健康な高齢者が減り、使えない方が多数になります。
- 敬老パスを使うことで、交通や買い物が活発になり、経済が活性化します。
- JR・タクシーにも使えるようにしてほしいです。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

けんこうアプリに関して、果たして 70 歳の方がアプリを理解して自分のスマホで使用できるだろうか？

私は薬剤師として調剤薬局でおくすりを高齢者におわたししています。当薬局でも処方せんをラインで受け付けをしていますが、70 代でそれを理解して使いこなせている方は 10 人に1人ぐらいだと思います。それも何度も薬局で本人と一緒にそうさしてです。無理だと思います。

けいろうパスに関して、交通費が私たちでも高いのでお出かけはなるべくへらすことが多いです。

高れいの方は年金から考えるとそのわり高感はもっとあると思います。交通費がかからないということは、活動的になれると思います。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

健康アプリは今健康の人なら良いが、70 歳超えると体を維持するだけでも大変なのに(病院に通ったり)ボランティアや講座に参加する等出来ない
それなら健康に過ごせる様、医療費や介護料の引き下げを検討してくれた方が心も楽になる

このアプリは何才の人を対象にしているのかわからないし、元気な人ばかりではないので厳しい提案だと思う

まして敬老パスが高額になっていくとますます将来不安になっていく。何としても高齢者いじめとしか思えない。大型予算や補助に何十億と使うのに、少ない予算で健康維持ができるのにどうしてその市民向けに予算をまわせないのか。

自分達が年取った時にこんな状況になっていたら不安になるだろうと思う。こんな提案はやめてほしい。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

今年 3 月で 68 才になります。70 才になれば、敬老パスを使えると楽しみにしていました。

今回の案で 75 歳まで引き上げられると聞き、ビックリ！！私のように 68 歳の者は、75 歳まで使うことができないのは不公平ではないかと思えます。

又、上限4万・半額負担も、今使っている方にとっても大きな負担になると思えます。

今の敬老パスを残して下さい

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスを何年後に何パーセントにとか、年齢引き上げをなど、現在決めてしまうことに反対します。

市民の声を聞いてと言われてて、集まりに参加した声は反映されていないと思います。健康アプリは必要ありません。そもそも敬老パスの高齢者のためのものとは考えられません。

高齢者いじめと思います。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

この度、札幌市が敬老パスを「新敬老パス」に変更する提案は、以下の点が満たされていないので撤回すべきです。

1)利用者並びに市民(将来の利用者)に制度変更の理由と内容を周知する

一昨年 11 月の初案では「広報さっぽろ」に掲載し、全区で説明会もされたが、提案理由・目的・内容が全く異なる昨年 9 月の 2 次案では、それらが一切されていない。

2)市民に耳の痛い情報も含め所要な情報は選ぶことなく隠さず示される

今回の説明では提案の都合の良いデータを「つまみ食い」のように並べている所があり、本当に市が市民に理解してもらいたい事があったとしても正しく伝わっていない懸念がある。今後のあるべき「敬老パス」制度を作りたいのであれば、関係するすべての情報を開示すべきです。

3)事業の目的達成に、より効果的な方法を市民と当局と一緒に検討する

2 次案では新敬老パスの目的は従来と変えないと説明されているが、「健康アプリ」の財源に振り向けるため新敬老パスに変えて経費をねん出している。新敬老パス制度は敬老パスの目的に逆行する内容であり、「JR やタクシーでも使えるように」という要望含め、例えばタクシーで利用できるチケットや JR 割引購入券など無理に IC としない方法論も検討すべきです。

4)市の支出全体の中でお金の使い方を検討する

敬老パス事業費が札幌市の決算に占める割合は 2023 年度は市の財政の 0.44%で、20 年前は 0.47%とほとんど変わっていません。高齢者、若者、子育て世代それぞれの要望はそれぞれ尊重されるべきで、実現のためにどう財源を使うかから検討すべきです。市は市民を分断するような施策ではなく、お互いをリスペクトしあい統合されるよう検討の場を設け、運営すべきです。

上記 4 点を踏まえて策定した「敬老パス案」こそが、現利用者や、これから利用する人とその家族、すなわち全市民に受け入れられるでしょうし、その過程を通じて市への信頼が形成され、様々な施策が支持されることに通じます。

今のままでは、多くの市民の反発と失望を招き、市政への不信感を招きます。市の姿勢が問われています。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

『健康寿命の延伸』と『敬老パス』を結合させることに無理があります。

敬老パスを使えなくなることで、高齢者の外れが抑制され、歩行数も減少し、不健康につながる、ならば、健康維持の活動をしてもらおう、という流れでしょうか。

70 歳以上の方々は、現役時代は高い市税を納めて市政を支えていた方々です。

現在は、限られた年金で生活されている方々が、通院・ボランティア・買い物などで公共交通機関を利用することは、必要なことですし、物価高が生活を直撃する最近、敬老パスによってそうした活動が推進されているのではないのでしょうか。もし、交通費も高くなるとなれば、病院の受診抑制、買い控えなどのために、少しずつ、死にゆく方が増えるように思います。

公共交通の赤字、買い控えによる税収の減少などにどの程度の影響が生じるのかシミュレーション済みですか？若い世代に負担が多くなる的な世代間対立をあおることは、やめてもらいたいです。

敬老パスを、現行のまま、もしくは利用対象を拡げて継続すれば、健康寿命について新しく考えることはありません。市の予算全体の中で、不用不急のものをやめ、高齢者、若い世代への福祉を充実してほしいと思います

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

改定されようとしている新敬老パスには反対です。通院やボランティア活動に不足し困ります。今の制度のまま残して欲しい。また、買い物の時に出かける時は歩いていますが、帰りは買った荷物が重くて歩いては帰るのは困難な為、タクシーを利用しています。タクシーや JR にも対象を拡げて欲しいです。

今回の改訂にあたっての市の説明に納得できません。若い人への負担額を抑えたいとの説明を市長からされました。本当に若い人の負担が増えるのでしょうか。札幌市民が納めている市民税のうち敬老パスに振り分けられる費用は、わずか 0.5%。とすると、私が払っている市民税のうち 0.5%が敬老パスに。残りの 95.5%は他の施策に使われている事となり、それは、世代に関わらず納税者一人一人が全員 0.5%は敬老パスにつかっているという事ではありませんか。若い人の負担を抑えるという説明はごまかしだと思いました。

敬老パスにかかる費用が適切で有るか無いかをどのように判断すべきでしょうか。私は、札幌市が行っている市民税の使い途全体を市民に分かりやすく公表し、全世代を対象に、ここにはもっと予算を増やすべき、ここにかけている予算は削るべきなど意見を求めてはどうでしょうか。私は、都市開発費、新幹線の札幌延伸への予算こそ掛け過ぎだと思っています。中止になりましたが冬季オリンピックの予算は削るべき典型的な例だったと思います。

敬老パスと健康寿命の延伸は別の課題。なのに、敬老パスの予算枠で健康寿命延伸をすすめるようとしている事が、今回のまやかしの説明に繋がっていると思えて仕方ありません。

是非、健康寿命延伸は別予算で、そして、敬老パスは現行を維持しタクシーや JR にも拡げてください。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

現行制度を継続してください。

制度の異なる敬老パスと健康寿命を同列で議論しないで下さい。

どの世代も安心して暮らせる、札幌市民でよかった！と思える施策を望みます。

敬老パスの経費は市の予算の 0.5%弱と聞いています。

説明の枕ことばのようにこれ以上若年層の負担増加を避けたい、と言います。

高齢者も税金・社会保険料負担など相応の負担をしています。

年金の賦課方式を理由にそのような説明でしょうか。

年金受給者の大半は積み立て方式の中で保険料を納入しており遺憾の思いです。

行政は応能負担で税等を負担し、サービスは均しくが基本と思っています。

敬老パス変更で生じる例えばボランティアの問題は検討する等の説明ですが、敬老パスとは別のきちんとした制度の確立・検討を望みます。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

現在の敬老パス制度は今のまま残して下さるようになしてください。

健康アプリは、使用できません。敬老パス制度とアプリは切り離して、今の敬老パス制度のまま残してください。

新敬老パスになると、外出が減り、不健康になります。今の敬老パス制度のまま残してください。

新敬老パスは、自己負担額が大きく、ボランティアの回数や社会参加を奪わないで欲しい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

現在の敬老パスがあるお陰で自分の病院の通院はもちろんのこと、付き添わなければならない夫の通院、又買いものや自分の趣味・ボランティア等、若い時には考えられない程、出かける事が多い日々を過しています。敬老パスには、感謝しかありません。今の私たちには絶体に欠かせない存在なのです。メカに弱い私達にアプリの使用等考えられません。そういう意味でどうぞ今のままの敬老パスが続くことを強く願ってやみません。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス、日常の生活を楽しく円滑にと大いに役立っています。絶対なくさないで！

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

健康アプリとは関係なく現状のままの敬老パス制度として残してほしい。
生活行動範囲が小さくならずに通院買い物など楽しみの機会を支えるものとして残してほしい

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

今の敬老パス制度のまま残してください！

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

- ①現行の敬老パス制度は今のままで残して下さい。
- ②私はスマホを持っていませんのでアプリは使えませんので敬老パスとアプリは切り離して下さい。
- ③札幌市は創成川沿いにアクセス道路建設や札幌駅周辺の開発などの予算の一部を使えば敬老パスの予算はあると思います。
- ④年金生活者には敬老パスの自己負担額が大きく買い物や通院、ボランティアの回数を減さざるを得ません、高齢者の外出の機会をなくさないで下さい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

新敬老パスは自己負担額が大幅に増加、更に外出の機会が減ってしまいます。
多くの人とのコミュニケーション、社会参加の機会を失う事は肉体的にも精神的にもかえって不健康になってしまいます。

「当面存続」云々は「廃止」を前提とした説明であり、許せません。

「GX に特化した優遇措置」(税金免除)等誘致策としていますが、本来の財源(市民生活維持の為)を大企業の為に使っているように思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

健康寿命を延ばす事は大賛成です。だからといって健康アプリ導入は違うのではないか。70 歳以上の方に「さあ歩きなさい」と言われても膝・腰となど痛い所が多くて無理ではないか。なにより雪国です。雪が降ると病院(通院)すら行けず家の中に閉じこもってしまう。

タクシーや JR も敬老パス制が使える事は良い事だと思います。

バス利用時思う事があります。乗り降りに時間がかかる老人が多い(整形的に悪そうな)その人達を見ていると、70 歳から 75 歳に引き上げは、酷である。

せめて 72 歳くらいからが良いのでは。老人の 1 歳は身体は衰弱は激しいですので、そして 7 万から 4 万も徐々に引き下げるはどうでしょうか？子供に対する政策は、国・道など色々あるのに対して老人に対する政策は、先細りになるのがとても悲しいです。今ままで頑張って来たのだから。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

- ①今の敬老パス制度のまま残してください。
- ②私は健康アプリは使いません。敬老パス制度とアプリは切り離してください。
- ③新敬老パスになると、通院が少なくなり、病状が悪化する。(判読不能)
- ④老人と若者の世代を分断している。(判読不能)があるような内で制度を改悪するわけがあるのか。
- ⑤新老人パス制度は、自己負担額が大きく、ボランティアの回数を控えざるを得ません。社会参加の機会を奪わないでほしい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

◎健康寿命延伸のため、

①保健、疾病予防の啓もう教育、キャンペーン(若い人に対して)、敬老パス制度とは別の対策、施策を。

②環境整備を→道路整備、坂道に手摺、安全点検、クラブ・サークル施設の増設

○現行の敬老パスは存続して下さい。

○対象は 70 歳以上のままにして下さい。

◎チャージ額は四万円までは現行のままで、続けて下さい。(負担率も同じに)「チャージ5万円以上」の人は何にどれくらいの頻度の利用なのか調査してほしい。

○敬老パスの恩恵を受けられない高齢者もある。

障がい者制度の対象外の障がいのある人等の困難に対し援助の方策を考えて下さい。どのような高齢者も(読み取れず)を支える人達も、外出を希望すれば、等しく、補(援)助が受けられる制度になって欲しいものです。

○高齢者だけ優遇されているという意見もあるが…。ベビーカーでバスに乗り降りしている母親は大変困っていた。見かねた初老の人手助けしていた。若者はケイタイに集中していて、無感心!弱い人、困っている人を助けて、助け合いの意識の社会全体にあって欲しい

○ロンドンでは 60 歳以上、メトロが無料とのこと。日本はイギリスより貧乏なのだろうか?

○地下鉄のエスカレーターの動きが早く、うまく乗れないのでスピードを緩くしてほしい

○早く、自動運転の小型のバスが走る時代になってほしいものです。一方、大勢が乗るルートは 2 階ダテバス(通勤バス)。車いすや歩行器、ベビーカー等を使用している人が乗り降りしやすい車が造られ、見守りや補助の人も同乗している等、安心して外出できるようにしてほしいです。「発車!オーライ!」と。

○母が老人保健施設に入所していた頃、私は洗濯物を届けたり、行事・レクリエーションの付添・家族介護教室の参加、月末の支払等に合わせて面会に行きました。地下鉄と中央バスを乗り継ぎ、時間が折り合えば、地下鉄から施設直行の送迎バスを利用しました。交通費は月平均8千円以上でした。その後母は、持病の心臓病等々が悪化し入院しました。毎日面会に行くと、「そんなに来て大丈夫か?」と。

私が 70 歳になり「敬老パスもらえたよ」と見せたら、「そうか、良かったナー」と喜ん

で母の顔が忘れられません。その後、母は隣の区の特養、病院生活を経て、数年後に他界しました。それ迄、私なりの親孝行ができ、敬老パスには大変感謝しています。私は 70 才頃から、膝、腰の痛みがあり、最近は、眼、心臓の調子も悪くなってきて、通院回数が増えました。敬老パスが頼りです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

WEB

昨年度、敬老パスを敬老健康パスに変えるという案が札幌市から提案され、メールや電話での意見はもちろん、各区での意見交換会などでも、多くの市民から、反対の意見が出され、反対署名も多数集まっています。

そこで当面存続・経過措置の変更案が出されてきたわけですが、70才からが75才からに変更し、半額負担には納得できません。

70才から75才は退職して色々な興味関心を持って出歩こうというときで、私にはとても嬉しい敬老パスでした。今は、ガソリン代が高く、バス代も値上げです。その期間の手当てがまったくなくなれば、仕事はなくなる、外に出るとお金がかかる。家に引きこもって、体を悪くしてしまいかねません。

是非現行の70才から、しかも半額などと言わず現行のままの制度を継続してほしいと思います。

7万円がどうしても無理というならせめて4万円でも仕方がないかとは思っています。遊ぶことばかりに使っているわけではありません。署名をしてくれた人には通院で使っているという人がとても多かったです。また毎日妻が入った施設に会いに行っているという人はこの敬老パスがなくなれば私も妻も生きる意欲がなくなってしまうと言っていました。

若い人も言っていました。「僕たちが年取った時にあってほしい制度です。ぜひ続けてもらいたい」と。

どこに市のお金を使うのか、何が求めていることなのか。

子育て世代をないがしろにせよと入っていません。

両方が必要なのです。

しっかり精査して、敬老パスはぜひ、現行通り続けてください。

もちろん、健康寿命の延伸について考えることは大切ですが、それは敬老パスと離して考えてください。

敬老パスを敬老健康パスに変えると札幌市から提案があり、メールや電話 fax はもちろん、各区での意見交換会でも、多くの市民から反対の声が上がり、反対署名もたくさん集められています。

そこで、市の方から当面存続・経過措置の訂正案が出されたのですが、70 歳から 75 歳に変更し、半額負担には納得できません。

70 歳から 75 歳の間というのは、退職し、さあどう過ごそうか？という時期、自分の

興味関心を生かした老後の設計を実現する時です。その時に敬老パスがあるのとならないのでは、大きな違いがあります。ガソリン代が値上がりしバスなども値上げで、動きが制限されてしまうのです。札幌市という文化都市に住みながら、厚別などの田舎にあっては、美術館・文学館も映画館なく大きなホールもなく、寂しい限りです。

出ればお金がかかると引きこもる結果になってしまいます。

是非現行の 70 歳から、しかも半額などと言わず現行のままの制度で継続してほしいと思います。

7 万円がどうしても厳しいというのであれば、4 万円でも仕方がないかと思っています。

署名をしてくださる皆さんにお聞きすると、病院通いに使っている人がとても多い。これが亡くなるとリハビリに通うこともできず動けない毎日になってしまう。という人もいました。毎日、妻が入っている施設まで会いに行く、この敬老パスがなくなってしまうたら、年金暮らしでは会いにも行けず妻も私も生きる意欲が亡くなってしまう、と話してくださる方もいました。

若い人は反対ばかりではありません。

「僕たちの老後を考えるととても大事な制度です。ぜひ頑張って残してください！」とってくれる若い人たちも何人もいました。市は、若い人に負担をかける制度だと言い、対立をあおっているようにしか見えませんが、実態は違います。

子育て世代への援助もとても大切なこと、そして敬老パスも同じように大切なことなのです。

両方が市民であり必要としていることなのです。

市の財政をしっかりと精査して、敬老パスは現行通り残してほしいと思います。

更に、タクシーや JR でも使えるようになることを望んでいます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

1. 健康寿命の延伸についての取り組みは、高齢になってから始めるものではなく、幼少期から栄養面、情緒面、体力面など、バランスの取れた生活環境を整えるべきものです。
2. 健康寿命の延伸に、現在の敬老パスよりも、市が提案している『敬老健康パスが有効である』とのエビデンスが明らかにされていません。現在の敬老パスを存続できない理由も、財政の切り詰めと自己負担額の増額以外は不明瞭です。
3. 若者への負担を強調されていますが、何十年も前から少子高齢化が問題にされていたにもかかわらず、政策として改善策を示さず、長時間労働や非正規労働者の急増で、若者の雇用も悪化し、高齢者を低賃金で働かせるなど、労働環境は極めて悪化しています。とても安心して結婚、出産、育児ができる環境ではありません。
4. 現在の敬老パスを健康パスに移行することは、少ない年金で生活している高齢者を苦しめるものです。
5. 敬老パスの利用率や利用金額などを平均値のグラフを用いていますが、平均値は動向を表すもので実態を示すものではありません。高齢者の実態に即した丁寧な調査にもとずいた政策の立案を願います。
6. 歩行などでポイント貯まり、電子マネーに変えるアプリが非常に増えていますが、今さら敬老パスを変更してまで札幌市が参画する狙いは何でしょうか、市民にどれほどのメリットがあるのかお示し願いたい。
7. 基本的に、現在の敬老パスを存続して、よりよく利用できるように JR やタクシーにも拡大をしてください。
8. 健康アプリは、敬老に相反するものですから別枠で検討をお願いしたい。ただ市民にどのようなメリットがあるのか、一般企業が行っているアプリよりも何が優れているのか明らかにしてください。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

不明

提出方法

WEB

70歳から 75 歳に変更し、半額負担には到底納得できません。

現行の敬老パス制度は私にはとても助かる制度です。車の運転にも不安を覚え、また、ガソリン代も高く、バス代も値上げで本数も減っています。

専門の病院に行くのにハイヤーを使って通っています。また、ボランティア活動をしていいますが、これは敬老パスがあるからことができることです。

年配者だけが優遇されているのではないか、若者はどうなっているのか？と年配者と若者を分断する政策を掲げていますが、このままでは、将来年配者となる若者も同じ目に遭います。

現行の敬老パスを存続すること、パスの使用範囲を JR とハイヤーにも拡大することを強く望みます。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

そもそも、なぜ健康寿命延伸と敬老パス見直しが一緒くたに取り上げられるのか!?

パブコメタイトルを健康寿命延伸ではなく、敬老パス制度見直しに関する意見募集とすべきではないのか?

当初の敬老パス改悪見直し案の出し方といい、パブコメ募集タイトルと言い、まやかしそのもの。

見直し案に反対、敬老パス現行維持を希望します。

バス路線の廃止減便が相次ぎ、地下鉄乗り継ぎ利用ができなくなり運賃も値上げと、交通費負担増と不便を強いられている。

さらに、敬老パス制度改悪とは!

若い世代の負担軽減というけれど、利用見込みも怪しい健康アプリ導入と維持管理にどれだけの費用がかかるのか?

その費用を敬老パスに回せばよい。

敬老パスの不公平を言うなら、健康アプリの方がよっぽど不公平。

敬老パスと市民の健康維持増進活動は別問題。

高齢者優遇で現役世代や将来を担う子どもに荷を負わせるわけにはいかないというけれど、子どもにも、若者にも、子育て世代にも、生活弱者や障害のある人にも高齢者にもそれぞれに必要なさまざまな福祉施策を行うのが行政の役割、それを優遇とは言わない。

高齢になってよいことといえば、札幌市民には敬老パスがある、という自慢くらいしかないのに、それを奪うとは、ただでさえ貧しい大都市札幌の福祉行政がさらに全国の笑いものでは?

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

敬老パスは段階的に、最終的には子ども料金程度で乗れるまでに縮小すべき。
現在高齢世代を支える現役世代が高齢者になった時にもある程度の支援を受けられるような制度設計にしないと不満が増えるばかり。
高齢者はここまで日本を発展させたのは我々だと声高にいうが、寝る間を惜しんで生産性を無視した働き方でしか競争に勝てず、賃金もあがらない日本にしたのも現在の高齢者世代。ある意味その責任を取るべき。
世代間の分断を生んでいるのは、自分が生きている間は逃げ切れればよいと考える自分勝手な高齢者であることを自覚するべき。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

①本パブコメ名称「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」という件名について。内容は敬老パスの見直しが前提で目的となっているにもかかわらず「敬老パス」という文言がないのはなぜか。

そもそも敬老パス利用対象を 70 歳から 75 歳以上にする、利用年齢を上げて健康ポイントアプリ(スマホ)の選択肢を作るというものだ。(経過措置はあるが)75 歳以上にすることで今後 70～74 歳の市民は外出機会が減ることになる(コミュニケーション社会活動も減る)デメリットが一連の見直しの「矛盾」ではないか。

理由が「若者・現役世代の負担を減らす」という財政負担減をメリットとしているが、それが逆に健康寿命を減退(現役に介護負担増にもつながり)させる可能性もあるという矛盾をはらむ見直しだから反対する。(介護離職、老々介護…の不安も)。

健康ポイントアプリと敬老パスは各別に検討すべきだ。

②資料について:が西暦と元号表示が混在し、簡潔にしすぎたがためにかえって非常に分かりづらくなった。前半と後半の統計資料全体を通じて「若者現役 vs 高齢者」の対立構造・「世代間分離分断」に導く内容で、上記①同様に矛盾を感じ、残念ながら何を言いたいのか説得力に欠ける。前半の健康ポイントの説明と後半の敬老パス(当面は継続するが徐々に負担額を増やすが廃止に向かう…)がどのように結びつくのかが唐突過ぎて不明。

③「健康ポイントアプリ」が「キャッシュレス・スマホアプリ」限定となっており、スマホを持たない・使わない市民(高齢者や障がいを持つ人など)に対応していないいうのに、スマホアプリは民間業者に委託で、業者選定や費用・手数料・ランニングコストなどの経費を含めて「市民の税金で行う」ことは非常に疑問であり、現在敬老パス利用者が対象者の半数だから不公平・不平等だというのであれば、市税を使ってポイント還元する健康アプリポイントこそ不公正・不平等に繋がるのではないか。

またいったん(高齢者が)「健康アプリ」を選択すると、今まで利用していた「敬老パス」に戻せない(利用できなくなる＝残った負担額の払い戻しになる)という重要なことが全然説明されていない。

④いわゆる高齢者交通優待敬老パス制度の見直しは全国自治体で行われているようだが、報道によれば(当然財政的な問題はあると思うが)、いま東京都では「シルバーパス」対象は 70 歳以上の都民で、所得によるものの(住民税非課税はこれまで通り 1000 円負担)、負担額をこれまでの「半額」にして外出促進に見直した。

また横浜市では(敬老パスの利用は 70 歳以上の高齢者で札幌市と同様の50%程度)介護保険利用が減るといふ費用対効果ありとみて(外出でフレイルを防ぎコミュニケーションも効果ありとみている)、タクシーやコミュニティーバスにも利用を拡大し、さらに75 歳以上で運転免許証返納者には 3 年間負担無料で交付することにしようだ。このような自治体政策をみると単に削減するのではなく、なんらかのインセンティブをつけて、逆に「利用を拡大」するようにして外出促進推奨への方向に動いている。

札幌市はバス市電運賃料金が値上げされ、バスも地下鉄乗継なったことから、年金があがらない高齢者にとって敬老パスの利用はますます必要になる。住居地域によって利用運賃料金が異なるから、逆に希望者には上限額を引き上げることも健康寿命延伸に繋がるのではないか。

⑤経過措置期間を残したうえで「スマホアプリ健康ポイント」の選択肢を加えるにしても、徐々に自己負担が増え、いずれは廃止に向かう前提で、提案名に「敬老パス」の文言がない「健康寿命を延伸させる」再提案は、対話集会でも明らかになったように、世代間を分断させる「マイナス(イメージ)」施策でしかない。

選択できるという「健康アプリ」も生煮えの提案だ。

物価高騰で高齢者の生活は相当厳しくなっている。

敬老パスの財源削減については札幌市の担当部局だけで算出するのではなく多局と連携して、「税金の無駄遣いの検証」を逐次行い、なによりも市民に(若者・現役・高齢者にも)「希望」といづれは全員に来る「老後」の安心に繋がるインセンティブが必要ではないのか。

以上です。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

健康アプリの取組には反対します。

・主に高齢者に向けた取組なのに、スマートフォンのアプリは高齢者は使用できない・しないので意味がないと思います。

・市の公共の取組なのに、スマホを持っていて、かつアプリを使える人にしか恩恵がないので不公平です。

<資料>

Rita 社が実施したスマホアプリに関する調査ダウンロードのきっかけと年代別特徴の分析」2024年10月

<https://www.commercepick.com/archives/59187>

→「年代別の動向」を見ると60代の20%がアプリをダウンロードしない。

この資料では60代までですがそれ以上の年代はさらにダウンロードする人が少ないのでは。

・市町村アプリの取組は失敗事例が多く、活用が大変難しいものです。

ベンチャー企業であればチャレンジされるのは止めませんが、札幌市の場合税金での開発運営になりますのでこの健康アプリが成功事例になるという根拠をぜひ資料で提示していただきたいです。

<資料>

・失敗事例など

1.7億円かけてダウンロード439人…鹿児島市の公式アプリが大苦戦、目標3万人に遠く及ばず

https://373news.com/_news/storyid/202561/

コロナ接触確認「COCOA」失敗の意味とは、IT転換促す奇貨に

<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00278/042100005/>

なお私は札幌市のLINEアカウントや、札幌市ごみ分別アプリは活用させていただいていますので、市町村のデジタル活用に反対しているわけではありません。

高齢者に対する取組でアプリは効果が低いと考え、上記の意見となりました。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

道新に載った札幌市の広報によると「高齢者の交通費を現役世代が負担するのは不公平」ということが書いてありましたが、年金のように働いているときに払い、退職してからは、現役の人の積み立てで年金をもらうというシステムとは、全く違うと思います。敬老パスに 50 億円の税金を使う費用は、若い人から集めているわけではありません。年金者も税金を払っています。

税金をどのように使うかという問題ではないでしょうか。道新の記事によれば、札幌市の再開発計画に補助する税金は、全国で 1.2 位を占めたということです。札幌市中央区の「北 5 西 2」には、443 億余りの補助・等々。さらに、タワーマンションでは、北 8 西 1 には、102 億余り、南 2 西 3 には 65 億余りで 20%前後の補助。

しかも住民票を置いているのは、3割余で転売益を狙ったものが多いということです。どうしてこんな膨大な金額を税金で補助するのでしょうか。

敬老パスが将来80億になったとしてもこれらに比べると、たいした金額ではないのではないのでしょうか。

要するに、市長が、どちらの方に顔が向いているかということではないのでしょうか。

敬老パスについては、4万円で50%の負担というのは大きすぎると思います。前のように1～2割程度にしてほしいと思います。また、4万円では、少なすぎるとい人には、負担率を多くしてでも金額を増やしてほしいと思います。

また、タクシーの利用は、なぜ今回は、だめなのでしょう。敬老パスを使いたくても、バスには乗れないという高齢者には、タクシー利用は、とても便利だと思います。

敬老パスは、健康増進のためだけではなく、買い物などの経済活性化にもなっていると思います。

年金受給日には、バス停に多くの高齢者が並んでいる姿をご覧になったことがあるのでしょうか。年金が出た日位ちょっと出かけてちょっとおいしいものを食べようという高齢者も多いのです。

是非、今回の改定案をもっと高齢者のためになる案にしてほしいと思います。

また、政府のように、若者と高齢者を対立させるような PR は、絶対にやめてほしいと思います。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

クリスマスの日にもかかわらず、現在の制度存続を求めて 200 人以上が市庁舎前に集まりました。この事からも明らかなようにそもそもパブコメの時期尚早と考えます。市当局は、現役世代を登場させて高齢者との分断をあおり、秋元市長に至っては子供半額料金を利用してまで分断に拍車をかけています。無料化など子供政策を何かやったのでしょうか？

オリンピック誘致や札幌ドームの赤字問題などの失策を市民に押し付けないでいただきたい？

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

人口 196 万人都市の強みを生かして社会実験してみませんか？

仮称さっぽろ交通弱者支援スペシャル限定フリー区間きっぷ

札幌市民高齢者・障害者のみ限定料金 800 円平日 3 日間限定月木金か金月火(火水木は要望あれば)

フリー区間は個別に申請方式

自宅から最寄り区役所図書館体育館通院中の病院歯科大手スーパー(本人の希望するイオン・アークス・せいきょう・TRIAL 等)までのバス・市電・地下鉄の路線

800 円だと 50 週(年末年始お盆黄金期間は販売休止)ほぼ毎週利用しても年間で 4 万円の費用負担で済む

365 日毎日出かけることは考えにくい

国鉄が青春 18 きっぷ発売した当時の考え方です乗客が少ない状態で運行し続けるよりも閑散期に格安きっぷを販売して乗ってもらったほうが赤字削減的にマシ

この切符を利用してもらっても満員になって増便を出す必要がありそうなほど需要があることは無さそう？

混雑する路線(地下鉄南北線とか)に限っては朝の通勤・通学時間帯は外す？もアリかも

札幌市(財源が苦しい)も交通弱者(自己負担額は増やしたくない)もバス会社(運転手不足)も誰も損しないと思いますがいかがでしょうか？

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

[前提]

- ・敬老パス制度は廃止すべき(自己負担とする)。
- ・1-3 のデータから敬老パス制度の高齢者予算に占める割合は低いので全体的な削減努力が必要。
- ・2-2 のデータから敬老パス制度の高チャージ額利用者へのさらなる働きかけが必要。
- ・東京都などは逆に予算を増加させる方針なので「札幌市」としてどのような現状と展望か理解が必要。

[本項目について]

アプリ利用の前提があくまで健康な人を前提としている点で公平性に欠ける。

現行の敬老パス制度もそうだが、寝たきりの人や障害のある人など使用できない人もおり、積極的に使用できる人との間に差がある(使用できる人は高チャージするかもしれない)。

そこで、高齢者向けサービス自体をポイント制として対象者に基本的なポイントをあらかじめ配布し、自身で使用したいサービスを選択してもらう方が公平性にかなう。健康アプリもシステムの一つとして組み込む。

その中サービスに敬老パス、施設使用料等も含めて提供することにより限定された資金、リソースをニーズにあった部分により配分できる。

ポイントの使用は任意であり、使用しないのであれば寄付や他の高齢者に使用してもらう選択肢も用意する。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

- 1.健康寿命の延伸の取り組みと敬老パスの変更と結びつけるのはやめてほしい。そもそも敬老パス自体が高齢者の外出支援と社会参加が目的であり、現行制度でも健康寿命延伸に役立っている。健康の為の活動に参加してポイントを得るなどは、別の健康事業として行うべきである。
- 2.敬老パスは市の何度か行ったアンケート結果に表れているように、買い物・通院・友人知人など会うというのが利用目的であり、これが削られると公共交通の利用が減る・外出が減る、減ると思うと答えている高齢者が多い。私は医療機関で働いていたが、高齢者の多くは敬老パスを使って通院しており、それは医療機関で働く者にとっても当然のことと見ていた。利用者にとっては大変助かっていた。ただ、だんだん高齢になるとタクシーでなければ通院できにくくなる人も増え、タクシーへの助成もないものかと思っていた。買い物では私のまわりの方は歩いて数百メートル先のスーパーなどへは行けないので、最寄りのバス停から数キロ先のスーパーへ行き、またバスで帰ってくる人も多くいます。みな口をそろえて「敬老パスが減らされたり変えられると困る」と言います。それは「生活の足」として使っているからです。一部の裕福な方は別として、年金暮らしの高齢者にとっては交通費も大きな支出です。それは低年金の人にとって特に重く、さらに病気があって通院が欠かせない人にはさらに重くなります。敬老パスは高令者の生活を支える大きな役割を果たしていますので、利用上限を下げる、負担を重くすることは使えない人が増え、生活に大きな影響を与えます。
- 3.市の財政的な負担になっているといいますが、高齢者が敬老パスを使って外出もでき元気で暮らせることは、本人の健康維持になるのはもちろん、介護予防にもなり、結果的には医療費と介護費用の抑止にもつながります。健康の維持や介護予防は、歩いたり健康体操に参加することだけではなく、知人と会っておしゃべりする、買い物をする(消費に役立つ)、映画・演劇・音楽鑑賞をすることなどで脳の活性化にも役立ち、認知症の予防にもなります。交通費支援だけで判断すべきではありません。また、60 億円程度の費用は札幌市の一般会計から見れば 0.5%程度であり、市財政を脅かすほどではないと思います。
- 4.若い人の負担や市民 1 人あたりの負担を説明で強調しますが、社会保障や福祉は若者が高齢者を支えるのではなく、収入の多い層が税金や保険料で低所得者を支えるのが普通です。それは若いか高齢者かではありません。高齢者は現役世代と違って収入が半分程度になりますので、低所得層、非課税世帯も多くなるため支援される人数が

多くなるのは事実ですが、税金・保険料を払っている世帯も多くいます。払った税金は高齢者だけでなく、子ども支援～例えば子供医療費無料化などにも使われるわけですが、私たちはそれに賛成することはあっても、自分たちに関係のない子ども医療費になぜ支援するのかなどとは言いませんし、私たちの一人当たりの負担はいくらかなどとも言いません。負担できる層が負担をするのが子ども医療費や教育費に使われると同時に、高齢者の支援にも使われて当然と考えます。敬老パスだけに一人当たりの負担とか若い世代の負担を言うのは制度の在り方や仕組みとしておかしいものです。一人当たりの負担を言うなら、冬季五輪招致に使った費用は、市民一人当たりの負担はいくらだったのでしょうか。

また、市民一人当たりかつては 2000 円の負担が 3000 円以上になっているというが、この算出根拠は明確ではありません。市の収入は市税だけでなく法人税やその他の税、消費税、地方交付金などがあり、収入のどの部分をもって一人当たりの負担などというのでしょうか。消費税や交付税も市民の負担ではありますが、法人税その他を考えると、厳密な市民一人当たりの負担など出てきません。どのような施策にも市民の税金は使われているわけで、どの分野にどれだけのお金を使うかは市の施策、市長の政策ではないのでしょうか。すべての施策に市民一人当たりの負担根拠を計算しているのでしょうか。

5.若い世代からの敬老パスへの批判があるのも知っていますが、それは誤解も多いと思いますので、市当局が若い世代の異論を強調するのではなく、世代間の理解を促進することが重要です。市の最初の意見募集でも若い層の意見はほんの一部であり、圧倒的な高齢者の意見は現行制度の存続、一定の負担はしかたがないが制度を維持してほしいというものでした。直接の利用者である高齢者の意見が最大限尊重されるべきではないでしょうか。高齢者や子供のいない世代が子ども医療費無料化に反対などと言い出す一部の人が出たら、子育て世代はどう感じるのでしょうか。また市はそのような意見が出たから無料化は考え直すなどというのでしょうか。若い世代であっても高齢者であっても、市民生活に必要な施策は守って続けるべきでしょう。

6.今出されている案では、5年後に見直しとなっており、それは現行敬老パスの廃止も見込まれていると考えられます。それには絶対反対です。それは初めに書いたように高齢者の生活の足を奪うことになるからです。健康アプリだけになれば、説明されている範囲では2万ポイントも貯めるのは至難の業であり、到底敬老パスの代わりに使えるものではありません。現行制度の枠組みを維持して、電子マネーを活用したJR・タクシー利用の活用にも道を開く改善をめざしてほしいものです。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

私は足が悪く地下鉄やバス停まで行くのも大変です。敬老パスとアプリを一緒にして健康におっしゃいますが無理です。今までの金額を少し下げてもいいので、タクシーチケットにしてほしいです。後、バスだけではなく JR にも乗れるようになったらいいと思います。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

1975 年から続く敬老パス。当時と今では人口の年齢構成や財源状況も変化し、市民の制度の捉え方も変わっています。

まず、【敬老パス】と【健康アプリ】を別々に考えることです。アプリをパス見直しの代替案と捉えるから反発の声が大きくなりややこしくなるのでしょうか。

自己負担割合を引き上げチャージ上限額を引き下げるとしても、それでいつまで持続可能でしょうか。

また、現役世代も 70 歳未満の人も、外出にはなるべく交通費がかからないように工夫しているのに、敬老パスってなんなの？とってしまうことがしばしばあります。

自己負担があるにしても上限額 70,000 円を使い切り、親類・友人で使用頻度(公共交通機関での外出)が少ない人から譲ってもらう人は少なからずいるようで、札幌市職員を定年退職し十分な年金給付を受けているのにそのような不正をしている人もいます。

70,000 円分貰う権利がある。それを使わない人の分はちょっとズルいけれど貰っちゃおう(少し自己負担はあるけれど)と思っているのでしょうか。敬老パスの本来の意義を知らないはずはありません。たいへん嘆かわしく情けないことです。

財政と人口年齢構成を考えると、たいへん残念ではありますが、札幌市の未来のために敬老パスを廃止した方がよいと思います。

何十年か未来の札幌市民の健康寿命が延びるために必要なのは、敬老パスではありません。

健康アプリをととても楽しみしています。毎日コツコツ歩いたり、友人に会ったり、そして血圧・心拍数・体温などを記録して健康管理もできる。できることなら、健康に関わる情報を市から発信していただきたいですし、アプリの中に自分の活動量によって育つキャラクターが欲しいです。【そのキャラクターを育てるために頑張ることが、自身の健康寿命延伸になる】っていいと思います。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

これまでの敬老パス助成制度は過剰であり、見直しは当然です。

見直しにあたって敬老パスの利用目的も当然調査されていることと思いますが、案などに出てこないのはどうしたことでしょうか。マスコミでは減額されると通院に困るといった意見が取り上げられがちで、そういった方々にはお気の毒ですが、実際には遊び目的の人が限度額いっぱいの高額の助成を受けたりしているのではないかという気がしてなりません。

公共交通機関の存続自体が難しい中で敬老パス助成額の減額は当然の結論で、現状並みに維持したいのであれば通院利用など用途を限定するのであれば、ある程度は理解できます。反対する側も現状維持を訴えるばかりでなく、見直すべき点がないか考えていただきたい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

○健康寿命延伸にむけた取り組みとして、アプリを運用することについて
行政がはっきりしたエビデンスが出てないことを運用することに反対です。たとえ導入ありきとした場合は、敬老パス制度とは切り離すべき。すでに市議会にて準備のための予算(7億あまり?)が計上されているとのことには、怒りあり。デジタル化が急がれているが、スマホ保有率とアプリ等の活用とは違いがあります。高齢者の実情を理解した制度を考えて欲しいし、そうあるべきと。

○R8 年敬老パス案について

1, 開始年齢社会参加が多いと考えられる 70～74 才について対象外とすることは、通院、買物、ボランティア、趣味での自己負担が大き過ぎ行動の制限をせざるを得なくなる。そのことは高齢者の健康維持にマイナスとなるし、高齢者による経済効果にも影響する。市交通の収入減にもつながる。2, 上限 4 万円自己負担 50%市民それぞれ住んでいる地域、家族(車保有)、通院箇所、ボランティア参加など違う条件のもと、必要額も違う。必要とする人、しない人の差があっても不公平とはならない。負担率 10%→50%→24.3%→50%は自己負担増が行動制限にならざるを得ない。出来る限りの現制度の存続が望ましい。

○市は敬老パスの見直しについて、1回目は財政問題ではないとしながら、修正案では増え続ける事業費の圧縮のためとし、現役世代と高齢者の分断を図るかのような論法を展開し、今回のパブコメ募集説明も恣意的なものとなっている。市民の税金は、民間の都心開発、アクセス道路、新幹線延伸、(オリンピック)に多大に使うのではなく、札幌市民の全ての世代の暮らし、福祉を大事に考えて使って欲しいです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

- ・世の中には既存の健康アプリは数多ある。市のアプリが、既存アプリより効果があるという事か？より魅力的な内容となるのか？
 - ・アプリで健康寿命が延伸する根拠、活動内容を具体的に示すべき
 - ・40～64 歳が貯めたポイントは抽選とは何事か？外れたら貯めたポイントは無駄になるのか？
 - ・アプリと敬老パスが併用できないとあるが、75 歳で敬老パスが交付されるまでの間はアプリでポイントを貯めるという事になるが、そもそも高齢者がアプリを使いこなせるのか？使用方法の説明、フォロー体制は年中無休で対応可能なのか？スマホを持っていない人はどうするのか？
- 通信料の負担増をどう考えているのか？高齢者向けスマホには、使用可能な機能を制限する機種もあるが、その対応はどうするのか？
- ・見直すべき範囲はこの他にもあると思います。
- 例えば、各種補助金に関しては最近の傾向では子育て世帯に偏っている印象を持ちます。これまで札幌市の発展に寄与して来た高齢者の方々にも優しい社会にしていきたいと思います。
- ・国から交付された一時支給の補助等も、何故留学生にまで支給する必要があるのでしょうか。既に帰国が決まっている学生にも支給するのは如何なものでしょうか。
 - ・生活保護費を不正に受給している世帯も見受けます。
- 定期的なチェック体制はあるのでしょうか。
- 真面目に働いて住民税を支払っているのが馬鹿ばかしく思うような現状も見直していただきたいです。

意見の内容

年代

40～49 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

「敬老パスは“当面”存続します」ということは、将来的には廃止する可能性があるということなのではないでしょうか？

私の世代や、より若い世代が将来、高齢者世代になった時に「敬老パス」は廃止されているとすれば、それは凄く不公平なことです。

仮に存続していたとしても、対象年齢と自己負担額は大きく引き上げられている一方で、使用額の上限は大きく引き下げられているので、やはり不公平な状況には変わりません。

若い世代の負担を減らすかのような説明をしていますが、将来にツケを回しているだけで、結局は負担増を押しつけていますね。

市民を欺いて、さらに世代間対立を煽るようなやり方で、市の施策を押し通そうという姿勢に、強い不信感と不快感を覚えます。

全ての世代の市民の負担を軽減するのが、行政の役割でしょう！

「敬老パス」は現行制度を維持すべきです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

過去のパブリックコメントのまとめを見ると、市民の意見は細分化された内容のコンパクトな文章の並記です。しかし、今回のテーマについて言いたいことは、細かな事柄だけではなく、基本的な考え方からです。ご理解いただくには、ある程度体系的にまとめることが望ましい。

そこで、まず、論文風の長い文章としてまとめました。6つの章とその下の節からなっています。

ご理解いただくには、全体を通して読んでいただくことが望ましいのですが、投稿フォームを拝見すると、「ご意見の項目」欄があります。それに対応するには節毎のアップがよいと考え、そういたします。項目として概要をまとめていただく場合は、1つの節(つまり投稿)の、さらなる分割が適切な項もあると思います。よろしく願いいたします。

参考にした資料と、出席または傍聴をした会は次の通りです。

□札幌市による資料『厚生委員会 9 月 12 日配付資料』(以下『厚委資料』)

□9 月 12 日の厚生委員会(同日傍聴)(以下で『厚生委』)

□パブコメ資料『健康寿命延伸に・・・について』(以下で『パブコメ資』)

□豊平区の南平岸会館で行われた2回の出前講座、

(札幌市の財政に関するものと健康アプリ・敬老パスに関するもの)

ただし、『パブコメ資』はそのタイトルとは裏腹に、健康寿命延伸のための新施策である『健康アプリ』については、1. 4 節で簡単に述べているだけ。内容のほとんどは、高齢者予算と『敬老パス』に関するもので、看板に偽りあります。ほとんど参考になりませんでした。

以下、第1章では、目的が違う『敬老パス』と『健康アプリ』を、札幌市が一括して考えるとの主張に反論します。第2章では、新たに提案する『健康アプリ』の問題点を指摘し、第3章と4章では、『(新)敬老パス』と『(現)敬老パス』について述べます。5章では財政問題について考え、6章では、以上以外の3点を取り上げています。

市の提案に対する筆者の代案は、次の通りです。

・『健康アプリ』は実施するが、65 歳以上のポイント電子マネー化は行わない。

・『(新)敬老パス』は、基本的には現在の『敬老パス』を、「当面」ではなく、維持する。変更するならば、最低限、類似制度を実施している他の政令指定都市の中位レベルは維持する。

1. 『敬老パス』と『健康アプリ』は別の施策

1. 『敬老パス』と『健康アプリ』は別の施策

『敬老パス』の目的は、市のHPによれば「外出を支援し、明るく豊かな老後の生活の充実を図る」。

<https://www.city.sapporo.jp/koreifukushi/ikigai/ikigai4.html>

一方で、『健康アプリ』の目的が、「健康寿命の延伸」(結果としての介護費用抑制)であることは、『厚委資料』からも明らかです。その対象も40歳以上。

2つの施策は、どちらも高齢者に関わるとはいえ、その目的は異なります。両者の目的を比較するなら老後の生活の充実が高齢者福祉の基本で、健康寿命延伸はそのための二次的な目的だと思います。また、『健康アプリ』の対象は高齢者だけではありません。2つの施策は別の施策で、事業費は合算して考えるべきではないと考えます。

一方で、市は、『敬老パス』と『健康アプリ』を一括して見ていることは明らか。その理由は次の5点です。

(1)『厚委資料』最終頁の「6」で、「敬老パス及び健康アプリの事業費に対する一人あたり負担額」を論じている。つまり、事業費を合算している。

(2)『厚生委』で、高齢保健福祉部長は次のように述べている。

「両事業ともに、高齢者施策として進めていかなければならない事業というふうに捉えております。ですので健康アプリと敬老パスを合算した事業費が市民にとって過度な負担とならないよう配慮する」

(3)75歳からは、両者の一方を選択させる。

(4)『厚委資料』の『健康寿命の延伸について』の中の「3 高齢期の健康増進に向けたイメージ」で

「(仮称)健康アプリで豊かな老後の生活の充実へ(ポイントは電子マネーに)」とある。

(5)『パブコメ資』の『1-4(仮称)健康アプリの取り組み』で、

「敬老パス制度と目指す方向は変わりません」

と明記している。

(2)については、理由を示さずに、どちらも高齢者施策として事業費を合算して考えていいのなら、高齢福祉課の予算は全部ひとまとめと考えてもいいことになります。

『敬老パス』と『健康アプリ』の関係については、北海道新聞9月20日の社説でも、次のように述べています。

「高齢者の外出支援策である敬老パスと、健康寿命を延ばす目的のアプリは全く別の施策であろう。パスの改廃とアプリ導入を抱き合わせたことに混乱の根本がある。」

『敬老パス』と『(仮称)健康アプリ』は別の施策として考えるべきです。

1. 『敬老パス』と『健康アプリ』は別の施策

1.2 報奨による活動促進の『健康アプリ』は福祉制度とは矛盾

そもそも『敬老パス』のような福祉制度と「報奨による活動促進」とは基本的に矛盾しません。

高齢者に限らず福祉制度は、その対象でありそれを必要としてい入るが、全員無理なく使えるべきで、利用しにくくはいけません。

一方で、「成功報酬(電子マネー)を与えることで、何か(健康増進活動)を促進する」制

度が効果をあげるためには、後で詳しくのべますが、目標がある程度高い必要があります。すると、必ず、目標を達成できない人が出ます。その人達は制度の恩恵を受けられません。

以上のことから、福祉制度である『敬老パス』改廃と、報奨による活動促進の『健康アプリ』導入を抱き合わせて考えるのは不適切と考えます。

2. 『(仮称)健康アプリ』の問題点

2.1 報奨による健康維持・増進活動の促進は可能か

ポイント制による健康維持・増進活動の「見える化」と多少のプレゼントによる動機づけには賛成です。問題は、65歳以上に対する高額な報奨(電子マネー)です。

そもそも、報奨によって健康維持・増進活動を促進し、さらに健康寿命の延伸が可能なのでしょうか。これ似た問題として、小遣いなどのご褒美で子供の勉強を促すことが考えられます。教育経済学者の中室牧子氏は、これに賛成とのことですが、意見が分かれます。健康寿命の延伸となると、いっそう事情は複雑です。

基本的な問題として、効果の検証があります。子供の学習の到達度は、テストの成績でかなり判りますが、健康寿命の延伸効果の検証は難しいようです。さらに、その報奨金が高額であれば、多くの事業費が必要となり、財政が厳しい中で、費用対効果が問題です。年齢も体調も異なる高齢者に同じ目標を設定するなら、それが各個人に対して適切か否かも疑問です。以下で個別に考えます。

2. 『(仮称)健康アプリ』の問題点

2.2 健康寿命の延伸効果の検証はかなり困難

『健康アプリ』のような施策の効果を検証するなら、目的の達成度を調べる必要があります。『厚委資料』にも、

「5年後を目途に、(仮称)健康アプリの効果や社会情勢、敬老パスと併せた事業費負担等を検証し、敬老パス制度について、必要に応じて所要の措置を講じる。」

とあります。

「健康アプリの効果」とは具体的に何を検証するのでしょうか。『健康アプリ』の目的として「健康寿命の延伸」が強調されています。同然、健康寿命の伸びでしょう。

目的が、「健康維持活動の支援と促進」のように具体的であるならば、活動状況を示す指標が考えられ、定量的な評価ができるように思います。しかし、健康寿命は基本的には『国民生活基礎調査(大規模調査は2019年、2022年、将来は2025年、2028年・・)』に基づいて発表されるもので、わかるのは3年ごと。それが、数値として多少伸びたとしても「有意に」伸びたのか、さらにそれが『健康アプリ』の利用によるものであるかを検証するのは相当困難と思われる。

厚生労働省のホームページでは、厚生労働科学研究費補助金を使った研究班が、「健康寿命は生存・死亡と健康・不健康の総合指標であるため、多種多様な要因が関連すると考えられます。各々の要因の関連の強さについて、現時点では十分なエビデンスが得られていません。そのため、健康寿命の高低や変化が見られたときに、原因の特定は容易なことではありません。」

と述べています。

(<http://toukei.umin.jp/kenkoujyumyou/syuyou/qa.pdf> の A5。)

やや古い文章ですが、現在も掲載されているので、厚労省の公式見解です。

「健康寿命の延伸」は、スローガンとしては素晴らしく、「寿命」という言葉から簡単に評価できそうに思えますが、そうではありません。多額の事業費を必要とする事業なので検証が必要というならば、スローガンとは別に、検証可能ないわば二次的な目標を提示すべきと、提案します。

また、出前講座でうかがったところ、『健康アプリ』の効果の検証方法はこれから専門家の意見もきいて検討とのこと。検証が素案にある以上、素案ではあってもその見直しはあるべきです。これから検証方法の検討でよろしいのでしょうか。

なお、他都市の健康アプリ類似制度およびその有効性については、『厚生委』での佐藤委員の質問に対して、高齢保健福祉部長が、広島市、横浜市、川崎市の例をあげています。しかし、素人が恐縮ですが、この例はどれも制度の効果を因果関係に基づいて示しているとは考えられません。

専門家の見解を知りたいところです。

たとえば、広島市の例。

「ポイント事業の参加者と非参加者各 3 万 5 千人を対象に調査したところ、参加者の年間医療費は非参加者に比べて平均 6 万 8 千円低かった。」(道新 2025/01/20 より)

とのことですが、参加したことにより医療費が低かったのか、元々健康状態がいい人が事業に参加し、かつ医療費が低かったのかは分かりません。因果関係を調べるためには介入調査が必要でしょう。

別の例ですが、『厚委資料』にある、「徒歩と死亡リスク」の図について「歩数を 1,000 歩増やすと、死亡リスクが 23%低下」との表現に疑問を持ち、早稲田大学の事務局経由で問い合わせたところ、著者の渡邊先生から、

『表現としては本来、因果関係を証明するものではありません。従って、「死亡リスクが下がる」ではなく「死亡リスクが負に関連する」という「関連」をあくまで見えています』

との文章を含む返答をもらっています。

さらにいうなら、健康寿命延伸効果検証が5年でできるのでしょうか。健康寿命延伸には長期の対応が必要であることを認めたから、アプリの対象を40歳からにしたのではありませんか？

もう一つ加えるなら、先程述べたように『厚委資料』には、

「5年後を目途に、(仮称)健康アプリの効果や社会情勢、敬老パスと併せた事業費負担等を検証し、敬老パス制度について、必要に応じて所要の措置を講じる。」

とあります。

『健康アプリ』について検証して『敬老パス制度』について所要の措置とは、理解できません。札幌市が、『敬老パス』の存続について「当面存続します」というように「当面」の文字を必ずつけていることと共に、5年後の廃止を意図していることを強くうかがわせます。

それはともかく、検証を行うなら、両者に対して行うべきで、措置の対象も両方である

べきです。目的が異なる制度ですし、検証は困難が予想されますけれど。

2.『(仮称)健康アプリ』の問題点

2.3高額報奨電子マネーは不適切

『健康アプリ』の目的として「健康寿命の延伸」が強調されています。他都市の同様の施策と比較して、その特徴は、次の3点でしょう。

(1)アプリの使用のみ

(2)報奨金が高額

報奨金について、『厚生委』で佐藤委員は、調べた限り札幌市のように上限がなく換金できるところはなかったと指摘しています。

(3)歩くことがメインだった当初の案と比べて、活動メニューが多彩

特に問題となるのは、(2)です。報奨金が高額であれば、当然、事業費も多額となります。したがって、その金額を適切に設定することは、極めて重要です。佐藤委員の指摘から、および出前講座で、札幌市ほど高額な報償があるケースがあるかとうかがったところお答えいただけなかったことから、札幌市の報奨金は飛び抜けて高額であると推測できます。

他の自治体における健康アプリ類似制度については、『厚生委』の質疑で、高齢保健福祉部長と佐藤委員は、対象年齢、ポイントの管理方法、特典(報奨)の付与方法など様々であると明らかにしています。市の出前講座でも、調整担当課長は、類似制度がある多くの市や町の名前を教えてくださいました。形態が様々であることは、報奨金だけでなく適切な制度設計に関する見解が定まっておらず、いわば手探り状態であると考えます。

『健康アプリ』による健康寿命延伸効果の検証はかなり困難であろうことは前節で述べました。次節で述べるように、適切な目標設定も難しい。また、敬老パスの制度変更も含むを新制度提案する理由の一つが、財政問題であるとのこと。

そんな中で、札幌市が多額の報奨を設定することには賛成できません。

2.『(仮称)健康アプリ』の問題点

2.4年齢も健康状態も違う市民に同じ活動目標

健康の維持・増進のために、活動を定量化し、目標を設定して、それを達成した場合に少しの特典がある程度なら、活動のインセンティブとして悪くないと思います。しかし、目標設定が難しい。

子供の勉強ならば、目標設定は学年に応じて行えばいい。しかし、そうせずに、たとえば小学校の1年生から6年生までに、4年生レベルの算数の課題を設定して、その達成度に応じて小遣いを与えるとしたら、上手くいくはずがありません。1年生にはできない目標ですし、6年生には勉強の動機づけにはなりません。

健康については、対象となる市民、特に高齢者の身体の状態は様々です。したがって、適切な目標は、個々に違います。

まず年齢。65歳の女性と90歳の男性では、そのお年なりに健康であっても適切な活動は違うでしょう。同じ年齢、たとえば80歳でも、要介護2の人と介護認定未満の人とは違います。全市民に同一かつ適切な目標を決めるのは、困難ではないでしょうか。

もっとも要介護2となると、健康寿命をすぎており、健康寿命延伸の対象外で『健康アプリ』の目的とは無縁とも思います。

近い将来には、市民一人一人の身体状況と過去の活動記録から、各人に応じた目標を個々に設定することは可能と予想します。しかし、現状では、全員に同じ目標を設定せざるを得ません。多額の事業費を必要とする高額な報奨金に疑問を感じる理由の一つです。

3. 新『敬老パス』についての疑問

3.1 適用年齢75歳からは不適切

架空の話です。「少子化対策として、育児を支援します。おむつを無料配布します。ただし、3歳以上に対して」としたら、変ですね。おむつ離れすることから補助なんて。

敬老パスの75歳から適用は、同じようなことです。2019年の札幌市の健康寿命は、女性でも74.69年。健康寿命の中央値が、平均値に近いとしたら、少なくとも半数近い人が健康寿命を過ぎてからの敬老パスです。

『厚委資料』にも、

「男女ともに75歳まで自立度が高いが、以降は加齢とともに・・・」

との記載があります。

敬老パスの目的は健康寿命の延伸ではありませんけれど、公共交通機関が使いにくくなってからの『敬老パス』は、適切なのでしょうか。健康状態の個人差が大きくなる75歳以上では、利用の偏りもさらに大きくなります。

なお、『厚生委』では、高齢保健福祉部長が次のように答えています。

「対象年齢、自己負担割合、チャージ上限額の見直しを一体的に実施することとしており、仮に対象年齢を引き上げないとした場合、やはり他の要素の見直しをさらに進めるというような関係性にあるものと考えております。」

新『敬老パス』には反対であり、仮の話ではありますが、自己負担割合とチャージ上限額の見直しをするならば、対象年齢を引き下げることが可能であることを示唆しています。少なくとも、そうすべきです。

3. 新『敬老パス』についての疑問

3.2 敬老パス開始と健康アプリ電子マネー化年齢の不一致は不適切

『敬老パス』の目的は

「外出を支援し、明るく豊かな老後の生活の充実を図る」

で適用年齢は75歳から。

『健康アプリ』は、64歳までは、

「健康アプリを用いて健康増進(ポイントはプレゼント抽選に)」

ですが、65歳以降は新たな目的が加わり、

「豊かな老後の生活の充実へ(ポイントは電子マネーに)」。

「豊かな老後の生活の充実」との目的に対して、65歳～74才までは健康アプリのみで、突然75歳から2制度うち的一方の選択制になることは理解できません。

『敬老パス』と『健康アプリ』は基本的に目的が違う制度なので、選択制ではなく、両方を平行して利用できるべきです。しかし、百歩譲って選択制を採るならば、「豊かな老後

の生活の充実」が目的に加わる健康アプリ電子マネー化と、「明るく豊かな老後の生活の充実を図る」敬老パスの目的はほぼ同じです。したがって、開始年齢は65歳、70歳などで一致させるべきです。少なくとも半数近い市民が健康寿命を越えていると思われる75歳からの適用は論外として。

邪推するなら、『敬老パス』の適用年齢を『健康アプリ』のポイント電子マネー化の10歳後にして一方の選択制にしておけば、『敬老パス』を選ぶ人は少なく、廃止に直結するとの思惑でしょうか。

3. 新『敬老パス』についての疑問

3.3 政令指定都市の中で『(新)敬老パス』は低レベル

札幌市以外の19政令指定都市の敬老パス類似制度を、ざっと調べて比較してみます。

ポイントは、「自己負担割合、適用年齢、限度額、フリーパスなどの有無」です。

札幌市が作製した『厚委資料』の実施状況の表は、負担率でまとめていますが、使用額の上限や適用年齢やフリーパス制度も含めて制度全体について示すべきです。

それらを考慮して、市が提案する新『敬老パス』と比べると、それよりも手厚い市は、少なくとも11市となると思います。以下、簡単にまとめます。

☆名古屋、横浜、仙台、熊本4市

は札幌市の「現在の敬老パス」より手厚いと札幌市も認めています。

当然、『(新)敬老パス』より遙かに手厚い。

☆大阪市1市

は現在の札幌市以上

(乗車1回につき50円 70歳～限度額は記載がない)

☆北九州市1市

は札幌の提案新制度よりは上(全市バス用定期が年24000円など 75歳～)

☆福岡市

は所得(介護保険料区分)により助成額が異なり、複雑。1市

助成額は最大で年12000円 70歳～

ただし、タクシーも利用可能

[以下は負担率50%と市が主張する6市です。]6市

☆堺市負担 49%以下限度額なし 65歳～

☆岡山市負担 50%限度額なし 65歳～

☆神戸市負担 50%限度額なし 70歳～

☆新潟市負担 50%限度額毎月8600円 65歳～

新潟に限度額はあるが、広い区間乗り放題定期も選択できる

(定期は65歳～69歳半年42,900円、70歳以上半年28,600円)

☆川崎市負担おおむね 50%限度額なし 70歳～

さらに

高齢者フリーパスもあり

(月1000円、通用期間中は何回でも路線バスに乗車)

☆京都市複雑。フリーパス証とバス(BUS)回数券の選択制で

メインはフリーパスのよう

適用年齢は 70 歳～から 75 歳～へ改悪中

フリーパスは乗り放題で所得により年額 0～45000 円

(所得金額 700 万円以上は利用不可)

バス回数券は負担 50%、限度額は年 10,000 円

負担額・限度額や適用年齢や定期・フリーパスの適用を総合的に考慮して「市が提案する新敬老パス」と比較すると、札幌市の『(新)敬老パス』のそれよりも手厚い市は、11～13市となると考えます。京都市と福岡市は微妙です。札幌市は20市中、12位～14位となるでしょう。

なお、市が高齢者の交通費補助制度がないという6市に中でも、浜松市には『シルバーワイドフリー定期券』が存在します。(6.2)節で述べますが、市の事業ではなく、浜松市の公共交通の大半を運営する遠州鉄道(株)の制度であるようです。

さらに、政令市ではありませんが、苫小牧市は1乗車 100 円(初乗り 200 円)で、道南バスに乗れるとのこと。限度額はなく、札幌市の『(新)敬老パス』より手厚いです。

3. 新『敬老パス』についての疑問

3.4『(新)敬老パス』で限度額4万円の理由には不同意

負担率の設定理由は、基本的には主観的にならざるを得ません。『厚委資料』では、「他都市の実施状況や子ども乗車料金を踏まえ、自己負担割合一律 50%」

と述べています。政令指定都市の中で6市が 50%だから(堺市は未満ですが)との理由づけも、賛成はできませんが、ありえます。

ところが、(3.3)節で述べたように、その6市では全て「限度額なし」または「フリーパスか定期を安価購入可能」です。つまり、「利用限度」がある市は6市中1つもありません。市の主張に都合の良いからといって負担率だけは6市が 50%であることを根拠として、利用限度については無視するのは、いかがなものでしょうか。

市は『厚委資料』で、

「また、利用者の多くが4万円以下の利用であるため、チャージ上限額を4万円に引き下げる。」

と、限度額4万円の理由を述べていますが、そんなことをいっている市は6市の中に一つもありません。他の市でもあるのでしょうか。

限度額を設定する理由は、ある一つの事業においても受益偏在は良くないことで高額利用者は市の迷惑であるとの考え方と、事業費の抑制でしょう。

前者については後の(6.1)節で述べますが、基本的には受益偏在はやむをえないことで、必要な人には補助をするのが、福祉のあり方と考えます。市民は、それぞれ生活パターンも置かれている状況も違います。郊外に住む人と、中心部に住む人とは外出の時の負担が違います。負担が大きい人には補助もそれなりなのが当然であると考えます。

事業費の適切な抑制は必要です。しかし、札幌市が負担率 50%の根拠とする6市で利用限度がないのは、事業費の抑制を限度額ではなく負担率で行う故の 50%なのかもしれません。

4. 現『敬老パス』について

4.1 現『敬老パス』は介護費用抑制にも役立つ良い制度の可能性

敬老パスの目的は老後の豊かな生活であって、健康寿命を直接の目的としてうたってはいません。しかし、積極的な外出が、健康寿命を延ばし、市の財政負担軽減に役立っている可能性は大いにあります。

たとえば、次の2人のうちどちらが市の財政にとって負担にならないでしょうか。

Aさん:フルに使って外出して、そのためか介護がいない状態を保って、その後、短期間の要介護状態を経て亡くなる。

Bさん:自分の車を使うのでパスは使わない。歩行することは少なく、そのためか、健康を損ねて、長～い要介護状態を経て亡くなる。

4. 現『敬老パス』について

4.2『(現)敬老パス』の負担率傾斜は良い制度

負担率について考えます。極端な例を想定します。「50%自己負担で上限4万円」と「自己負担なしで給付上限2万」。両者は一見同じようにみえますけれど、利用者にとっては限度額一杯に使うのでなければ後者が有利です。

たとえば、公共交通費を3万円利用する人は

50%上限4万の場合は「給付1.5万+自己負1.5万」

0%上限2万の場合、「給付2万+自己負担1万」

明らかに前者は自己負担が大きい。ある意味で公平性の点からは、後者が望ましいとも思います。

ただし、上の例で「給付2万+自己負担1万」の場合、その人が給付を超える100%自己負担1万円分を利用するかは、疑問ではあります。50%上限4万案は、交通機関の利用を促進する効果はありそうです。

それぞれの得失をみると、現在の札幌市の自己負担傾斜は、うまくできています。少額の部分は市の補助分が多いので、均一負担率よりも、少額利用者は優遇されます。高額部分の自己負担率を上げることで、同じ事業費でも限度額が上がり、公共交通機関利用の促進となります。

4. 現『敬老パス』について

4.3 タクシーとJRの利用の可能性

『厚委資料』では、タクシーとJRの利用への拡大はできないと説明しています。タクシーについて、福岡市にはタクシー助成券の制度があります。

https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/oldage-welfare/health/00/01/1-010207_5_3_2_2.html

札幌市でも、ICカードの使用だけにこだわらず、希望者はカードではなくタクシー助成券を選択できる制度とすれば可能です。

JRについて、交通費補助の趣旨からすると電子マネーとして使えるKitaca仕様にできないことは理解できます。定期券の割引購入など、全市民共通のカード(アプリ)使用ではない方法で、できないのでしょうか。

もしかしたら、活動に対する報奨との理由付けで交付すれば、電子マネーであってもい

いと理由付けができるのかも。そのための健康アプリの導入なのか、とも思います。

5. 財源問題など

5.1 財源問題をいうなら謝罪すべき

市は旧提案の理由は、事業費(予算)抑制ではないと明言していました。単に財源問題を語らなかつたのではありません。正直にいうのはいいのですけれど、前言を撤回して財源問題を前面に出すなら、一言謝罪すべきと思います。

5. 財源問題など

5.2 『敬老パス』は市の財政から見て維持できないのか

懇談会で市長は、「お願いをしなければ、この後制度が続いていかない」と述べましたが、その根拠が不明です。札幌市の財政状況は、それほど悪くないはず。南平岸会館での『さっぽろのおサイフ』を使った出前講座では、札幌市の財政の健全性を強調していました。

『厚委資料』では、財政力指数が示され、20 政令市中 17 位であることが強調されていますが、『さっぽろのおサイフ』によると、経常収支比率は7位、実質公債費比率は4位、将来負担比率7位、実質赤字比率も連結実質赤字比率も赤字なし、とのこと。厚生委員会で佐藤委員が指摘した通り、財政力指数だけを示して赤字を使って強調するのは意図的です。

一方、負担額・限度額や適用年齢や定期・フリーパスの利用可能であることを総合的に考慮すると、札幌市の『(新)敬老パス』は政令都市20市中、12位～14位。維持できないとは思えません。高齢者福祉を軽視しているのではないのでしょうか。

5. 財源問題など

5.3 支出項目同士ですべき評価に負担を持ち出して年代間分断

市の支出額の適切性を評価するためには、札幌市の支出全体の中で、金額と効果を他の事業費と比較すべきです。敬老パスだけ、一人あたりの負担とかいう根拠不明の数字を出します。「こんなに年寄りのためにお金を使っているよ」と、非高齢者に訴えて、年代間の分断を煽りたいのでしょうか。そんな市の姿勢には賛成できません。

「一人あたり負担額」は、2つの意味で、意図が感じられる数値です。一つは、個人の負担感を強調して、自分が払う税金が直接関係がない目的に使われていると思わせて、年代間の対立を煽ること。市民一人が個人で納入する市税から、この金額が使われているように聞こえますが、違います。個人の市民税には所得割がありますし、法人市民税もあります。

もう一つの意図は、他の事業費の同様な数値は示しておらず、相互の比較を困難にしていることです。

また、資料の一部では、市の支出額ではなく、利用者負担を加えた事業費を示しています。

5. 財源問題など

5.4 市の支出は少ないことが望ましいわけではない

『厚委資料』と『パブコメ資』を読むと、『敬老パス』(+『健康アプリ』)への市の支出は、過去から将来にわたる各年度の状況によらず一定、それも年度にかかわらず少ないこ

とが望ましいとの考えが基本にあるようです。それを言いたいがために、一人あたりの負担とやらを持ち出しています。それは正しいのでしょうか。

かつて、小学生が増えると予測できた時には、それに対応して小学教育の予算を増やしませんでしたか。少子化の現在は、その逆かもしれません。それと同じように、高齢者が増えるなら、そのための予算も増やすのが当然です。小学生は、将来、現在の成年の生活を支えるので大切だけれど、高齢者は負担になるだけだから切り捨てる、との考えでないことと願いたいです。

『厚委資料』には現在の敬老パスが続けば「利用者負担金を含む」事業費が65億円(2025年度)→80億円(2055年度)との予測があります。高齢者人口の増加を考慮すると、許容範囲であると考えます。

市当局は、市の負担が増加しているといいますが、絶対値ではなく割合でいうと、2023年度は市の財政の0.44%なのに対して、20年前は0.47%で、割合としては増えていないとのこと。

6. その他の視点

6.1 『敬老パス』の受益偏在は許されないのか

市当局は、『敬老パス』の利用者の中でも、一部の高額利用者が助成額の半分を使っていると、『厚委資料』で、否定的に書いています。

しかし、当然のことながら、市の各事業が、全ての市民に等しく利用されている訳ではありません。一人一人の市民は、置かれている状況もライフスタイルも様々です。必要な人に、適切な補助をするのが、福祉のあり方です。

たとえば、子供がいない市民は、子供・子育て支援費(市民一人あたり4万円)や学校整備費(市民一人あたり2万4千円)の恩恵は受けません。図書館や体育館を利用する市民は一部に限られています。『敬老パス』のケースは、その性質上、金額が「見える化」されているだけです。

受益偏在を否定するなら、新提案の『健康アプリ』電子マネー化分は、ポイント獲得に努力を要求することから、利用範囲が交通費補助から広がるとはいえ、現在の『敬老パス』以上に偏在が大きい可能性があります。お話をうかがった高齢者の中には、『敬老パス』は使っているけれど『健康アプリ』を使うつもりはないとおっしゃる方もいました。

とはいっても、できるだけ多くの市民に利用されることは望ましいことは確かです。しかし、市が偏在根拠として出している数値は意図的です。

『厚委資料』には「約1割の高額利用層(チャージ額5万円以上)が総助成額の約5割を占め」とありますが、約1割の分母は全対象者でしょう。0円チャージを除く1万円以上チャージ者の中の割合は、26.5%【 $=13/(13+3+4+11+18)$ 】。

さらに、少なくとも、偏りは

(対象へ助成額の合計／総助成額)ではなくて助成が普通より多い分
(対象への「助成額の平均を超える分の合計」／総助成額)

で評価すべきです。

6. その他の視点

6.2 交通機関への影響は本当はないのか

『敬老パス』の事業費のほとんどは、札幌市交通局を含む交通事業者を支払われます。パスが廃止された場合、補助だった分を利用者が負担するなら交通事業への影響はありません。しかし、それができない場合、高齢者の利用が減り、事業者の収入減となります。その意味で、敬老パスの事業は高齢者福祉だけではなく、交通事業への補助ともみなすことができます。市は『厚委資料』で、その可能性を認めています。

一方で、『厚委資料』では、高齢者交通費補助廃止の影響がなかった例として、浜松市の数値を紹介しています。

筆者は、昔、小学生の時代のほぼすべてを、現在浜松市となっている所に住んでいたの、馴染み感があります。実は、その浜松市には、現在も、高齢者割引制度が存在します。市内メインの公共交通機関である遠鉄バスと遠州鉄道全線に利用できる『シルバーワイドフリー定期券』があり、価格は6,500円/月。安くはありませんが、対応する一般用の定期は28,340円で約1/4の価格です。市の事業ではなく、グループでデパートなども運営している遠州鉄道(株)の事業と思われる。

<https://bus.entetsu.co.jp/ticket/pass/commuter/>

また、浜松市の自然条件や社会的な特徴は、人口が約79万人で札幌市の1/3強なのに対して公共交通機関利用者数が一桁少ないことからわかるように、札幌市とは違います。地下鉄はなく、鉄道(JR東海道線、遠州鉄道、天竜浜名湖鉄道)は市内交通機関としては主要ではないはず。また、『本田技研』、『スズキ自動車』、『ヤマハ発動機』(東隣の磐田市ですが)の発祥の地でもあり、昔はバイクに乗る人が多かった記憶があります。「遠州からっ風」はあるものの、温暖で積雪はありません。

浜松市における高齢者交通費補助の廃止の影響は、『厚委資料』にある上辺の数値の提示では評価できないと思います。地理的・社会的な特徴やフリー高齢者割引のフリー定期の存在を考慮して分析した上で、参考にすべきです。

なお、市が負担率50%として取り上げている6市の中で、岡山市と新潟市の高齢者向け運賃割引制度を説明するホームページには、公共交通維持に役立っていることを示唆する文があります。

○岡山市

「市内の路線バス・路面電車は、(中略)、非常に厳しい経営状況となっております。通勤・通学、買い物、通院等の日常生活における移動手段を維持していくためにも、お出かけの際は、公共交通利用にご協力をお願いいたします。」

○新潟市

「高齢の方のおでかけを支援することで公共交通の利用促進と健康寿命の延伸につなげるため」

『厚生委』では、佐藤委員が、2018年に行ったの札幌市の敬老パスアンケートの結果を紹介していました。

「5年前と比べて交通機関の利用頻度が増えた方18%前後。

80歳未満では35%。

利用が増えた理由は、敬老パスを利用するようになったための割合が63.3%。

90歳以上でも66.7%。

利用できる金額が下がった場合の利用頻度についての問いには「減ると思う」「どちらかという減る」と合わせて 55.8%。」

札幌市における敬老パス制度変更の交通機関への影響を予測する上では、これを参考にすべきでしょう。

6. その他の視点

6.3 市民と議論してその意見も取り入れて

市政は間接民主制で行われています。しかし、それは、直接市民の意見を聞いて取り入れる必要がないことを意味しません。

今回の『敬老パス』と『健康アプリ』の制度変更について、『敬老パス』はすぐに廃止はせずに、「当面」縮小して存続と変更したことは、市民の意見を入れたと評価できます。しかし、十分とはいえません。

各区で行われた前案の説明会は、時間制限があり質問は一人1件。ちなみに、筆者は豊平区の説明会で幸運にも指名されましたが、一人1件とのことで、用意した3件の質問のうち、1件しか発言できませんでした。調整担当課長は、発言を聞いてくれましたが、お答えは「ご意見として承る。」といったものでした。その発言のネット上の要約にしても、問題を十分に理解していない外注先の人がまとめたようで、意味不明確。一方で、共産党の『豊平区新聞』の記事は適切でしたから、発言自体は悪くはなかったかと。

チカホの説明会で、高齢保健福祉部長は会の終了直前に時間がないからとの理由で確か3人の発言希望者にジャンケンをさせて一名だけに発言を許したと思います。全員の意見を聞く手段はなかったのでしょうか。

説明会の他に、意見を募集したことは評価します。しかし、多くの意見投稿があったものの、公開するだけで、それに対する市の見解や反論はありません。『厚委資料』の<市民意見総括>も不十分。

「意見があるなら、ガス抜きとして聞くだけは聞きますよ。」という姿勢とも感じられません。

今回の案に対しても、同様です。大きく方針転換をしたのですから、もう一度説明会を開き、市民の意見を取り入れるべきと思いますが、各区での説明会はなし。『市長と語ろう！敬老パス』の開催は、それなりに評価しますが、内容は議論とはほど遠く、会は大炎上。

これに対して、市は、

「対話集会について「出席者が同じ顔ぶれなら開催する意味がない」(市幹部)」

(北海道新聞 2025/01/20)

とのことですが、議論が深まらないのは、市側が、一問一答形式でまともに答えず、議論に応じないからと考えます。確かに、市民の意見の多くは感情的なもので、議論には向かないことは認めます。

このパブリックコメントも、コメントをまとめるのは市の当局の方だと思います。市の当局と、一部かも知れませんが、市民の意見が大きく異なります。本当は独立した第三者委員会を組織して、コメントをまとめることが望ましい。また、その中からいくつかの代表的なコメントを選んで、そのまま公表して、市は文書で必ず答えるといった対応が望ま

しいと思います。

まとめ

このパブリックコメントは、そのまま公表されるわけではなく、公表されるのは概要だけとのこと。まとめるのは、おそらく高齢福祉課の方々。したがって、まとめはお任せすることとします。長文かつわかりにくい文章で恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

2019 年の 5 年も前のデータを提示するとは古すぎませんか？

このような古いデータしか提示できないところに、札幌市の秋元市政の市民の健康寿命の延伸の取組の真剣さに疑問を感じます。

秋元市政が、これまでどのような健康寿命の延伸の取組をしてきたのか、その成果はどのようなのかについての説明がありません。

そのようなこれまでの取組の総括なしに「健康アプリ」の案が突然出てくる理由は何ですか？

本当の理由は、健康寿命の延伸では無く、敬老パスの廃止が目的であり、その理由に健康寿命の延伸をこじつけているのではありませんか？

このような不誠実な健康寿命の延伸の取組の実施案の撤回を求めます。

札幌市は国と同様に高齢者人口を 65 歳以上の人口としている。

提示されたデータによると高齢者 1 人当たりの医療め介護などの高齢者予算額は、2013 年は 382,296 円である。

それが、2023 年には 410,448 円となり、2040 年には 523,731 円となる試算を提示している。

提示されている図表によると介護保険の支払いの増大がその要因であると思われる。

介護費用の支払いは、本人負担が 10%、その残額のうち国が 25%、道と市が 12.5%、残りの 50%が保険料からの負担となる。

札幌市の担当者の説明によると、一人当たりの負担額が年々増加する理由は、後期高齢者人口の割合が増えると、一人当たりの介護費用も増えることになるものと考えられるとのことであり、この一人当たり介護費用の増加は、やむをえないものであり、この費用負担については、国とともに公的問題として解決しなければならない課題である。

当然のことながら介護費用の負担の増大は、一人ひとりの健康問題でもあるが、一人ひとりの健康問題としてのみ解決策を考えるべき問題ではない。

札幌市の健康づくり施策案が、介護費用の負担を一人ひとりの健康問題として、自己責任で解決せよというのならば、話は別だが、公共が解決すべき課題を、「健康アプリ」の導入が必要な背景として記載することは、札幌市の公共性の放棄になりかねず適切ではない。

このような背景説明しかできない「健康アプリ」の導入の本当の狙いが、健康の増進で

はなく「敬老パス」の廃止でしかないことを逆に説明しているものと思われる。

このような不本意な説明しかできない「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」は撤回が必要です。

令和 8 年 4 月にリリース予定とあるが、そのような予定を決める前に市民の理解を得る手続きが必要ではありませんか？

そして、予定と言いながら、すでに本年度予算で、開発費を予算化し、入札を行い、約 7 億円もの予算を投入しているのは、民主的地方行政からの逸脱であり、強く抗議します。

残念ながら今日の秋元市政には、市民に説明はするが市民との話し合いはしないとの独善的姿勢がうかがえます。

「案」に「敬老パス制度とめざす方向は変わりません」と記述されていますが、「めざす方向は変わり」無いのであれば、何故ゆえに新規に公金を投入して新たに「健康アプリ」を導入しなければならないのか、まったくその説明がありません。このような「案」に大儀名分は無く、秋元市長の趣味嗜好を押し付けているものでしかないとさえ思われます。案の撤回を求めます。

「案」では、市民から寄せられた 5,000 件を超える様々な意見をわずか 6 件に集約して提示していますが、これでは市民から寄せられた意見がどのようなものであったのか、市民はさっぱり分かりません。

札幌市は、市民は札幌市に寄せられた市民意見がどのようなものであったのかを知る必要は無いし、市民に知らせる必要も無いと考えているのでしょうか？

「市民から寄せられた意見」との項目で記述のであれば、市民から寄せられた意見がどのようなものであったのかが分かるようにしっかりと記述してください。

そのような記述・説明もなく「誰もが安心して利用できる仕組みを検討しました」と言われても、何がどう検討され、どのような結論になったのか全く不明です。記述を作り直してください。

本項によると、交通費の敬老優待制度が 1975 年(昭和 50 年)から始まったとある。同時期は、1971 年の地下鉄南北線が真駒内～北 24 間での開業に始まり、1976 年には東西線が琴似～白石間に開業し、そして、1978 年の南北線の北 24 条～麻生間に、1982 年東西線の白石～新さっぽろ間が完成する時期である。

札幌市の課題として、地下鉄の営業を安定的に維持していくのか、需要の安定的確保が求められていた時期であり、交通費の敬老優待制度もその一つとして考案されたとの話を聞いたことが有る。

当時は、65 歳以上の人に『敬老手帳』が交付され、『敬老手帳』を見せると交通費は無料であったと聞く。運行を始めたばかりの市営地下鉄にとって、札幌市の高齢者福祉制度として交通費の助成が行われることは、交通局行政としても安定的な事業運営に大きな役割を果たすものであった。この構図は現在も変わっておらず、老人への交通費助成制度は、札幌の公共交通の経営にとって大きな貢献をしている。

もし、この高齢者に対する交通費助成制度が無くなるならば、札幌市の公共交通事業は大変な危機を迎えることになる考えられる。

従って、現行の「敬老パス」は札幌市の公共交通の維持にとっても必要なものであり、見直しや廃止ではなく、維持・拡充することを求めます。

「案」に示されている敬老パス制度の一人当たり負担額について、現役世代の一人当たり負担額と誤解してとらえているひとがいます。(札幌市の高齢者福祉課の職員の中にさえそのように言う人がいて驚きました)

それは、秋元市長などが敬老パスの負担について、世代間の対立を煽っているからだと思います。そして、その世論誘導の一環として新聞も「給付クレクレ世代」とか、「シルバー民主主義」などとの造語を使い、いかにも札幌市の敬老パスを巡って世代間の対立があるかのように伝えているからだと思います。

敬老パス制度の一人当たり負担額の推移を語るのであれば、札幌市の税金の一人当たり負担額の推移も併せて提示されなければなりません。

事からの本質は、札幌市が税金をどのように使うかの問題であり、市民自治の基本として、札幌市民がそのことを決めていかなければならないからです。

このような一面的で偏った情報の提供だけで市民に意見を問うのは、民主的ではありません。

民主的行政運営の基本は、情報の公開と市民の参加です。当然のことながら、市長は行おうとしている施策について、公費を使ってそれを宣伝し、その施策の可否を市民に聞くことは必要ですが、同様に、その施策に反対する意見も行政の責任として、市民に情報提供されなければなりません。

札幌市では、そのことが行われていないように思われます。このような民主的手続きが不十分な「案」の撤回を求めます。

「敬老パスは当面存続します」という曖昧な表現で、市長は逃げようとしているように思われます。

しっかりと、「敬老パスは存続させます」と言ってください。

現行の敬老パスが、老人の健康維持に寄与し、公共交通の維持にも役立っていることは明らかです。その制度を変更しなければならない理由は見当たりません。現行制度の存続を求めます。

本項「案」の締めくくりとして「制度を利用する世代と制度を支える世代、双方の理解とご協力をお願いします」と記載して終わっています。何ともイヤらしい提案の締めくくりだと思わずにはいられません。

これが、秋元市政の文化の有様かと思うと何ともやりきれない思いです。

「制度を利用する世代」と「制度を支える世代」に分断を煽っておいて、素知らぬ顔をして「双方の理解とご協力をお願いします」などどよくも言えたものだと思います。

「制度を利用する世代」と「制度を支える世代」とにいかにも世代間の分断があるかのように、表現しているのが秋元市長自らではありませんか。

「制度を利用する世代」として現行の 70 歳以上から 75 歳以上に変更し、それを支える世代として「20 歳から 75 歳までの支える世代があります」とでも言うのでしょうか。事実は違います。75 歳以上の「制度を利用する世代」も「制度を支えている世代」に含まれます。

問題の本質は、札幌市が税金をどのように使うかの問題であり、全体の使い道(按分)を明示しないままのこのような提案は提案にもあたりません。撤回して考え直すべきです。

(仮称)健康アプリの取組のためには、対象者となる人々のデータが必要であり、そのデータ作成のために、札幌市が既に得ている個人情報の目的外使用として対象者データを集積させなければなりません。これは違法な行政による個人情報の収集に当たる危険性がありますので、この業務は中止してください。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

自己負担率が少なすぎると思います。

少子化も拍車がかかり、将来の財政に不安があるのに、よく使う一部の人にだけの恩恵は不公平だと思います。

私は、生まれてからずっと札幌に住んでいますが、「駒岡保養所」や「手稲プール」を一度も利用したことがありません。あの時も、巨額な財政を投じる施策が、声の大きい一部の人意見で通るんだなと思いました。

敬老パスは、「サピカ」を利用して、ポイント還元率を例えば20%とかにするなどどうでしょう。

一般の人たちも、ポイント還元率を減らされたのですから。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

手稲区

提出方法

WEB

日々適切な業務の推進に努力されている事に感謝致します。

令和 8 年度から実施する敬老パス制度の見直しに関する意見です。

今後も高齢者の著しい増加が進行する事から、敬老パス制度を維持していく為には対象者への補助額の見直しを行うのは当然の事です。

今回の見直し内容について賛成するものですが、むしろ住民税の非課税者など所得に応じての対象化や、制度の廃止もやむを得ないと思っています。

限られた財源の中で将来に向け市としては少子化対策こそ重視すべきと考えます。

私は既得権に拘り当初の見直し案に反対している一部の高齢者側こそ問題と思っています。

意見の内容

年代

19 歳以下

居住区

東区

提出方法

WEB

現在の敬老パスの意義はあります。市の資料でさえ、「高齢者を敬愛するとともに、外出を支援し、明るく豊かな老後の生活を図ること」としています。今後高齢者が増え、単身者、高齢者夫妻が増えます。さらに制度を充実する必要があると思います。

そもそも、当面存続しますとありますが、廃止を検討しているということですか？絶対やめてください。存続してください。

その上で、

見直し 1 対象年齢の引き下げないでください。

見直し 2 自己負担割合は引き下げないでください。

市が敬老パスの意義あると考えているのに、見直し(改悪)する理由が明確ではないと思います。高齢者を敬愛するとともに、外出を支援し、明るく豊かな老後の生活を図ることをやめるということでしょうか。

見直しした後の影響についてどのような対策をとるのでしょうか。

もし、市の財政上の理由なら、札幌市財政のあり方全体について議論が必要ではないでしょうか。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

そもそも、この制度を改悪するのは「高齢者のために使う税金が多くなる」ということだと思います。

しかし税金の使い道を正すのでしたら、行政の別の政策(札幌ドーム、オリンピック誘致費用など)の失敗をまず正すのが先だと考えます。それらを顧みず、「高齢者対若者」という市民の間の対立に問題をすりかえて、この局面を乗り切ろうとしているのはあまりにも小作な手段ではないでしょうか。

私たち市民は愚策によって対立させられたくはありません。よろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

『健康寿命と敬老パス冷遇の関係について』

札幌市が財政状況と高齢人口の増加に鑑み、高齢者への交通費優遇措置を減らして支出を抑制したい、できればやめたい事情は理解できる。

しかし、一方で、札幌市は 2014 年から、2030 年の冬季オリンピック、パラリンピックの招致活動を行ってきた。結局、招致を断念し、活動は中断されたが、招致活動だけでもだが、もし実施されていたら莫大な支出が必須だった大事業。「お金がない」というのは高齢者福祉削減の言い訳にしか聞こえない。

また、敬老パスの助成額削減理由の説明で、若者・現役世代と高齢者との世代間対立をおおってしまっている。現役世代も経済的困難を抱える人は多く、「自分たちは苦しい状況のままなのに、なんで働いてもいない高齢者が優遇されるのだ」という恨みや憎しみを募らせている。実際、そうした声は、公聴会で出た。自治体がそんなことをしているのだろうか？

これは、生活保護バッシングにも通じる危険な情動である。

そもそも、現行の敬老パスは、高齢者への交通費助成制度である。それを、「健康敬老パス」へと転換するのは、それ自体は誰も反対しない高齢者の健康推進と、敬老パスの助成額削減を組み合わせたもので、欺瞞的であり、非常に不愉快である。

その健康推進策として打ち出したのが、40 歳以上の札幌市民が使えるスマホの健康アプリ。65 歳以上で敬老パスの交付を受けていない人は(ということは、敬老パスか、健康アプリかを選択させるわけね?)、日々の活動での効果を「見える化」し、活動で貯めたポイントを電子マネーに交換、タクシーを含む公共交通機関のほか、買い物にも使えるようにするとのことだが、40～50 代はともかく、70 代以上ではスマホを持っていないか、持っていて電話しか使っておらず、アプリって何?という人は少なくない。現在、買い物をするたびにアプリでポイントを貯めるサービスは非常に多いが、カードの提示ではなく、アプリを介さなければ使えないのはまず面倒。複雑で、鬱陶しい。

また、最低3万円はするスマホを買って、アプリの使い方を学んで……となると、「じゃあ、サービスいらんわ」となるのではないか。善意であっても、絵に描いた餅になってしまう可能性がある。

そして、健康アプリで、どんな行為がポイントとしてカウントされるのか?自身や犬の散歩はカウントされるだろうが、映画館や美術館、コンサートに行くことは?すすきのに飲みに行くことはどう?何が健康増進になるかは、恣意的なものになるのではないか。

大企業勤務や公務員だった人は年金も多いが、自営業の場合は、月に4～5万しかない人も多い。持ち家があっても(この額で家賃を払っては生きていけない)生存すれすれ、最低限の生活だ。そこに、この物価高。生きていくために 70、80 歳になっても老体に鞭打って働いている人は驚くほどいるが、労災事故でケガをしたり死んだりする老人の割合は大きい。

そもそも、健康格差と学歴、経済力は一定の関係があることがわかっている。

<https://www.kyowakirin.co.jp/stories/20230529-05/index.html>

高齢になった時の格差は、人生の総決算と言うべきもので、健康寿命を延ばしましょう、そのために歩き、外出し、人と会いましょう、と言うなら、その前に生活を安定させる策を打つべきなのだ。それは無理だとしても、高齢者は公共の体育館を安く使えるが、経済格差を運動格差にさせないために、さらに、民間のスポーツ施設も安く使えるなどしてほしい。

が、それは支出が増えるから難しい……と堂々巡りになってしまう。

《高齢者の医療・福祉への支出を抑えよう》論議は、高い健康保険料等を払っている現役世代は「そうだ、そうだ」となりがちだ。よくわかる。

でも、就職氷河期に社会に出た今の 40～50 代の一部は、あと 10 年もすると、困窮高齢者の大群となるかもしれない。低収入でも、元気に楽しく生きられる社会を目指すべきだ。

札幌市は、長谷川岳参議院議員のパワハラのため、職員の過剰な出張を繰り返し、4年間で1795万円を使った。高齢者いじめは、まず、こうした無駄をなくしてからにしてほしい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

WEB

本気で健康寿命延伸を図ろうとするなら、敬老パス制度とは別問題として検討すべきです。

健康寿命延伸の取り組みに参加できない(身体的な理由やさまざまな要因で)人々から敬老パス制度を剥奪するに等しい提案は決して許されるものではありません。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

札幌市長の最近の発言で、「敬老パスが現状のままでは持続可能ではない」というのがありました。「持続可能ではない」と言うのは、財源が不足するという意味だろうと考えますが、敬老パスは「高齢福祉」が目的ですから持続可能でないのは当たり前であり、また人口動態を考えれば(少子高齢化)、制度発足当初から、いずれ持続可能でなくなるということは十分予測できたことであり、いまさら何を言っているのかと思います。とは言え、敬老パスは継続施策であり、現市長にすべての責任を負わせるというのは酷であることから、少なくとも次の点だけは遵守されるようお願いします。

・世代間対立を煽るような言動は、誠に慎んでいただきたい。「子供は半額払っている。」などの発言は世代間の溝を拡げるだけ。異議を唱える権利は民主社会の基礎の一つです。

・趣旨・目的が全く異なる「健康寿命延伸」と「敬老パス」を組み合わせることはやめていただきたい。制度がわかりにくくなっている要因にもなっています。

提案:敬老パスは、基本的には現行どおり。ただし、

①利用者の負担割合を引き上げるのは可。ただし、一律ではなく、所得階層別に割合に差をつける(負担割合は最大50%)。

②利用限度額は現行のとおり、年間7万円。

以上、よろしくご検討くださるようお願いします。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

南区

提出方法

WEB

1. 札幌市の「敬老パス」と「健康寿命延伸策」についての行政施策は、マスメディアをはじめ誰の目からみても失策の連続中です。当初からの前者の一方的な改変の強行姿勢と、後者の本年度の予算措置(億単位の制度設計)の先行の推進は、地方行政の在り方からみてひんしゆくを買っています。これではこの時代ますます複合化する行政課題において「市民との対話や合意形成」を重視しなければならない市政が信用されなくなります。ひいては誕生当初は期待された秋元市政の評価の低落は避けられません。当該課題担当の、副市長や部門の管理職の劣化は目をおおうばかりです。

2. 具体的にいいます。本件については本来は札幌市の「予算編成」「高齢者の福祉施策」の問題です。その本質的な政策姿勢を横に置いて札幌市は「世代間の対立や競合」「シルバー民主主義」などと揶揄する姿勢を前面に打ち出しています。(自己負担と後継世代が支える)高齢者の年金制度とはまったく別の性格であるものを算術的計算の関係で論議させようとしている。まったく恥ずかしいことです。

3. このような論議の状態にあることは「札幌市」「札幌市議会」の場での論議も同様です。なぜでしょうか？答えを真剣に考えてみました。結論は秋元市政・市議会が基本において「オール与党体制」だからです。両者のいい意味での革新がなければ、地域民主主義を問う次の選挙では必ずやしっぺ返しを受けるでしょう。

4. 私は「敬老パス」の財政的課題は一定程度を理解いたします。私は「割引率の低減(自己負担のアップ)」「対象者の年齢引き上げ」などについては検討してもいいと考えています。

しかし、高齢者の実態を考えてみてください。平均的な高齢者は「暇をもてあまし、資産を貯め込んで、敬老パスを凡庸なショッピングと軽薄な娯楽や交遊に使っている」ではありません。「医療、家族・親族・良き人間関係者への養護・介護や支援・日常生活物資の買い物・社会貢献としてのボランティア活動」などなどにあります。どうか社会的想像力と調査研究を重ねてください。

5. 「健康寿命延伸策」は検討に値する重要テーマです。しかしそれと「敬老パス問題」と直結させることは止めてください。今回のパブリックコメントの表題自身がその理解が欠如していることを証明しております。

良識あるマスメディアや研究者、そしてよく考える市民を馬鹿にしないでください。

以上

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

*「敬老パス」と「健康アプリ」は対象も目的も方法も異なる施策なので、検討は別々に行うべきと考えます。

*現在の市の実施案では、別々の制度を同時に提案して、市民を混乱させています。両制度の内容を詳しく説明しないまま、「敬老パス制度と目ざす方向はかわらない」からと「健康アプリ」へ誘導し、ゆくゆくは敬老パスを廃止していきたいという意図しか感じられません。「健康アプリ」は敬老パスを補完できる制度ではないと思います。

*敬老パス制度は存続させるべきです。

①対象年齢は現状の 70 歳からに

資料では、健康寿命は 72.08 歳、女性 74.69 歳となっています。

75 歳からパスをもらっても、どれだけの人たちが健康的な日常生活を送りパスを活用できるのでしょうか。高齢者福祉を考えれば、75 歳からでは遅すぎます。利用を抑制しようとしているとしか考えられません。

②自己負担は一定引き上げもやむを得ないと考えます。負担率は最大 50%で、限度額制限なしとしてください

*現在敬老パスを利用できていないであろう歩行困難な方や介助が必要な方も利用できるよう、タクシーへの利用拡大

*JR への利用拡大

*制度を決定する前に、きめ細かな説明会(多くの開催場所、質問に答えてもらえる時間設定など)の開催を求めます

*現役世代と高齢者との世代を対立させるような発言が多くみられます。市民が協力して考えられるよう配慮してください

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

2-4 敬老パス制度現行のまま続けてください。

2-5 経過措置経過措置を講じず、現行のまま存続してください。

2-6 市民負担市民負担を問題視し、制度切り下げの理由にするのは間違っています。市民への支援施策は、市財政のやりくりで、優先的に予算をつぎ込んでください。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

WEB

札幌市はこれまでこうした取り組みをしてきたのでしょうか。少なくとも私や私の周囲の人たちでこういう取り組みがあったと認識している人は皆無です。

高齢者人口が増えていく中で、このまま敬老パス制度を続けていくのは難しいから、形を変えて歳出を抑えたいというのが本当のところだと思います。

むしろ議論すべきは、それを明確にして負担割合を検討することではありませんか。

今回に限らず、こういうアプリの開発を委託してそれに要する費用は明らかにされてきていません。これまで健康の維持増進のための施策を実施してもいないのに、多額の委託費をかけて敬老パスの切り下げを目論むやり方は論外です。

- ・敬老パスを存続する前提で、利用者負担のあり方を論議する場を持つこと。
- ・健康アプリの開発委託の費用を明らかにすること。

上記2点を要望します。

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

○パブリックコメント全体について

・「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」と「敬老パスの見直し」は各自独立した案件であると思うので、分けるべきだと思う。

1-4(仮称)健康アプリの取組について

不幸にも 30 代で体を動かしたり、運動することが困難になってしまった場合、その市民は健康アプリの恩恵を得られないように思える。

また、健康アプリにより、事業に参加した際のポイントとして電子マネーを付加するのは、若くして不幸にも運動などの健康づくり活動に参加できなくなってしまった人との不平等が発生するのではないか。

健康アプリによるポイント付加や抽選は、現金などの給付と同様と考える。市税が投入される事業として、万が一、健康寿命延長に効果が見込めない可能性がある場合の計画見直しはいつ行うか。

2-4 敬老パス制度は当面存続しますについて

敬老パス利用者負担率 50%案について一定程度理解する。しかし、中学生、高校生が大人運賃と同額を支払っている以上、一定額の上限はあるが高齢者の運賃が小学生以下の利用者の運賃と同額というのは公平だとは思えない。なので、敬老パスについては廃止が望ましいと考える。

また、敬老パス維持を望む高齢者に対する代替案として、公平という観点から、令和 6 年度分の 54 億円の事業費を各公共交通事業者に配分し、運賃を値下げすることのほうが市民生活に対し効果的だと考える。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

WEB

今回の突如としてだされた『敬老パス制度』見直しについての札幌市の説明は、財政的に問題があり、高齢者にばかり市の予算を振り向けるわけにはいかないということのようだ、仮に財政的に問題があったとしてもなぜ50年以上も続いてきた経済的に苦しい高齢者への援助をカットすることになるのか。札幌市の説明では、制度を支える世代の負担を持ち出し、高齢者世代と若い世代の対立を描き出しているようであるが、この制度がつくられたころの当時の札幌市政のこの制度に対する考え方について多少なりとも調査したのだろうかという疑念を抱かざるを得ない。私の父はもう十数年前に他界したが、この制度ができたとき、とてもよい制度だと言い敬老パスを使っていたのを覚えている。単純に老人を大切にするという敬老精神を考えるなら、50年前と財政状態が違ってきたからこの制度は今までのようには続けられないということになるのだろうか。削りやすいところから削り帳じりを合わせるといふ安易な発想になってはいないか。等々、制度発足当時の札幌市としての考え方にまでさかのぼり再検討の必要があるのではないかと考える。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

西区

提出方法

WEB

1回目の購入は 2,500 円くらいで抑えてほしい、2回目からは 5,000 円もやむなし
と思います

年に1万から2万円程度は使用しているが今日のようにつるつる道路になると、転んで
けがをしたのでは損なので歩くのはやめてバスでと考える日もある

意見の内容

年代

30～39 歳

居住区

北区

提出方法

WEB

健康アプリの取組によって、負担額を軽減する点は強く推すべきであり、その点は後期高齢者と労働人口にあたる方々の双方が理解・納得しなければならないと私は考えます。

制度発足から現在までで、後期高齢者を 6 倍程度の労働人口で支えなければならないというデータが存在する以上、後期高齢者に負担をお願いするのは仕方のないことだと私は思います。

しかしながら、世論による免許返納などの時代の流れがあるのも事実であることから、正論をそのまま後期高齢者の方々に受け入れていただくことも、難しいことと推察いたします。

後期高齢者の方々の多くは「アプリ」という言葉に抵抗を感じていらっしゃるかとお見受けします。そこで「アプリ」ではなく「カード」とし、その機能を「敬老パス」に付加するということをご検討してはいかがでしょうか？

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

WEB

現在の敬老パスの存続をお願いします。

現在の敬老パスは高齢者の外出を支援することによって健康寿命の延伸に大変役立っています。対象年齢や負担率、上限額の見直しは逆効果になります。

札幌市が同じ札幌市民である高齢者と若い人(現役世代)との対立をあおるようなやり方はやめてください。

札幌市の今回の取組みの説得力の無さを表していると思います。

意見の内容

年代

不明

居住区

豊平区

提出方法

メール

敬老パス制度と健康アプリ事業を一緒にすることは理解出来ません。

敬老パスは高齢者のための敬老の意味を持つ制度です。しっかり守って欲しいです。

開始年齢が 75 歳からというのは遅すぎます。年齢が上がると使えない人が多くなります。

70 才から買い物やボランティアなど敬老パスを使って街は賑やかになり潤うのだと思います。敬老パスは高齢者のためにも文化的生活を送ることに大いに役立っています。

最近の物価高、見直し案に寂しい思いで一杯です。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

メール

「敬老パス制度」:改悪に絶対反対

①改悪の意味:全く不明

○そもそも改悪の発端である「健康寿命延伸」とは？

・健康アプリとは一体何？

・歩いた数でポイント

・スマホで事業参加

・貯めたポイント:電子マネーや抽選

○これが出来る高齢者は、一体何人居る？

○「目指す方向は変わりません」:嘘の極み!

②予算の意味

○財源:札幌市予算の一体何パーセント？

・五輪誘致に使った金は幾らだったのでしょか？全く説明なし。

・大企業や経済界の言いなりの都心部再開発には、いくら使っているのでしょうか？これこそ無駄遣いでは。

③この改悪案の中味

○高齢者へのいじめ？

・現行制度で多くの高齢者が救われている:通院・外出等

→経済効果をどう考える？市の税制効果が大きいのでは？

・外出することで何より、健康は向上

・改悪によれば:閉じこもりにより、逆に不健康になるのでは。

○世代間対立:若手層の不満を煽り、不毛な対立を生じさせる要因となる。

④現状のシステム:

○「一定の見直し」とは？

・内容が不明で理解出来ない。現行で十分!!

以上より、敬老パス制度の改悪には、絶対反対です。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

中央区

提出方法

メール

1 健康寿命延伸事業に敬老パス制度を含めること

敬老パス制度は健康寿命延伸とは全く別の高齢者福祉の事業です。2005 年の自己負担制の導入以降も予算決算で「敬老優待乗車証交付費」として掲げられています。パブリックコメントでは、「健康アプリの取組」と並べて健康事業に移行するような表現に変わってきています。両者は全く別物ですので、一緒に議論することは、問題を混乱させるだけです。健康アプリの取組は高齢者が望んだ制度ではありませんので、同列の議論はすべきでないと思います。令和 6 年度予算(高齢者健康寿命延伸費)で 726 百万円もの巨額の金額を投入してシステム開発を行いながら、敬老パス事業費は高すぎると論じる議論は容認できません。2つの取組のきちんと分けて市民に説明すべきです。

2 敬老パス制度の 1 人あたり負担について

パンフレットの 2-3 に、1 人あたりの負担額が 1.5 倍から 2 倍になることを強調して予算的に耐えられないとの記述があります。秋元市長も同じ根拠で予算的に破綻するとの記者会見をしています。負担額推移のグラフは今から 35 年後の超長期のトレンドで誰も想像出来ないことを平気で描いています。現実的には 5 年程度のトレンドデータとすべきです。また、20 歳以上の市民の人口で想定予算を割って 1 人あたりの負担額を出していますが、その数字約 2,000 円の意味が分かりません。高いのか安いのか判断できないのです。団塊世代に続くまだ若い高齢者は増えていますので、全体事業費は漸増していくのは事実です。20 歳以上の人口で割っても人口動態自体が動いており、不安定な指標になってしまいます。1 人あたりではなく、敬老パス事業の全体事業費を指標とすべきです。平成 30 年度決算では、4,845 百万円、令和元年度決算 4,893 百万円であり、令和 5 年度決算 5,237 百万円でした。令和 6 年度予算は 6,553 百万円で、増えてはいますが十分に持続可能であり、財政的に危機があるような状況ではないと思います。健康アプリの 726 百万円を充当すれば、十分に余裕があります。人口が多い団塊世代 70 代の外出活動がまだ活発な時期であることを考慮すれば、敬老パス制度は良く機能した良好な事業だと思います。団塊世代が 80 代になって、外出活動が少なくなってくれば、予算も縮小してくると思います。それまで、制度維持に努力して高齢者福祉を維持すべきと考えます。

3 「敬老パス制度は一定の見直しを行ったうえで当面存続すること」の表現

パブリックコメント実施案の表紙に当面存続する旨の表現があります。きわめて重大な

事項を勝手に当面存続などと目立たないように記述してあります。きちんと事業の今後の考え方を市民に説明すべきです。1兆円を超える札幌市予算のなかで、敬老パス事業費は十分賄えるなかで、将来の廃止の布石を打つ理由を考えると、予算の制約ではなく、全国的な傾向として敬老パス制度を廃止する大きな流れを意識してこのような表現をしたのかなと想像しています。他都市に引きずられて政策を改変するのは、行政として望ましくありません。制度導入時は似たような市町村を参考にして制度を開始し、維持してきたはずで、敬老乗車システムを開始して50年になり、高齢者が期待する最大事業として続いてきました。負担の見直しはあっても、制度は堅持すべきです。それが市民の願望です。

一部に若い世代の意見を聞くべきであるとの指摘もあります。それ自体は否定しませんが、自分たちの世代は敬老パスの恩恵を受けられないから、高齢者は優遇されているというような意見が見受けられます。自分たちの世代が制度の対象外と決めつけて高齢世代を非難するような表現はすべきでないと思います。世代間の対立を看過するのは行政の責任を果たしていないと思います。世代間の格差はどうしても発生します。団塊世代には子育て支援がありませんでした。2038年の新幹線開通の恩恵も受けられないと思います。それでも施策には賛成しています。自分の世代の利益のみを強調するのではなく、制度の目的や費用などを総合的に判断すべきだと思います。「当面存続」などと玉虫色の表現ではなく、制度存続の判断をきちんと定めて市民の意見を聞くべきです。

4 2-4 敬老パス事業は当面存続します

見直し1で対象年齢を70歳から75歳に引き上げる旨書かれています。制度存続が十分に可能と判断できますので、対象年齢の引き上げに反対します。今の60歳代後半の高齢者候補の方々は、敬老パスの交付を待ち望んでいます。それを5年も先送りされると失望感が極めて大きいと推測されます。制度の維持は可能ですので、対象年齢の引き上げはすべきでないと思います。現行制度は、公費負担額の多寡に応じて段階的に負担割合を変えているよく考えられたシステムになっています。しかし、7万円の上限は多すぎると思いますので4万円まで上限を下げるのには賛成です。制度維持のために、受益者の負担割合を50%に引き上げるのは止むを得ないと思います。ただし、見直し1での事業費削減額の公表、見直し2の上限引き下げと、負担率の改定により削減される事業費金額を公表して市民に説明すべきです。金額が明らかになつてはじめて見直し内容が是認されると思います。

5 制度維持経費削減のための2つの提案

70歳を超えて会社等に勤務する高齢者が多くなってきています。会社等では、勤務に必要な通勤手当を支給しているところが多いと思います。しかし、敬老パスをもらいながら通勤手当を支給されるのは、通勤費の2重支給になっていると思います。70歳以上の方に通勤手当を支給している事業所に対して、該当する通勤手当の金額を札幌市の高齢者会計に戻入するか、寄付してもらうような制度を考えるべきです。制度設計は難しいかも知れませんが、実態を調査してから対策を検討すべきだと考えます。

また、70歳以上の市民全員に敬老パスを支給していますが、歩行困難や施設入所中

などの理由で敬老パスを使えない方も多いと思います。自主的に敬老パス支給を返上できるように説明するべきです。協力してくれる高齢者も多いと思います。制度の費用削減のために協力をお願いした方が良いでしょう。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

手稲区

提出方法

メール

1-4(仮称)健康アプリの取組(令和8年4月リリース予定)に関する意見

健康アプリの導入に賛成です。スマートフォンを使っていない方には、電源操作のみのウェアラブルデバイスを配布し、公共施設に設置した端末で歩数などを確認できるようにすれば、その確認自体が「健康管理」「歩くこと」「人と会うこと」に繋がると思います。一人暮らしの高齢者にとっては、外出先で確認することで周囲のサポートを受けやすくなり、安心感が得られると感じます。また、ウェアラブルデバイスを外部資金で調達できれば、予算削減だけでなく多くの方に協力を得られるため、この取り組みはさらに広がり、充実すると思います。IT技術の進化が急速であるため、次世代技術へのスムーズな移行を考慮すると、健康アプリはシンプルなもので十分ですし時間とコストの節約にもなります。

「歩くこと」について、高齢者は冬道での転倒リスクが特に高く、駅やスーパーなど既にロードヒーティングが導入されている場所で、日々の買い物と併せて散歩をするなどの工夫が必要だと思います。さらに、これらのロードヒーティングが導入されている場所をマップ化すれば、特に高齢者や旅行者にとって便利だと思います。ただし、環境への影響を考慮すると、今後はよりエネルギー効率の良い、環境に優しい代替技術の導入を進めることが重要だと感じます。

補足

高齢になると、必要な情報に気づきづらくなるため、実際に便利なシステムや支援があっても、それに関する情報が届かないことがあります。その結果、札幌市の支援が少ないと感じる方がいるかもしれません。こうした情報を市民に効果的に伝えることができれば、新しい取り組みにも協力的になれるのではないかと思います。さらに、日常の工夫を活かした新しい活用法について情報が提供されれば、従来の仕組みを無駄にせず活用し、コストを抑えながら体を動かす方法を見つけることができると思います。私自身も情報収集が苦手で、最近になってパブリックコメントという制度を知りました。パブリックコメントに意見を寄せている方々は、情報収集が得意な方が多いと感じています。私のような市民が少なくなれば嬉しいです。

2-5 経過措置を実施しますに関する意見

経過措置の実施には概ね賛成です。自己負担割合の引き上げやチャージ上限額の引き下げが行われることを踏まえると、健康アプリだけでは、特に体の不自由な方々を含む個々のニーズに十分に対応することは難しいと感じます。不足分を補うためには、コミ

ユニティバス、デマンド型交通、無料送迎バスなど、さまざまな交通サービスの活用が大切だと思います。また、運転手不足が課題となっている中で、既存のデイサービス用送迎車両を活用し、運転手をそのまま他のバス運行業務に従事させることで、効率化とコスト削減が期待でき、より多くのバスを導入することが可能ではないかと考えます。同時に、次世代技術を考慮し、AI 技術を活用した顔認証や音声認証機能を搭載したバスの導入を検討すれば、特にデジタル機器の使用に不安を感じる人々にとっても、利便性と安全性が向上すると思います。初期投資は必要かもしれませんが、長期的に見ると全体的なコスト削減や将来的な人手不足対策に寄与し、市民全体の利便性と安全性の向上に繋がると考えます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

東区

提出方法

メール

1 敬老パス制度の対象者は 70 歳以上で上限額は 4 万円とするが、対象者に年間所得の上限額を設けた内容で、かつ、分かり易いシンプルな形で、この制度を存続させていたいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(1) 札幌市が行う市民を巻き込んだ政策決定までのプロセスは、高齢者対策としての敬老パス制度の縮減を市民全体に周知し、高齢者の改悪反対運動が行われている中、市議会で決めることになるのでしょうか、今回の敬老パス制度の見直しの進め方が王道なのでしょうか、教えていただければ幸いです。

最初に現行の 7 万円の上限額を 2 万円まで一気に下げた札幌市案を出して、反対が多いのを見て 4 万円に戻したような形に修正しております。これは一見、民意を踏まえたかのように見えますが、純真な市民、特に高齢者や家族を困惑させて弄んだ良くないやり方のように思います。

特に、特殊詐欺が横行している札幌市内で、私を始め高齢者・年金生活者やその家族は、札幌市役所を 100% 信頼して生活しており、札幌市案がこのように変わること戸惑っております。

また、老人達は、収入が少ないこともあり、お金に敏感です。高齢の友人は、敬老パスの上限額が 7 万円から 2 万円に引き下げる案が出た時、掛かり付けの複数の病院にも行けなくなると思い、奈落に突き落とされるような思いがしたと言っておりました。

このようになるのであれば、札幌市には、最初から 4 万円案を出していただいた方が良かったなど、老人たちは話しております。

老人達が行動する時の命綱となっている敬老パスの上限額を、簡単に下げたり上げたりすることの罪深さを、秋元市長さんを始め幹部職員や市議会議員は良く考えていただきたいと思っております。

(2) さらに、良くないのは、高齢者に対する配慮も思いやりの気持の全く無いような若者が、若い世代が高齢者の負担分を背負わされているという被害者意識を強調した主張が正しいかのように、札幌市が貴重な意見として取り扱っていたと聞いた時でした。

これでは、「世代間の相互理解を得て取り進める」と言っている秋元市長さんの説明とは裏腹に、敬老パス制度に関して、世代間の相互不信と断絶をそのまま残すだけでなく、さらに煽って拡大させ、それが固定概念化することになるのではないかと危惧されるからです。

(3) 敬老パスの全廃をちらつかせながら、人口の 3 分の 1 まで増える高齢者の対策費削減を正当化するような秋元市長さんの説明にも疑問を感じます。敬老パス予算を削減又は廃止すれば、札幌市全体の財政が立ち直るかのような話に聞こえたそうですが、本当にそう言ったのでしょうか。札幌市にはこれ以外のもっと大きな要因があるのではないのでしょうか。

今後、私を含めた高齢者が出歩けなくなると、本人は疾病に罹患する確率が高くなり、その家族は医療費等が増嵩して家計を圧迫するようになるとともに、地下鉄やバスの事業者だけでなく、商店街等の経営に甚大な影響を与えることになると思うのですが、札幌市は、財政面だけでなく地域の産業振興・活性化という広範な高い観点からも、今一度、立ち止まって、敬老パス制度について考えていただく必要があるのではないかと思います。

(4) 現行の敬老パス制度が多くの高齢者や家族に支持されているのは、制度内容が簡潔で分かり易いことにあります。改正後も、この長所を活かした仕組み・内容にしていきたいと思います。札幌市が発表した、木に竹を接ぐような高齢者の交通対策と福祉対策の抱き合わせた札幌市案を取り止めて、敬老パス制度に絞ったものにするとともに、福祉対策は、これと切り離れたものを提案していただきたいと思います。

(5) 現行の敬老パス制度は良く考えられた制度だと思います。高齢者自らが指定金融機関に向いて、少額とは言え現金を支払って敬老パスに登録してから利用することになるからです。

しかしながら、配布資料に掲載されているように、53%の人がこのチャージをしていない中で、5 万円以上の利用者に予算額の半分以上が使われている実態があるので、今回の引き下げは止むを得ないものと思います。

今後は、上限額 4 万円に予算額の 8 割以上が張り付く形になるのですが、その後の対策を今から検討して行く必要があると思います。今回は、金額的な階層区分を高齢者全体に敷衍して平均値で推計しているようなやり方をしておりますが、この調査分析資料を更に所得階層別に見直していただきたいと思います。敬老パス利用の高齢者について所得階層別(例えば、200 万円未満、200 万円～400 万円未満、400 万円以上)に調査・分析してみたいと思います。

そして、弱い市民、特に所得の低い高齢者や年金生活者を狙い撃ちにして、その負担増を強いるようにすることは止めていただきたいと思います。

所得階層別にその実態が分かる資料を示して、高齢者の理解を得るとともに、若い世代の人達も止むを得ないというような相互理解を深める努力を、札幌市には、複数年掛けて粘り強く行っていただきたいと思います。

今回は、途中から上限額 4 万円案を出して、高齢者世代の現行制度維持の要望を撥ねつけて、拙速に強行突破を図ろうとする札幌市のこのやり方は、最善と言えないと思います。このようなやり方は、オリンピックを開催した政令指定都市・札幌市に似合わないと思います。

特に、札幌市を頼りにしている高齢者や年金生活者の心と懐を直撃する今回の提案については、ポイント制度を入れることにより、更に分かりづらいものになります。

これから、敬老パス制度の実態を踏まえた内容で、市民の合意を得られるような、分かり易い札幌市最終案を出し直していただきたいと思います。それが札幌市の多くの貧しくか弱い老人や市民全体に対する思いやりではないかと思います。

また、歩行に難のある方の福祉・介護対策は、これと切り離れたものを提案していただきたいと思います。

(6) 日本銀行と政府は、昨年、ゼロ金利政策から有利子政策に舵を切りました。円安の中で、公共料金引き上げや労働力不足や農作物の不作などが重なって国内の消費者物価は以前に比べ大幅に上がっており、今後、更に上がることから、上限額 4 万円は引き上げる必要があります。5 万円に設定しても、5 年後には今の 4 万円を下回る水準になりますので、基準年度の 2026 年度の上限額を 4 万円に設定して、その後、毎年度、物価にスライドする方式で設定し直すことを提案します。

(7) 札幌市と市議会の遣り取りを見ても、敬老パス対象者の所得の上限額設定の話を見たことはありません。札幌市職員 OB や市議会議員は年金の支給額も高く定年後対策も講じられているので、敬老パスなど利用しなくても良いのでしょうか、民間、特に中小企業や非正規雇用の従業員や家族は年金支給額も少なく、第 2・第 3 の職場も無く、高齢者になっても、日々の生活費を得るために働いているのが実態です。私の周囲にもたくさん居ります。

このような方々が早朝に敬老パスを使って出勤しているのを良く見てますし、このような方々が敬老パスを使えるようにして置くことが大切であると思います。

運転免許証の返納をしようとしていた高齢者の方が、敬老パス見直しのお話を聞いてから、返納を取り止め、免許証の更新をした方が近所にもたくさん居ります。

また、若い世代の方々と話していると、「会社役員などの高所得者がすすきのに飲みに行くのに敬老パスを使っている」話を良く聞きます。これは一部の高齢者のことと思いますが、若年層からの妬みの対象になっており、この対策を講じる必要があると思います。

(8) 札幌市や市議会では敬老パス対象者の所得の上限額の話は出ないのでしょうか、私は敬老パス対象者の年間所得に上限額を設けることを提案します。年間所得額 400 万円以上の方は敬老パス制度の対象外にしようという内容です。

敬老パス制度の世代間の相互理解を得るためにも、敬老パス対象者の所得に上限額を設定して、高所得者を除く話は、若い世代に対しても説得材料になると思いますので、是非、今回、実行していただきたいと思います。

他方、敬老パス対象者の年間の利用額が少ない人(例えば、1 万円未満の人)が、翌年度の敬老パス制度の適用を受けようとする時は、改めて申請し直すようにすると、対象者数が 7 割減ることになり事務量の軽減にもなるので、検討していただきたいと思います。

(9) 札幌市案では、スマートフォンが大事な役割を担うことになっております。高齢者でスマートフォンを持っている方は増えて来ましたが、使いこなしている方は稀です。

私の所属する老人クラブは約 50 人いますが、スマートフォンを持っている方が 10 数人で、使いこなしている方は 2・3 人です。殆どの方はガラケー携帯と同じ機能しか使

っておりません。

特に、最近では、高齢者のスマートフォンにラインから入って来る詐欺的な情報が多くなってきているので、詐欺被害防止対策として、スマートフォン利用は止めた方が良いと思います。北海道警察から注意喚起情報も出ております。

また、スマートフォンを持っていない方のポイント化するには思ったより面倒な手続きが必要になっており、実際に後期高齢者が皆行うことが出来るのか疑問に思います。

(10) 次に、「ポイントをタクシー料金の支払にも使える」案は、悪意の便乗利用を助長することになると思うので、止めた方が良いと思います。タクシー料金は 10 年前に比べ倍額になっており、今後、更に値上がりすると聞いておりますので、実質的に使えなくなると思います。

また、歩行が難しい方には介護対策として、タクシー利用を別建てで行うべきと思います。

(11) 敬老パス制度の対象年齢の 70 歳から 75 歳への引上げは、この恩恵から漏れる方や、現在、60 歳台で第 2・第 3 の職場で働いている高齢者予備軍の方々に大きな衝撃を与えています。人生設計を考え直さなければならないと言う方も居られます。今回、対象年齢を引き上げるのであれば、札幌市は、これに該当する人達の意見をも聞いてから行うべきと思いますが、本当に聞いているのでしょうか。

特に、就職氷河期世代と言われ、年金の支給額が少なく貧しく弱い市民と言われている、高齢者予備軍や家族の生活を直撃することになるので、止めていただきたいと思います。

2札幌市案には、次のような問題点というか、疑問点があります。これを整備するとともに、きちんと回答していただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(1) 新たにポイント制度というものを導入することになるようですが、その内容や手続きが分かりづらいこと。札幌市は、全ての高齢者や家族がこの内容を理解して利用できると考えているのでしょうか。

(2) スマートフォンを持っている人でもポイント制度を上手に使えない可能性があり、かつ、詐欺被害防止対策の仕組みや内容が不明なこと。

(3) スマートフォンを持っていない人の救済対策の仕組みや内容が見えないこと。

(4) 札幌市が、弱者と言われている貧しい高齢者・家族や市民に対し、新しい方式がスムーズに定着するように誘導しようとする支援方策が見えないこと。

(5) 敬老という発想の無い又は高齢者等を差別したり敵対視するような札幌市民や札幌市民でない方々に対し、札幌市は、どのような対応をしようとするのかが分からないこと。

また、札幌市は、今後も、増え続けるであろう高齢者に対し、敬老パス制度を始めとする各種制度をどのように維持して進めて行こうとするのかという行政執行者としての基本的なスタンスが見えないこと。

(6) タクシー代をポイントで支払う場合、どのような悪意の便乗防止対策を講じているのかが見えないこと

(7) 敬老パス対象者の年間所得に上限額を設ける必要があると思います。札幌市は、

今回、これを行った方が良いのではないかとと思いますが、どのように考えておられますか。
また、札幌市がこの上限額設定をしないのであれば、その理由を教えてください。

(8) 敬老パス対象者の年間の利用額が少ない人対策を講じた方が良いと思いますが、札幌市は、どのような考えを持っているのでしょうか。

(9) 敬老パス制度の対象年齢の 70 歳から 75 歳への引上げは、貧しい高齢者予備軍やその家族の生活を直撃することになるので、止めていただきたいこと。

以上

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

メール

敬老優待乗車証(敬老パス)の見直しについての資料が少ないのですが知りえた情報から意見を述べます

- 1.敬老パス利用実績で53.1%がチャージしていないが未交付者を含んでいる。これでは使用者に届くまでのコストがかかっていることで財政圧迫としているのか不明
- 2.利用者の内6万円7万円使用している人が利用者の35%もいる年齢層、就業しているのか？
- 3.6万円7万円以上使用している例えば就業しているのならば収入限度額等を設ければよい
- 4.敬老パス減額についての意見は見たが、反対意見の根拠や理由が不明
- 5.本来は高齢弱者救済のために出来た制度のはず。札幌市が大きな声で世代分断するような財政圧迫の原因と発言することもおかしい
- 6.敬老パスを利用できない環境があることも理解してほしい。営業所の近くに住んでも営業所からは1時間に1本に減便され、始発がモエレ沼の方からのバスはほぼ満員で整形的な疾患のある人は乗車できなかつたり座れないそのためタクシー通院しているという声も聞く。減便された地域にはタクシーチケットを配布してはどうでしょう
- 7.健康アプリについても減額案と同じ時期にきちんと周知させ減額等に納得できるような周知が必要だと思います。広報にも詳細は出ていなかった

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

中央区

提出方法

メール

敬老パスは、70 歳になったらと思い、それを期に運転は止めようと思っていました。今までは、親の介護に使用したりしましたが、亡くなった今は仕事で使用しているだけです。

親も高齢になると歩行が困難な為、あまりパスは使えなくなりました。

なので上限を低くするのは構わないですが、半額で乗れるようにはして欲しいです。

今は一時間以内で行ける所は、徒歩にしています。

珠にバス等乗ると敬老パスを使用する人だけですので、パスが無くなれば乗る人も少なくなり、本数も又減らされるようになると思います。

周りでもパスが無くなると病院や外に出る機会を減らすようになり家にこもる状態になるはずと話しています。

私もパスが使えるようになったら出掛けられると楽しみにしていました。

昔は 2 千円負担と書いてありましたが、その頃と今では貨幣価値が違うと思います。

私達は、若い時に何の疑問もなく納めてきて、いざその年になると廃止になるのは少しがっかりです。

上限が 4 万円位で半額で乗れるようにして貰いたいです。

そうすれば病院通院も出来ます。

そういうふうに考えるのは、我が儘なのでしょうが？

電子マネーの件も、スマホを持たない人も多く使い方も良くわかりません。

もう少し若い人なら良いですが、多分これを考えている方は、若い方達なのでしょう。

少子化で老人が増えているので仕方ないかもしれませんが、無駄な所を見つけて、なるべく残して欲しいと願っています。

年寄は早く亡くなって欲しいと感じてしまいます。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

結論・・・今の敬老パスの制度を残して欲しい。

①市が、「敬老パスが、現役世代の負担になっている」と市民に言いふらすのは、やめてほしいです。札幌市議会での答弁では、財政のどの分野でも黒字で、財政は逼迫してはいません。健全な財政です。高齢者のせいで現役世代への予算が足りなくなっているような言い方は、おかしいです。しかも今まで、市の予算に占める敬老パスの割合は、ずっと前から 0.4%程度です。ここ何年もの間、特に敬老パス予算の負担が増えてきた事実はありません。

②これから、スマホの健康アプリと敬老パスが、両方とも使用される期間が予想されます。その期間には、バスや地下鉄の改札機が「健康アプリなのか、敬老パスなのか」を見分けるそうです。そして、そのためのシステム開発に、また何億円もかかると市の職員から説明がありました。その予算は、敬老パスと健康アプリの予算の中に、目に見える形で計上されているのでしょうか。(FAX 読み取れず)

③(FAX 読み取れず)に縮めてしまうでしょう。市の調査では、75 歳くらいから、公共交通に乗るのがしんどくなる人が多くなってくるようです。それならばなおさら、70 歳からの敬老パスを続けましょう。友人に会ったり楽しいイベントに参加したりすれば、元気が出ます。健康寿命が延びて、行きたい所へ行けます。病院にも、気軽に行けます。本人も幸せです。町も、元気になります。

④高齢者がバスや地下鉄で出かけると、その分がバス会社などの収入になります。これで、街の経済が回ります。さらにお出かけで、食事をしたり買い物をしたり、カラオケやボウリングに行ったりします。ますます、経済が回ります。敬老パスは、街の経済を回すことに役立っています。

⑤市は、一部の高齢者だけが敬老パスの予算を多く使っていると言います。しかし、高齢者にも、いろいろな事情があります。息子や娘などが近くに住んでいて、気軽に車に乗せてもらえる人もいます。逆に、そうでない人もいます。まだまだ、自分で車を運転できる人もいますし、免許証を返納する人もいます。ですから、敬老パスの利用が偏るのは、当たり前なのです。敬老パスを利用して元気に出かけようと、そういう高齢者がいるなら、必要な人に制度が届いているということです。今の敬老パスの制度は、成功していると思います。

⑥健康アプリで、何をすればポイントがたまるのか。これについては、見過ごせない不公

平が予想されます。歩けば、ポイントが貯まる。ボランティアをすれば、ポイントが貯まる。文化的行事やスポーツなどに行ったら、ポイントが貯まる。いろいろあるようですが、市が認定した行事だけが、ポイントをもらえるのだそうです。それでは困ります。

例えば友達とカラオケに行く時、いちいち市に申請を出しますか。申請して、審査してもらって、認可を受けてからでないと、ポイントにならないでしょう。友達と行くボウリングやパークゴルフだって、心にも体にも良いものです。ところが、市に認可を受けていなければ、ポイントはもらえない。だいたい、友達と遊びに行く時に、いちいち市に認可をもらうのは面倒です。そうすると普通は、「ポイント、関係なしで出かけよう」となるでしょう。「ポイントをもらうために、市に認可されている団体に入ろう」というのは、なんとなく強制されている感じがして、いやです。だから、アプリでポイントをもらう新しい制度は、不公平を生むと思います。

⑦このパブリックコメントの用紙は、区役所で受け取りました。それで、書いたコメントを区役所に提出しに行ったら、区役所では受け取れないと言われました。そして、本庁舎に提出してくださいと言われました。市役所の本庁舎まで届けるには、地下鉄で往復して、何百円もかかります。私の家にはファックスもパソコンもあるので大丈夫ですが、みんながそうではありません。パソコンやファックスを持っていない人は、困ります。郵便局から郵送するにも、家から郵便局まで遠い人も困ります。足腰の痛い人は、もっと困ります。バスや地下鉄で行くと、お金もかかります。パブリックコメントを出すために何百円も交通費を使うのは、理不尽なことです。区役所でコメントを受け取って、区役所に集まったコメントをまとめて本庁舎に持って行けば済むことです。そういう配慮は、ぜひやってほしかったところです。

⑧敬老パスの制度の変更について、説明をする会場が『アスティ 45』だけだったのは、困りました。この広い札幌市で、たった一か所です。バスや地下鉄や JR 等を乗り継いで、時間がかかるし遠いし、お金もかかります。特に足腰の痛くなってきた人には、会場に行くだけで、十分しんどいことです。どうして区役所や身近なスーパーマーケットや、地域の会館などで説明会をしなかったのでしょうか。あちこちの地域で、そしてたくさんの方々の会場で説明会を開くべきでした。市民から、広く意見を聞くべきでした。どうしてそれをやらなかったのでしょうか。本当は説明会に行きたかったけれども、しんどいから行けなかった人も多いことでしょう。健康アプリは、高齢者の負担を重くします。そういう大変なことを、たった一か所での説明会場で行って、「市民に説明しました」ということにはなりません。「いつまでも決められない」などと思ってはいけません。健康アプリと敬老パスは、大きな変革です。時間がかかっても、たくさんの方々の市民に意見を聞いてから決めてください。

⑨市民に開かれた説明会は極めて少ないのに、それなのに、大学などへ行って敬老パスや健康アプリについて学習会をしているそうですね。敬老パスに使う税金が、現役世代の負担になっているというせつめいを。しかし、敬老パスなどで高齢者に税金を使うことが、現役世代に使うべき予算を、そんなに大きく押しつぶしていますか？現役世代のために使う予算が足りないのは、高齢者のせいなのですか？オリンピックの招致のために、たくさん税金を使いましたね。アクセス道路を作るのにも、もっと税金をかけてい

ますね。これらは本当に必要なのですか？役に立つのですか？市民の幸せにつながるのですか？たいした役に立たないことに税を使わないでほしいです。それから、税金が足りないとかいう話を、高齢者のせいにするのはやめてください。

意見の内容

年代

不明

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

秋元市長や札幌市は、主に財政問題で敬老パスの見直しを説明していますが「健康寿命を伸ばす」=「豊かな市民生活を保障する」という行政としての原点が欠落しているとしかいえません。

市の「高齢者施策が若者の税負担のお荷物になっている」式の説明ひどすぎます。今までずっと働いて税金を納め市の財政を支え続けてきたのが今の高齢者ではないでしょうか？

(1)市の財政(収入)は、市民の税金だけで成り立っているわけではないですよ。国からは地方交付税が来て、様々な補助金や交付金で構成されているはず。それをまるで敬老パスの財源は若い人たちが負担しているかのように「説明」するのはやめてほしいです。若い人の税金がそのまま敬老パス予算にまわるわけではないことを市民にきちんと示すべきです。(FAX 読み取れず)

(2)ですから「敬老パス」事業はきちんと存続してください。(5年後見直すとは廃止に向けてですか?)高齢者が増える中で多少の自己負担など変更はやむを得ないとしても、75歳に引き上げたりせず、今の50億円の予算規模を維持してほしいと思います。

(3)健康アプリ事業は敬老パスと切り離してください。健康寿命延伸と交通費助成をなぜ一体にするのですか?かたや高齢者福祉、かたや介護保険の事業であるはず。健康アプリ事業には介護保険の方から補助金が来ると聞いています。ならば別々の(FAX 読み取れず)

市民の健康寿命延伸事業は40代の方から工夫して始めれば効果も上がると思います。内容も、たくさん歩けばポイントが貯まり歩けない人にはたまらないとか、市の役に立つボランティアをすればたくさんポイントがもらえるがそうでない活動にはポイントはつかないなど不公平で格差を拡大するようなやり方でなくあらゆる市民が取り組める健康事業を創ってほしいと思います。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

中央区

提出方法

郵送・FAX

1.市の説明が、冷厳な議論を妨げている

医療や福祉など社会保障の財源は、税や保険料ですが、本来、両方とも所得に応じて課せられ、低所得層や困難な方に分配するというのが社会保障制度の仕組みと教わりました。

「市長と語ろう！敬老パス」の参加者の発言に、高齢者福祉の財源は現役世代がほとんど負担しているとの発言がありました。

若者も含めて大いに議論するのは歓迎ですが、これは社会保障の財源論としては事実と違うと考えます。税や社会保険料等を支払っているのは、およそ20歳以上の市民といえますが、所得の再分配を、世代間の負担割合で格差があるように描き出しているのは市であり、市長は、「語ろう！」で、冷静な議論をと呼び掛けていますが、冷静な議論をできなくさせているのは市自身であることを認識すべきではないでしょうか。

2.持続可能な仕組みの考え方について

持続可能性を問うのなら予算全体の議論をしてください。

市長は少子高齢化から、高齢者策の敬老パス予算は増え、持続可能な仕組みとして維持できなくなるとして、見直しが必要だといいます。(読み取り不可)をめざすためにも、持続可能性とは無関係です。

税や保険料を支払っているのは、年金生活者など高齢者も同じであり、企業も税を支払っています。税や社会保険は働く人・就労人口で全人口を支えているというのが正しい見方です。その税がどのように使われているのかは、予算全体の問題です。

物価高騰で実質賃金は減少しています。貧困な子育て支援策のもとで、現役世代への支援は拡充されるべきですが、同じように実質的な年金減額が続いています。

現役世代と高齢世代で支え合いでは、医療や福祉の予算の取り合いにしかならず、現役世代からもあがっているムダ使いをなくせという意見に応えることにもならず、予算全体で検討されるべきことです。

また、個々の事業を評価する場合、投入される事業費の規模だけでなく、それに見合う効果が発揮されているのかも合わせてみるべきです。他の政令市では効果を数値や金額で試算していますが、市もそうした試算をおこなってください。

3.敬老パス事業の市税投入は市に還元されています

市営交通は公営企業会計なので、建設費も含めた経費は、乗車料や広告などの事業収入で賄わないといけない独立採算制です。収入源の中心となる乗車料収入が減少すれば収益悪化となり、例えば、地下鉄事業の会計に、整備事業費や特例債元利償還金などの分として約 24 億 8,000 万円(令和 5 年度)を一般会計から繰り入れしている市にとっても負担増となります。

敬老パスの乗車料収入について、市は 22 億 9,000 万円を繰り入れています。健康増進・介護予防など様々な効果がある敬老パスは、それだけにとどまらず、利用すれば利用するほど乗車料収入を増加させ、敬老パス事業へ市税投入された財源を、市営交通に還元しているといっているのではないのでしょうか。

4、健康寿命延伸策としてどちらが有効が科学的に示してください

健康寿命の延伸に敬老パス、健康アプリのどちらが有効なのか、札幌市が科学的な分析をして市民に示してください。

昨年、購入した『プレジデント』という雑誌に「健康寿命が短い人長い人の決定的な違い」と題した大学名誉教授の寄稿記事がありました。

公共交通を利用した移動について「歩行と思考という 2 つを同時におこなって認知症予防に役立つといわれるデュアルタスクを知らず知らずに内に行っている」と評価し、「社会と多くのつながりを持っている人は 1 つ以下の人と比べて認知症発症リスクが 46%も低い」と紹介しています。

外出支援の敬老パスについては、通院や買物、ボランティアなど自主的、自発的な行動のインセンティブとして役割を発揮し、自然に健康増進される、介護が予防されることにつながっています。一方で、健康アプリは、ポイントを稼ぐことを目的に歩く、体操する、人と会うなど決められたメニューの範囲内で行動することが求められます。そうした行動はポイントを獲得するためのもので、必ずしも外出や公共交通を伴うものではなく、雑誌で紹介されたような効果を発揮できるのか疑問です。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

秋元市長の説明では、若者と高齢者の分断をあおっているようにしか感じられない。親が健康でいられるためには社会参加や病院などに出かけてほしい。交通費の助成は子ども世代にとってもありがたい制度だと思っています。

市は社会保障を削ることをせずに、札幌市全体の予算の中で全ての世代への社会保障の充実をはかってほしい。

敬老パス制度は現行のままでよいと思います。

他にひとり親など必死で働いて子育てしている人たちにも交通費の助成をしてほしい。

非課税世帯以外へも、給付をしてほしい。

市民に冷たい市政と言われないように、暮らしやすい札幌市であってほしいです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスは私たちにとってもボランティア活動、自分の活動、通院と健康を保つためにもとても大切です。

健康であるから使用できるもの、その為に介護保険等利用する事はないのです。使用する人が徳！という事でもなく、それぞれの立場で利用。物価も上がり生活も大変な中、現状そのままとは言いませんが現状に近い形で残してほしいものです。

予算の見直しの中で(若い人の負担？ではなく)しっかり考えていってほしいものです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスの対象年齢になり、外出する時にとても助かっています。

清田区は地下鉄はなく交通機関はバスのみです。バスから地下鉄への乗りつぎで交通費も高くなります。

年金生活の中、物価高騰で財布の中を気にしながら生活する毎日です。

高齢者への税金の使い過ぎなど若い世代との分断をあおるような敬老パスの改悪をやめてほしい。

札幌市民の要求でできた敬老パス、是非このまま存続させてほしいです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

豊平区

提出方法

郵送・FAX

私は現行の敬老パスを存続してほしいです。

①この制度が縮小されると、車の運転免許返納を考える人たちが減ると思います。それによって、道路渋滞、高齢者の交通事故、CO2 の増加など環境の悪化が懸念されます。

②私は子ども食堂のような食料支援のボランティアをしています。毎回バスを利用していますが、この制度が変更になると、ボランティアに行く回数を減らすことも考えることになると思います。

③この制度を使って通院や友人との外出にとても助かっています。高齢者が外出することによって飲食・買い物に消費がまわり地域経済にもよい効果をもたらしていると思います。また、公共の交通機関を利用して外出することは高齢者心身にとっても程よい刺激になり、健康維持に役立つと思います。

④以上のような事から、敬老パス制度が市の財政を圧迫させているとは思いません。環境問題の改善、高齢者の健康維持につながって医療費等の削減ができると思います。札幌冬季オリンピック誘致、札幌ドームの赤字等について、市の税金の使い方を、これからも市民の意見を生かした市政を期待しています。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

1. 私は現行の敬老パス制度と健康寿命延伸を目的とした「ポイント付与」に考え方を一緒にすべきでないと考えます。現行敬老パスは、そのまま存続し、年齢も 70 才のままにして高齢者の社会参加、通院、買い物など安心して暮らせるように望みます。また、JR、タクシーにも使用できるように拡大すべきと思います。

2. 「ポイント 2 万円」は、かなりハードルが高く、このことが高齢者の健康寿命延伸にどれだけつながるのかむずかしい問題です。

スマホ利用もどれだけの方が活用できるか見通しがつきません。

私自身もそこまでスマホ利用できません。

これはやめてもらいたいです。

ぜひご検討をあらためてお願いしたいです。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

○高齢者が運動できる場をもっと増やしてほしい

・年金支給が 65 歳から、そのためか 70 歳くらいまで働かねば生活できない。70 歳くらいになれば心身ともボロボロに疲れ、スポーツどころではないと。年金の充実を！と市議会の引き上げは快挙です。

・そのためか、卓球でもパークゴルフでも参加者が年々減少してきています。そのためか、コロナ前に無料で解放されていた地区センターや区民センターの解放日が毎週1回から月1回に減らされてしまいました。高齢者が運動できる場をそのため、もっと回数を増やしてほしいと切に要望したいところです。パークゴルフもプレイヤー減少のためか料金が値上げされていて、そう気安くプレイはできません。

もっと安くプレイできる場を増やしていただきたいと思います。

健康には運動が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス、大変楽しみにしていました。

清田区から札幌駅や大通など中心街に行くには、バス地下鉄と乗り継いでいかなければならず不便であるとともに、1,000 円近くもかかります。

通院や買い物など月に数回、年金生活者にとって、交通費は大変負担です。

今回の市の提案、とても残念です。

是非これまで通りの敬老パス制度の存続をお願いします。

高齢者がお金の心配なく外出できることは元気を保つことにもつながると思います

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

パソコン・スマホを使えない高齢者はたくさんいる。

各区役所に意見記入用紙を置くのであれば回収箱も設置してほしい。郵送で 110 円、FAX は近くのコンビニでも 50 円、区役所へは何かのついででも歩いて行ける。物価高で節約が日常。市民の声を聞く姿勢で意見記入用紙回収箱の設置を求めます。

「敬老パス」だけで20歳以上ひとりあたりの負担額を算出するのは、納得がいかない！高齢化が進むのは少なくとも、30年以上前から予想されていたこと。出生率が低く人口減で労働年齢層が減っているのだから、当たり前のこと。それを敬老パスだけで算出して敬老パスだけで解決しようとするのは無理がある。

札幌市は健康寿命が低いと記されているが、それと敬老パスの減額とは結びつかない。通院、介護そして外出するきっかけを作ってくれる敬老パスがあったから、友人とも会え、楽しみをもち、元気に暮らしてこれたと高齢者の多くは話している。

私が 75 歳になった 7 年後は今の敬老パスはなくなり、健康アプリになっているのだろうか？

通院・介護で多額の交通費がかさみ年数回の映画や音楽などの文化的楽しみは中央区まで行けなくなり、物価高で暮らしは疲弊し家にこもった寂しい高齢者になっているのかもしれない。年金も少なく貯蓄も少ないのは自己責任？

高齢者が使えない健康アプリではなく敬老パスの継続を自己負担割合 50%ではなくせめて 30%にしてほしい！健康寿命を延ばすには外出する機会を増やし、友人と語り、病気と仲良くつきあい、笑顔で暮らすために敬老パスは必要です。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスは外出を支援して老後を豊かにと交付されたのではないですか。

70 才になったら使えるのを楽しみにしていました。

健康ポイントを獲得しないと交通費に使えない。歩く、人に会う、健康管理、押し付けられて行うことはストレスです。

健康寿命延伸は若い人も含めて年齢にこだわらず健康のための活動を行って下さい。

敬老パスの目的とは違います。今の制度を存続して下さい。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

地方自治体の仕事は、住民の暮らしが安全に豊かに安全に営まれてゆくことに万全を期してとりくむことだと思います。政令都市の、そして 200 万人が暮らす札幌の市政のあり方は全道、全国に及ぼす役割も大きいと思います。ぜひとも住民第一の市政を運営していただきたい。

「敬老パス」はぜひ今までの制度を継続してほしい。私は高齢となり車も手放し、足も弱ってきたけれど、敬老パスのおかげで安心して外出できています。市財政の施行には様々な課題があるわけですが、前述の様に住民の暮らしを第一に行政を進めるべきだと考えます。子育て世帯、年金暮らしの高齢者、非正規労働者など、弱い立場の住民をしっかり支えてゆく市政の運営に最大の重点を置いた暖かい市政運営を心から願っています。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

今まで敬老パス制度のお蔭で、交通費をほとんど考えずに、街の中心部までの買い物、趣味の会などに出掛けることが出来、心身ともにプラスになっていました。
今まで通りを希望していますが、対象年齢を 70 才から 75 才にひきあげるのには、納
得出来ない方が多いと思います。説明をお願いします。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

〔敬老パス制度について〕

- ①現行制度のまま、チャージの上限を 4 万円にするだけではダメですか？もっとシンプルに。
- ②例えば、バス運賃の値上げという情勢は、反映されていますか？時代背景が全く違うのだから、市民 1 人あたりの負担を今と 2000 年頃、同水準にしようとしていること自体、ナンセンスです。
- ③障がい者手帳を持っている人が使える交通カードも、同様に見直すべきではないですか？なぜ今、敬老パスだけが、ターゲットにされなければならないのか、疑問ですね。
- ④新幹線工事というムダ使いのシワ寄せを、健康寿命延伸という、もっともらしい目的にすりかえないで下さい。
- ⑤乗車マナーの悪い高齢者たちに、敬老パスを持つ資格なし。皆さんの税金によって敬老パスを使わせて頂いているという、感謝の気持ちがなさすぎます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

- ・「敬老パス制度」を存続してほしい。外出で健康が保たれる。
- ・スーパーが無くなり買物難民となりパスを使わざるをえないこと。
- ・街に出て、映画、美術館、植物園、色々な展示会などに参加すると元気になります。
- ・色々なサークルなどで人と接する機会をつくる。
- ・ウォーキングで平岡樹芸センターを観察、紅葉を楽しむ会など
- ・大通公園でスケッチ、パークゴルフ、手づくり会、卓球教室
- ・体操、水泳教室
- ・うたごえ喫茶、カラオケ
- ・温泉旅行など・・・。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

高齢者が地下鉄、バスを使って買い物に出かけたり、趣味のあつまりに参加しやすくなるよう、敬老パスを維持して下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

対象年齢を縮小、市民負担の大幅増

2029 年度までに段階的に縮小し 2030 年には「存廃」が検討される。なんということか！

世代の対立をあおるやり方に怒り心頭です。

私の敬老パスは、日常生活の買物、体操サークル、ボランティア活動、姉の通院介助や生活支援、図書館など、日々の生活にかかせないものです。

改悪に心から反対します。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

外に出て人に会う活動するが一番の健康寿命を伸ばす方法なのに、その出かける足を行政の手で止めるなんて、なんて冷たい役人なのかがっくりします。
だれでも年をとって行くのに考えずに高齢者ばかりトクをしてるみたいな分断するやり方と一んでもない。敬老パス今まで通り存続をして下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

私は現在、79 才。夫が 8 年前に大病を患い 2 年間入院、その後通院が続いています。この時、ちょうど敬老パスがあり、どんなにか役立ったかしれません。(現在も勿論です!!)

私の周りでも元気な老人が自分の楽しみのために敬老パスを利用している人は勿論ですが、ほとんどの人が介護のための通院の交通費に使っているのが現状です。

3 ヶ月で、なくなってしまう人も。

今までどおりに活用できるようぜひ、よろしくお願いします。

意見の内容

年代

90～94 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

戦後の社会を創り上げたのは現在の高齢者です。敬老者を教う精神は、現在の社会を構成する理念を忘れず、反映させてほしいと思います。
高齢者をヤツカイ者扱いはやめて下さい。敬老パスの存続を切に望みます。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

今の私の年金(遺族・厚生)では物価高の中ギリギリの生活です。70 才になって敬老パスが使えるようになったら、孫や友達にも会いに行きたい、美術館などへも足を運びたいと思っていましたががっかりです。

対象年令が 70 才→75 才、負担も 50%、上限も 7 万円→4 万円

私が 75 才で使える頃には廃止されているのではと思ってしまいます。

敬老パスと健康パスは分けて考えるべきです。

健康で元気な人は歩いたり行事への参加もできるでしょう。

ゆっくりで長く歩けない人もいます。そういう人も今の敬老パスなら出かけられます
どうか今の制度のまま残して欲しいです

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

バスが減便になってなかなか行きたいところへ行けない日々を送っています。

年齢を重ねるほど人と話す機会がなくなりがちですが、これはさらに老いを増すこととなります。

人と話すこと、歩くこと、自然や世の中の変化を見ることは元気に日々を暮らす大切な条件です。

敬老パスは次世代の人も使うこととなります。今の子どもも老人になると使います。人を大切にするパスです。ぜひ残してほしいです。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

意向

75 歳以上に引上げ、年間利用額上限を 35,000 円に引き下げ、5,000 円につき 2,000 円を負担してもらおう。チャージした残高は翌年持ち越し不可。

上限 35,000 円⇒14,000 円負担それ以上は 100%負担

実行時期⇒令和 7 年 4 月 1 日

札幌市の出生率は、毎年減少傾向で 1 万人を割っています。

できるだけ子育てに予算を回してほしい。

なぜこんなグタグタな敬老パス満額使用人の御用聞きになっているのか？

使用后、不特定抜き打ち経路チェックした方がいいと思います。

実行までの期間がのびれば延びるほど種々の意見が勃発すると見込まれます。

札幌市のがっかりする点は、実行まで時間がかかりすぎ、速効性にかけています。

市民の意見を聞くのは当然ですが、計画書を作成して施行するのは札幌市です。

去年、HTB のイチオシに出演された元明石市長の泉房穂さんがおっしゃってました。

敬老パスを守る連絡会⇒以下、市民団体とする。

☆市民団体からの苦情 1⇒病院へ通うのに必要

答え⇒病院は近所のかかりつけ医がメインで、大病院も整形の毎日いくリハビリみたく頻繁に小刻み通うものなのではないでしょうか？

だから高齢者医療費が莫大になってしまう。

札幌だと近距離にいくつも中堅病院はあると思われます。

☆市民団体からの苦情 2⇒買い物に行けない。

答え⇒札幌は、大手 3 大スーパーやドラッグストアが網を張っています。(イオン、アークス、せいきょう

利便性は抜群だと思います。

夕方のデパ地下ディスカウントバーゲンによくいく異端児は例外として。

このような方は、敬老パスいりませんですね。

☆市民団体からの苦情 3⇒ボランティア活動ができなくなる。

答え⇒ボランティア活動は、住んでいるか、その周囲の町内会で行うものです。ちょっと的が外れています。

☆市民団体からの苦情 4⇒スマホが使えない。

答え⇒これから先、固定電話やガラケーがなくなったら、いやでもスマホを使用しないといけなくなります。今から訓練しておいたらいかがでしょうか？

ただ、現状ではスマホの操作の仕方は、大手 3 社が高額料金を取っているので区役所や地区会館にお年寄りに教えられる兼任の職員を配置するようにしたい。これは今から強化しておかないと、後に取り返しのつかないことになってしまいます。

☆市民団体からの苦情 5⇒パスが縮小したら公共交通の利用者が減る。

答え⇒70,000 円以上利用の 6.1%が 0 になったらそれほど影響はない。予算縮小の方を重視したい。経済への問題もない。市民団体にとっては理解しがたいと思う。TV を見た限り自己中心的な人が多いから。

☆市民団体からの苦情 6⇒敬老パスと健康増進は別の話

答え⇒DOOR TO DOOR では、地下鉄にもバスにも乗れません。そこまで歩くから健康増進じゃないですか。

札幌市のアプリで「さっぽろ圏スマートアプリ』というのが、あります。低予算のためよくフリーズが発生しますが、ポイント取得などいろいろな機能が盛り込まれています。詳細はアプリの作成した部署にきいていただくとして、このアプリに『Miles』という交通機関や徒歩で移動した距離に応じてポイントが付与されるアプリ合体したようなのを作ればそれなりに利用価値が得られると思います。ちなみに徒歩が一番ポイントが多くなります。

2005 年の自己負担導入後、高齢者が増加することは予測できたわけだからなぜ当初からチャージ額内訳円グラフを作成しなかったのでしょうか？毎年作成していれば、偏りが生じていることが判明したはずです。5 年に一度見直して上限をすみやかに減額していくべきだったと思います。

例えば、敬老パスを全く使用していない人(53.1%)が全員 10,000 円利用したとしたら予算超過ですよ。この 53.1%の分もすべて高額使用者が使っている訳です。減額は当然ではないのでしょうか。人々の不公平は、理解しているのでしょうか。

ひとつ疑問がありますが、自己負担導入後当初、もし余っているのなら使ってあげようか、と持ち掛けられたことがあります。性別、本人確認が不能だと他人のカードを使用できるのではないのでしょうか。偏りの一つの原因かも知れません。

○過去から現在に至る対話集会について

形式的なものならまだしも、意見交換を主とした集会なら 100%無駄だと思いました。

今後、対話集会を開催するなら全体の市民団体半数、見直し賛成派(年代のばらつきがあった方がよい。)半数で行う。大学などの北海道出身の有識者も何名か参加していただく。私も参加を考えた時期がありましたが、9:1 なら無抵抗状態になってしまいますね。

○学生向け出前講座について

一か所だけではなく何か所かで行い、その場で意見を聞くのではなく、アンケート方式の方が多岐にわたり意見が回収できたのかもしれない。

※前回の対話集会に元 NHK の登坂アナウンサーがおられましたが、中立の立場？

市民団体には、いくらでも抵抗できますので、よろしくお願い致します。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

手稲区

提出方法

郵送・FAX

今の敬老パスはとても使いやすく、高齢者にはとても助かっています。おとしよりもこれを使い、買い物に、趣味の活動にと、おでかけに利用しています。改正案は上限が下げられ、使いづらくなっています。予算がどうのこうのと言っていますが、人が動くことが街の活性化につながり、生活している住民が楽しく生活できる予算の使い方が大事ではないでしょうか。

若い人とのブン断をするような宣伝はやめてほしい

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスがなくなるのは本当に困ります。市内に近い方は、さほど使わないかもしれませんが、南区の奥にいる方にとっては、7 万でも足りない位です。若い人の負担をふやすのではなく市の財政を何に使っていくのかの問題なのではないでしょうか。財政全般を洗い直して、市民が元気に楽しくすごせる札幌市にしてください。まずは敬老パスは現行のままの存続を望みます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

不明

提出方法

郵送・FAX

84才の女性です。敬老パスは大いに助かっています。年間4万～5万円使用してます。市政の中でも住民の福祉向上は自治法の根幹を担っていると思っています。貴重な施策は継続する必要が有ると思います。更に住民の更なる負担公共使用料の値上げ、火葬場の値上げまで予定されています。加えて自治体の職員まで減らしてゆく方向とも相まっていることに市民として許すことは出来ません。更に補聴器購入助成は継続審議のままです。政令市の中でも実施せずです。

人口比(判読不能)の高齢者はそんなに問題ですか。

長い人生、共に支え合い住みよい札幌市は課題いっぱい抱えているでは有りませんか？

意見の内容

年代

不明

居住区

清田区

提出方法

郵送・FAX

健康寿命延伸と敬老パスは別問題です。切りはなして考えてください。

70 才になったら敬老パスがもらえると市民は楽しみにしています。

敬老の気持をもっと大事にしてください。

若い人と年寄りの間に分断を招くようなやり方はやめてください。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

現行の制度プラス JR とタクシーにも適用拡大を望みます。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

「敬老パス」を(感謝しながら)使っています。

このところ様々なメディアで取り上げられている「見直し・改定」に対する反対の声には、驚きを禁じ得ません。自分たちだけがよければ他はどうでもよい、と主張しているように聞こえ、社会情勢の変化に思いが及ばない「自己中心的な」考え方に不快感さえ覚えます。データの詳細を見ると、見直し・改定が必要な時期にきていることは明らかです。「敬老パス」など高齢者への交通費補助がなされていない自治体が多い中、これまで多額の予算を使って支援がなされてきたことを当然のことと考えるのではなく、子育て、教育問題、医療、環境、等々様々な課題にも関心をもち、より住みよい「札幌」であり続けられるよう考えてほしいものです。

高齢者の中にも、健康上の理由や様々な理由で外出できない人たちが大勢います。実際に「敬老パス」の恩恵を受けているのは、少数の元気な高齢者達だけでしょう。もっと幅広い柔軟な考え方をもってこそ、様々な経験をし視野を広げてきた「後の世代の生き方に参考になる」高齢者と言えるのではないのでしょうか。

制度は「全廃」されるのではなく、見直し後も維持されます。他の様々な分野にも幅広く恩恵が行き渡ることになると思います。諸手を挙げて賛成します。

※人は一度良い思いをしたり、得をすると、元に戻ったり、レベルが下がることには抵抗を覚えるのが(残念ながら)「常」のようです。

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

現行制度の拡充を！

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスの予算を若い人の方へ使うといっても、お金に色ついてないし、結局は若い人の方も縮小されていく。

若い人と、高齢者とを分断させることになっています。

両方とも拡大して全体がうるおうようにしてほしい。

札幌市民の楽しみをうばわないでください。

又、通院、買い物、イベント参加等、市でのとりくみにも不便になります。住みにくい街づくりになるではありませんか。現状のパスを残してください。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

手稲区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスの改善案についての意見

- ・敬老パスは、多くの高齢者の市民が年間 7 万円分を 1 万 7 千円で使っていて、ありがたいと言っています。札幌市は 50 年前から今まで敬老の精神が続いています。札幌市の改善案はその精神とは真逆です。現行の敬老パスは存続して、JR やタクシーも利用できるようにしてほしい。改善案は高齢者いじめの案になっています。
- ・札幌市は札幌オリパラ誘致のため、50 億円以上無駄使いした一方、市民の暮らしのための予算を減らそうとしています。そのようなことは止めてください。
- ・高齢者の健康と交通機関の利用の問題は次元の違う問題です。敬老パスは、健康増進のためだけでなく、市民の足として利用されています。札幌市はもっと高齢者の状況、実態を把握すべきだ。買い物や通院が大変な高齢者がたくさんいます。それらの地域間格差もみられます。そういう方々にスマホを使いなさい、ポイントを獲得するのに歩きなさいといわれても困るのでは。
- ・現行の敬老パスは存続して、JR やタクシーも利用できるようにすると今後敬老パス利用する人が増えると思います。また、いちいち郵便局まで行ってカードにチャージしないでどこでもチャージできれば、なおさら敬老パスを利用する人が増えると思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

南区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスを使い始めて、今までに4～11月頃までで 7 万円を使い切り、サピカを使用しています。現在仕事をしており「健康アプリ」への参加がスマホのみで出来るのであると可能ですが、内容が今一つ不明なので不安もあります。

バス料金等も上がり、又南区じょうてつの料金が中央バス等と比較し割高となっており中心街への往復で 1,000 円以上となっています。2～3 年後にはチャージ額が減額され、外出する機会が少なくなると思われ、寂しくなります。

高齢者が増え、若い世代等の負担が大きくなるのを減らす工夫は必要とは思いますが、突然、提出された感がありもっと多くの世代の意見を聞いてアイデアを募ってもよかったかとも思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

手稲区

提出方法

郵送・FAX

現行の敬老パスを存続させてください。社会参加するのに敬老パスがとても役に立っています。また病院に通うのにも役立っています。
手稲区在住なので JR やタクシーにも利用できるようにしてほしい。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

北区

提出方法

郵送・FAX

私は要支援 1 です。リハビリデイサービスに行っています。敬老パスのあるおかげで、外出することにとっても便利です。買物、友人とのおしゃべり、昔の同級生との出会い等々、出かけるチャンスがふえます。出かけるとご近所(買い物した所)で必ずひと休み、食事をしたりします。ですから、まわりにある商店が恩恵をいただけます。敬老パスを使っている本人のみでなく、タクシー、JR にも使わせてほしい。

軍事費をふやして戦後の復興に力をつくした人達の老後をバサバサ切る。許されない

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

現行の敬老パスはなるべく維持して欲しいと思います。ポイント制などの複雑な制度は、やめて欲しいと思います。

予算の関係で、利用額を減らすことも、少しはしかたがないと思いますが、バスなどに乗るしか、移動手段がない方には切実な問題だと思います。高齢者が経済的な活動を保障する意味でも、続けて欲しいと思います。世代対立という図式に持ち込まないで欲しいと思います。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

昨年 1～2 月頃に市の説明会に参加したり、その後、自分で情報を得ていました。最近になり「パブリックコメントの実施について」の文書を手にししました。自分の意見を提出します。

○健康寿命延伸に向けた取組を推進していくことに賛同します。多少、意見もありますので、提出します。

- ・敬老パス制度については、提案後の 2030 年度以降も制度として存続して下さい。
- ・利用交通機関に、JR、ハイヤーも加えて、全対象者が出来るようにして下さい。
- ・敬老パス利度は、発足以来、高齢者の外出しやすい機会が増え、自分自身の健康増進、そして、経済、ボランティア、地域社会活動の活性化に大きく貢献して来たことを、認識していただきたい。
- ・敬老パス制度を継続することで高頼者と現役世代市民の理解が得られるよう、対応をしっかりとして下さい。
- ・健康アプリについて...全く関わることの出来ない高齢者(自分)も居ることを考慮してほしい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

雪道はバス地下鉄を利用させていただいておりますので、体にも安心でよろこんでおります。

自転車をのったり、主人の車にのり、今の所は不じゆうはしていませんが、これから年を重ねるごとに出来るだけ、バス、地下鉄、タクシーを利用する機会もあるかと思えますので、今現在のままつづけていただけたらと心から願う気持ちでいっぱいです。どうかよろしくお願い致します。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

札幌市に転居し、5年になります。その前は釧路市に住んでおり、片道 350 円のバス賃(郊外から街へ)で、四苦八苦しておりました。ですから敬老パスのある札幌は、老人にやさしい街と感激しておりました。

そしたら、上限 40,000 円、50%の自己負担、年金生活者にはとても厳しいです。趣味や友人との集まり等、私は、70,000 円全額使用し、とても助かっておりました。私の周りの人達は、敬老パスをたよりにしている人も多く、どうしようどうしようと言っております。病院通いを減らそうか、イベントに行きたくてもがまんしようかと、みなさんとても困っております。お考えなおし、切にお願いいたします。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスがなくなると病院に通うのに困りますので廃止にしないで下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスなくなったら、病院など行けなくなり、ただ体が悪化するばかりです。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスがなくなると病院通いも出来なくなるしとても困ります。私の足を奪わないで下さい。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

見直しの実施案を読んで良くわかりました。

敬老パスの自己負担額増額も、情勢が変わってきたのですから当然だと思います。賛成します。

初めてこの件に関して耳にした時、突然に「敬老パス廃止」「健康アプリでポイント」と聞いてしまい、(高齢者に対し)どうしてこの二つが一緒に考えられるのかと思いました。

ですが、見直し案を読むと健康アプリは40才以上の方たちのことを考えているとのことがわかりました。

とても良いと思います。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスが無くなったら病院に通う事が困難です。私の足を奪わないで下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

健康アプリと敬老パスは全く関係が無い！！
誰が何のために考えついた事かはっきりしている！！
老人のためのパスなのにアプリとは何事か！！
アプリで健康になるのなら病院がいらない！！
多くの老人が病院に通っているのが分かっているのか！！
敬老パスなら1人 100 円の値上げをすれば良いのでは？
まやかしの政治はやめ誠実の市政を！！

意見の内容

年代

60～64 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

先日、チラシで知り、東区民センターでの敬老パス出前講座(R7.1.16)に参加しました。高齢福祉課の話は、マイクロフォンの関係で極一部しか聞き取れずちょっと残念でした。一番に記憶されたのがひとりの参加者の発言で「敬老パスには経済効果があるんじゃないのか」という内容でした。とても、ハッとさせられました。たとえば、市内の孫に会う息子・娘に会う、友人等に会う、このことはちゃんと経済効果があるような気がしますし、気持ちの健康さが存在する気がします。で、健康寿命延伸ですが、やはり、敬老パス継続をする方向が、心身共に健康寿命へとつながってゆく気がしています。最後になりましたが、課長さんが丁寧な対応でとてもよかったです。ありがとうございます。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

西区

提出方法

郵送・FAX

私は 75 才まで介護施設で働きました。

それまで、病院代や通院にかかる交通費の心配をした事はありませんでした。負担が少なかったからです。

仕事を止め、免許証の返納をした 75 才の 6 月に歩道で転倒し骨折し、ギブスのとれた日に左親指腱の断裂が判明しました。腱手術は円山整形でしたが、12 月に左肩腱断裂と診断されました。

通院と交通費に週3通い、1 年間の交通費は 10 万円こえました。17,000 円の負担で7万円まで利用できたため、大変助かりました。ですから敬老パスはこのままの制度で残してもらいたいです。今も整形に週3通い、その他、美術館や親せきの交際、友人のお見舞にと、敬老パスの利用をしています。大変助かっています。是非とも残してもらいたいです。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

札幌市から提案された、「健康寿命延伸に向けた取組の実施案」について意見を述べます。

1.対象年齢が 75 歳に、今利用している人も段階的に縮小、上限大幅引き下げ、利用者負担の大幅増は物価高騰、年金も上がらない中で、実質値上げになり、交通費の負担増は私たちのお財布に打撃です。

健康増進どころか、外出する回数は減ることで、病院、買い物、お風呂へ行く回数も減り、経済効果も下がります。

今は近くに銭湯が無くなり、大型の入浴施設は無料送迎バスも無く、路線バスを利用するしかありません。バス代往復 480 円、お風呂代 500 円で 980 円の負担です。敬老パスがあるおかげでお風呂代だけでよかったのに、入浴回数は激減すると思います。入浴回数と認知症の関係があると言われてしています。

スマホがなければ使えず、歩行が困難な人はどうするのか、健康増進のための行動をしなければポイントをもらえないというのは本末転倒です。高齢者が誰でも使うことができるものでなければなりません。

健康増進のスマホ利用と敬老パスの利用は区別するべきです。冬季オリンピック予算を除排雪や高齢者の外出支援と生活充実に使ってください。

2.利用のツールがスマホを持っている人に限定されるのは、役所側の情報を発信する側にとって便利な方法であって、スマホを持っていない人を切り捨てるやり方です。差別を前提とした施策を自治体がするのはおかしいと思います。歩数だけが健康のバロメーターでしょうか。今まで通りパスに入金しながら使う方法も残してください。

3.札幌市の公共交通のあり方という点で再考をお願いします。

地下鉄や電車が根幹だとすると、中心地域と周辺の地域を結んでいるのがバス路線網です。バス路線は人間の体で言うと血管です。その血管であるバス路線が廃止や減便によって今も日常生活(通勤、通学、通院など)は大変です。お年寄りだけでなく全世代に影響が有り、今こそ札幌市の公共交通のあり方を今後にわたって検討されることが最優先の課題だと思います。高齢者の運転免許の返納などが言われるなか、特に降雪期の札幌にとって公共交通機関やタクシーは高齢者の移動手段に不可欠です。今こそ高齢者の交通手段を確保することが急務です。

札幌市はバス事業を民営化しましたが、大型開発優先でなく、市民が安心して暮らせる政策、特に除排雪やバス路線の確保、市民の公共交通を守るために使ってください。

他の政令都市に先駆けて実施してください。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス現状維持をお願いします。

認知症予防のために役立っています。

敬老パスの利用で、出掛ける事が多くなっている、引き籠もりにならない。出ると人とのコミュニケーションが持てる、温泉にも行ける。歩く、元気が出る。多くの市民が恩恵を受けています。利用者が少ないから予算を減らすと云う声もあるが、利用したくともチャージの現金が無いため利用できない人もいる事を分かって下さい。見直しは、この敬老パスがもっと幅広く、タクシーや JR に利用できるようにして下さい。

介護事業所の存続をお願いします。

ひとり暮らしで弱っても、訪問介護を受ける事で、住み慣れた家で過ごす事が可能です。老々介護になっても、訪問支援があれば、お互いに楽しく生活できます。急用の時に、ショートステイやデイサービスもありがたいものです。

老化して体が不自由になっても認知症になっても、明るく楽しく生活できる札幌市の健康寿命延伸対策を期待しています。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

今まで通りの敬老パスを継続して欲しいです。
これがあってこそ、高齢の私も社会と繋がりができる外出が可能なのです。
これがタクシーにも使用できると尚うれしいです。
高齢者を大事にする札幌市であることに誇りが持てる市政をすすめましょう。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスは、街中に出かける必需品です。JR で新札幌～札幌間は、よく利用します。ぜひタクシーや JR への利用拡大をお願いしたい。

道新の意見広告によれば、「児童が交通費をだしてるのに、老人が無料はおかしい」というようなことが書かれていたが、児童、子育て世代にもどんどん予算をつけて、安心、安全、住みよい札幌を作ることこそ市政の基本ではないでしょうか。福祉は、しっかり経済の循環をつくり、社会を豊かにします。

赤字必然の北海道新幹線に市財政を投入するような愚策はただちに中止し、市政を市民本位のインフラ整備等にも目を向けて下さい。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

妻は 87 歳で要介護1(アルツハイマー)、又足が弱く歩けません。バスは乗れません。私も要支援1です。

妻の病院通いもタクシーに乗っています。

せっかくの敬老パスも使うことが出来ません。

せめて敬老パスでタクシーも乗れるようにしていただければ助かります。1万円～2万円でも良いです。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

私は年令の割に健康で病院通いも年間数回です。健康を保つためにもできるだけ出かけていますが、「敬老優待乗車証」は半分くらいしか使っていません。しかし、病院通いの多い方はとても足りないと言っています。

夫は 2 回の脳梗塞を患ってからは長い距離を歩けなくなり、病院通いはほとんどタクシーを使用しています。医療費よりもタクシー代の方が多くなることがほとんどです。この数年間、夫は「敬老優待乗車証」はほとんど使っていません。これは不公平だと思います。

今まで通りの「敬老優待乗車証」で、タクシーにも利用できるようにして下さい。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

詳細な素案、私なりに理解致しました。いろいろ昨年から考えてましたが、結論として見直しは必要、むしろ、もっと早く廃止を見すえてもよいのではと思います。

理由として、

1.バス停、地下鉄、電車の駅すぐ近くの人に限られ、不公平であること

2特にバスは、あまりに本数が少ない。やむなく、タクシーを利用しているが、敬老パスでは利用できず、負担が大きい(自家用車はうちでは持っていない。家族も免許ももっていない)

余ったというか見直した分の財源は、冬期の除雪対策に回してほしい。その方が世代をこえて、広く、納得の政策となると思います。これまでありがとうございました。

意見の内容

年代

85～89 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

敬老パス存続拡充をもとめます。

今まではバスや地下鉄で行っていましたが無くなるとこまります。

意見の内容

年代

65～69 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

私自身はまだ敬老パスのお世話にはなってはいませんが、数ヶ月後には対象年齢に至る者であります。

5年後廃止を前提にしているのであれば非常に残念に思います。

外出は様々な刺激等を受け様々な関わりのある場面であり健康寿命延伸に大きな影響があると思います。

現在の敬老パスがあるお陰でどれだけ多くの人々が助かっている事でしょう。

現行のままに続けて欲しいと心から願っている1人です。

意見の内容

年代

50～59 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

増々高騰する物価で生活費さえも大変です。体を大事にしていく為にも、より良い制度を作り、今ある物はなくする(必要な権利等)ことなく、より良いものにして欲しいです。

意見の内容

年代

70～74 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

敬老パスについて

私が札幌市に住むようになり、一番うれしい事は敬老パスが有ることです。

60 代より 70 代になってからの方が、交通費の心配なく、歯医者通い、病院の健診、習い事、美術館、音楽会、映画、イベント見学などのお楽しみができました。

もし、敬老パスの制度が縮小されたら、街の中に行く事も、最低限の用事足しだけになると思いますので、今の制度の存続を望みます。

負担額が多少、増えるのは仕方が無いと思います。

年齢の引き上げには反対します。お楽しみ、あるいはボランティアなど元気に動け、講演会などで学び、社会に役立てるには 70 代前半の、まだ気力、体力の有る 5 年間で。できるなら、65 歳からと年齢引き下げがあれば、孫の世話や子育て支援などの若い世代の応援も体力の有るうちにできますので。

今日の道新朝刊で、世代間対立の事を読みました。若い世代の将来に対する不安、現在の生活の大変さや不満は納得できます。

そこで、提案したいのは、以前あったと思うのですが、日中割引(10:00～14:00)の復活です。(できたら 15:00 までの延長も)地下鉄の利用も増えるとおもいます。

アプリを使っのポイント集めは、スマホをもたない高齢者や操作が苦手な私、電磁波過敏症の人たちには無理かと思いますが、若い人たちには楽しみながらの元気づくり、街の賑わいづくりになります。さらに、集めたポイントが交通機関だけでなく、青少年科学館、開拓の村、ウインターミュージアムなどの市の施設の大人入場料に使えると、大人料金の高さに躊躇せずに子供の体験を豊かにでき、若い世代にも喜ばれると思います。

市の政策が市民の豊かな心と元気な体づくりに役立ち、市が明るい未来になることを、今後も期待します。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

私は厚別区もみじ台に住んでいます。昨年運転免許証を返納しました。まだ歩けるうちにできるだけ歩いて体を鍛えたいと思っています。寿命延伸のための取り組みも理解できますが、身体だけではなく、頭や心を維持、鍛えるのも体を鍛えるのと同じか、それ以上に大事だと考えています。バスや地下鉄を使って、市内中心部など出かけ、映画、観劇、展示会、ショッピングなど楽しみたいと思っています。その為に今までの敬老パス制度の存続を強く望んでいます。制度が改悪、廃止されたら出かける回数は激減すると思います。通院のことも心配です。我家から歩いて行ける場所にはスーパーマーケット以外ありません。健康パスについても読みましたが、敬老パスとは切り離して考えるべきだと思います。よく分からないことも多々あるようです。敬老パスの予算については、無駄な公共事業(アクセス道路など)を見直してはいかがでしょうか。

意見の内容

年代

80～84 歳

居住区

白石区

提出方法

郵送・FAX

今回の敬老パスの制度見直しということで、現制度の維持、存続させていただきたい立場から、秋元市長の選挙公約を読み直してみました。そこには、安心と希望、六つの道標が掲げられ、医療、福祉、介護では不安なく、健やかに暮らせる街をつくるとあります。

2024年11月30日の市長と市民の意見交換会で市長は「これは財源の問題ではなく、若い人への配慮と考えてほしい」とお話しされていました。これは権力を握っている支配者の論理で、高齢者と若い世代が反目するような対置の仕方は止めていただきたいです。市長の言葉の中にそのようなニュアンスが含まれていると感じたのは私だけでしょうか。同時に、当面存続するということは将来は廃止を含んでいるのでしょうか。

この物価高の中で生活は疲弊し、気持ちがギスギスし、互助の気持ちがうすれて社会的弱者は益々生きずらくなっています。

敬老パス施行 50 年が経過し、原点に戻り、高齢者が社会的にはたしてきた貢献に対し、敬老の精神を育めるように示していただきたい。又、若い世代には、次代の担い手として政治の光を当てていただきたい。

高齢者も若い世代も安心、希望が持てるように言葉を尽して説明をしていただきたい。この制度は若い世代が負担するものではなく、市税の配分によって施行されるものです。

意見の内容

年代

75～79 歳

居住区

厚別区

提出方法

郵送・FAX

1. 公平を図ることは良い。7 万円は多すぎる。
 2. 50%負担は、4万円以上。40%は3万円、30%は2万円、20%は1万円。
 3. スマホ、ポイントは不要。マイナカードかサピカ利用のシステムが良い。スマホに頼りすぎると年寄りには使えないし不便が出る。
- ※だまっているわけにはいかない、コンサル任せの案のように思える。札幌の実情に合っているか？

意見の内容

年代

不明

居住区

東区

提出方法

郵送・FAX

現行の「敬老パス」は継続すべきだと思います。

①やめたり(ほかに変質させたり)すると、健康づくりに逆行し、家に閉じこもる高齢者を増大させることになると思います。

②さらに、適応年齢を75歳に引き上げるとは、健康寿命(72.02歳)を引き下げたいという趣旨にも反し、それにも大きく乖離し、現状でも使用できない高齢者が増大している中で、これまで築いてきた福祉行政を壊すものです。

③バス利用者の減少に拍車をかけ、バス路線の維持や経営にも悪感を与えてしまうと思われる。

今後、経費を増大させない別の案の検討

市の資料によると、5万円以上のチャージが総助成額のおおよそ5割を占めているとされています。その半分くらいに抑えるだけで計算上25%程度(10億円程度?)の削減が想定されると思われます。従来 of 骨格を維持しながら経費を増大させない方法として、上限額やチャージ額を抑える方法が、敬老パスの趣旨からしても妥当ではないでしょうか。